

2024年度

大学院履修概要



Graduate School of Health Sciences
Sapporo Medical University

札幌医科大学大学院保健医療学研究科

札幌医科大学シンボルマーク

だ円（枠組み）

宇宙の調和を示します。

“1945”

北海道立女子医学専門学校が開校した昭和20年(1945年)を意味します。

七光星

道章及び道旗の原形であり、北海道を象徴します。

羽

本学の一層の発展と飛躍を示します。

柏の葉

柏の樹は、北海道の厳しい風雪に耐え原始林のなかに数多く見られます。

冬は落葉せず、春になって落葉と同時に新芽を出す生命力を有し、

材質は堅く鉄道の枕木、坑道の支柱等として道開発に貢献し、

その実は“どんぐり”として動物の糧となるなど本学を象徴する樹です。

へびと杖

医学のシンボルであるアスクレピオスの杖を示しています。

アスクレピオスは、ギリシアの医神で、その杖には一匹のへびがからみつき、

医学のシンボルとして健康から不老・不死までを象徴します。

また、へびの形は札幌医科大学の頭文字Sを示し、

杖の下の方が太くなっているのは、大地にがっしりと根をはり

不動のたくましさを意味しています。

開学30周年（創基35周年）を機に、昭和56年、卒業生や学生などから公募し制定されたものです。

目 次

I	教育理念と教育目標	1
II	関係規程類集	
	・札幌医科大学大学院学則	6
	・札幌医科大学学位規程	17
	・札幌医科大学学位規程施行細則	21
	・札幌医科大学大学院保健医療学研究科授業科目履修方法及び単位修得認定等に関する規程	23
	・札幌医科大学学位論文審査規程	31
III	教育課程（博士課程前期）	
1	授業の履修要領	34
(1)	修了要件	34
(2)	早期修了要件	34
(3)	指導教員	34
(4)	科目履修	34
(5)	学位論文・最終試験	34
(6)	学位の授与	35
(7)	留学の取扱い	35
2	授業科目、履修基準及び履修モデル	
(1)	看護学専攻	35
	授業科目	36
	履修基準	37
	履修モデル	38
(2)	理学療法学・作業療法学専攻	40
	授業科目	40
	履修基準	41
	履修モデル	42
IV	教育課程（博士課程後期）	
1	授業の履修要領	
(1)	修了要件	43
(2)	早期修了要件	43
(3)	指導教員	43
(4)	科目履修	43
(5)	学位論文・最終試験	44
(6)	学位の授与	44
(7)	留学の取扱い	44
2	授業科目及び履修基準	45
V	シラバス（博士課程前期）	
1	専攻別専門科目	
(1)	看護学専攻	
	看護理論特論	47
	看護学研究法特論	49
	看護教育学特論	51
	看護管理特論	53
	看護倫理特論	55
	コンサルテーション論	57
	フィジカルアセスメント	59
	病態生理学	61

臨床薬理学	63
基礎看護科学特論	65
基礎看護科学特論演習	67
感染看護学特論	69
感染看護学特論演習	71
女性健康看護学特論	73
女性健康看護学特論演習	75
小児健康看護学特論 1	76
小児健康看護学特論 2	79
小児健康看護学特論演習 1	81
小児健康看護学特論演習 2	84
小児臨床看護論	86
小児臨床看護論演習	88
小児保健福祉論	90
小児保健福祉論演習	92
小児病態治療論	94
成人看護学特論 1	96
成人看護学特論 2	98
成人看護学特論 3	100
成人看護学特論演習 1	102
成人看護学特論演習 2	104
成人看護学特論演習 3	105
成人看護学特論演習 4	107
老年健康看護学特論	109
老年健康看護学特論演習	111
精神看護学特論 1	112
精神看護学特論 2	114
精神看護学特論 3	116
精神看護学特論演習 1	118
精神看護学特論演習 2	120
精神看護学特論演習 3	122
精神看護学特論演習 4	124
精神看護学特論演習 5	126
地域看護学特論	128
地域看護学特論演習	130
臨床内科学特論	132
臨床内科学特論演習	133
臨床外科学特論	134
臨床外科学特論演習	136
臨地実習 (小児看護) 1	138
臨地実習 (小児看護) 2	140
臨地実習 (小児看護) 3	142
臨地実習 (クリティカルケア看護) 1	144
臨地実習 (クリティカルケア看護) 2	146
臨地実習 (精神看護) 1	147
臨地実習 (精神看護) 2	149
臨地実習 (精神看護) 3-1	151
臨地実習 (精神看護) 3-2	153
看護学特別研究	154
看護学課題研究	155
(2) 理学療法学・作業療法学専攻	
理学療法学研究法特論	157
作業療法学研究法特論	159

リハビリテーション教育学特論（博士課程前期・博士課程後期 共通）	161
リハビリテーション管理学特論	163
リハビリテーション特別課題研究	165
神経・発達障害理学療法学特論	166
神経・発達障害理学療法学特論演習	168
感覚統合障害学特論	170
感覚統合障害学特論演習	172
生体工学・スポーツ整形外科特論	174
生体工学・スポーツ整形外科特論演習	176
中枢神経機能障害学特論	177
中枢神経機能障害学特論演習	179
スポーツ理学療法学特論	180
スポーツ理学療法学特論演習	182
活動能力障害学特論	183
活動能力障害学特論演習	185
臨床精神・脳機能学特論	186
臨床精神・脳機能学特論演習	188
精神障害リハビリテーション学特論	189
精神障害リハビリテーション学特論演習	191
高齢者・地域健康科学特論	192
高齢者・地域健康科学特論演習	194
神経・認知機能治療学特論	195
神経・認知機能治療学特論演習	197
筋機能制御学特論	198
筋機能制御学特論演習	200
生体機能評価学特論	201
生体機能評価学特論演習	203
形態人類学特論	204
形態人類学特論演習	206
作業科学特論	208
作業科学特論演習	210
地域生活科学特論	211
地域生活科学特論演習	213
理学療法学・作業療法学特別研究	214
2 共通科目	
保健医療情報システム特論 1	215
保健医療情報システム特論 2	217
ヒューマンサイエンス研究法特論 1	218
ヒューマンサイエンス研究法特論 2	220
保健医療統計学特論 1	222
保健医療統計学特論 2	224
疫学・社会調査法特論 1	226
疫学・社会調査法特論 2	228
保健医療教育学特論（博士課程前期・博士課程後期 共通）	230
研究倫理特論	232
病態生理学特論	234
病態治療学特論 1	235
病態治療学特論 2	236
保健医療学セミナー	238

VI シラバス（博士課程後期）

1 専攻別専門科目

(1) 看護学専攻

基礎看護科学特講	239
基礎看護科学特講演習	240
感染看護学特講	242
感染看護学特講演習	243
女性健康看護学特講	244
女性健康看護学特講演習	246
小児健康看護学特講	247
小児健康看護学特講演習	249
成人健康看護学特講	251
成人健康看護学特講演習	253
老年健康看護学特講	254
老年健康看護学特講演習	256
精神看護学特講	257
精神看護学特講演習	258
地域看護学特講	259
地域看護学特講演習	261
臨床内科学特講	262
臨床内科学特講演習	263
臨床外科学特講	264
臨床外科学特講演習	266
看護学特別研究	267
(2) 理学療法学・作業療法学専攻	
神経・発達障害理学療法学特講	269
神経・発達障害理学療法学特講演習	271
感覚統合障害学特講	272
感覚統合障害学特講演習	274
生体工学・スポーツ整形外科学特講	276
生体工学・スポーツ整形外科学特講演習	278
中枢神経機能障害学特講	279
中枢神経機能障害学特講演習	281
スポーツ理学療法学特講	282
スポーツ理学療法学特講演習	284
活動能力障害学特講	285
活動能力障害学特講演習	287
臨床精神・脳機能学特講	288
臨床精神・脳機能学特講演習	289
精神障害リハビリテーション学特講	290
精神障害リハビリテーション学特講演習	292
神経・認知機能治療学特講	293
神経・認知機能治療学特講演習	295
筋機能制御学特講	296
筋機能制御学特講演習	298
生体機能評価学特講	299
生体機能評価学特講演習	301
形態人類学特講	302
形態人類学特講演習	304
理学療法学・作業療法学特別研究	306

学生便覧

I 沿革・組織	
1 沿革	307
2 大学機構図	310
3 学務課業務内容	311
II 学生生活	
1 授業料納入、減免及び分納	312
2 各種届出及び証明書交付申請の手続き	313
3 奨学金	313
4 健康管理	315
5 学生教育研究災害傷害保険制度	317
6 学校学生生徒旅客運賃割引証	318
7 求人情報（参考）	319
8 研究費助成制度	319
9 ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタント	319
10 ハラスメントに関する苦情相談員	319
11 教育研究領域変更願	320
12 授業科目履修届	320
13 既修得単位等認定申請書	320
14 研究指導計画書	320
15 副指導教員選考申請書	320
16 指導教員変更願・指導教員変更事項届出書	320
17 研究指導補助教員選任届	320
ティーチング・アシスタント制度実施要領	321
リサーチ・アシスタント制度実施要領	327
教育研究領域変更願	332
授業科目履修届	333
既修得単位等認定申請書	334
研究指導計画書	335
副指導教員選考申請書	336
指導教員変更願・指導教員変更事項届出書	337
研究指導補助教員選任届	338
III 施設利用	
1 附属施設	339
2 体育施設	341
3 福利厚生施設	341
4 大学院生自習室	341
札幌医科大学附属総合情報センター「図書館利用の手引き」	342
札幌医科大学附属総合情報センター「蔵書検索（冊子体・電子）の手引き」	344
IV 札幌医科大学学生の懲戒等に関する規定	346
V 札幌医科大学学生通則	350
VI 保健医療学研究科教員一覧	
1 博士課程前期	354
2 博士課程後期	355
3 研究科長、副研究科長及び専攻代表	356
施設配置図	
札幌医科大学及び附属病院配置図	357
保健医療学部平面図	358

大学院保健医療学研究科

I 教育理念と教育目標

1 教育理念

医療技術の進展、少子高齢化社会の進行、疾病構造の変化など、保健・医療・福祉を取り巻く社会動向は大きく変わりつつある。さらに、人々の生活環境の多様化、健康に対する意識の変化を背景に、保健・医療・福祉に対する期待は一層高まってきている。

札幌医科大学保健医療学研究科では、関連諸科学と医療の進歩に対応し、地域の保健・医療・福祉の充実と社会の発展に貢献するために、豊かな学識を備えた医療人を育成するとともに、高度な研究能力を培うことを目指す。

2 教育目標

【博士課程前期】

1. 看護学、理学療法学・作業療法学に関する専門性の向上のため、専門分野に関する幅広い知識と確かな技術を有する人材を育成する。
2. 保健・医療・福祉に係わる諸課題に、倫理的・科学的思考に基づいて的確に対応できる人材を育成する。
3. 複雑多様化する社会において人々の健康と生活を支えるとともに、地域医療の発展のために持続的に行動できる保健・医療の実践者、教育者、研究者を育成する。

【博士課程後期】

1. 豊かな発想と科学性、厳格な倫理性に基づき、専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識を有する人材を育成する。
2. 看護学、理学療法学・作業療法学の学術分野の発展のために、独創的のある理論の構築や技術の向上に取り組める人材を育成する。
3. 保健・医療の研究者、教育者、または実践者として、地域や時代の要請に応える取り組みを企画・推進し、人々の健康と生活に貢献する先端的研究を自立して遂行できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

【博士課程前期】

・看護学専攻

看護学専攻では、2年以上在籍し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を身につけた学生に修士（看護学）の学位を授与します。

1. 自己の専門分野に関する知識と技術、および関連領域に係わる基礎的素養
2. 研究の概念、研究法、研究倫理など、研究者に求められる基本的知識の修得
3. 適切な指導のもとに、看護学の研究課題を設定し、研究方法を組み立てる能力
4. 基本的な研究手法を用いて研究を遂行する能力
5. 研究者および高度実践看護師に求められる批判力・論理的思考力・表現力
6. 研究者および高度実践看護師に求められる倫理を遵守し、行動する能力

・理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻では、2年以上在籍し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を身につけた学生に修士（理学療法学／作業療法学）の学位を授与します。

1. 専門分野に関する知識と理学療法学・作業療法学の関連領域に係わる基礎的素養
2. 研究の概念、研究法、研究倫理など、研究者に求められる基本的知識の修得
3. 適切な指導のもとに、理学療法学・作業療法学あるいはその関連領域の研究課題を設定し、研究方法を組み立てる能力
4. 基本的な研究手法を用いて研究を遂行する能力
5. 研究者に求められる批判力・論理的思考力・表現力
6. 研究者に求められる倫理を遵守し、行動する能力

【博士課程後期】

・看護学専攻

看護学専攻では、3年以上在籍し、所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を有すると認められる者に博士の学位を授与します。

1. 専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識の修得
2. 独創的な視点で研究を立案・計画し、厳格な倫理性をもって自ら遂行する能力
3. 看護学の理論の構築や技術の向上において新たな知を創造する能力
4. 研究成果を国内外に発信し、看護学の教育・研究・実践の発展に貢献できる能力

・理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻では、3年以上在籍し、所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を有すると認められる者に博士の学位を授与します。

1. 専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識の修得
2. 独創的な視点で研究を立案・計画し、厳格な倫理性をもって自ら遂行する能力
3. 理学療法学・作業療法学の理論の構築や技術の向上において新たな知を創造する能力
4. 研究成果を国内外に発信し、理学療法学・作業療法学の教育・研究・実践の発展に貢献できる能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

【博士課程前期】

・看護学専攻

看護学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

- 1 教育課程は、講義・演習中心のコースワークと、指導のもとに研究過程を展開するリサーチワークの組み合わせにより編成する。
 - (1) コースワーク
 - ① 当該分野の専門的知識・技術を修得するための科目を設定する。
 - ② 看護学の関連領域の幅広い知識を修得するための科目を設定する。
 - ③ 研究法、研究倫理などの研究者に求められる基本的な知識を修得するための科目を設定する。
 - ④ 文献検討やプレゼンテーション、ディスカッション等を通して、批判力、論理的思考力、表現力を涵養する。
 - ⑤ 専門看護師コースにおいては、高度実践看護師に求められる実践・教育・倫理調整等に関する知識と技術を修得する。
 - ⑥ 専門看護師コースにおいては、専門分野の臨地実習によって優れた実践能力を形成する。
 - (2) リサーチワーク
 - ① 看護学特別研究等において、指導のもとに当該分野に関する研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
 - ② 研究計画書審査・倫理審査を経て研究を進め、論文作成、学位審査等の過程を通して、基本的な研究力を育成する。
- 2 学部学生を対象とする講義・演習・実習にティーチングアシスタントとして参加する機会を設定し、基本的な教育力を育成する。
- 3 共通科目の履修を通して他分野の学生との共同学習を行い、他職種との連携能力を涵養する。

・理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

- 1 教育課程は、講義・演習中心のコースワークと、指導のもとに研究過程を展開するリサーチワークの組み合わせにより編成する。
 - (1) コースワーク
 - ① 当該分野の専門的知識・技術を修得するための科目を設定する。
 - ② 理学療法学・作業療法学の関連領域の幅広い知識を修得するための科目を設定する。
 - ③ 研究法、研究倫理などの研究者に求められる基本的な知識を修得するための科目を設定する。
 - ④ 文献検討やプレゼンテーション、ディスカッション等を通して、批判力、論理的思考力、表現力を涵養する。
 - (2) リサーチワーク
 - ① 理学療法学・作業療法学特別研究等において、指導のもとに当該分野に関する研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
 - ② 研究計画書審査・倫理審査を経て研究を進め、論文作成、学位審査等の過程を通して、基本的な教育力を育成する。
- 2 学部学生を対象とする講義・演習・実習にティーチングアシスタントとして参加する機会を設定し、基本的な教育力を育成する。
- 3 共通科目の履修を通して他分野の学生との共同学習を行い、他職種との連携能力を涵養する。

【博士課程後期】

・看護学専攻

看護学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

- 1 看護学の理論の構築や技術の向上等に係わるコースワークと、指導を受けつつ自らが研究過程を展開するリサーチワークにより、研究者としての能力を高める。
- 2 学内外の学術研究に触れる機会を設定することで研究の手法やデザインを学び、自立した研究者となるための能力を高める。
- 3 研究課題に係わる論文公表や国内外での学会発表等により当該分野の研究者との交流を深める。

・理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

- 1 理学療法学・作業療法学の理論構築や治療技術の開発等に係わるコースワークと、指導を受けつつ自らが研究過程を展開するリサーチワークにより、研究者としての能力を高める。
- 2 リサーチアシスタントとして学術研究に係わる機会を設定することで、研究の手法やデザインを学び、自立した研究者となるための能力を高める。
- 3 研究課題に係わる論文公表や国内外での学会発表等により当該分野の研究者との交流を深める。

アセスメント・ポリシー

保健医療学研究科は、教育の改善・向上のため、教育課程レベル、科目レベル、学修到達レベルの3段階において、学修成果を評価するためのアセスメント・ポリシーを定める。

目的

札幌医科大学大学院保健医療学研究科は、教育の質を保証するとともに継続的な改善を行うためにアセスメント・ポリシーを策定し、ディプロマ・ポリシー（DP）に示された学修成果の修得状況、及び教育課程に関する評価・検証を行う。アセスメント・ポリシーでは、教育課程レベルの評価、科目レベルの評価、学修到達レベルの評価等に関し、必要な事項を定める。評価方法としては、学生の修得状況を直接的に測定する直接評価に加えて、アンケート等による間接評価を採り入れる。これらの取組みを通して、教育課程、教育内容・方法の改善・向上につなげる。

評価の概要

1. 教育課程レベルの評価：研究実績調査、学修成果に係る修了時調査、研究計画書・学位論文の達成水準等により、教育課程全体を通じた学修成果を評価するとともにカリキュラムの適切性を検証し、改善に活用する。
2. 科目レベルの評価：授業評価アンケート、到達目標に対する自己評価等により、各科目における学修成果の達成状況、教育内容・方法の適切性を評価し、個々の教員による授業改善に活用する。
3. 学修到達レベルの評価：研究計画書・学位論文の評価、DP達成に対する自己評価等から、個々の学生の課題認識につなげる。科目ごとの成績評価は、レポート、プレゼンテーション等、シラバスに記載する評価基準によって行う。

実施体制

学修成果の評価は、以下の体制で実施する。

1. 具体的なアセスメント内容・方法を明確化する。

2. アセスメントの推進組織は保健医療学部等内部質保証推進会議、実施組織は保健医療学研究科教務委員会とする。
3. 評価に関わる各種データの取扱いについては関係規定を遵守するとともに、個人情報の保護に努める。
4. 評価結果、改善状況等について、ホームページ等を活用して積極的に公表する。

主な評価内容・方法

主な評価方法は、以下のとおりとする。

1. 研究計画書審査基準に基づく評価：研究計画書の内容を審査基準に基づき、項目ごとに評価する。
2. 学位論文審査基準に基づく評価：学位論文の成果を審査基準に基づき、項目ごとに評価する。
3. DPに掲げる能力・資質に関する評価：修了時アンケートにおいて達成水準を自己評価する。
4. 授業評価アンケート：授業の満足度や理解度等から科目ごとの目標達成状況を評価する。
5. 学会発表、論文公表、研究助成応募状況・活動実績（TA・RA）：状況調査により把握する。

アセスメントリスト

	内容	実施時期	方法	評価レベル
1	研究計画書	研究計画書審査時	研究計画書審査基準による評価（ルーブリック）	教育課程レベル 学修到達レベル
2	学位論文	学位論文審査時	学位論文審査基準による評価（ルーブリック）	教育課程レベル 学修到達レベル
3	授業評価	学期末	科目ごとの学生による評価	教育課程レベル 授業レベル
4	修了時アンケート	修了時	アンケート	教育課程レベル 学修到達レベル
5	学会発表、論文公表	毎年次（学位論文公表まで）	届出	教育課程レベル

札幌医科大学大学院学則

(平成19年4月1日規程第51号)

第1章 総則

(目的)

第1条 札幌医科大学大学院（以下「大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(人材育成の目的及び教育研究上の目的)

第1条の2 大学院は、研究科又は課程ごとに、教育研究上の目的を定めるものとする。

2 前項の教育研究上の目的は、別表のとおりとする。

(研究科及び課程)

第2条 大学院に医学研究科及び保健医療学研究科を置く。

2 医学研究科は、博士課程と修士課程とする。

3 保健医療学研究科は、博士課程とし、前期の課程（以下「博士課程前期」という。）と後期の課程（以下「博士課程後期」という。）に区分する。なお、博士課程前期は、修士課程として取り扱うものとする。

4 博士課程（博士課程前期を除く。）は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度で専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

5 修士課程及び博士課程前期は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的とする。

(専攻)

第3条 医学研究科及び保健医療学研究科に次の専攻を置く。

(1) 医学研究科修士課程

医科学専攻

(2) 医学研究科博士課程

地域医療人間総合医学

分子・器官制御医学

情報伝達制御医学

(3) 保健医療学研究科

看護学

理学療法学・作業療法学

(修業年限)

第4条 大学院の標準修業年限は、次のとおりとする。

(1) 医学研究科修士課程 2年

(2) 医学研究科博士課程 4年

(3) 保健医療学研究科博士課程 5年

(4) 保健医療学研究科博士課程前期 2年

(5) 保健医療学研究科博士課程後期 3年

(長期にわたる教育課程の履修)

第4条の2 大学院の学生が、職業を有している等の事情により、前条の標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを申し出たときは、札幌医科大学大学院研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て、学長はその計画的な履修を認めることができる。

(在学期間)

第5条 大学院の在学期間は、医学研究科修士課程にあつては4年、医学研究科博士課程にあつては8年、保健医療学研究科博士課程前期にあつては4年、保健医療学研究科博士課程後期にあつては6年を超えることはできない。

(学生定員)

第6条 大学院の学生定員は、次のとおりとする。

研究科	専攻	入学定員	収容定員
医学研究科修士課程	医 科 学	10人	20人
医学研究科	地 域 医 療 人 間 総 合 医 学	18人	72人
	分 子 ・ 器 官 制 御 医 学	20人	80人
	情 報 伝 達 制 御 医 学	12人	48人
	計	50人	200人
保健医療学研究科	看 護 学 (博 士 課 程 前 期)	12人	24人
	看 護 学 (博 士 課 程 後 期)	2人	6人
	理 学 療 法 学 ・ 作 業 療 法 学 (博 士 課 程 前 期)	12人	24人
	理 学 療 法 学 ・ 作 業 療 法 学 (博 士 課 程 後 期)	6人	18人
	計	32人	72人

(学年及び学期)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を次の2学期に分ける。

(1) 前期 4月1日から9月30日まで

(2) 後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(2) 大学記念日 6月25日

(3) 夏季休業 4月の第2月曜日から起算して14週間経過後の最初の月曜日から起算して7週間

(4) 冬季休業 夏季休業後の授業の始期から起算して15週間経過後の最初の月曜日から起算して翌年の1月の第2月曜日の前日まで

(5) 春季休業 冬季休業後の授業の始期から起算して10週間経過後の最初の月曜日から起算して4月の第2月曜日の前日まで

(6) その他、学長が定める臨時の休業日

2 学長は、教育上必要があると認めるときは、前項第3号から第5号までの日を変更することができる。

第2章 入学、退学、休学、転学及び除籍等

(入学)

第9条 入学の時期は、毎年4月とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教授上支障のない場合は、別の時期に入学することができる。

(入学資格)

第10条 医学研究科博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学における医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了（直近に修了した課程が、医学、歯学、獣医学又は薬学の場合に限る。次号及び第4号において同じ。）した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上の医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、医学、歯学又は修業年限6年の獣医学若しくは薬学を履修する課程の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

2 医学研究科修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者

- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学の大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - (10) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本学の大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (11) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (12) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (13) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
- 3 保健医療学研究科博士課程後期に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
 - (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (6) 外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号）第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学の大学院において認められた者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達したもの
- 4 保健医療学研究科博士課程前期に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する

ことにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学の大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学の大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (11) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (12) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学の大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (13) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
(入学許可)

第11条 学長は、大学院において行う入学試験に合格し、かつ、所定の手続きを経た者に入学を許可する。

(留学)

第11条の2 大学院の学生が、第18条の2及び第20条の2第1項の規定により外国の大学の大学院又は研究所等に留学しようとするときは、研究科委員会の議を経て、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定により留学した期間は、第5条に規定する在学期間に算入することができる。

(退学及び再入学)

第12条 病気その他の理由により退学しようとする者は、退学願を提出して、学長の許可を受けなければならない。

2 学長は、前項の規定により退学した者で再入学を願い出た者を認定の上、入学させることができる。この場合において、再入学前に履修した科目、単位数及び在学年数については、第16条第3項の規定を準用する。

(休学)

第13条 病気その他の理由により2月以上修学できないときは、学長の許可を受けて休学することができる。

(休学期間)

第14条 休学期間は、1年以内とする。ただし、引き続き休学する特別の理由がある場合には、学長は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、医学研究科博士課程においては通算して4年、医学研究科修士課程においては通算して2年、保健医療学研究科博士課程後期においては通算して3年、保健医療学研究科博士課程前期においては通算して2年を超えることはできない。

3 休学期間は、在学期間に算入しない。

(復学)

第15条 休学期間中にその理由が消滅したときは、学長の許可を得て、復学することができる。

(転入学)

第16条 転入学を志願する者(他の大学の大学院に在学する者に限る。)があるときは、学生に欠員があり、かつ、教授上差し支えない場合に限り、選考の上、入学を許可することができる。

2 前項の志願に当たっては、大学に、志願する者が所属する大学長の許可書を添えて願い出るものとする。

3 前項の場合において、他の大学の大学院において履修した科目、単位数及び在学年数は、その一部又は全部を通算することができる。

(転学)

第16条の2 他の大学の大学院に転学しようとする者は、転学願を提出して、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第17条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者があるときは、研究科委員会及び教育研究評議会の議を経て、除籍する。

- (1) 授業料の納入を怠り、督促を受けてもなお納めない者
- (2) 第5条に規定する在学期間を超えた者
- (3) 第14条第1項又は第2項に規定する休学期間を超えた者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

第3章 教育方法等

(授業及び研究指導)

第18条 大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する研究指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

2 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

(他の大学の大学院等における研究指導)

第18条の2 大学院は、教育上有益と認めるときは、他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学院若しくは研究所等とあらかじめ協議の上、研究科委員会の議を経て、学生に当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程及び博士課程前期の学生にあっては、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(教員組織)

第19条 研究科担当教授は、専門分野に応じた本学の教授とする。

2 研究科授業担当教員は、大学院教員資格に該当する本学の専任又は兼任の教授、准教授、講師又は助教のうちから、研究科委員会の議を経て、学長が命ずる。

(教育課程)

第20条 研究科の教育課程は、別に定める。

2 授業科目の履修方法及び単位の認定等に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学の大学院等における授業科目の履修等)

第20条の2 大学院は、教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、他の大学の大学院の授業科目を履修、又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修させることができる。

2 前項の規定により履修又は学修させる場合は、他の大学の大学院、外国の大学の大学院又は国際連合大学とあらかじめ協議するものとする。

3 第1項の規定により学生が履修した授業科目を修得した単位又は学修の成果については、研究科委員会の議を経て、15単位を超えない範囲において本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(修了要件)

第21条 各課程の修了の要件は、次の各号の区分に応じ当該各号に定めるものとする。

- (1) 医学研究科博士課程 当該課程に4年（優れた研究業績を上げた者は3年）以上在学し、別に定める履修基準の単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して当該研究科の行う博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- (2) 医学研究科修士課程 当該課程に2年以上在学し、別に定める履修基準の単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出してその当該研究科の行う修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- (3) 保健医療学研究科博士課程後期 当該課程に3年（優れた研究業績を上げた者については1年（2年未満の在学期間を有し修士課程を修了した者又は当該在学期間を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年））以上在学し、別に定める履修基準の単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して当該研究科の行う博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。
- (4) 保健医療学研究科博士課程前期 当該課程に2年（優れた研究業績を上げた者については1年）以上在学し、別に定める履修基準の単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文（保健医療学研究科博士課程前期看護学専攻専門看護師コースは、学位論文又は特定の課題研究の成果。以下同じ。）を提出してその当該研究科の行う修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

(単位の計算方法)

第22条 授業科目の単位は、次の各号の区分に応じて当該各号に掲げる基準により算出する。

- (1) 講義（医学研究セミナーを含む。） 15時間をもって1単位
- (2) 演習 30時間をもって1単位
- (3) 実験、実習 45時間をもって1単位

(入学前の既修得単位等の認定及び在学年数の取扱い)

第23条 大学院は、新たに本学の大学院に入学した学生が入学する前に本学若しくは他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として履修した授業科目で修得した単位を含む。）又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修した成果について、教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、15単位を超えない範囲で本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、第20条の2第3項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて、20単位を超えないものとする。

3 第1項の規定により本学の大学院に入学する前に修得した単位を本学の大学院の修士課程、博士課程前期及び博士課程において修得したものとみなす場合、当該単位数、その修得に要した期間を勘案し、研究科委員会の議を経て、1年を超えない範囲の期間で当該研究科が認めた期間を在学したものとみなすことができる。ただし、修士課程及び博士課程前期については、少なくとも1年以上在学するものとする。

(単位修得の認定)

第24条 履修単位修得の認定は、試験又は研究報告等により行う。

2 授業科目の成績及び評価基準は、別に定める。

(学位論文の審査)

第25条 学位論文の審査は、当該専攻の教授及び関連科目担当の教授の中から選出された委員をもって行う。ただし、必要があるときは、その他の教員を加えることができる。

(最終試験)

第 26 条 最終試験は、所定の単位を修得し学位論文を提出した者に、当該論文を中心としてこれに関連のある科目について、口答又は筆答により行うものとする。

第 4 章 学位

(学位の授与)

第 27 条 次の各号の区分に応じて当該各号に掲げる学位を授与する。

(1) 博士課程（博士課程前期を除く。）を修了した者 博士

(2) 修士課程又は博士課程前期を修了した者 修士

(論文提出による学位の授与)

第 28 条 大学院においては、医学研究科博士課程又は保健医療学研究科博士課程後期を終えて博士の学位を授与される者と同等以上の内容を有する論文を提出し、研究科の行う論文の審査に合格し、かつ、専攻学術に関し同様に、広い学識を有することを試験（以下「学識認定試験」という。）により確認された者には、研究科委員会の議を経て、博士の学位を授与することができる。ただし、医学研究科博士課程に 4 年以上又は保健医療学研究科博士課程後期に 3 年以上在学し、所定の単位だけを修得して退学した者が、退学後 2 年以内に学位論文を完成し、大学院に再入学しないで論文提出により博士の学位の審査を申請した場合は、学識認定試験を免除することができる。

2 前項による学識認定試験は、攻究科目及び外国語について、口答又は筆答により行う。

(学位規程)

第 29 条 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第 5 章 検定料、入学科、授業料及び手数料

(検定料、入学科、授業料及び手数料)

第 30 条 大学院に入学する学生の検定料、入学科、授業料及び手数料の額については、別に定める。

(検定料、入学科及び手数料の徴収)

第 31 条 検定料は入学志願書提出の際に、入学科は入学許可の際に、博士論文の審査及び試験に係る手数料は論文提出の際に、それぞれ徴収する。

(授業料の納入期限)

第 32 条 授業料は、第 7 条第 2 号に規定する学期ごとに納入するものとし、前期分は 4 月末日までに、後期分は 10 月末日までに、それぞれ年額の 2 分の 1 に相当する額を納めなければならない。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）第 3 条に規定する休日（以下「休日」という。）、日曜日又は土曜日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い日で休日、日曜日又は土曜日でない日を納入期限とする。

2 前項の納入期限を過ぎてから入学した学生の入学の日の属する期分の授業料は、入学許可後 20 日以内に納めなければならない。

(休学の場合の授業料)

第 33 条 前期又は後期の全期間を通じて休学した学生の当該期分の授業料は免除する。

(退学、転学、停学及び除籍の場合の授業料)

第 34 条 退学、転学、停学又は除籍の場合においても、その日（停学の場合にあっては、停学となった日の前日及び停学の解除された日）の属する期分の授業料は、納めなければならない。

(検定料等の不還付)

第 35 条 既に納入した検定料、入学科、授業料及び手数料は還付しない。ただし、検定料については、次の各号のいずれかに該当した場合は、納入した者の申出により、学長が別に定める額

を還付するものとする。

(1) 入学検定料を納付した者が、入学願書を提出しなかった又は出願が受理されなかった場合

(2) 入学検定料を誤って二重に納付した場合

(授業料の減免及び分納)

第 36 条 学費の支弁が極めて困難な事情にある学生の授業料は、学長が減免し、又は第 32 条第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず、分納させることができる。

2 授業料の減免及び分納は、期ごとに行うものとする。

3 授業料の減免及び分納の基準並びに手続については、別に定める。

第 6 章 委託生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生

(委託生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生)

第 37 条 大学院に、教授上余力がある場合には、選考の上、委託生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生の入学を許可することができる。

2 委託生、聴講生及び科目等履修生の授業料の額及び納入期限は、別に定める。

3 科目等履修生の検定料及び入学料の額は、別に定める。

4 第 32 条第 2 項、第 3 項及び第 35 条の規定は、委託生、聴講生及び科目等履修生の授業料について準用する。

5 外国人留学生の検定料、入学料及び授業料については、第 5 章の規定を準用する。

6 この規程のほか、委託生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第 7 章 賞罰

(表彰)

第 38 条 学長は、素行及び学業成績が特に優秀で他の学生の模範となる者を、研究科委員会及び教育研究評議会の議を経て、これを表彰することができる。

(懲戒処分等)

第 39 条 学長は、この規程その他大学の定める規程に違反し、又は学生の本分に反する行為があった者に対して、研究科委員会及び教育研究評議会の議を経て、懲戒処分をすることができる。

2 懲戒処分は、戒告、停学及び退学とする。ただし、退学は次の各号のいずれかに該当する者に限り行うものとする。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 正当の理由がなく出席が常でない者

(3) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(4) 学力劣等で成業績の見込みがないと認められる者

3 研究科長は、教育上必要があると認めるときは、学生に対し謹慎処分をすることができる。

第 8 章 運営組織

(運営組織)

第 40 条 大学院の運営は、大学院委員会及び研究科委員会が行うものとする。

(大学院委員会)

第 41 条 大学院に札幌医科大学大学院委員会（以下「大学院委員会」という。）を置く。

2 大学院委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 研究科長

- (3) 学生部長
- (4) 研究科委員会選出が選出する各研究科の教授1名
- 3 大学院委員会は、大学院に関する次の事項を審議する。
 - (1) 組織及び運営に関すること。
 - (2) この規程その他重要な規程の制定改廃に関すること。
 - (3) 研究科間の連絡統一に関すること。
 - (4) 学長の諮問したこと。
 - (5) その他大学院に関する重要なこと。
- 4 大学院委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。
(研究科委員会)

第42条 研究科に研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会は、研究科担当教授をもって組織する。ただし、必要がある場合は、研究科授業担当教員を加えることができる。
- 3 研究科委員会は、研究科に関する次の事項を審議する。
 - (1) 教育課程に関すること。
 - (2) 学生の入学、退学、休学、転学及び除籍に関すること。
 - (3) 学生の賞罰に関すること。
 - (4) 委託生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生に関すること。
 - (5) 研究科授業担当教員の選考に関すること。
 - (6) 修士及び博士の学位の授与に関すること。
 - (7) 研究科長の諮問したこと。
 - (8) その他研究科の運営に関し必要なこと。
- 4 研究科委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

(寄宿舍)

第43条 寄宿舍は、札幌医科大学学生寮とし、札幌医科大学学生寮規程（平成19年規程第115号）を適用する。

第10章 雑則

(細則)

第44条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年4月1日規程第224号）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年2月16日規程第18号）

この規程は、平成21年2月16日から施行する。

附 則（平成21年5月14日規程第43号）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成25年3月15日規程第8号）

この規程は、平成25年3月22日から施行する。

附 則（平成25年4月1日規程第6号）

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成28年5月13日規程第37号）

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 9 月 21 日規程第 52 号）

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 29 年 10 月 18 日規程第 65 号）

この規程は、平成 29 年 11 月 1 日から施行する。

附 則（令和元年 10 月 25 日規程第 28 号）

この規程は、令和元年 11 月 1 日から施行する。

附 則（令和 5 年 12 月 19 日規程第 68 号）

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表

教育研究上の目的

研究科	人材育成の目的及び教育研究上の目的
医学研究科	<p>【修士課程】 医療関連分野、自然科学、人文・社会科学分野等の大学教育を受けた学生を対象として、医科学についての幅広い知識と高い見識を修得させることにより、医学・医療の推進に貢献する。</p> <p>【博士課程】 医学・医療に関する基本的知識を有する者を対象として、医学の専門分野における学識と研究能力、倫理観を修得させ、自立した研究活動又は専門的医療の実践を通じて医学・医療の発展に貢献する。</p>
保健医療学研究科	<p>【博士課程前期】 専門分野における豊かな知識と確かな技術、高い倫理性を基盤に、広い視野に立って地域の保健・医療・福祉の課題を解決しうる高度な実践力、看護学、理学療法学、作業療法学の進展に寄与しうる研究力を有する人材を育成する。</p> <p>【博士課程後期】 豊かな発想と科学性、厳格な倫理性を基盤に、専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識を有し、新たな知を創造するための研究活動を自立的に遂行するとともに、地域や時代の要請に応える取組を企画・推進できる人材を育成する。</p>

札幌医科大学学位規程

(平成19年4月1日規程第95号)

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定に基づき本学において授与する学位に関する事項を処理するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位及び専攻分野名)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 本学において授与する学位に付記する専攻分野の名称は、医学、医科学、看護学、理学療法学及び作業療法学とする。

(学位授与の要件)

第3条 次の各号の区分に応じ、各号に掲げる者に学位を授与することができる。

- (1) 学士 札幌医科大学学則(平成19年規程第50号)に規定する教育課程を修了して卒業した者
- (2) 修士 札幌医科大学大学院学則(平成19年規程第51号。以下「大学院学則」という。)に規定する医学研究科修士課程又は保健医療学研究科博士課程前期を修了した者
- (3) 博士 大学院学則に規定する医学研究科博士課程又は保健医療学研究科博士課程後期を修了した者
- (4) 博士(前号の場合を除く。) 大学院学則第28条の規定に基づき学位論文を提出し、その審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院を修了した者と同等以上の学力があると認められた者

第2章 大学院修了による学位の授与

(論文の提出)

第4条 前条第1項第2号又は第3号の規定により学位を受けようとする者は、学位論文(保健医療学研究科博士課程前期看護学専攻専門看護師コースにおいて履修し学位を受けようとする者にあつては、特定の課題研究の成果を含む。以下同じ。)その他の書類を研究科長に提出するものとする。

(論文受理の特例)

第5条 研究科長は、大学院学則第21条第1項ただし書、第2項ただし書及び第3項ただし書の規定により大学院修了の認定を受けようとする者が前条の規定により学位論文を提出したときは、研究科委員会の議を経て、その受理の可否を決定する。

(最終試験)

第6条 大学院学則第21条第1項から第3項までの規定による最終試験は、学位論文の審査に併行して行うものとする。

(審査の期限)

第7条 第4条の規定により提出された学位論文の審査は、原則として当該論文受理の日から起算して6月以内に終了するものとする。

第3章 論文提出による博士の学位の授与

(学力試験)

第8条 第3条第1項第4号に該当し学位論文を提出して博士の学位を受けようとする者(大学院学則第28条第1項ただし書に該当する者を除く。)には、本学大学院を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために外国語及び専攻学科について口答又は筆答により試験を行うものとする。

2 前項の外国語の試験はあらかじめ行い、専攻学科は、学位論文の審査に併行して行うものとする。

3 外国語試験を行うため、研究科委員会に学力試験委員会を設けるものとし、その組織等については研究科委員会の議を経て、研究科長が決定する。

(論文の提出)

第9条 第3条第1項第4号に該当し学位論文を提出するときは、学位申請書に学位論文及びその他の書類並びに北海道公立大学法人札幌医科大学諸料金規則(平成19年規程第48号。以下「諸料金規則」という。)に規定する博士論文の審査及び試験に係る手数料を添えて学長に提出するものとする。ただし、本学大学院医学研究科博士課程に4年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得して退学した者又は保健医療学研究科博士課程後期に3年以上在学し、所定の授業科目について10単位以上を修得して退学した者が、その退学の日から1年以内に学位論文を提出した場合は、博士論文の審査及び試験に係る手数料は徴収しないものとする。

(論文の受理及び審査)

第10条 学長は、前条の規定により提出された学位論文の受理の可否及び審査を研究科委員会に付託する。

(審査の期限)

第11条 受理した学位論文の審査は、原則として、当該論文を受理した日から起算して1年以内に終了するものとする。

第4章 学位論文審査委員会並びに修士及び博士の学位授与の議決

(学位論文審査委員会)

第12条 学位論文の審査及び最終試験又は専攻学科についての試験を行うため、学位論文審査の都度、研究科委員会に学位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)を置く。

2 審査委員会の組織は、大学院学則第25条の規定に基づき、研究科委員会の議を経て、研究科長が決定する。

3 審査委員会に主査及び副主査2名を置き、委員の互選により選任する。

4 主査は、審査委員会を統括し、審査委員会の議を経て、論文審査の方法を定め論文審査の要旨等を研究科委員会に報告するものとし、副主査は、主査を補佐する。

5 審査委員会は、学位論文審査のため必要があるときは、論文提出者に対して、当該論文の訳本、模型、標本等の提出を求めることができる。

(審議)

第13条 研究科委員会は、審査委員会の審査の結果に基づき、次の各号に掲げる事項を審

議する。

- (1) 第3条第1項第2号に該当する者 修士課程又は博士課程前期修了の可否
 - (2) 第3条第1項第3号に該当する者 博士課程又は博士課程後期修了の可否
 - (3) 第3条第1項第4号に該当する者 論文の審査及び合否
- 2 前項の審議に基づく決定は、研究科委員会出席委員の3分の2以上の賛成がなければならない。
- 3 第1項の審議には、研究科委員会構成員（休職及び外国出張中の者を除く。）の3分の2以上の出席がなければ、会議を開催することができない。

第5章 学位記の交付及び論文要旨の公表

(学位記の交付)

第14条 学長は、次の各号に掲げる事項を決定し、大学卒業、修士課程若しくは博士課程前期修了、博士課程若しくは博士課程後期修了又は論文審査に合格した者に、学位記を交付する。

- (1) 第3条第1項第1号に該当する者 教授会の議を経て大学卒業の可否
 - (2) 第3条第1項第2号に該当する者 研究科委員会の議を経て、修士課程若しくは博士課程前期修了の可否
 - (3) 第3条第1項第3号及び第4項に該当する者 研究科委員会の議を経て、博士課程若しくは博士課程後期修了の可否又は当該論文の合否
- 2 学位記は、別記第1号様式から別記第4号様式のとおりとする。

(学位の名称の使用)

第15条 学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、本学の名称を付記するものとする。

(論文要旨等の公表)

第16条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を本学ウェブサイトにより公表するものとする。

なお、修士の学位を授与したときについても同様とする。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与される前に既に公表した場合を除き、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、やむを得ない理由がある場合には、研究科委員会の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の内容を要約したもので公表することができるものとし、その論文の全文を閲覧する求めがあったときは、本学はこれに応ずるものとする。

- 2 博士の学位を授与された者が行う前項の規定による公表は、本学が指定するウェブサイトにより行うものとする。

(修士及び博士の学位授与の取消し)

第18条 修士及び博士の学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方法により当該学位を授与された事実が判明したときは、学長は、研究科委

員会及び大学院委員会の議を経て、当該学位の授与を取り消すことができる。

- 2 前項の委員会における審議及び審議に基づく決定については、第13条第2項及び第3項の規定を準用する。

(学位記の再交付)

第19条 学位記の再交付を受けようとする者は、その理由を記した文書に、諸料金規則に規定する学位記再交付手数料を添えて、学長に願い出なければならない。

- 2 学長は、前項の願い出があったときは、その理由を調査して再交付することができる。

第6章 雑則

(博士の学位授与の報告)

第20条 博士の学位を授与したときは、学長は、学位規則第12条の規定に基づき、当該学位を授与した日から3月以内に、文部科学大臣に報告しなければならない。

(細則)

第21条 この規程の施行上必要な細則は、別に定める。

(庶務)

第22条 この規程施行に係る庶務は、事務局学務課において処理する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年4月1日規程第225号）

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

附 則（平成23年8月1日規程第53号）

この規程は、平成23年8月1日より施行する。

附 則（平成25年4月1日規程第6号）

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年7月19日規程第54号）

この規程は、平成25年4月15日から施行する。

附 則（平成26年3月27日規程第12号）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月31日規程第6号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

別記様式（略）

札幌医科大学学位規程施行細則

平成 19 年 4 月 1 日

(学位論文の受付)

第 1 条 札幌医科大学学位規程(平成 19 年規程第 95 号。以下「規程」という。)第 4 条又は第 9 条の規程により提出される学位論文その他の書類(以下「学位論文等」という。)は、事務局学務課が受け付けるものとする。

(提出すべき論文その他の書類)

第 2 条 修士又は博士の学位の授与を受けようとする者が提出する学位論文等は、この細則に定めるもののほか、別に定めるものとする。

(博士論文の審査及び手数料の納付手続)

第 3 条 規程第 9 条の規定により学位論文等を提出する者は、博士論文の審査及び試験に係る手数料を事務局学務課に納付して、その領収書を学位論文等の書類に添えて提出するものとする。

2 納付された博士論文の審査及び試験に係る手数料は還付しない。

(審査結果の報告)

第 4 条 規程第 12 条第 4 項の規定により主査が、研究科委員会に報告する論文の審査及び試験結果の要旨は、別に定める様式によりそれぞれ作成し、規程第 13 条に規定する研究科委員会開催前 4 日以内に、研究科長に提出するものとする。

(不受理又は不合格論文の処理)

第 5 条 研究科委員会の議を経て、学長が受理することができないと決定した学位論文等又は規程第 13 条の規定に基づき、不合格と決定した学位論文等は、その旨を明記した通知書を添え、速やかに提出した者に返付するものとする。

2 前項の通知書は、親展扱いとする。

(学位記の交付)

第 6 条 規程第 14 条の規定により博士又は修士の学位記を交付する場合は、博士の学位授与決裁簿(別記第 1 号様式)又は修士の学位授与決裁簿(別記第 2 号様式)により、学長の決裁を経て、博士の学位記台帳(別記第 3 号様式)又は修士の学位記台帳(別記第 4 号様式)に登録し、一連の番号を付さなければならない。

2 前項各台帳の取扱要領の細部については、当該各台帳様式の裏面に記載のとおりとする。

(学位記の再交付)

第 7 条 規程第 19 条の規定により学位記の再交付を受けようとする者は、学位記再交付手数料を事務局学務課に納付して、その領収書を学位記再交付願(別記第 5 号様式)に添えて提出するものとする。

2 再交付する学位記は、学位記再交付簿(別記第 6 号様式)に登録する。その取扱いは、前条の規定を準用する。

3 納付された学位記再交付手数料は、還付しない。

(学位論文の公表)

第 8 条 博士の学位を授与された者は、規程第 17 条第 1 項の規定により当該博士の学位に係る論文を公表するにあたり、本学に対し、「複製権」と「公衆送信権」を許諾するものとする。

2 規程第 17 条第 1 項の規定により論文の全文又は内容の要約により公表を行おうとする者は、規程第 12 条第 4 項に規定する研究科委員会への報告までに、博士の学位に係る最終の論文その他次に掲げる書類等を、事務局学務課に提出するものとする。ただし、当該報告までに提出することができない特段の理由がある場合は、研究科委員会が定めるところにより、博士の学位が授与された日から 1 年以内に提出することができるものとする。

- (1) 博士論文公表願 (別記第7号様式)
 - (2) 博士論文公表用表紙 (別記第8号様式) 及びその電子データ (Word 形式)
 - (3) 博士論文全文の電子データ (PDF 形式)
 - (4) 論文の内容を要約したもので公表する場合は、当該論文を要約した電子データ (PDF 形式)
- 3 前項本文の規定は、規程第17条第1項ただし書きの規定により論文の内容を要約したもので公表した場合において、当該論文の全文を公表できないやむを得ない理由がなくなったため当該論文の全文の公表を行おうとする者について準用する。この場合において、「規程第12条第4項に規定する研究科委員会への報告までに」とあるのは、「博士の学位に係る論文の全文を公表できないやむを得ない理由がなくなった後速やかに」と読み替えるものとする。
- 4 規程第16条及び第17条第2項の本学が指定するウェブサイトは、「札幌医科大学学術機関リポジトリ」とする。

(学位論文の保存)

第9条 博士の学位授与の対象となった次の書類は、附属総合情報センターにおいて、電子データで永久に保存するものとする。

- (1) 博士論文公表用表紙 (別記第8号様式)
- (2) 学位論文内容の要旨
- (3) 論文審査の要旨及び担当者
- (4) 博士論文全文 (PDF 形式)
- (5) 論文の内容を要約したもので公表する場合は、論文の要約 (PDF 形式)

(雑則)

第10条 この細則に規定されていない事項の取り扱いについては、研究科委員会の決定するところによる。

附則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成23年11月1日から施行する。

附則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成25年4月15日から施行する。

附則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成26年11月1日から施行する。

附則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和5年4月1日から施行する。

札幌医科大学大学院保健医療学研究科授業科目履修方法及び単位修得認定等に関する規程

(平成 19 年 4 月 1 日規程第 100 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、札幌医科大学大学院学則（平成 19 年規程第 51 号）第 20 条第 1 項、第 2 項、第 21 条第 3 号、第 4 号、第 23 条及び第 24 条第 2 項の規定に基づき、札幌医科大学大学院保健医療学研究科（以下「研究科」という。）における授業科目の履修方法及び単位修得の認定等に関し必要な事項を定める。

(指導教員)

第 2 条 学生の履修及び研究指導を行うため、学生ごとに指導教員を置く。

2 指導教員は、学位論文の主たる指導に当たる教員とし、札幌医科大学保健医療学研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て保健医療学研究科長（以下「研究科長」という。）が指名する。

(教育課程)

第 3 条 各専攻の教育課程表は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 保健医療学研究科看護学専攻博士課程前期・博士課程後期 別表第 1

(2) 保健医療学研究科理学療法学・作業療法学専攻博士課程前期・博士課程後期 別表第 2

2 学生は、履修しようとする選択科目を、所定の期日までに、選択科目履修届（別記第 1 号様式）により研究科長に届出なければならない。

(授業方法)

第 4 条 授業は、講義、演習、実験、実習及び実技により行う。

2 前項の授業を、オンラインを活用した遠隔授業等、多様なメディアを高度に活用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(履修方法)

第 5 条 学生は、専攻を構成する領域の授業科目及び共通科目について、別表第 3 の履修基準に定める単位数を修得しなければならない。

2 学生は、履修しようとする選択科目を、所定の期日までに、選択科目履修届（別記第 1 号様式）により研究科長に届出なければならない。

(既修得単位の認定)

第 6 条 入学前に本学若しくは他の大学の大学院において履修し修得した単位を、本学で修得したものとする認定を希望する者は、所定の期日までに、既修得単位等認定申請書（別記第 2-1 号様式）により研究科長に申請しなければならない。

2 研究科長は、前項に定める既修得単位等認定申請書を受理したときは、研究科委員会の議を経て、既修得単位等認定結果通知書（別記 2-2 号様式）により申請者に通知する。

(単位修得の認定)

第 7 条 単位修得の認定は、試験又は研究報告等により授業科目の担当教員が行う。

2 前項のうち特別研究又は課題研究の単位修得の認定は、必要な研究指導を受けた上で学位論文を作成し、学位論文の審査結果等に基づき、指導教員が行うものとする。

(成績及び評価基準)

第 8 条 授業科目の成績及び評価基準は、次のとおりとする。

(1) 優 80 点以上

(2) 良 70 点以上 80 点未満

(3) 可 60 点以上 70 点未満

(4) 不可 60 点未満

2 前項第 1 号から第 3 号までに該当する場合は合格とし、第 4 号に該当する場合は不合格とする。

(成績の報告)

第9条 授業科目担当の教員は、学生の成績を評定し、前期にあつては9月末日までに、後期にあつては2月末日までに、科目成績評価表(別記第3号様式)により研究科長に報告しなければならない。

(研究計画書の提出)

第10条 学生は、学位論文の作成に関して研究計画書を作成し、所定の期日までに、研究科長に提出しなければならない。

(学位論文及び最終試験)

第11条 学位論文の提出及び審査並びに最終試験については、札幌医科大学学位規程(平成19年規程第95号)の定めるところによる。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年4月1日規程第25号)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年5月14日規程第44号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月15日規程第33号)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日規程第8号)

この規程は、平成25年3月22日から施行する。

附 則(平成25年4月1日規程第6号)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月18日規程第10号)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成26年6月12日規程第50号)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成27年6月17日規程第43号)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年5月13日規程第38号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年1月16日規程第2号)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成30年10月11日規程第58号)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和元年10月21日規程第26号)

この規程は、令和元年11月1日から施行する。

附 則(令和2年6月12日規程第33号)

この規程は、令和2年6月12日から施行する。

附 則(令和4年3月23日規程第5号)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和4年10月25日規程第36号)

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月23日規程第17号)

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和6年2月20日規程第4号）

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

選択科目履修届

年 月 日

保健医療学研究科長 様

専 攻

学 年

学籍番号

氏 名

次の科目を履修したいので届けます。

授 業 科 目	担 当 教 員	単 位 数	開 講 時 期	備 考
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	

既修得単位等認定申請書

年 月 日

札幌医科大学
大学院保健医療学研究科長 様

専 攻 _____

学 年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

_____ 大学大学院で修得した単位のうち、次の科目について、札幌医科大学大学院保健医療学研究科において修得したものとして認定されるよう、関係書類を添えて申請いたします。

記

1 認定希望科目

既修得科目	単位数	札幌医科大学大学院の科目	単位数

2 在学期間への算入認定に係る希望

既修得単位の認定に際し、

本学における在学期間への算入認定を

希望します。

希望しません。

3 関係書類

(1) 成績証明書・単位取得証明書または学修の成果を証明するもの

(2) 認定希望科目の授業概要・シラバス等 ※他大学大学院等の修得科目の場合
(授業内容・開講期間・時間数・単位数が確認できるもの)

既修得単位等認定結果通知書

年 月 日

様

札幌医科大学
大学院保健医療学研究科長

年 月 日付けで申請のあった既修得単位等の認定について、次のとおり札幌医科大学大学院保健医療学研究科において修得したものとして認定します。

記

1 認定単位

既修得科目	単位数	札幌医科大学大学院の科目	認定 単位数

2 認定在学期間

か月

授業科目成績評価表

年 月 日

保健医療学研究科長 様

担当教員 (代表) 氏名 印

次のとおり報告します。

専 攻				学 年	期
授業科目				単 位	
成 績 評 価					
学籍番号	氏 名	評 価	備 考		

札幌医科大学学位論文審査規程

(趣旨)

第1条 札幌医科大学学位規程（平成19年規程第95号。以下「学位規程」という。）に基づく学位論文の審査は、この規程の定めるところによる。

(学位の請求又は申請の資格要件)

第2条 学位規程第3条第1項第2号の規定に基づき、修士（看護学・理学療法学又は作業療法学）の学位を請求することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学大学院保健医療学研究科博士課程前期（以下「研究科博士課程前期」という。）に1年6月以上在学し、2年終了までに所定の授業科目について30単位以上を修得し得る見込みの者
- (2) 研究科博士課程前期に2年以上在学して所定の授業科目について30単位以上を修得し、又は修得し得る見込みの者で、引き続き在学中の者（再入学の者を含み、休学中の者を除く。）
- (3) 研究科博士課程前期に1年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し得る見込みの者で、優れた研究業績を上げた者

第2条の2 規程第3条第1項第2号の規定に基づき、博士（医科学）の学位を請求することができる者は、本学大学院医学研究科修士課程に1年6月以上在学し、2年終了までに所定の授業科目について30単位以上を修得し得る見込みの者とする。

第3条 学位規程第3条第1項第3号の規定に基づき、博士（医学）の学位を請求することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学大学院医学研究科博士課程（以下「研究科博士課程」という。）に3年6月以上在学し、4年終了までに所定の授業科目について30単位以上を修得し得る見込みの者
- (2) 研究科博士課程に4年以上在学して所定の授業科目について30単位以上を修得し、又は修得し得る見込みの者で、引き続き在学中の者（再入学の者を含み、休学中の者を除く。）
- (3) 研究科博士課程に2年6月以上在学し、3年終了までに所定の授業科目について32単位以上を修得し得る見込みの者で、優れた研究業績を上げた者

第4条 学位規程第3条第1項第3号の規定に基づき、博士（医学を除く。）の学位を請求することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本学大学院保健医療学研究科博士課程後期（以下「研究科博士課程後期」という。）に2年6月以上在学し、3年終了までに所定の授業科目について10単位以上を修得し得る見込みの者
- (2) 研究科博士課程後期に3年以上在学して所定の授業科目について10単位以上を修得し、又は修得し得る見込みの者で、引き続き在学中の者（再入学の者を含み、休学中の者を除く。）
- (3) 研究科博士課程後期に1年（2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年）以上在学し、2年終了までに所定の授業科目について10単位以上を修得し得る見込みの者で、優れた研究業績を上げた者

第5条 学位規程第3条第1項第4号の規定に基づき、博士（医学）の学位を申請することができる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、医学研究科委員会を構成する教授1名以上の推薦又は紹介がなければならない。

- (1) 本学医学研究科博士課程に4年以上在学し、所定の授業科目について30以上の単位を修得して退学した者
- (2) 別表第1の「大学学部等」の欄に掲げる大学等を卒業し、当該大学学部等の区分に応じた同表の「研究歴」の欄に掲げる研究歴を有する者
- (3) その他、医学研究科委員会において前各号の者と同等以上と認める研究歴を有する者

第6条 学位規程第3条第1項第4号の規定に基づき、博士（医学を除く。）の学位を申請することができる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、保健医療学研究科委員会を構成する教授1名以上の推薦又は紹介がなければならない。

- (1) 博士課程後期に3年以上在学し、所定の授業科目について10以上の単位を修得して退学した者
- (2) 別表第2に掲げる大学院保健医療学研究科博士課程前期（修士課程）を修了し、同表の「研究歴」の欄に掲げる研究歴を有する者
- (3) その他、保健医療学研究科委員会において前各号の者と同等以上と認める研究歴を有する者（研究歴）

第7条 第5条第2号及び第3号の研究歴は、次の各号に掲げる期間とする。

- (1) 大学の専任の職員として研究に従事した期間
- (2) 大学又は他大学の医学研究科博士課程を退学した者の、当該医学研究科博士課程に在学した期間
- (3) 本学又は他大学の研究生として専ら研究に従事した期間
- (4) 前各号と同等以上と認められる研究に従事した期間

第8条 第6条第2号及び第3号の研究歴とは、次の各号に掲げる期間とする。

- (1) 大学又は短期大学の看護学、理学療法学又は作業療法学専任の職員として研究に従事した期間
- (2) 国公立研究機関の看護学、理学療法学又は作業療法学の職員として研究に従事した期間
- (3) 本学又は他大学の保健医療学研究科博士課程後期を退学した者の、当該保健医療学研究科博士課程後期に在学した期間
- (4) 本学又は他大学の研究生として専ら研究に従事した期間
- (5) 前各号と同等以上と認められる研究に従事した期間

（学位申請研究歴審査委員会）

第9条 学位規程第3条第1項第4号の規定に基づき学位論文を提出しようとする者の研究歴を事前に審査するため、それぞれの研究科委員会に学位申請研究歴審査委員会（以下「研究歴審査委員会」という。）を置く。

- 2 研究歴審査委員会に、若干名の委員を置く。
- 3 前項の委員は、研究科長が研究科委員会構成員の中から任命する。
- 4 研究歴審査委員会は、研究科長が必要と認めたときに、第1項の規定による審査を行うものとする。
- 5 研究歴審査委員会は、第1項の審査を行ったとき、その結果を研究科長に報告するものとする。

（論文の受理）

第10条 学位規程第9条の規定により提出された学位論文は、次のとおり受理するものとする。

- (1) 研究科長は、提出された学位論文その他必要な資料を、研究科委員会の会議を招集する1週間前までに各委員に配布する。
- (2) 第5条の規定により推薦又は紹介した教授は、推薦又は紹介した理由及び提出された関係資料について所要の説明をする。
- (3) 研究科委員会は、前号の説明の後、無記名投票により当該論文の受理の可否を議決するものとし、議決の方法は、学位規程第13条を準用するものとする。

第11条 前条の規定は、第2条第3号、第3条第3号及び第4条第3号に該当する者に係る学位論文の受理について準用する。この場合、前条第2号中「第5条の規定により推薦又は紹介した教授は、推薦又は紹介した理由」とあるのは、「指導教授は、当該論文提出者が優れた研究業績を上げた者であるとする理由」と読み替えるものとする。

（論文審査委員会の構成等）

第12条 研究科長は、学位規程第12条第1項の規定により、学位論文審査委員会を設けようとするときは、審査に付すべき学位論文及びその要旨を、研究科委員会の招集予定日の1週間前までに各委員に配布しなければならない。ただし、第10条（前条の規定により準用される場合を含む。）の規定により論文の受理が決定されたものについては、この限りではない。

- 2 論文提出者は、前項の研究科委員会において、関係論文の要旨その他必要な事項について説明する。
- 3 研究科委員会は、前項の説明及び配布された資料に基づき、学位論文審査委員会の構成を定め、論文審査委員を無記名投票により選出する。

(審査の方法)

第12条の2 医学研究科教務委員会は、規程第12条1項の規定により、修士論文審査委員会を設けようとするときは、指導教員から推薦のあった審査委員候補の中から主査及び副主査を選考し、研究科委員会において承認を得なければならない。

第13条 学位論文の審査は、論文提出者を出頭させ当該論文の内容の説明を求め、又は論文に関連する事項について試問を行うものとする。

2 学位規程第8条第2項の規定により行う外国語の試験は、前項の審査の前に英語について行うものとする。

3 学位論文の審査並びに学位規程第6条の規定により行う最終試験及び学位規程第8条の規定により専攻学科について行う試験には、学位論文審査委員会の議により、委員以外の教授又は関係者を参加させることができる。ただし、当該委員会の判定に加えることはできない。

4 主査は、論文審査が終了した後に、学位論文審査結果(経過)報告書を研究科委員会に提出し、それに基づき、研究科長が研究科委員会に可否の諮問を行い、決定する。

(雑則)

第14条 この規程施行上の疑義は、研究科委員会の決定するところによる。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成22年4月1日規程第73号)

この規程は、平成22年4月1日から施行し、平成21年10月1日から適用する。

附 則(平成25年4月1日規程第6号)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

大 学 学 部 等		研 究 歴	
		基礎医学の場合	臨床医学の場合
大 学	医学部(医学科に限る。)	5 年 以 上	6 年 以 上
	歯学部		
	薬学部(6年制)	7 年 以 上	8 年 以 上
	獣医学部(6年制)		
薬学部(4年制)	7 年 以 上	8 年 以 上	
獣医学部(4年制)			
旧医学専門学校			

別表第2(第6条関係)

大 学 院 の 学 科 等	研 究 歴
大学院保健医療学研究科博士課程前期(修士課程)修了者(看護学専攻、理学療法・作業療法学専攻に限る。)	4 年 以 上

Ⅲ 教育課程（博士課程前期）

1 授業の履修要領

（1）修了要件

博士課程前期（看護学専攻及び理学療法学・作業療法学専攻）を修了するには、次の要件が必要です。

- ① 在学期間が2年以上あること。
- ② 履修基準に基づく所定の授業科目について30単位以上を修得すること。
- ③ 必要な研究指導を受けた上、修士論文（看護学専攻専門看護師コースにおいては、特定の課題研究の成果をもって代えることができる。以下同じ）を所定の期日までに提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

（2）早期修了要件

博士課程前期に1年以上在学し、次の要件を満たす場合には、早期に修士論文を提出することができます。

- ① 主論文に関連した学位論文審査願提出時から過去3年以内の参考論文がレフリース付き全国誌レベルの関連雑誌に掲載済、もしくは掲載予定のものが2篇以上あること。
（申請院生が第1著者である論文とする。）
- ② 22単位以上の単位を既に修得していること。

（3）指導教員

- ① 指導教員は、修士論文の作成指導を行うほか、履修科目の指導・アドバイス、その他教育研究についての相談を行う。
- ② 入学後に提出する「研究指導計画書」に基づいて、学生一人ひとりに、研究しようとする領域に応じた指導教員がつく。

（4）科目履修

- ① 教育課程表に基づき、専攻ごとに履修基準に定める授業科目について必要な単位を修得すること。
- ② 履修しようとする授業科目については、「授業科目履修届」の提出が必要となる。
- ③ 授業科目履修届は、次の期日までに学務課大学院係に提出すること。
ア 前期履修科目 4月第4金曜日まで
イ 後期履修科目 10月第2金曜日まで
- ④ 選択科目については、他専攻の専門科目も履修することができる。ただし、修了要件の単位とはならない。

（5）学位論文・最終試験

学位論文の作成に関しては、別冊「論文作成の手引き」に詳細が記載されています。

- ① 研究計画書
提出期日：別冊「論文作成の手引き」参照
専攻別に研究計画書の審査会を行う。
- ② 学位論文
提出期日：別冊「論文作成の手引き」参照
- ③ 論文審査・最終試験
学位論文提出後、論文審査を行う。（審査委員決定後4週間以内）
論文審査時に、その論文を中心とする最終試験を行う。
論文審査及び最終試験に合格した者は、教育課程を修了する。

(6) 学位の授与

① 看護学専攻

教育課程の修了が認められた者に、修士（看護学）の学位を授与する。

② 理学療法学・作業療法学専攻

教育課程の修了が認められた者に、修士（理学療法学）又は修士（作業療法学）の学位を授与する。

(7) 留学の取扱い

① 国内留学

ア 本学大学院保健医療学研究科と同等以上と認められる国内の大学・研究機関において、学生が課程履修上必要な研究に従事する場合、当該研究期間は本学の在学期間として取り扱うものとする。ただし、留学期間は、原則として1年以内とする。

イ 国内留学をしようとする学生は、主任指導教員を経て国内留学願を学長に提出する。

ウ 国内留学は、保健医療学研究科委員会の議を経て学長が許可する。必要がある場合は、主任指導教員に保健医療学研究科委員会において所用事項の説明を求める。

エ 国内留学を修了した学生は、帰学後速やかに国内留学修了届に留学中に得た成果についての報告書（4,000字以内）を添付し、主任指導教員及び保健医療学研究科長を経て学長に提出する。

② 外国留学

ア 本学大学院保健医療学研究科と同等以上と認められる外国の適当な大学・研究機関において、自らの研究テーマに関連する純粋な研究（単なる修練、視察等を除く。）に従事する場合、当該研究期間は本学の在学期間として取り扱うものとする。ただし、留学期間は、原則として1年以内とする。

イ 外国留学をしようとする学生は、主任指導教員を経て外国留学願を学長に提出する。

ウ 外国留学は、保健医療学研究科委員会の議（主任指導教員は必要な事項について説明する。）を経て学長が許可する。

エ 外国留学を修了した学生は、帰国後速やかに外国留学修了届に留学中に得た成果についての報告書（4,000字以内）を添付し、主任指導教員及び保健医療学研究科長を経て学長に提出する。

2 授業科目、履修基準及び履修モデル

(1) 看護学専攻

看護学専攻の教育課程は、専攻独自の専門科目、両専攻共通の共通科目及び専攻分野の研究（看護学特別研究及び看護学課題研究）から構成し、専門分野と同時に基礎的学問分野の幅広い学習・研究活動ができる選択科目を編成している。

また、院生の目的に合わせて、以下の2つのコースを設けている。

1) 修士論文コース

専門領域での専門性を高め、研究能力の開発をめざすコース。

専門領域には、基礎看護科学、感染看護学、女性健康看護学、小児健康看護学、成人健康看護学、老年健康看護学、精神看護学、地域看護学、臨床内科学、臨床外科学の10分野がある。

2) 専門看護師コース

日本看護協会が認定するCNS（専門看護師）をめざす人々に対するコース。

小児看護、クリティカルケア看護、精神看護の3領域がある。

○授業科目

区分	専門領域	授業科目	開講時期	単位数	修士論文コース		専門看護師コース	
					必修	選択	必修	選択
専門科目	支持科目	看護理論特論	1 学年前期	2	2 単位			2 単位
		看護学研究法特論	1 学年通年	2	2 単位			2 単位
		看護教育学特論	1 学年前期	2		2 単位		2 単位
		看護管理特論	1 学年前期	2		2 単位		2 単位
		看護倫理特論	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
		コンサルテーション論	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
	領域科目	フィジカルアセスメント	1 学年通年	2		2 単位	2 単位	
		病態生理学	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		臨床薬理学	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		基礎看護科学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位
		基礎看護科学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
		感染看護学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位
		感染看護学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
		女性健康看護学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位
		女性健康看護学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
		小児健康看護学特論 1	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		小児健康看護学特論 2	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		小児健康看護学特論演習 1	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		小児健康看護学特論演習 2	1 学年後期～2 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		小児臨床看護論	1 学年通年	2		2 単位	2 単位	
		小児臨床看護論演習	1 学年通年～2 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		小児保健福祉論	1 学年通年～2 学年前期	1		1 単位	1 単位	
		小児保健福祉論演習	1 学年通年～2 学年前期	1		1 単位	1 単位	
		小児病態治療論	1 学年通年	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論 1	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論 2	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論 3	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論演習 1	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論演習 2	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論演習 3	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		成人看護学特論演習 4	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		老年看護学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位
		老年看護学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位
		精神看護学特論 1	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論 2	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論 3	1 学年前期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論演習 1	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論演習 2	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論演習 3	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論演習 4	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		精神看護学特論演習 5	1 学年後期	2		2 単位	2 単位	
		地域看護学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位
地域看護学特論演習	1 学年通年	2		2 単位		2 単位		
臨床内科学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位		
臨床内科学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位		
臨床外科学特論	1 学年前期	3		3 単位		3 単位		
臨床外科学特論演習	1 学年後期	2		2 単位		2 単位		
臨地実習 (小児看護) 1	2 学年通年	2				2 単位		
臨地実習 (小児看護) 2	2 学年通年	2				2 単位		
臨地実習 (小児看護) 3	2 学年通年	6				6 単位		
臨地実習 (クリティカルケア看護) 1	2 学年通年	8				8 単位		
臨地実習 (クリティカルケア看護) 2	2 学年通年	2				2 単位		
臨地実習 (精神看護) 1	1 学年通年	4				4 単位		
臨地実習 (精神看護) 2	2 学年通年	4				4 単位		
臨地実習 (精神看護) 3-1	2 学年通年	2				2 単位		
臨地実習 (精神看護) 3-2	2 学年通年	2				2 単位		
看護学特別研究	1 学年後期～通年	10		10 単位				
看護学課題研究	1 学年後期～通年	4				4 単位		

共通科目	支持科目	保健医療情報システム特論1	全学年前期	2		2単位		2単位
		保健医療情報システム特論2	全学年後期	2		2単位		2単位
		ヒューマンサイエンス研究法特論1	1学年前期	2		2単位		2単位
		ヒューマンサイエンス研究法特論2	1学年後期	2		2単位		2単位
		保健医療統計学特論1	1学年後期	2		2単位		2単位
		保健医療統計学特論2	1学年後期	2		2単位		2単位
		疫学・社会調査法特論1	1学年前期	2		2単位		2単位
		疫学・社会調査法特論2	1学年後期	2		2単位		2単位
		保健医療教育学特論	全学年前期	2		2単位		2単位
	基盤科目	研究倫理特論	全学年通年	1	1単位		1単位	
		病態生理学特論	1学年後期	2		2単位		2単位
		病態治療学特論1	1学年後期	2		2単位		2単位
		病態治療学特論2	1学年後期	2		2単位		2単位
		保健医療学セミナー	全学年通年	2		2単位		2単位
(修了に必要な単位)					20単位	10単位	35単位	8単位
計					30単位以上		43単位以上	

○履修基準

<修士論文コース>

授 業 科 目		単 位 数
必 修	看護理論特論	2単位
	看護学研究法特論	2単位
	主要専攻領域の科目	5単位
	看護学特別研究	10単位
	研究倫理特論	1単位
選 択	上記必修科目を除く全ての科目	10単位以上
合 計		30単位以上

看護学特別研究では、専攻する領域において研究課題を設定し、指導教員の指導のもと、修士論文を作成する。

<専門看護師コース>

授 業 科 目		単 位 数
必 修	フィジカルアセスメント	2単位
	病態生理学	2単位
	臨床薬理学	2単位
	専攻する領域の科目	14単位以上
	看護学課題研究	4単位
	臨地実習	10単位
	研究倫理特論	1単位
選 択	看護理論特論、看護学研究法特論	8単位以上
	看護管理特論、看護倫理特論	
	コンサルテーション論、看護教育学特論	
合 計		43単位以上

看護学課題研究では、小児看護・クリティカルケア看護および精神看護から専攻領域を選択し、臨床に密着した実践的な研究課題を設定し、指導教員の指導のもと、課題研究論文を作成する。

○履修モデル

区分	専門領域	授業科目	開講時期	単位数
専門科目	支持科目	看護理論特論	1 学年前期	2
		看護学研究法特論	1 学年通年	2
		看護教育学特論	1 学年前期	2
		看護管理特論	1 学年前期	2
		看護倫理特論	1 学年後期	2
		コンサルテーション論	1 学年後期	2
	領域科目	フィジカルアセスメント	1 学年通年	2
		病態生理学	1 学年前期	2
		臨床薬理学	1 学年前期	2
		基礎看護科学特論	1 学年前期	3
		基礎看護科学特論演習	1 学年後期	2
		感染看護学特論	1 学年前期	3
		感染看護学特論演習	1 学年後期	2
		女性健康看護学特論	1 学年前期	3
		女性健康看護学特論演習	1 学年後期	2
		小児健康看護学特論 1	1 学年前期	2
		小児健康看護学特論 2	1 学年後期	2
		小児健康看護学特論演習 1	1 学年後期	2
		小児健康看護学特論演習 2	1 学年後期～2 学年前期	2
		小児臨床看護論	1 学年通年	2
		小児臨床看護論演習	1 学年通年～2 学年前期	2
		小児保健福祉論	1 学年通年～2 学年前期	1
		小児保健福祉論演習	1 学年通年～2 学年前期	1
		小児病態治療論	1 学年通年	2
		成人看護学特論 1	1 学年前期	2
		成人看護学特論 2	1 学年前期	2
		成人看護学特論 3	1 学年前期	2
		成人看護学特論演習 1	1 学年後期	2
		成人看護学特論演習 2	1 学年後期	2
		成人看護学特論演習 3	1 学年後期	2
		成人看護学特論演習 4	1 学年後期	2
		老年看護学特論	1 学年前期	3
		老年看護学特論演習	1 学年後期	2
		精神看護学特論 1	1 学年前期	2
		精神看護学特論 2	1 学年前期	2
		精神看護学特論 3	1 学年前期	2
		精神看護学特論演習 1	1 学年後期	2
		精神看護学特論演習 2	1 学年後期	2
		精神看護学特論演習 3	1 学年後期	2
		精神看護学特論演習 4	1 学年後期	2
		精神看護学特論演習 5	1 学年後期	2
		地域看護学特論	1 学年前期	3
		地域看護学特論演習	1 学年通年	2
		臨床内科学特論	1 学年前期	3
		臨床内科学特論演習	1 学年後期	2
		臨床外科学特論	1 学年前期	3
		臨床外科学特論演習	1 学年後期	2
臨地実習 (小児看護) 1	2 学年通年	2		
臨地実習 (小児看護) 2	2 学年通年	2		
臨地実習 (小児看護) 3	2 学年通年	6		
臨地実習 (クリティカルケア看護) 1	2 学年通年	8		
臨地実習 (クリティカルケア看護) 2	2 学年通年	2		
臨地実習 (精神看護) 1	1 学年通年	4		
臨地実習 (精神看護) 2	2 学年通年	4		
臨地実習 (精神看護) 3-1	2 学年通年	2		
臨地実習 (精神看護) 3-2	2 学年通年	2		
看護学特別研究	1 学年後期～通年	10		
看護学課題研究	1 学年後期～通年	4		
共通科目	支持科目	保健医療情報システム特論1	全学年前期	2
		保健医療情報システム特論2	全学年後期	2
		ヒューマンサイエンス研究法特論1	1 学年前期	2
		ヒューマンサイエンス研究法特論2	1 学年後期	2
		保健医療統計学特論1	1 学年後期	2
		保健医療統計学特論2	1 学年後期	2
		疫学・社会調査法特論1	1 学年前期	2
		疫学・社会調査法特論2	1 学年後期	2
		保健医療教育学特論	全学年前期	2
	基盤科目	研究倫理特論	全学年通年	1
		病態生理学特論	1 学年後期	2
		病態治療学特論 1	1 学年後期	2
		病態治療学特論 2	1 学年後期	2
		保健医療学セミナー	全学年通年	2

(修了に必要な単位)

(2) 理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻の教育課程は、次のとおり、専攻独自の専門科目、両専攻共通の共通科目及び専攻分野の研究（理学療法学・作業療法学特別研究）から構成し、専門分野と同時に基礎的学問分野の幅広い学習・研究活動ができる選択科目を編成している。

○授業科目

区分	専門領域	授業科目	開講時期	単位数	必修	選択		
専門科目	支持科目	理学療法学研究法特論	1 学年通年	3 単位	3 単位			
		作業療法学研究法特論	1 学年通年	3 単位	3 単位			
		リハビリテーション教育学特論	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		リハビリテーション管理学特論	2 学年前期又は後期	2 単位		2 単位		
		リハビリテーション特別課題研究	1 学年後期～2 学年前期	2 単位		2 単位		
	領域科目	神経・発達障害理学療法学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		神経・発達障害理学療法学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		感覚統合障害学特論	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		感覚統合障害学特論演習	2 学年前期	2 単位		2 単位		
		生体工学・スポーツ整形外科学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		生体工学・スポーツ整形外科学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		中枢神経機能障害学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		中枢神経機能障害学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		スポーツ理学療法学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		スポーツ理学療法学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		活動能力障害学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		活動能力障害学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		臨床精神・脳機能学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		臨床精神・脳機能学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		精神障害リハビリテーション学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		精神障害リハビリテーション学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		高齢者・地域健康科学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		高齢者・地域健康科学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		神経・認知機能治療学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		神経・認知機能治療学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		筋機能制御学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		筋機能制御学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		生体機能評価学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		生体機能評価学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		形態人類学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		形態人類学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		作業科学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		作業科学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
		地域生活科学特論	1 学年前期	2 単位		2 単位		
		地域生活科学特論演習	1 学年後期	2 単位		2 単位		
	理学療法学・作業療法学特別研究			1 学年後期～通年	10 単位	10 単位		
	共通科目	支持科目	保健医療情報システム特論 1	全学年前期	2 単位		2 単位	
			保健医療情報システム特論 2	全学年後期	2 単位		2 単位	
			ヒューマンサイエンス研究法特論 1	1 学年前期	2 単位		2 単位	
			ヒューマンサイエンス研究法特論 2	1 学年後期	2 単位		2 単位	
			保健医療統計学特論 1	1 学年後期	2 単位		2 単位	
			保健医療統計学特論 2	1 学年後期	2 単位		2 単位	
			疫学・社会調査法特論 1	1 学年前期	2 単位		2 単位	
			疫学・社会調査法特論 2	1 学年後期	2 単位		2 単位	
			保健医療教育学特論	全学年前期	2 単位		2 単位	
		基盤科目	研究倫理特論		全学年通年	1 単位	1 単位	
			病態生理学特論		1 学年後期	2 単位		2 単位
病態治療学特論 1				1 学年後期	2 単位		2 単位	
病態治療学特論 2				1 学年後期	2 単位		2 単位	
保健医療セミナー				全学年通年	2 単位		2 単位	
(修了に必要な単位)					18 単位	12 単位		
計					30 単位以上			

○履修基準

授 業 科 目		単 位 数
必 修	理学療法学研究法特論又は作業療法学研究法特論	3単位
	主要専攻領域の科目	4単位
	理学療法学・作業療法学特別研究	10単位
	研究倫理特論	1単位
選 択	上記必修科目を除く全ての科目	12単位以上
合 計		30単位以上

理学療法学・作業療法学特別研究では、専門領域科目の中から研究課題を選択し、指導教員の研究指導のもとに、修士論文を作成するための研究を推進する。

○履修モデル

区分	専門領域	授業科目	開講時期	単位数	履修基準	モデル 神経・発達障害 理学療法学
専門科目	支持科目	理学療法学研究法特論	1 学年通年	3	■	■
		作業療法学研究法特論	1 学年通年	3	■	
		リハビリテーション教育学特論	1 学年後期	2	○	
		リハビリテーション管理学特論	2 学年前期又は後期	2	○	
		リハビリテーション特別課題研究	1 学年後期～2 学年前期	2	○	○
	領域科目	神経・発達障害理学療法学特論	1 学年前期	2	●	●
		神経・発達障害理学療法学特論演習	1 学年後期	2	●	●
		感覚統合障害学特論	1 学年後期	2	●	
		感覚統合障害学特論演習	2 学年前期	2	●	
		生体工学・スポーツ整形外科学特論	1 学年前期	2	●	○
		生体工学・スポーツ整形外科学特論演習	1 学年後期	2	●	○
		中枢神経機能障害学特論	1 学年前期	2	●	
		中枢神経機能障害学特論演習	1 学年後期	2	●	
		スポーツ理学療法学特論	1 学年前期	2	●	
		スポーツ理学療法学特論演習	1 学年後期	2	●	
		活動能力障害学特論	1 学年前期	2	●	
		活動能力障害学特論演習	1 学年後期	2	●	
		臨床精神・脳機能学特論	1 学年前期	2	●	○
		臨床精神・脳機能学特論演習	1 学年後期	2	●	○
		精神障害リハビリテーション学特論	1 学年前期	2	●	
		精神障害リハビリテーション学特論演習	1 学年後期	2	●	
		高齢者・地域健康科学特論	1 学年前期	2	●	
		高齢者・地域健康科学特論演習	1 学年後期	2	●	
		神経・認知機能治療学特論	1 学年前期	2	●	
		神経・認知機能治療学特論演習	1 学年後期	2	●	
		筋機能制御学特論	1 学年前期	2	●	
		筋機能制御学特論演習	1 学年後期	2	●	
		生体機能評価学特論	1 学年前期	2	●	
		生体機能評価学特論演習	1 学年後期	2	●	
		形態人類学特論	1 学年前期	2	●	
	形態人類学特論演習	1 学年後期	2	●		
	作業科学特論	1 学年前期	2	●		
作業科学特論演習	1 学年後期	2	●			
地域生活科学特論	1 学年前期	2	●			
地域生活科学特論演習	1 学年後期	2	●			
理学療法学・作業療法学特別研究			1 学年後期～通年	10	■	■
共通科目	支持科目	保健医療情報システム特論 1	全学年前期	2	○	
		保健医療情報システム特論 2	全学年後期	2	○	
		ヒューマンサイエンス研究法特論 1	1 学年前期	2	○	
		ヒューマンサイエンス研究法特論 2	1 学年後期	2	○	
		保健医療統計学特論 1	1 学年後期	2	○	
		保健医療統計学特論 2	1 学年後期	2	○	
		疫学・社会調査法特論 1	1 学年前期	2	○	
		疫学・社会調査法特論 2	1 学年後期	2	○	
	基盤科目	保健医療教育学特論	全学年前期	2	○	
		研究倫理特論	全学年通年	1	■	■
		病態生理学特論	1 学年後期	2	○	
		病態治療学特論 1	1 学年後期	2	○	
		病態治療学特論 2	1 学年後期	2	○	
		保健医療学セミナー	全学年通年	2	○	○
		(修了に必要な単位) 30単位				

■:必修科目 ●:専攻領域における必修科目 ○:選択科目

IV 教育課程（博士課程後期）

1 授業の履修要領

（1）修了要件

博士課程後期（看護学専攻及び理学療法学・作業療法学専攻）を修了するには、次の要件が必要。

- ① 在学期間が3年以上あること。
- ② 履修基準に基づく所定の授業科目について10単位以上を修得すること。
- ③ 必要な研究指導を受けた上、博士論文を所定の期日までに提出し、その審査及び最終試験に合格すること。
- ④ 博士論文の提出は、下記の2つの要件のうち、いずれかを満たすものとする。

ア 博士論文審査を申請しようとする論文が刊行されている場合

- i 審査申請者（以下「申請者」）を筆頭著者とし、査読制度のある日本学術会議学術研究団体の刊行する学術誌、またはインパクトファクターを有する学術誌に掲載、あるいはアクセプトされた原著論文であること。
- ii 当該原著論文の別刷の提出をもって、審査申請論文（以下「申請論文」）とする。なお、別刷を提出できない場合は、当該学術誌の編集委員会等が発行する掲載証明書等を添付した投稿論文のコピーを提出する。
- iii 申請論文が共著の場合は、審査申請時に全共著者からの承諾書兼誓約書を提出する。

イ ア以外の場合

- i 未発表の申請論文に加えて、申請者を筆頭著者とし、全国誌レベルの学術誌に掲載、あるいはアクセプトされた論文1篇を参考論文として提出する。
- ii 参考論文は、申請論文に合わせて別刷を提出する。別刷を提出できない場合は、学術誌の編集委員会等が発行する掲載証明書等を添付した投稿論文のコピーを提出する。

（2）早期修了要件

博士課程後期に1年6カ月以上在学し、次の要件を満たす場合には、早期に博士論文を提出することができる。

- ① 主論文に関連した学位論文審査願提出時から過去5年以内の英文の参考論文がレフリー付き国際誌レベルの関連雑誌に掲載済、もしくは掲載予定のものが2篇以上あること。
（申請院生が第1著者である論文とする。）
- ② 10単位以上の単位を既に修得していること。

（3）指導教員

- ① 指導教員は、博士論文の作成指導を行うほか、履修科目の指導・アドバイス、その他教育研究についての相談を行う。
- ② 入学後に提出する「研究指導計画書」に基づいて、学生一人ひとりに、研究しようとする領域に応じた指導教員がつく。

（4）科目履修

教育課程表に基づき、専門領域ごとの授業科目について、必要な単位を修得すること。

- ① 講義（特講）2単位以上（指導教員の特講及び他の教員の特講又は他の領域の特講）
- ② 演習（特講演習）4単位以上
- ③ 特別研究4単位以上
- ④ 履修しようとする授業科目については、「授業科目履修届」の提出が必要となる。
- ⑤ 授業科目履修届は、次の期日までに学務課大学院係に提出すること。

ア 前期履修科目 4月第4金曜日まで

イ 後期履修科目 10月第2金曜日まで

(5) 学位論文・最終試験

学位論文の作成に関しては、別冊「論文作成の手引き」に詳細が記載されています。

① 研究計画書

提出期日：別冊「論文作成の手引き」参照

② 学位論文

提出期日：別冊「論文作成の手引き」参照

③ 論文審査・最終試験

学位論文提出後、論文審査を行う。

(審査委員決定後4週間以内)

論文審査時に、その論文を中心とする口答又は筆答による最終試験を行う。

論文審査及び最終試験に合格した者は、教育課程を修了する。

(6) 学位の授与

① 看護学専攻

教育課程の修了が認められた者に、博士(看護学)の学位が授与される。

② 理学療法学及び作業療法学専攻

教育課程の修了が認められた者に、博士(理学療法学)又は博士(作業療法学)の学位が授与される。

(7) 留学の取扱い

① 国内留学

ア 本学大学院保健医療学研究科と同等以上と認められる国内の大学・研究機関において、学生が課程履修上必要な研究に従事する場合、当該研究期間は本学の在学期間として取り扱うものとする。ただし、留学期間は、原則として1年以内とする。

イ 国内留学をしようとする学生は、主任指導教員を経て国内留学願を学長に提出する。

ウ 国内留学は、保健医療学研究科委員会の議を経て学長が許可する。必要がある場合は、主任指導教員に保健医療学研究科委員会において所用事項の説明を求める。

エ 国内留学を修了した学生は、帰学後速やかに国内留学修了届に留学中に得た成果についての報告書(4,000字以内)を添付し、主任指導教員及び保健医療学研究科長を経て学長に提出する。

② 外国留学

ア 本学大学院保健医療学研究科と同等以上と認められる外国の適当な大学・研究機関において、自らの研究テーマに関連する純粋な研究(単なる修練、視察等を除く。)に従事する場合、当該研究期間は本学の在学期間として取り扱うものとする。ただし、留学期間は、原則として1年以内とする。

イ 外国留学をしようとする学生は、主任指導教員を経て外国留学願を学長に提出する。

ウ 外国留学は、保健医療学研究科委員会の議(主任指導教員は必要な事項について説明する。)を経て学長が許可する。

エ 外国留学を修了した学生は、帰国後速やかに外国留学修了届に留学中に得た成果についての報告書(4,000字以内)を添付し、主任指導教員及び保健医療学研究科長を経て学長に提出する。

2 授業科目及び履修基準

(1) 看護学専攻

○専門科目

授業科目	開講時期	単位数
基礎看護科学特講	1 学年前期	2 単位
基礎看護科学特講演習	1 学年後期	4 単位
感染看護学特講	1 学年前期	2 単位
感染看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
女性健康看護学特講	1 学年前期	2 単位
女性健康看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
小児健康看護学特講	1 学年前期	2 単位
小児健康看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
成人健康看護学特講	1 学年前期	2 単位
成人健康看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
老年健康看護学特講	1 学年前期	2 単位
老年健康看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
精神看護学特講	1 学年前期	2 単位
精神看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
地域看護学特講	1 学年前期	2 単位
地域看護学特講演習	1 学年後期	4 単位
臨床内科学特講	1 学年前期	2 単位
臨床内科学特講演習	1 学年後期	4 単位

(2) 理学療法学・作業療法学専攻

○専門科目

授業科目	開講時期	単位数
神経・発達障害理学療法学特講	1 学年前期	2 単位
神経・発達障害理学療法学特講演習	1 学年後期	4 単位
感覚統合障害学特講	1 学年前期	2 単位
感覚統合障害学特講演習	1 学年後期	4 単位
生体工学・スポーツ整形外科学特講	1 学年前期	2 単位
生体工学・スポーツ整形外科学特講演習	1 学年後期	4 単位
中枢神経機能障害学特講	1 学年前期	2 単位
中枢神経機能障害学特講演習	1 学年後期	4 単位
スポーツ理学療法学特講	1 学年前期	2 単位
スポーツ理学療法学特講演習	1 学年後期	4 単位
活動能力障害学特講	1 学年前期	2 単位
活動能力障害学特講演習	1 学年後期	4 単位
臨床精神・脳機能学特講	1 学年前期	2 単位
臨床精神・脳機能学特講演習	1 学年後期	4 単位
精神障害リハビリテーション学特講	1 学年前期	2 単位
精神障害リハビリテーション学特講演習	1 学年後期	4 単位
神経・認知機能治療学特講	1 学年前期	2 単位
神経・認知機能治療学特講演習	1 学年後期	4 単位
筋機能制御学特講	1 学年前期	2 単位
筋機能制御学特講演習	1 学年後期	4 単位

授業科目	開講時期	単位数
臨床外科学特講	1 学年前期	2 単位
臨床外科学特講演習	1 学年後期	4 単位
看護学特別研究	通年	4 単位

○自由選択科目

保健医療教育学特論	全学年前期	2 単位
-----------	-------	------

○履修基準

区分	授業科目	単位
必修	看護学特別研究	4 単位
選択	主要専攻領域の科目	6 単位
合計		10 単位以上

看護学特別研究では、指導教員の研究指導を受け、研究課題を設定し、博士論文を作成するための研究を推進する。

授業科目	開講時期	単位数
生体機能評価学特講	1 学年前期	2 単位
生体機能評価学特講演習	1 学年後期	4 単位
形態人類学特講	1 学年前期	2 単位
形態人類学特講演習	1 学年後期	4 単位
理学療法学・作業療法学特別研究	通年	4 単位

○自由選択科目

リハビリテーション教育学特論	全学年後期	2 単位
保健医療教育学特論	全学年前期	2 単位

○履修基準

区分	授業科目	単位
必修	理学療法学・作業療法学特別研究	4 単位
選択	主要専攻領域の科目	6 単位
合計		10 単位以上

理学療法学・作業療法学特別研究では、専門領域科目の中から研究課題を選択し、指導教員の研究指導のもとに、博士論文を作成するための研究を推進する。

V シラバス

(博士課程前期)

看 護 学 専 攻

授業科目	看護理論特論 Advanced Nursing Theory	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：必修 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	長谷川 真澄 (保健医療学研究棟 E305) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	看護理論の概念、理論開発の過程、看護理論の歴史的変遷について学習し、看護実践における看護理論の位置づけを理解する。また、自己の看護観、人間観、健康観を再考し、看護を実践的、科学的視点から探求する意味を考察する。		
到達目標	1. 看護知識の構成要素、看護理論の概念とその役割について説明できる。 2. 看護理論開発の歴史的発展の概要を説明できる。 3. 理論構築の基礎となる概念分析の目的と方法を説明できる。 4. 看護学の知のパターンの概略と看護実践との関係性を説明できる。 5. 看護理論の分析、クリティークをとおして、看護実践への適用について考察できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：発表内容、質疑に対する応答状況
	ディスカッション	30%	ディスカッション：討論の運営と参加状況
	提出物	40%	提出物：担当課題の提示資料の内容、提出状況
教科書	指定なし		
参考書	①筒井真優美編 [2020] 「看護理論家の業績と理論評価. 第2版」 医学書院 ②Meleis, AI (中木高夫他訳) [2021] 「セオレティカル・ナーシング原著第6版 看護理論の開発と進歩」 看護の科学社 ③Chinn, PL & Kramer, MK (川原由佳里監訳) [2007] 「チン&クレイマー看護学の総合的な知の構築に向けて」 エルゼビア・ジャパン ④Chinn, PL & Kramer, MK [2022] 「Knowledge development in nursing: theory and process, 11th ed.」 ELSEVIER ⑤川原由佳里 [2013] 「看護の知 実践を読み解くための新しい考え方」 看護の科学社 ⑥Rogers, B. & Knaffl, K. (近藤麻理・片田範子監訳) [2023] 「看護における概念開発 基礎・方法・応用」 医学書院 ⑦Fawcett, J. (太田喜久子・筒井真優美監訳) [2008] 「フォーセット看護理論の分析と評価. 新訂版」 医学書院 ⑧Walker, LO & Avant, C. (中木高夫・川崎修一訳) [2008] 「看護における理論構築の方法」 医学書院 ⑨野川道子編著 [2016] 「看護実践に活かす中範囲理論. 第2版」 メヂカルフレンド		
履修上の留意点	下記スケジュールは受講者数、ゼミの進捗状況等により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 看護学における知識開発のプロセス	事前：参考書①第1章、参考書②第4章を読む 事後：授業内容の復習	講義・討論	長谷川
2	看護理論の定義、構成要素	事前：参考書①第2章を読む 事後：授業内容の復習	発表・討論	〃
3	理論構築の基礎—概念分析	事前：参考書②第14章を読む 事後：授業内容の復習	講義・討論	〃
4	看護理論の歴史的発展の概要	事前：参考書②第5章を読む 事後：授業内容の復習	発表・討論	〃
5	概念分析を用いた文献のクリティーク①	事前：発表資料準備	〃	〃

6	概念分析を用いた文献のクリティーク②	事前：発表資料準備	〃	〃
7	看護理論の分析と批判的評価の枠組み	事前：参考書①第3章を読む 事後：授業内容の復習	講義・討論	〃
8	看護学の知のパターン①経験知、個人知、審美知	事前：参考書③第1・8・9章、参考書⑤第3章を読む 事後：授業内容の復習	発表・討論	〃
9	看護学の知のパターン②倫理知、解放知	事前：参考書③第7章、参考書④Chapter 3を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
10	知のパターンに基づく実践事例の分析①	事前：実践事例の準備	討論・発表	〃
11	知のパターンに基づく実践事例の分析②	事後：授業内容の復習	〃	〃
12	理論評価と臨床への適用①	事前：配付資料を読む、発表者は資料準備	発表・討論	〃
13	理論評価と臨床への適用②	事前：配付資料を読む、発表者は資料準備	〃	〃
14	理論評価と臨床への適用③	事前：配付資料を読む、発表者は資料準備	〃	〃
15	理論評価と臨床への適用④	事前：配付資料を読む、発表者は資料準備	〃	〃

授業科目	看護学研究法特論 Advanced Nursing Research Methodology	1 学年・通年・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：必修 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	浅利 剛史、澤田 いずみ、長谷川 真澄、堀口 雅美、山本 武志、他		
概要	看護における研究の意義を明確にし、研究方法の種類と概要、研究のプロセスを理解する。看護実践における様々な現象に対し、専門知識や技術の開発・向上の観点から研究的に取り組み、看護研究に必要な理論的思考ならびに研究課題に取り組むための基本的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の意義および研究に必要な概念を説明できる。 2. 看護における研究の種類とその概要を述べるができる。 3. 研究論文をクリティークする目的および方法を説明できる。 4. 量的研究および質的研究それぞれの方法の特徴を説明できる。 5. 研究計画書作成のプロセスを説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	提出物 : 事前課題の提出状況および発表内容
	学習態度	50%	学習態度 : 事前課題の取り組み状況 討論の参加状況
教科書	①北素子他 [2012] 「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」 医学書院		
参考書	①D. F. ポーリット&C. T. ベック著近藤潤子監訳 [2010] 「看護研究 原理と方法(第2版)」 医学書院 ②バーンス&グローブ [2015] 「看護研究入門(第7版)」 エルセビアジャパン ③アメリカ心理学会 前田樹海他翻訳 [2011] 「APA 論文作成マニュアル 第2版」 医学書院		
履修上の留意点	クリティークする文献は、特別な指示がない場合は、英文もしくは日本語の看護領域の原著論文とし、指定がなければ各自の関心に応じて選択してよい。 事前に各担当教員と連絡を取り、授業準備について確認すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス ・看護研究の目的・意義 ・看護研究のパラダイム ・研究活動の共有	事前：過去に取り組んだ研究活動を振り返る 事後：授業内容の復習	講義	正岡
2	研究プロセスの概観 ・看護実践と研究疑問の絞り込み ・看護研究のデザイン	事前：自己の研究疑問の検討 事後：授業内容の復習	〃	〃
3	文献検索の方法 ・国内外の検索ドライブの活用の仕方: 医学中央雑誌、PubMed、CINAL ・文献絞り込みのプロセス ・文献検討の目的と範囲、文献検討の方法	事前：自己の研究テーマに関する検索語の検討 事後：授業内容の復習	講義 演習	浅利
4	看護研究のためのデザイン 1 ・量的研究の概要と方法論 ①	事前：量的研究の目的と意義の予習 事後：授業内容の復習	講義	山本
5	看護研究のためのデザイン 2 ・看護学における実験研究・介入研究・観察研究	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	堀口

6	看護研究のためのデザイン 3 ・量的研究の概要と方法論 ②	事前：量的研究方法の予習 事後：授業内容の復習	〃	山本
7	看護研究のためのデザイン 4 ・質的研究の概要と方法論	事前：割り当てられた質的研究方法を調べて発表資料を作成する。 事後：授業内容の復習	講義 発表/討論	浅利
8	看護研究のためのデザイン 5 ・質的研究の評価のためのサブストラクション	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	講義	澤田
9	看護研究のためのデザイン 6 ・仮説検証型研究のサブストラクションとアウトカムモデル	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	長谷川
10	文献クリティーク演習 1 ・質的研究手法を用いた文献クリティークの実践① 質的記述的研究、エスノグラフィー	事前：クリティークする文献を選択する 事後：授業内容の復習	講義 発表/討論	澤田
11	文献クリティーク演習 2 ・質的研究手法を用いた文献クリティークの実践② グランデッドセオリー、現象学	事前：クリティークする文献を選択する 事後：文献クリティークの復習	〃	〃
12	文献クリティーク演習 3 ・サブストラクションとアウトカムモデルを用いた仮説検証型研究のクリティークの実践 ①	事前：クリティークの発表準備 事後：文献クリティークの復習	発表 討論	長谷川
13	文献クリティーク演習 4 ・サブストラクションとアウトカムモデルを用いた仮説検証型研究の文献クリティークの実践 ②	事前：クリティークの発表準備 事後：文献クリティークの復習	〃	〃
14	研究論文の種類と構造 APA に即した論文作成のルール	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	未定
15	看護研究計画書作成のプロセス ・計画書に含まれる構成要素 ・研究論文作成のガイドライン	事前：研究計画書についての事前学習 事後：授業内容の復習	講義	正岡

授業科目	看護教育学特論 Advanced Nursing Education	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	堀口 雅美 (保健医療学研究棟 E309) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 円		
概要	我が国における看護教育学の意義と歴史の変遷の概要、教育課程の特徴、看護基礎教育の内容と方法、教育評価について学ぶ。また、看護ケアの質を高めるために必要な看護職者への教育的働きかけや教育環境作り等、看護継続教育の理論と実際に関する知識と技術を理解し、看護教育学における課題を考察する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育学の意義と歴史の変遷の概要について説明できる。 2. 看護基礎教育の組織運営の概要について説明できる。 3. 教育課程の定義と構造の特徴について説明できる。 4. 看護基礎教育の内容と方法について説明できる。 5. 看護基礎教育における教育評価について説明できる。 6. 看護継続教育の理論と実際に関する知識と技術を説明できる。 7. 看護教育学における課題について説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	発表の状況	40%	
	討議への参加	40%	
	レポート	20%	
発表の状況：与えられたテーマについて複数の文献から情報を収集・分析し、その内容を資料にまとめる。まとめた内容とそれに対する自らの意見を発表し、質問への対応状況を含む。			
教科書	①杉森みどり、舟島なをみ [2021] 「看護教育学(第7版)」 医学書院 ②グレッグ美鈴、池西悦子 [2018] 「看護教育学(改訂第2版)」 南江堂		
参考書	①Billings DM, Halstead JA [2023] 「Teaching in Nursing : A Guide for Faculty, 7th ed」 Elsevier		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をする。 ・必要に応じて、科目担当責任者および担当教員と連絡をとる。 ・学習の進度予定等の詳細は開講時に配付する学習要項を参照する。 ・学習の進捗状況により、学習進度および内容等を変更する場合がある。 ・参考書は上記の他、適宜、紹介する。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	看護教育学特論の進め方 1. 看護教育学の意義と歴史の変遷 1) 看護教育学の意義と目的 2) 看護教育制度の歴史の変遷とその特徴-1	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	講義・討議	堀口・ 中村
2	3) 看護教育制度の歴史の変遷とその特徴-2	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
3	4) 医療専門職者の教育制度	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	発表・討議	〃
4	5) 准看護師制度の問題	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
5	6) アメリカとイギリスの看護教育制度	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
6	2. 看護基礎教育の組織運営 1) 大学設置基準 2) 指定規則	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	講義・討議	〃

	3) 組織の形成と維持			
7	3. 教育課程の定義と構造 1) 3つのポリシー 入学受入方針、教育課程編成方針、学位授与方針 2) アセスメント・ポリシー／アセスメント・リスト 3) 教育課程の定義と構成 4) 教育目的と目標	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
8	4. 看護基礎教育の内容と方法 1) 看護基礎教育の内容とその構築 カリキュラム編成、モデル・コア・カリキュラム 2) 看護基礎教育における学習理論 行動主義・認知主義・状況的学習論 学習意欲、動機づけ	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
9	3) 看護基礎教育における学習方法 能動的学習、問題基盤型学習、学習成果基盤型学習 4) 看護基礎教育の講義、演習、実習の特徴	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
10	5. 看護基礎教育における教育評価 1) 授業科目の評価 2) カリキュラム評価 3) 自己点検および自己評価	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
11	6. 看護継続教育の理論と実際 1) 看護継続教育の3領域 看護職者が所属する施設の教育 看護継続教育機関の教育 看護職者個々の自己学習とその支援	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
12	2) 看護継続教育の理論 アンドラゴジー、変容的学習理論、経験学習理論	事前：教科書と配付資料を読む 事後：授業中の論点を整理する	発表・討議	〃
13	3) 看護継続教育の技術とその実際-1 院内教育の模擬研修に関するプログラムの立案	事前：これまでの学習内容を踏まえ 模擬研修のプログラムを立案する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
14	4) 看護継続教育の技術とその実際-2 院内教育の模擬研修の実施とその評価	事前：模擬研修に必要な資料を作成する 事後：模擬研修の評価を整理する	〃	〃
15	7. 看護教育学における課題 1) 看護基礎教育における現状の課題と対応 2) 看護継続教育における現状の課題と対応	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃

授業科目	看護管理特論 Advanced Nursing Administration	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(小野寺 美希子)、(村田 香織)、(大島 寿美子)、(乙政 佐吉)、未定		
概要	質の高い看護サービスを提供するための看護管理の基本的な考え方と方略について理解を深める		
到達目標	1. 看護サービス管理を行う上で基本となる考え方について説明することができる 2. 病院における安全管理の考え方と方法について検討できる 3. 看護職を育成するためのキャリア開発・スタッフ教育の方法について検討できる 4. 経営手法の看護管理への適用、応用について述べるができる		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ディスカッション	30%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	レポート	40%	レポート：提出状況および記載内容
教科書	指定なし		
参考書	①勝原裕美子 [2007] 「看護師のキャリア輪」 ライフサポート社 ②田村由美 [2012] 「新しいチーム医療」 看護の科学社		
履修上の留意点	適宜、担当教員と連絡をとること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 看護管理に関する知識の確認	事前：看護管理に関するレポート 事後：ガイダンス内容の復習	講義	今野
2	1. 看護サービス管理を行う上で必要となる考え方 (1)看護管理の概念 (2)看護管理に関する法律と社会背景	事前：看護管理に関するキーワード整理 事後：講義内容の復習	〃	(小野寺)
3	1. 看護サービス管理を行う上で必要となる考え方 (3)マネジメントシステムと看護の変革	事前：看護管理に関するキーワード整理 事後：講義内容の復習	〃	〃
4	2. 病院における安全管理の考え方と方法 (1)医療安全の背景	事前：医療安全に関するキーワード整理 事後：講義内容の復習	〃	〃
5	2. 病院における安全管理の考え方と方法 (2)医療安全とコミュニケーション	事前：医療安全に関するキーワード整理 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	3. 看護と政策 (1)保健医療福祉政策と最近の動向 ～地域に焦点を当てて～	事前：看護に関連する政策の検討 事後：講義内容の復習	〃	未定
7	3. 看護と政策 (2)看護と専門機関・日本看護協会 他	事前：指定された課題について事前レポートをまとめる 事後：講義内容の復習	〃	(村田)
8	4. 看護と組織 (1)リーダーシップ論	事前：リーダーシップに関するキーワード整理	〃	(大島)

		事後：講義内容の復習		
9	5. 看護管理のスキル (1) 組織分析の目的と方法	事前：指定された課題について事前レポートをまとめる 事後：講義内容の復習	〃	(小野寺)
10	5. 看護管理のスキル (2) 組織分析の実際	事前：指定された課題について事前レポートをまとめる 事後：講義内容の復習	〃	〃
11	6. 看護と経営 経営手法の看護管理への適応・応用 (1) 管理会計の基礎	事前：テーマに沿った文献準備 事後：講義内容の復習	〃	(乙政)
12	6. 看護と経営 経営手法の看護管理への適応・応用 (2) バランス・スコアカード	事前：テーマに沿った文献準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
13	7. 看護管理に関する文献検討	事前：テーマに沿った文献準備 事後：講義内容の復習	講義 演習	今野
14	8. 看護の質を改善するための計画立案	事前：テーマに沿った事例準備 事後：レポート提出	〃	〃
15	9. まとめ	事前：これまでの講義内容の復習 指定された文献を読み事前レポートをまとめる 事後：科目における学習の整理	〃	〃

授業科目	看護倫理特論 Advanced Nursing Ethics	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	秋原 志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(旗手 俊彦)、(船木 祝)		
概要	倫理的な看護実践のための理論や概念、倫理的課題を解決するための方法論など、倫理に関する基盤的な知識を学び、看護実践の倫理とは何かを考察する。		
到達目標	1. 倫理学の概念と基礎理論、倫理に関わるトピックについて説明できる。 2. 生命倫理・医療倫理に係わる諸概念と基礎理論、倫理的な課題を説明できる。 3. 研究倫理に関する基礎知識、倫理審査の過程を説明できる。 4. 看護実践と倫理の関係性について説明できる。 5. 倫理的な看護実践を実現するための課題について討議を通して考察したことを説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	参加状況	40%	参加状況：プレゼンテーションの提示内容、質疑応答、討論姿勢 提出物：レジュメ、レポート
	提出物	60%	
教科書	①船木祝 [2020] 「響き合う哲学と医療」 中西出版		
参考書	①サラ・T・フライ他(片田範子他訳) [2010] 「看護実践の倫理(第3版)」 日本看護協会出版会 ②D・ドゥーリー他(坂川雅子訳) [2016] 「看護倫理1・2・3」 みすず書房 ③服部健二他編著 [2018] 「医療倫理学のABC(第4版)」 メヂカルフレンド社 ④小西恵美子編 [2021] 「看護倫理(改訂第3版)」 南江堂 ⑤アン・J・デービス他(小西恵美子監訳) [2008] 「看護倫理を教える・学ぶ」 日本看護協会出版会 ⑥ダニエル・F・チャンブリス(浅野祐子訳) [2002] 「ケアの向こう側」 日本看護協会出版会 ⑦宮坂道夫 [2005] 「医療倫理学の方法」 医学書院 ⑧トム・L・ビーチャム他(永安幸正他監訳) [1997] 「生命医学倫理」 成文堂 ⑨平山正実、朝倉輝一編著 [2004] 「ケアの生命倫理」 日本評論社		
履修上の留意点	履修者の興味関心、最新の情報、授業進行状況により学習内容を変更する場合がある。 主体的に参加することが必要である。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 看護と倫理	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	講義	秋原
2	討議における倫理的基盤	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	講義・討議	(船木)
3	医療安全と倫理	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	〃	〃
4	弱さとともに生きるための倫理	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	〃	〃
5	グリーフケアと哲学	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	〃	〃

6	遺伝子工学技術と共同体	事前：配付資料を読む 事後：課題への取り組み	〃	〃
7	医療倫理：世界医師会、米国医師会での医師の職業倫理規定	事前：事前に配布された資料熟読 事後：授業で示された追加資料復習	〃	(旗手)
8	臨床倫理：倫理的意思決定のプロセス、臨床倫理に関する4分割表、臨床倫理の具体例	事前：事前に配布された資料熟読 事後：授業で示された追加資料復習	〃	〃
9	研究倫理：研究倫理の基礎、研究倫理に関する各種法令・指針、研究における公正確保の諸方法	事前：事前に配布された資料熟読 事後：授業で示された追加資料復習	〃	〃
10	看護専門職と倫理・倫理綱領：専門職、ICN 看護師の倫理綱領、JNA 看護者の倫理綱領、など	事前：、配付資料を読む 事後：提示された学習課題への取り組み	発表・討議	秋原
11	看護倫理を考えるための重要概念1：ケアリング、アドボカシー、パターンリズム、他	事前：、発表準備(資料作成) 事後：提示された学習課題への取り組み	〃	〃
12	看護倫理を考えるための重要概念2：ケアリング、アドボカシー、パターンリズム、他	事前：、発表準備(資料作成) 事後：提示された学習課題への取り組み	〃	〃
13	看護倫理を深めるための文献講読	事前：、発表準備(資料作成) 事後：提示された学習課題への取り組み	〃	〃
14	看護倫理を深めるための文献講読	事前：、発表準備(資料作成) 事後：提示された学習課題への取り組み	〃	〃
15	看護倫理を深めるための文献講読	事前：、発表準備(資料作成) 事後：提示された学習課題への取り組み	〃	〃

授業科目	コンサルテーション論 Consulting Skills and Consulting Mind	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(煤賀 隆宏)、(村中 沙織)、(三上 孝洋)		
概要	看護におけるコンサルテーションの定義、特徴、過程を理解し、看護職を含むケア提供者及びクライアント自身の問題解決の支援に必要な知識を学ぶ。また、組織活動の中で生じる問題事例を、関連理論を活用して精査することにより実践的知識・技術を習得する。		
到達目標	1. コンサルテーションの定義と枠組みについて論述できる。 2. コンサルタントの役割について説明ができる。 3. コンサルテーションのプロセスについて論述できる。 4. コンサルテーションにおける援助関係を促進するコミュニケーション技法について論述できる。 5. 倫理的意思決定に関わるコンサルテーションの実際と運用方法を説明できる。 6. 高度実践看護によるコンサルテーションモデルを説明できる。 7. 各領域のコンサルテーション事案についてコンサルテーションの実際と特徴を説明できる。 8. 自己の領域においてコンサルテーションの計画・実施・評価できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業への参画度	80%	授業への参画度：事前の準備をして関心を持ち参加できているか 演習的課題：進んで役割を演じるなど積極的に取り組んでいるか プレゼンテーション：自分の主張をわかりやすく他者に伝えられるか
	演習的課題	10%	
	プレゼンテーション	10%	
教科書	①川野 雅資 (著) [2017] 「コンサルテーションを学ぶ」 クオリティケア ②Ann B. Hamic ら (著) 中村美鈴、江川幸二 (監訳) [2020] 「高度実践看護統合的アプローチ (第2 版)」 ヘルス出版		
参考書	①H・シャイン (著)、稲葉 元吉、尾川 丈一 (翻訳) [2012] 「プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くことー」 白桃書房 ②堂園 俊彦 (編集)、竹下 啓、神谷 恵子、長尾 式子、三浦 靖彦ら (著) [2019] 「倫理コンサルテーション ハンドブック」 医歯薬出版株式会社 ③江川 幸二、山勢 博彰 (編さん) [2013] 「看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイドー基礎からわかる臨床に活かす倫理調整」 三輪書店 ④鶴若 麻理、長瀬 雅子 (編集) [2018] 「看護師の倫理調整力ー専門看護師の実践に学ぶ」 日本看護協会出版		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。演習課題は都度提示する。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 専門看護師とコンサルテーション コンサルテーションの定義と枠組み	事前：自己のスケジュールの確認 事後：スケジュールの調整	講義	澤田
2	コンサルテーションの4つモデル コンサルタントの役割	事前：教科書の講読とレジュメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
3	コンサルテーションのプロセス	事前：教科書の講読とレジュメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
4	コンサルテーションの特徴と将来性	事前：教科書の講読とレジュメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃

5	高度実践看護におけるコンサルテーション1 高度実践看護師のコンピテンシー	事前：教科書の講読とレジユメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
6	高度実践看護におけるコンサルテーション2 ガイダンスとコーチング	事前：教科書の講読とレジユメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
7	高度実践看護におけるコンサルテーション3 高度実践看護師のコンサルテーションモデル	事前：教科書の講読とレジユメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
8	高度実践看護におけるコンサルテーション4 倫理的意思決定	事前：教科書の講読とレジユメの作成 事後：教科書該当部分の再読	〃	〃
9-10	コンサルテーションの実際 (精神科リエゾンにおけるコンサルテーション)	事前：精神科リエゾンについて事前学習 事後：配布資料の再読	〃	(煤賀)
11-12	コンサルテーションの実際 (クリティカルケアにおけるコンサルテーション)	事前：指定図書を講読 事後：配布資料の再読	〃	(村中)
13	コンサルテーションの実際 (小児看護領域におけるコンサルテーション)	事前：指定図書を講読 事後：配布資料の再読	〃	(三上)
14	コンサルテーションの実際 (自己のコンサルテーション事案について問題の導出過程)	事前：事案の準備 事後：資料の再読	演習	澤田
15	コンサルテーションの実際 (自己のコンサルテーション事案について実践と評価)	事前：実践報告書の作成 事後：報告の評価	〃	〃

授業科目	フィジカルアセスメント Physical Examination and Assessment	1 学年・通年・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	今野 美紀、水口 徹、齊藤 正樹、丹野 雅也、浅利 剛史、田口 裕紀子、久野 芳佳、佐藤 直、(塚本 容子)、(村中 沙織)		
概要	複雑な健康問題をもつ対象者の身体状況の査定を系統的に行う上で必要となる知識、技術、倫理的態度を学ぶ。		
到達目標	1. 専門看護師として知識、技術、倫理的態度を統合して身体査定を行うことができる。 2. 身体査定の結果、正常か異常かの評価ができる。 3. 対象の特性に応じた病歴の聴取が行える。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	提出物	20%	
	学習態度	10%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	① Lynn S. Bickley 他 [2022] 「ベイツ診察法第3版」 メディカルサイエンスインターナショナル ② 日野原重明他 [2006] 「フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術第4版」 医学書院 ③ 守田美奈子 [2020] 「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス」 インターメディカル ④ 山内豊明 [2011] 「フィジカルアセスメント ガイドブック—目と手と耳でここまでわかる第2版」 医学書院		
履修上の留意点	下記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 事前に担当教員と密に連絡をとる(非常勤講師を除く)。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション；コース概要 面接の仕方；医療者の態度、医療面接の仕方、病歴のとり方 (現病、既往、家族歴など)	事前：シラバス、配付資料を読む 事後：授業の振り返り、小括	講義・ 討論	(塚本)・ 澄川
2	面接の仕方；医療者の態度、医療面接の仕方、病歴のとり方 (現病、既往、家族歴など)	事前：シラバス、配付資料を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	〃
3	全身のみかたと診断技術；視診、触診、打診、聴診の原則と 方法、実施時のコツ、バイタルサインのみかた	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	水口
4	循環器系のみかた；循環器系の病歴聴取、主な症状の捉え 方、他覚症状の捉え方(視診、触診、聴診、打診)	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	丹野
5	呼吸器系のみかた(口腔、咽頭を含む)；呼吸器系の病歴聴取、 主な症状の捉え方、他覚症状の捉え方(視診、触診、聴診、打 診)	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	〃
6	消化器系・泌尿器系のみかた；腹部の病歴聴取、主な症状の 捉え方、他覚症状の捉え方(視診、触診、聴診、打診)	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	講義・ 演習	水口
7	神経系・筋肉・骨格のみかた；神経・筋・骨格系の系統的な アセスメント、意識状態、高次脳機能、脳神経、眼、耳、頸 部、四肢運動、平行機能、反射、感覚、自律神経のみかた	事前：神経系、感覚運動器の解剖、 生理について復習 事後：授業の振り返り、小括	〃	齊藤
8	生殖器系のみかた；乳房の触診、視診、外陰部の視診、触診、 主な症状の捉え方、その他(内診、直腸診、各種検査など)	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	久野

9	高齢者、緊急時、小児のみかた；対象特性に応じた病歴聴取、身体のみかた、機能評価(スクリーニング)など	事前：学習内容の関連図書を読む 事後：授業の振り返り、小括	〃	(村中)・田口・浅利
10	症例対応におけるフィジカルアセスメント；フィジカルアセスメントトレーニングモデルを使用した演習	事前：配布資料を読む 事後：授業の振り返り、小括	演習	澄川・佐藤
11	事例検討；個人学習 ・院生は事例が来院した部署の担当看護師と仮定し、事例を作成する ・院生は事例に対して、以下の視点で考えをまとめる。 1)当該事例におけるフィジカルアセスメントの目的 2)どのような手順・手法で事例の情報を得るか 3)上記2)で得られた情報をどのようにアセスメントするか 4)他に必要と思われる情報があれば、その情報と理由を挙げる 5)上記1)～4)を踏まえて、今後遂行するケアの優先順位を考える	事前：各自で事例を作成し、左記の個人学習を行う。 (第14・15回で発表する。) 事後：討論の振り返り	〃	〃
12	事例検討；個人学習 1)CNS もしくは看護師としての役割 2)アセスメントの視点 3)ケアの優先順位、CNS もしくは看護師としての役割	事前：資料準備 事後：レポート作成	〃	澄川
13	事例検討；個人学習	事前：資料準備 事後：レポート修正	〃	〃
14	事例検討報告会 事例検討結果の報告、教員からのフィードバック	事前：資料準備 事後：レポート修正	報告会	(塚本)・今野・澄川
15	事例検討報告会 事例検討結果の報告、教員からのフィードバック	事前：資料準備 事後：レポート修正、最終版提出	〃	〃

授業科目	病態生理学 Pathophysiology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、田口 裕紀子		
概要	<p>病態生理学的変化について看護に直結するメカニズムを理解し、指導者あるいは教育者として学生や院生に教授できる能力をアクティブ教育によって涵養する。国際化を視野に講義はオンラインを活用した英語で行います(字幕・訳あり)。講義を視聴し、ユニバーサルデザインを採用したプレゼンテーション資料(日本語可)を作成します。教えられる側から教える側へ教育者としての基礎的な資質を習得します。</p> <p>受講法：各実施回ごとに、予め視聴すべき電子講義をオンラインで視聴する。各電子講義には付随する課題が設定されており、パワポで受講日前日までに資料作成を行う。受講日に課題のプレゼンテーションを行い、担当教員と議論する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を提供する上で必要な人体機能とその仕組みについて説明することができる。 2. 人に伝わる看護のプレゼンテーション資料を作成することができる。 3. 病態生理を分かりやすく看護ケアの一環としてプレゼンテーションできる。 4. 看護に関連する病態生理の日本語と英語の専門用語を説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	50%	<p>評価対象の詳細</p> <p>提出物：プレゼンテーション資料についてユニバーサルデザインに適合しているか、スライド配置のバランスは良いか、スライド連携は良いか、スライド展開は帰納法あるいは演繹法を採用しているかを VAS 方式で評価する。</p> <p>プレゼンテーション：読み上げのリズムや展開はスムーズか、展開は前後しないか、結論の説得力はあるか、ノンバーバルコミュニケーションはとれているかを VAS 方式で評価する。</p>
	作成資料	50%	
教科書	①指定しない		
参考書	①オンラインで動画視聴可能		
履修上の留意点	講義前日までに課題について理解し、第三者に対してパワポを使用して説明(プレゼンテーション)出来るように毎回、準備を行うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	病態生理学のガイダンス、人体の正常な機能と疾病の成り立ち スライド作成の意義	事後：使用資料の確認	講義	水口
2	体温調整機能 (発熱、低体温、他)	事前：課題についての資料作成 事後：使用資料の確認	e-Learning 討議	〃
3	生体防御機能 (感染、他)	〃	〃	〃
4	体液調整機能 (浮腫、リンパ浮腫、他)	〃	〃	〃
5	造血機能 (貧血、出血傾向、他)	〃	〃	〃
6	循環機能 (ショック、不整脈、他)	〃	〃	〃
7	呼吸機能 (咳嗽、呼吸困難、他)	〃	〃	〃

8	消化・吸収機能（腹痛、便秘、他）	〃	〃	〃
9	排尿機能（乏尿、無尿、多尿、頻尿、他）	〃	〃	〃
10	内分泌・代謝機能（高血糖、黄疸、他）	〃	〃	〃
11	生殖機能（不正出血、更年期障害、他）	〃	〃	〃
12	神経・感覚機能（意識障害、せん妄、他）	〃	〃	〃
13	疼痛制御（頭痛、疼痛コントロール、他）	〃	〃	〃
14	エイジング（フレイル、サルコペニア）	〃	〃	〃
15	まとめ 臨床体験と病態生理の理解 看護ケアへの橋渡し	事前：資料作成	講義	田口

授業科目	臨床薬理学 Clinical Pharmacology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：必修

科目担当責任者	田畑 久江 (保健医療学研究棟 E211) e-mail : hisaet@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(長多 好恵)、丹野 雅也、水口 徹、石井 貴男、長谷川 真澄、澤田 いずみ、未定		
概要	薬理学の基礎的概念と総論を踏まえ、様々な疾患を持つ患者の特質とそれらの患者の緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤の特性を考慮した薬剤使用の判断、投与後の患者のモニタリングを学び、患者の回復力を促進する生活調整と服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学ぶ。		
到達目標	1. 薬理作用と薬物の動態、薬剤の安全で適正な使用について説明できる。 2. 薬剤使用の判断とモニタリングに必要な知識と技術を説明できる。 3. 薬剤を使用している患者の回復力を促進するために必要な生活調整や服薬管理能力を向上させる知識と技術について述べることができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	学習態度	40%	評価対象の詳細 学習態度：討論参加状況 レポート等の提出物：提出状況および記載内容
	レポート等の提出物	60%	
教科書	指定なし		
参考書	①中嶋敏勝 [2014] 「疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学 第3版」 医歯薬出版 ②医療情報科学研究所 [2021] 「薬がみえる Vol.1 第2版」 メディックメディア		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と連絡をとること。 図書や教材資料については、担当教員より講義の際に適宜指示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 薬理学の基礎的概念	事前：参考書等の一読 事後：配布資料の再読	講義	(長多)
2	薬理学総論Ⅰ (薬理作用と作用機序、薬物の生体内動態、薬物動態学的・薬力学的相互作用)	事前：薬理作用・薬物動態についての予習 事後：配布資料の再読	〃	〃
3	薬理学総論Ⅱ (薬物送達システム、医薬品の安定性、生体内活性物質と薬物)	事前：薬物に影響する生体の因子についての予習 事後：配布資料の再読	〃	〃
4	薬理学総論Ⅲ (薬と法律、処方、新薬の開発)	事前：医事・薬事法規についての予習 事後：配布資料の再読	〃	〃
5	薬剤の安全適正使用と問題点 (薬害、薬剤の添付文書活用法)	事前：薬剤添付文書のサンプリング 事後：配布資料の再読	〃	〃
6	循環器系に作用する薬物 (心不全・狭心症治療薬、降圧薬、抗不整脈薬、利尿薬)	事前：循環器・腎泌尿器の解剖生理 事後：配布資料の再読	〃	丹野
7	代謝系・内分泌系に作用する薬物 (糖尿病治療薬、高脂血症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬)	事前：代謝と内分泌に関する予習 事後：配布資料の再読	〃	〃
8	呼吸器系に作用する薬物 (気管支拡張・喘息治療薬、呼吸障害改善薬、鎮咳去痰薬)	事前：呼吸器の解剖生理 事後：配布資料の再読	〃	〃

9	消化器系に作用する薬物 (消化性潰瘍治療薬、腸疾患治療薬、肝胆膵治療薬、下剤)	事前：消化吸収メカニズムの確認 事後：配布資料の再読	〃	水口
10	臨床における薬物使用 (抗悪性腫瘍薬、抗菌薬、抗ウイルス薬)	事前：抗がん薬と抗生剤の基礎的学習 事後：配布資料の再読	〃	〃
11	中枢神経系に作用する薬物 (向精神薬の作用機序と臨床応用、精神科救急・急性増悪期の薬物療法と慢性期の薬物療法)	事前：中枢神経系と向精神薬についての予習 事後：配布資料の再読	〃	石井
12	クリティカルケアで薬物が使用される患者への看護 (緊急応急処置、症状調整、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、慢性疾患管理に必要な薬剤と生活調整)	事前：重症・急性期の患者ケアに関する学習 事後：配布資料の再読	〃	未定
13	小児期・老年期の薬物治療を受ける患者の看護 (緊急応急処置、症状調整、慢性期の疾患管理に必要な薬剤、発達的特徴と薬物、急性期・慢性期の薬剤の影響と臨床判断、薬剤投与後のモニタリング)	事前：小児期、老年期の発達的特徴についての予習 事後：配布資料の再読	〃	田畑 長谷川
14	精神科で薬剤治療を受ける患者の看護 (精神科における緊急応急処置、症状調整、慢性期疾患管理に必要な薬剤、薬剤使用の判断と投与後の患者モニタリング、患者の服薬管理能力の査定と管理能力向上のための援助)	事前：中枢神経系に作用する薬物で使 用した資料の再読 事後：配布資料の再読	〃	澤田
15	薬剤を使用する患者の回復力を促進する生活調整と服薬管理 (薬剤を使用している患者への看護実践を通じて経験した事例の提示。事例には患者特性、使用していた薬剤、薬剤使用の判断、服薬管理の実際、生活の中での調整の実際等を含め、患者の回復力を促す視点、安全・安楽を促す視点等から意見交換する)	事前：事例のまとめ、プレゼンテーションの準備 事後：これまでに使用した資料の整理	事例検討	(長多) 田畑

授業科目	基礎看護科学特論 Advanced Fundamental Nursing	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	堀口 雅美 (保健医療学研究棟 E309) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野 智子		
概要	基礎看護科学特論では、文献の要約と討議を通して看護実践における科学的根拠に対する理解を深めるとともに、看護実践にかかわる今日的な課題を明らかにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における科学的根拠の特徴について説明できる。 2. 科学的根拠となる研究プロセスの特徴について説明できる。 3. 看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用について説明できる。 4. 看護実践にかかわる今日的な課題を説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況 (20%) および提出内容 (30%) 発表：提示の内容、質疑応答の内容 討議への参加：参加状況と内容
	発表	20%	
	討議への参加	30%	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ① Debra, E [2022] 「Making Sense of Evidence-based Practice for Nursing : An Introduction to Quantitative and Qualitative Research and Systematic Reviews」 Routledge ②西垣昌和 [2023] 「看護と研究 根拠に基づいた実践(看護学テキスト NiCE)」 南江堂 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①植木慎悟他 [2020] 「JBI:推奨すべき看護実践：海外エビデンスを臨床で活用する」 日本看護協会出版会 ②D. F. ポーリット & C. T. ベック (近藤潤子監訳) [2010] 「看護研究：原理と方法 第2版」 医学書院 ③黒田裕子 [2023] 「黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版」 医学書院 ④福原俊一 [2017] 「臨床研究の道標:7つのステップで学ぶ研究デザイン(上・下巻)第2版」 健康医療評価研究機構 ⑤近江幸治 [2022] 「学术论文の作法—論文の構成・文章の書き方・研究倫理 第3版」 成文堂 ⑥American Psychological Association [2019] 「Publication Manual (OFFICIAL) 7th Edition of the American Psychological Association」 American Psychological Association ⑦アメリカ心理学会 (訳：前田樹海他) [2023] 「APA 論文作成マニュアル 第3版」 医学書院 ⑧小林啓 [2023] 「医療者のスライドデザイン：プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書」 医学書院 ⑨HP 参照 [最新版] 「Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals」 https://www.icmje.org/recommendations/ ⑩HP 参照 [最新版] 「医学雑誌掲載のための学術研究の実施、報告、編集、および出版に関する勧告」 https://honyakucenter.jp/assets/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf ⑪HP 参照 [最新版] 「日本医学会医学雑誌編集ガイドライン」 https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をする。 ・必要に応じて科目担当責任者と担当教員に連絡をとる。 ・学習の進捗状況により、学習進度および内容等を変更する場合がある。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス ・文献要約および資料作成の方法	事前：教科書等の閲読 事後：授業内容の復習	講義	堀口 宇野
2	看護実践における科学的根拠 ・科学的根拠およびレベル ・根拠に基づく医療 ・根拠に基づく看護	事前：配付資料の閲読 事後：授業内容の復習	講義 討議	〃
3	看護実践における科学的根拠 ・医療、看護と研究の歴史的変遷 ・科学的根拠への信頼	事前：配付資料の閲読 事後：授業内容の復習	〃	〃

4	科学的根拠となる研究プロセス ・研究デザイン ・研究方法の特徴	事前：配付資料の閲覧 事後：授業中の論点の整理	講義 発表 討議	堀口 宇野
5	科学的根拠となる研究プロセス ・クリニカルクエスション ・リサーチクエスション	事前：配付資料の閲覧 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
6	科学的根拠となる研究プロセス ・リサーチクエスションの構造化	事前：配付資料の閲覧 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
7	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションの構造化	事前：課題文献の要約 発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
8	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと文献概観の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	発表 討議	〃
9	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと研究デザインおよび研究仮説の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
10	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと研究対象者の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
11	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと測定指標の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
12	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと分析方法の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
13	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献に関する研究倫理の適切性	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
14	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと結果の突合(図表を含む)	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
15	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献のリサーチクエスションと考察および結論の突合	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
16	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献に関する研究の限界と今後の課題の適切性	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
17	科学的根拠となる研究プロセス ・課題文献に関する全体的な評価 ①論文題名と本文の論理的ー貫性 ②本文の論理的ー貫性 ③看護実践への適用	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
18	看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用 ・EBP の3つの要素 ・EBP の5つのステップ	事前：教科書の閲読 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
19	看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用 ・各自の研究課題に関する文献の要約と批判的読み	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
20	看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用 ・各自の研究課題に関する文献の要約と批判的読み	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
21	看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用 ・各自の研究課題に関する文献の要約と批判的読み	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
22	看護実践を支える科学的根拠の臨床への適用 ・各自の研究課題に関する文献の要約と批判的読み	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃
23	まとめ ・看護実践にかかわる今日的な課題	事前：発表資料の作成 事後：授業中の論点の整理	〃	〃

授業科目	基礎看護科学特論演習 Advanced Fundamental Nursing, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	堀口 雅美 (保健医療学研究棟 E309) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野 智子		
概要	基礎看護科学特論演習では看護事象に関する実証研究、および必要に応じて近接領域における文献講読を行い、自らの研究課題、研究目的と方法を明確にする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護事象に関する実証研究について、自らの関心のある文献を系統的に検索することができる。 2. 上記1. で検索した文献のうち、研究論文を要約することができる。 3. 上記2. の研究論文について批判的に読むことができる。 4. 文献講読を通じて、自らの研究課題、研究目的と方法について具体的に説明できる。 5. 研究計画書を作成できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	60%	評価対象の詳細 提出物：提出状況(20%)および提出内容(40%) 発表：提示の内容、質疑応答の内容 討議への参加：参加状況と内容
	発表	20%	
	討議への参加	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①Debra, E. [2022] 「Making Sense of Evidence-based Practice for Nursing : An Introduction to Quantitative and Qualitative Research and Systematic Reviews」 Routledge</p> <p>②植木慎悟他 [2020] 「JBI:推奨すべき看護実践:海外エビデンスを臨床で活用する」 日本看護協会出版会</p> <p>③福原俊一 [2017] 「臨床研究の道標:7つのステップで学ぶ研究デザイン(上・下巻)第2版」 健康医療評価研究機構</p> <p>④近江幸治 [2022] 「学術論文の作法—論文の構成・文章の書き方・研究倫理 第3版」 成文堂</p> <p>⑤American Psychological Association [2019] 「Publication Manual (OFFICIAL) 7th Edition of the American Psychological Association」 American Psychological Association</p> <p>⑥アメリカ心理学会(訳:前田樹海他) [2023] 「APA論文作成マニュアル」 医学書院</p> <p>⑦小林啓 [2023] 「医療者のスライドデザイン:プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書」 医学書院</p> <p>⑧HP 参照 [最新版] 「Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals」 https://www.icmje.org/</p> <p>⑨HP 参照 [最新版] 「医学雑誌掲載のための学術研究の実施, 報告, 編集, および出版に関する勧告」 https://honyakucenter.jp/assets/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf</p> <p>⑩HP 参照 [最新版] 「日本医学会医学雑誌編集ガイドライン」 https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf</p>		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をする。 ・必要に応じて科目担当責任者と担当教員に連絡をとる。 ・学習の進捗状況により、学習進度および内容等を変更する場合がある。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 研究論文の執筆に関する規定、マニュアル等 資料の作成方法	事前：参考書等を閲読する 事後：授業中の論点を整理する	講義	堀口 宇野
2-3	看護事象に関する文献検索と文献リスト	事前：文献検索の経過を記録し、文献 リストを作成する 事後：授業中の論点を整理し、研究計 画に反映させる	発表 討議	〃

4-6	看護事象に関する研究論文の要約	事前：研究論文を要約する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
7-10	看護事象に関する研究論文の批判的読み	事前：研究論文を批判的に読む 事後：授業中の論点を整理し、研究計画に反映させる	〃	〃
11-13	自らの研究課題に関わる文献検索と文献リスト	事前：文献検索の経過を記録し、文献リストを作成する 事後：授業中の論点を整理し、研究計画に反映させる	〃	〃
14-16	自らの研究課題に関わる研究論文の要約と批判的読み	事前：研究論文の要約と批判的読みを行う 事後：授業中の論点を整理し、研究計画に反映させる	〃	〃
17-30	自らの研究課題、研究目的と方法の具体化	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理し、研究計画に反映させる	〃	〃

授業科目	感染看護学特論 Advanced Infection Control Nursing	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	秋原 志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(三住 恵美)		
概要	感染看護学特論では、感染症のメカニズムや感染予防の基本的知識・概念を学修し、施設内や地域での感染症を制御する方法を探求する。また易感染症患者および感染症患者の特徴を理解したうえで、感染症看護を实践するうえでの課題を多角的に検討し、対処方法をディスカッションする。		
到達目標	1. 感染症のメカニズムと生体防御反応を説明できる。 2. 感染制御に必要な基本的知識について説明できる。 3. 感染・易感染患者の特徴を説明できる。 4. 施設・地域での感染制御方法を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：発表内容、質疑応答の内容
	提出物	50%	提出物：プレゼンテーション資料、レポート
	学習態度	20%	学習態度：出席状況、討議への参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①大曲貴夫 [2015] 「感染管理・感染症看護テキスト」 照林社 ②谷口清州 [2015] 「感染症疫学ハンドブック」 医学書院 ③岡秀昭 [2023] 「感染症プラチナマニュアル Ver. 8 2023-2024」 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
履修上の留意点	活発なディスカッションを通して、内容を深めます。事前の準備と積極的な姿勢を望みます。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 感染症と人類の歴史、わが国の感染症対策	事後：授業の振り返り	講義	秋原
2	感染症の発生動向と対策	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	講義、討議	〃
3-5	微生物と感染症	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
6	感染症発症のメカニズム	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
7	感染制御の基本的知識 組織での感染対策	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
8	感染制御の基本的知識 消毒と滅菌	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
9	感染制御の基本的知識 スタンダードプリコーション	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
10	感染制御の基本的知識 経路別感染対策	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
11	感染制御の基本的知識 ファシリティマネジメント	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃

12	感染制御の基本的知識 法律	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
13	感染制御の基本的知識 医療者の安全	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
14-15	感染制御の基本的知識 ワクチン	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
16	感染制御の方法 疫学・サーベイランス	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	(三住)
17-18	感染制御の方法 医療施設での感染対策の実際	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
19-20	易感染症患者の特徴	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	秋原
21	感染症患者の特徴	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
22	感染症にかかわる倫理	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
23	まとめ	事後：授業全体のまとめ	〃	〃

授業科目	感染看護学特論演習 Advanced Infection Control Nursing, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	秋原 志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(三上 孝洋)、(宮腰 郁子)		
概要	臨床や地域での感染症患者・易感染患者に対するエビデンスに基づいた支援方法を探求する。施設や地域における感染対策についての管理体制、感染防止技術、チームアプローチ、システム構築について学修する。		
到達目標	1. 国内外の文献を通読し、感染症対策の課題と解決方法を説明できる。 2. 感染症患者・易感染患者の支援方法について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：発表内容、質疑応答の内容
	提出物	50%	提出物：プレゼンテーション資料、レポート
	学習態度	20%	学習態度：出席状況、討議への参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①大曲貴夫 [2015] 「感染管理・感染症看護テキスト」 照林社 ②谷口清州 [2015] 「感染症疫学ハンドブック」 医学書院 ③岡 秀昭 [2023] 「感染症プラチナマニュアル Ver. 8 2023-2024」 メディカル・サイエンス・インターナショナル		
履修上の留意点	活発なディスカッションを通して、内容を深めます。事前の準備と積極的な姿勢を望みます。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	オリエンテーション 感染症の今日的課題	感染症のトピックを調べる	講義	秋原
3-4	感染症患者のケアと感染防御(結核)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	演習	〃
5-6	感染症患者のケアと感染防御(急性期)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
7-8	感染症患者のケアと感染防御(慢性期)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
9-10	感染症患者のケアと感染防御(母性)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
11-12	感染症患者のケアと感染防御(小児)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	(三上)
13-14	感染症患者のケアと感染防御(小児)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	秋原
15-16	感染症患者のケアと感染防御(在宅)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
17-18	感染症患者のケアと感染防御(HIV)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	(宮腰)
19-20	感染症患者のケアと感染防御(地域)	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	秋原
21-22	感染における組織マネジメント	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃

23-30	文献クリティーク	事前：課題の準備 事後：授業の振り返り	〃	〃
-------	----------	------------------------	---	---

授業科目	女性健康看護学特論 Advanced Women's Health Nursing	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	林 佳子、前田 尚美、植木 瞳、白井 紀子、中村 彩希子、(吉 裕子)、(佐藤 みはる)		
概要	女性のライフサイクルと各ステージにおける身体的、心理社会的側面の健康問題とその対策の現状について学修し、看護職の役割を考察する。さらに、看護職の立場から女性の健康に寄与するための研究の方向性を探究する。		
到達目標	1. 女性の健康に関連する要因とその機序について、理論を用いて説明できる。 2. 女性のライフサイクルの各ステージにおける健康課題とその背景、および看護職の役割について説明できる。 3. 国内外における女性の健康課題とその社会的背景について分析した結果を説明できる。 4. 女性の健康に関する保健医療・看護の現状を理解し、研究の方向性を明確にできる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	提出物：提出状況および記載内容 発表：発表の準備性、発表内容、質疑応答 討論：参加状況と発言内容
	発表	30%	
	討論	30%	
教科書	①近藤克則 [2018] 「研究の育て方」 医学書院		
参考書	①授業の中で適宜提示する。		
履修上の留意点	討論中心のゼミナール形式で授業を展開する。モチベーションを明確にし、討論に積極的に参加・発言することを意識し授業に臨むこと。授業スケジュールは、外部講師の都合および学習進捗状況によって変更する可能性がある。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	科目ガイダンス プレゼンテーション ・これまで取り組んできた研究 ・関心のある女性の健康問題や疑問 ・本分野での学習に期待すること	事前：プレゼンテーションの準備 事後：文献検索・課題に取り組む	プレゼン 質疑応答	正岡、林 前田、植木 白井、中村
2	母性看護および女性健康看護学における主要な理論・概念の理解と看護への適応① アタッチメント、ボンディング、母親役割理論、親子相互作用モデル等	事前：プレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	〃	正岡
3	母性看護および女性健康看護学における主要な理論・概念の理解と看護への適応② プレコンセプションケア、Women-centered care、Family-centered care、セクシュアリティ、ウェルネス等	事前：プレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	〃	〃
4	女性のライフサイクル各期の健康課題 －思春期の健康課題と健康教育の現状：文献概観	事前：プレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	〃	(吉) 中村
5	女性のライフサイクル各期の健康課題 －思春期の健康教育の実践から看護職の役割を検討する	事前：文献検討 事後：授業内容の復習	講義 討論	〃
6	周産期のハイリスク化と看護への影響	事前：学習主題についての文献検索、 プレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	プレゼン 討論	林
7	周産期医療体制の地域格差と助産師の役割	事前：学習主題についての文献検索、 プレゼンテーションの準備	〃	〃

		事後：授業内容の復習		
8	助産師教育の現状と課題① ・助産師の声明/コアコンピテンシー ・助産師教育のミニマム・リクワイアメンツ	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	講義 討論	正岡
9	助産師教育の現状と課題② ・望ましい助産師教育カリキュラム	事前：配布資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
10	周産期ケアにおける Evidence-based Medicine の検討① ・疑問の定式化と情報収集	事前：提示された課題に取り組む 事後：授業内容の復習	講義 討論	前田
11	周産期ケアにおける Evidence-based Medicine の検討② ・情報の批判的吟味	事前：課題についてのプレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	プレゼン 討論	〃
12	女性のライフサイクル各期の健康課題 —中高年女性の健康課題と健康教育の現状：文献概観	事前：学習主題についてのプレゼンテーションの準備 事後：講義の復習	プレゼン 討論	(佐藤) 正岡
13	女性のライフサイクル各期の健康課題 —中高年女性の健康教育の実践から看護職の役割を検討する	事前：文献検討 事後：授業内容の復習	講義 討論	〃
14	子育て支援に係る助産師に求められる役割① ・日本の子育て支援政策と母親のニーズ	事前：学習主題についてのプレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	講義 討論	植木
15	子育て支援に係る助産師に求められる役割② ・日本の現状から助産師の役割を検討する	事前：文献検討・プレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	プレゼン 討論	〃
16	周産期医療における危機管理① —感染症拡大および災害発生時における助産師の役割—	事前：学習主題についてのプレゼンテーションの準備 事後：授業内容の復習	プレゼン 討論	白井
17	周産期医療における危機管理② —COVID-19 を契機とした危機管理の探究—	事前：文献検討 事後：授業内容の復習	講義 討論	〃
18	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討① 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：教科書第5章～10章を読む 事後：授業の復習、文献検索	討論	正岡
19	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討② 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：教科書第12章～15章を読む 事後：授業内容の復習、文献検索	〃	〃
20	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討③ 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：教科書第16章～19章を読む 事後：授業内容の復習、文献検索	〃	〃
21	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討④ 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：研究テーマに関するプレゼン準備 事後：文献検索	〃	〃
22	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討⑤ 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：研究テーマに関するプレゼン準備 事後：文献検索	〃	〃
23	女性の健康課題に関連する研究の方向性を検討⑥ 研究の基本的知識を確認しながら研究の方向性を検討する	事前：研究テーマに関するプレゼン準備 事後：文献検索	〃	〃

授業科目	女性健康看護学特論演習 Advanced Women's Health Nursing, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	林 佳子、前田 尚美、植木 瞳、白井 紀子		
概要	女性の健康に関連する研究課題を選択し、国内外の関連文献の講読を通して研究枠組みについて検討する。リサーチクエスチョンを明確にし、研究計画書の作成に取り組む。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフステージと研究課題の位置づけを明確にする。 2. 研究課題に関する国内外の文献を通して、リサーチクエスチョンを明確にする。 3. 研究課題の理論枠組みと研究枠組みを説明できる。 4. 研究課題の意義を看護学の立場から説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 提出物：提出状況および記載内容の適切性、客観性 発表：発表の準備性、発表内容、質疑応答
	提出物	50%	
	プレゼンテーション	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①選択課題に関する国内外の関連ジャーナルなど。必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	文献検索を十分に行い、各文献の批判的講読ができるように準備すると共に、自己の論理的思考について客観視できることが要求される。 指導教員と十分に連絡を取りながら研究活動を進めること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 受講生の関心のある研究課題についての検討	事前：文献検索 プレゼン準備 事後：文献検索・検討	発表 討論	正岡、林 前田、植木 白井
2-8	女性のライフステージとその健康課題から関心あるトピック についての文献検索および文献クリティークを行う 文献検討を通してリサーチクエスチョンを絞り込む	事前：文献検討および資料作成 事後：文献検索・検討	〃	〃
9-23	選択した研究課題に関連する理論・研究論文の批判的検討を 行い、研究課題の意義や研究方法について検討する。	事前：文献検討および資料作成 事後：文献検索・検討	発表 個別指導	〃
24-30	研究課題と整合性のある研究計画の理論枠組み・研究枠組み を検討する。	事前：文献検討および 資料作成 事後：授業での討論を踏まえ修正	〃	〃

授業科目	小児健康看護学特論 1 Advanced Child Health Nursing 1	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学部研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	小児や家族をケアの対象として捉える上で必要となる基礎的知識をもつために、健康な小児の成長発達に関する諸理論、ストレス・コーピング、セルフケア理論、家族理論等を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発達に関する主たる理論を学び、小児の自我形成、認知発達について説明できる。 2. 小児が示すストレス反応、防衛機制について説明できる。 3. 家族に関する諸理論(家族システム、家族発達、家族関係)について説明できる。 4. セルフケア能力、アドヒアランス、レジリエンスという点で小児が持つ力を説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容 理論を説明する際には、理論家が育った時代、理論が生成された背景を含めて述べる。
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①ジャン・ピアジェ [2013] 「遊びの発達の心理学(精神医学選書)」 黎明書房 ②ジャン・ピアジェ [1978] 「知能の誕生」 ミネルヴァ書房 ③ジャン・ピアジェ [1972] 「発生的認識論」 白水社 ④E. H. エリクソン [2011] 「アイデンティティとライフサイクル」 誠信書房 ⑤E. H. エリクソン [2001] 「ライフサイクル, その完結」 みすず書房 ⑥E. H. エリクソン [1977] 「幼児期と社会 1」 みすず書房 ⑦E. H. エリクソン [1980] 「幼児期と社会 2」 みすず書房 ⑧フロイト [2001] 「精神分析学入門 1」 中央公論新社 ⑨フロイト [2001] 「精神分析学入門 2」 中央公論新社 ⑩A. フロイト [1985] 「自我と防衛」 誠信書房 ⑪マーガレット・S・マーラー他 [2001] 「乳幼児の心理的誕生—母子共生と個体化(精神医学選書)」 黎明書房 ⑫J. ボウルヴィ [1981] 「ボウルヴィ母子関係入門」 星和書房 ⑬J. ボウルヴィ [1993] 「母と子のアタッチメント」 医歯薬出版株式会社 ⑭J. ボウルヴィ [1997] 「母子関係の理論 I, 愛着行動, 改訂 3 刷」 岩崎学術出版 ⑮J. ボウルヴィ [1995] 「母子関係の理論 II, 分離不安, 改訂 2 刷」 岩崎学術出版 ⑯J. ボウルヴィ [1993] 「母子関係の理論 III, 対象喪失」 岩崎学術出版 ⑰ヴィゴツキー [2001] 「思考と言語」 新読書社 ⑱ヴィゴツキー [2003] 「「発達の最近接領域」の理論—教授・学習過程における子どもの発達」 三学出版 ⑲ヴィゴツキー [2005] 「ヴィゴツキー教育心理学講義」 新読書社 ⑳S. M. ハーモン・ハンソン他 [2001] 「家族看護学—理論・実践・研究」 医学書院 ㉑M. M. フリードマン [1993] 「家族看護学—理論とアセスメント」 へるす出版 ㉒森山美知子他 [2001] 「ファミリーナースングプラクティス—家族看護の理論と実践」 医学書院 ㉓鈴木和子他 [2019] 「家族看護学—理論と実践, 第 5 版」 日本看護協会出版会 ㉔D. E. オレム [2005] 「オレム看護論—看護実践における基本概念, 第 4 版」 医学書院 ㉕林峻一郎, R. S. ラザルス [1990] 「ストレスとコーピング—ラザルス理論への招待」 星和書店 ㉖片田範子 [2019] 「こどもセルフケア看護理論」 医学書院 		

履修上の留意点	スケジュールは学習の進捗状況等によって変更する場合がある。必要に応じて担当教員と連絡をとること。
---------	--

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、資料の作り方 発達理論 1-1 ピアジェの認知発達理論について理解する	事前：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	今野・ 田畑・ 浅利
2	発達理論 1-2 ピアジェの認知発達理論について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：1 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
3	発達理論 2-1 エリクソンの自我発達理論について理解する	事前：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
4	発達理論 2-2 エリクソンの自我発達理論について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：3 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
5	発達理論 3-1 フロイトの発達理論について理解する	事前：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
6	発達理論 3-2 フロイトの発達理論について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：5 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
7	発達理論 4-1 マラーの母子関係、ボウルヴィの愛着理論について理解する	事前：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
8	発達理論 4-2 マラーの母子関係、ボウルヴィの愛着理論について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：7 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
9	発達理論 5 ヴィゴツキーの発達理論について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事後：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
10	家族理論 1 家族機能・家族役割理論、家族発達理論、家族システム理論等について理解する	事前：文献を精読し、理論について調べ、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
11	家族理論 2 家族機能・家族役割理論、家族発達理論、家族システム理論等について理解し、小児看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：10 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
12	小児のセルフケア 1 セルフケア理論、アドヒアランス等について理解する	事前：文献、資料を精読し、学習する概念を国内外の文献から調べる。報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
13	小児のセルフケア 2 セルフケア理論、アドヒアランス等について理解し、小児の各発達段階における子どもの看護への活用可能性と限界を学ぶ	事前：12 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
14	小児のストレス・コーピング 1 ストレス・コーピング理論、レジリエンス等について理解する	事前：文献、資料を精読し、学習する概念を国内外の文献から調べる。報告資料の作成 事後：授業の振り返り	〃	〃

15	小児のストレス・コーピング2 ストレス・コーピング理論、レジリエンス等について理解し、 小児の各発達段階における子どもの看護への活用可能性と限 界を学ぶ	事前：14回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
----	---	-------------------------------	---	---

授業科目	小児健康看護学特論2 Advanced Child Health Nursing 2	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、澤田 いずみ、(三上 孝洋)、(篠嶋 滯)、(塚本 容子)		
概要	上級実践専門看護師(Advanced Practice Nurses)の役割・実践方法、課題について学ぶ。そして小児看護専門看護師の立場より、小児と家族をケアする上で必要になる対象アセスメント力、判断力(臨床的、倫理的)を育み、援助方法を学ぶ。		
到達目標	1. 上級実践専門看護師(Advanced Practice Nurses)の役割と課題について説明できる。 2. 病気や障害をもつ小児と家族に対する適切な査定方法と援助方法を説明できる。 3. 病気や障害をもつ小児と家族が遭遇する倫理的問題について援助方法を検討できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①Mary Fran Tracy et al. [2022] 「Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach 7th ed.」 Elsevier ②Mary Fran Tracy et al. 中村美鈴他監訳 [2020] 「高度実践看護—統合的アプローチ 第2版 Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach 6th ed.」 へるす出版 ③Albert R. Jonsen et al, 赤林 朗他監訳 [2006] 「臨床倫理学 第5版」 新興医学出版社 ④ローレンス・コールバーグ他 [1987] 「道徳性の発達と道徳教育(岩佐信道翻訳)」 麗澤大学出版会 ⑤及川郁子監修 [2012] 「チームで支える！子どものプレパレーション」 中山書店		
履修上の留意点	スケジュールは学習の進捗状況等によって変更する場合がある。必要に応じて担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、CNS の動向、役割について	事前：日本看護協会 HP から学習内容の 情報収集	講義・ 討論	今野・ 田畑・ 浅利
2	上級実践専門看護師(Advanced Practice Nurses)の役割と課題；Advanced Practice Nurses、CNS、NP の定義、役割	事前：非常勤講師からの課題 事後：授業の振り返り	〃	(塚本)
3	CNS の実践 1 急性期病院における対象者のアセスメントと援助の実際	事前：非常勤講師からの課題	〃	(篠嶋)
4	CNS の実践 2 看護職・他職種との連携・調整、相談、教育的働きかけ、他	事後：授業の振り返り	〃	〃
5	CNS の実践 3 特定機能病院における対象者のアセスメントと援助の実際	事前：非常勤講師からの課題	〃	(三上)
6	CNS の実践 4 看護職・他職種との連携・調整、相談、教育的働きかけ、他	事後：授業の振り返り	〃	〃
7	小児の倫理的課題 1 道徳観の発達、児童の権利に関する条約、日常的な医療行為と小児の人権	事前：外務省、ユニセフ HP から児童の権利に関する条約を調べる、文献 2 精読 事後：授業の振り返り	〃	今野・ 田畑・ 浅利

8	小児の倫理的課題2 小児の理解に合わせた病気・医療処置の説明	事前：文献を調べ、報告資料の作成 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
9	小児の倫理的課題3 病気がある小児の遊びの意義	事前：遊びの活動計画立案	演習	〃
10	小児の倫理的課題4 病気がある小児の遊びに際しての工夫	事後：遊びの活動の評価	〃	〃
11	対応が難しい小児への関わり；虐待された小児事例1 北海道の特徴、対象特性の査定	事前：札幌市HPより児童虐待に関わる指定資料を読む	講義・ 討論	澤田
12	対応が難しい小児への関わり；虐待された小児事例2 小児との援助関係の形成、親・家族へのアプローチ、多職種連携と看護上の課題	事後：授業の振り返り	〃	〃
13	倫理的課題を抱えた小児・家族に対する援助方法の検討1 模擬倫理カンファレンスの準備	事前：提示事例の検討 事後：授業の振り返り	演習	今野・ 田畑・ 浅利
14	倫理的課題を抱えた小児・家族に対する援助方法の検討2 模擬倫理カンファレンスを行い、対象とそれを取り巻く状況 アセスメント	事前：提示事例の検討 事後：授業の振り返り	〃	〃
15	倫理的課題を抱えた小児・家族に対する援助方法の検討3 模擬倫理カンファレンスを行い、対象への対応をCNSの立場 より考案する	事前：提示事例の検討 事後：授業の振り返り	〃	〃

授業科目	小児健康看護学特論演習 1 Advanced Child Health Nursing 1, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、仙石 泰仁、澤田 いずみ、(宮城島 沙織)、(三上 孝洋)、(石津 桂)、(北田 雅子)		
概要	既習の理論や学習を生かして小児と家族の状態を包括的にアセスメントできるようになり、小児の成長発達や健康状態および家族の状況に応じた適切な援助方法に繋がってゆく基礎的能力を養う。		
到達目標	1. 小児の成長発達と身体的、心理・社会的な健康状態を査定できる。 2. 家族の状態、状況を査定することができる。 3. 小児と家族を包括的に査定した上で、適切な援助方法を考察できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①M. D. W. K. Frankenburg(著) [2003] 「DENVER II デンバー発達判定法」 日本小児医事出版社 ②日野原重明 [2006] 「フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術、第4版」 医学書院 ③鴨下重彦他 [2002] 「こどもの病気の地図帳」 講談社 ④武田文和(監修翻訳) [2013] 「WHO ガイドライン 病態に起因した小児の持続性の痛みの薬による治療」 金原出版 ⑤塚本洋(著), 他 [2013] 「こどもの検査と処置の鎮静・鎮痛」 中外医学社 ⑥片田範子(翻訳), 英国小児医学・保健学会 [2000] 「子どもの痛み その予防とコントロール」 日本看護協会出版会 ⑦ [小児看護 Vol. 34 No. 8 2011 年 7 月臨時増刊号] 「子どもの痛みの看護ケア 疼痛緩和に向けての心と身体へのアプローチ」 へるす出版 ⑧子安増生(著) [2000] 「心の理論一心を読む心の科学 (岩波科学ライブラリー (73))」 岩波書店 ⑨子安増生(編集), 大平英樹(編集) [2011] 「ミラーニューロンと“心の理論”」 新曜社 ⑩加藤則子(編集), 柳川敏彦(編集) [2010] 「トリプルP 前向き子育て17の技術—「ちょっと気になる」から「軽度発達障害」まで」 診断と治療社 ⑪A. バンデュラ(著), 原野広太郎(翻訳) [2012] 「社会的学習理論 オンデマンド版—人間理解と教育の基礎」 金子書房 ⑫ウイリアム・R. ミラー(著), ステファン ロルニック(著), William R. Miller(原著) [2007] 「動機づけ面接法—基礎・実践編」 星和書店 ⑬北田雅子, 村田千里 [2020] 「医療スタッフのための 動機づけ面接2 糖尿病などの生活習慣病におけるMI 実践」 医歯薬出版 ⑭北田雅子, 磯村毅 [2016] 「医療スタッフのための 動機づけ面接法 逆引きMI 学習」 医歯薬出版		
履修上の留意点	1)6-10 回は、モデル人形・シミュレーター(Sim Junior)・模擬患者(学生)・ロールプレイなどを用いて系統的なフィジカルアセスメント技術を学ぶため、ジャージなど動きやすい格好で参加のこと。 2)小児健康看護学特論1、2のシラバス参考書を参照のこと。 3)必要に応じ、担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 小児の成長・発達の状態、小児と家族を系統的に把握する視点と方法1 小児への接近法、環境調整	事前：参考文献を読む、既習の学習の復習 事後：授業の振り返り	講義	今野・ 田畑・ 浅利

2	小児の成長・発達の状態、小児と家族を系統的に把握する視点と方法2 小児と家族の評価方法、評価における留意点	事前：1回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	演習	今野・ 田畑・ 浅利
3	早産児、新生児の発達の診方1 小児の運動発達の特徴、原始反射、姿勢、運動発達の異常と正常、運動発達の遅滞、脳性麻痺のある小児の評価	事前：新生児の解剖生理の復習 事後：授業の振り返り	講義	(宮城島)
4	早産児、新生児の発達の診方2 ディベロップメンタルケア(遮光、防音、ポジショニングなどの管理方法)	事前：3回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	演習	〃
5	小児のフィジカルアセスメント 小児事例を通じた臨床推論、身体所見のとり方	事前：参考文献を読む、既習の学習の復習 事後：授業の振り返り	講義	(石津)
6	小児のフィジカルアセスメント演習1：医療面接の仕方、既往歴・発達歴、身体所見のとり方、小児の特異性、留意点	事前：前回授業の復習 事後：授業の振り返り	演習	今野・ 田畑・ 浅利
7	小児のフィジカルアセスメント演習2：頭部・感覚器系	事前：前回授業の復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
8	小児のフィジカルアセスメント演習3：胸部(胸部・呼吸器系・循環器系)	事前：前回授業の復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
9	小児のフィジカルアセスメント演習4：腹部(消化器)・そけい部(泌尿器系)	事前：前回授業の復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
10	小児のフィジカルアセスメント演習5：筋骨格・反射	事前：前回授業の復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
11	小児の痛みの査定と痛みマネジメント 手術・検査を受ける小児の痛みの査定、マネジメント方法、がん末期にある小児の痛みの査定(トータルペインアセスメント)、マネジメント方法	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	講義	(三上)
12	疼痛管理が困難であった事例の検討 (年少児、思春期事例)	事前：事例のまとめ 事後：授業の振り返り	演習	今野・ 田畑・ 浅利
13	小児の発達障害と評価、関わり方1 小児の発達障害の特徴、発達障害を評価する視点	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	講義	仙石
14	小児の発達障害と評価、関わり方2 小児の発達障害のある子どもへの関わり方の要点、多職種連携	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
15	小児と家族の包括的アセスメント1 家族機能、親子関係、夫婦関係、ペアレンティング行動を捉える視点	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	澤田
16	小児と家族の包括的アセスメント2 親子、家族へのアプローチ方法(トリプルP)	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
17	小児と家族の包括的アセスメント3 小児の健康問題の背景にある心理、問題の捉え方	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	(北田)
18	小児と家族の包括的アセスメント4 子どもと家族へのアプローチ方法(動機づけ面接技法)	事前：参考文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
19	小児と家族の包括的アセスメント5 事例検討	事前：提示事例の検討	演習	今野・ 田畑・

	既習の小児の成長発達、健康、家族に関する諸理論を活用し、小児と家族の事例に健康状態、ストレス・コーピング、セルフケア管理など身体的、心理・社会的状態を包括的アセスメントする			浅利
20	小児と家族の包括的アセスメント6 事例検討 19回目の事例に対するケアプランの立案とその妥当性について検討する。	事後：授業の振り返り	〃	〃
21	小児科外来での演習1 演習計画の打ち合わせ；施設オリエンテーション、様々な発達段階、健康状態の小児と家族に出会って、身体的・心理社会的な包括アセスメントができる機会の調整	事前：演習計画書の作成 事後：演習計画書の修正	〃	(石津)
22	小児科外来での演習2 医師の医療面接、フィジカルアセスメント技法の見学(主に乳児期事例)	事前：演習計画書の作成 事後：演習の振り返り	〃	〃
23	小児科外来での演習3 医師の医療面接、フィジカルアセスメント技法の見学(主に幼児期事例)	事前：演習計画書の作成 事後：演習の振り返り	〃	〃
24	小児科外来での演習4 医師の医療面接、フィジカルアセスメント技法の見学(主に学童・思春期事例)	事前：演習計画書の作成 事後：演習の振り返り	〃	〃
25	小児科外来での演習5 急性疾患をもつ小児と家族への身体的・心理社会的な包括アセスメントの実施(視点：成長発達、健康状態、ストレス・コーピング、セルフケア管理、養育スタイル、養育環境、家庭・学校生活)	事前：演習計画書の作成 事後：演習の振り返り	〃	〃
26	小児科外来での演習6 慢性疾患をもつ小児と家族への身体的・心理社会的な包括アセスメントの実施(視点：成長発達、健康状態、ストレス・コーピング、セルフケア管理、養育スタイル、養育環境、家庭・学校生活)、ヘルスプロモーション(健診、予防接種等)	事前：演習計画書の作成 事後：演習の振り返り	〃	〃
27	小児科外来での演習7 小児科外来での演習1～6の振り返り、質疑応答	事後：演習の振り返り	〃	〃
28	小児科外来での演習8 小児科クリニックでの学習をふまえ、子どもと家族の包括的アセスメント、援助方法について議論する。	事前：これまでの演習の振り返り	総括	今野・ 田畑・ 浅利
29	小児科外来での演習での演習9 〃	事前：これまでの演習の振り返り	〃	〃
30	小児科外来での演習10 議論をふまえてレポート作成	事後：レポートの校正、提出	〃	〃

授業科目	小児健康看護学特論演習 2 Advanced Child Health Nursing 2, Seminar	1 学年・後期～2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、(三上 孝洋)、(篠嶋 滯)、(野口 直美)、(佐川 雅世)		
概要	臨床の場で出会う小児と家族の状態や状況を臨床的および倫理的に判断し、研究を活用しながら小児看護における高度看護実践を検討する。		
到達目標	1. 理論や研究論文を活用して、様々な健康レベル、状況にある小児と家族を査定できる。 2. 理論や研究論文を活用して、様々な健康レベル、状況にある小児と家族の課題を倫理的に判断できる。 3. 様々な健康レベル、状況にある小児と家族に対して臨床的、倫理的な判断に基づき援助方法を考察できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション：提示内容、質疑内容
	提出物	10%	
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①Mary Fran Tracy et al. 中村美鈴他監訳 [2020] 「高度実践看護総合的アプローチ 第2版 Advanced practice nursing An integrative approach 6th ed.」 へるす出版 ②赤林朗他 [2006] 「臨床倫理学 第五版 臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ」 新興医学出版社 ③サラ.T フライ [2010] 「看護実践の倫理—倫理的意思決定のためのガイド 第3版」 日本看護協会出版会		
履修上の留意点	1. 3-15 回では、小児と家族に対する臨床判断(倫理的判断を含む)と援助方法を理論や研究論文を活用して検討する。文献は、必要時、日本小児看護学会ホームページ掲載中の資料、小児健康看護学特論 1、2 のシラバス参考書を参照のこと。 2. 学習内容の主題に相応しい国内外の研究論文を検索し、ゼミ参加者へ事前配布すること。事前学習の「事例のまとめ」は、学生のこれまでの臨床経験で出会った事例を想起し、プライバシーを守って紙面に簡潔にまとめること。 3. 16-26 回の演習場所は、札幌医科大学附属病院、北海道立子ども総合医療・療育センターから選択する。演習場所、担当したい事例の特性など、学生の関心を明瞭にしておくこと。看護師長らと協議したうえで事例を決定する。 4. 必要に応じ、担当教員と連絡をとること。		

実施回	内容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、理論や文献の活用の仕方、小児看護領域の看護倫理に関する取り組み(実践の中の倫理、研究倫理、教育における倫理)、小児看護専門看護師の実践機能、倫理機能、倫理的課題を解決する取り組み	事前：既習の学習の復習 事後：授業の振り返り	講義	今野・ 田畑・ 浅利
2	〃	〃	〃	〃
3	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(1) ラポールを形成するアプローチ	〃	〃	〃
4	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(2) 救急外来を受診する小児と家族	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃	〃
6	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(3) 入院・手術を受ける小児と家族	〃	〃	〃

7	〃	〃	〃	〃
8	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(4) 先天的疾患・遺伝疾患をもつ小児と家族	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃
10	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(5) 慢性状態にある小児と家族	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(6) 重症心身障害をもつ小児と家族	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃	〃
14	様々な健康レベル、成長発達、心理・社会的状態にある小児と家族の看護(7) 終末期にある子どもと家族	〃	〃	〃
15	〃	〃	〃	〃
16-20	小児病棟での高度実践に関する演習(1) 病棟オリエンテーション、様々な課題を抱えた事例に出会い、事例の状態を、倫理的判断を含めて臨床的に判断する(視点:健康状態、成長発達、ラポール形成する方略、ストレス・コーピング反応、セルフケア管理、小児と家族の強み・資源など)。 理論や文献を活用して援助方法を検討する。	事前:担当事例の選定、演習計画の話し合い 事後:演習計画の修正	演習	今野・田畑・浅利・(三上)・(篠嶋)・(野口)・(佐川)
21-26	小児病棟での高度実践に関する演習(2) :事例の査定と検討した援助方法を指導者らへ示し、話し合いを行ってその適切さを検討する、援助の試行、評価	事前:文献検索、精読、演習計画立案	〃	〃
27	小児病棟での高度実践に関する演習(3):事例の査定、援助方法の適切さを検討し、卓越した実践となるために必要なことを振り返る。	事前:演習の振り返り	〃	今野・田畑・浅利
28	〃	事後:レポート作成	〃	〃
29	事例の報告会、レポートの評価 事例のケア場面を抽出し、事例とその状況の査定、及び実践した援助方法などを記す。 レポートに含める内容は、(1)事例紹介、(2)対応を要した課題と経過、(3)関わり方を含む援助方法(計画、実施、評価等)で、適宜内容を整理して記載すること。 2000字程度。以下の視点をもって、レポートを作成すること。 ・状況の全体像を記しているか。 ・適切なアセスメントに基づく判断か。 ・援助方法・技術が適切か。 ・援助の結果(成果)を評価し、次に活かそうとしたか。 報告会を行った後に、レポートをクリティークする。	事前:レポート作成	報告会	〃
30	〃	事後:修正レポートの提出	〃	〃

授業科目	小児臨床看護論 Advanced Pediatric Nursing	1 学年・通年・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	看護実践の中で小児と家族へ関わる人々に対するコーディネーション、看護師を含むケア提供者へのコンサルテーションについて経験を振り返り、研究論文、理論を活用しながら学ぶ。また、看護ケアの向上のために行う看護師への教育活動および看護実践の質を評価する視点を持てるように学ぶ。		
到達目標	1. 小児と家族へ関わる人々へのコーディネーションの概要を述べられる。 2. 小児と家族へ関わるケア提供者(看護師を含む)へのコンサルテーションの概要を述べられる。 3. 小児と家族へ関わる看護師への教育活動の概要を述べられる。 4. 小児と家族に行う看護ケアの質を評価する視点を述べられる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①井部俊子 [2015] 「専門看護師の思考と実践」 医学書院 ②E. H. シヤイン他 [2012] 「プロセスコンサルテーション—援助関係を築くこと」 白桃書房 ③福原麻希 [2013] 「チーム医療を成功させる 10 か条—現場に学ぶチームメンバーの心得」 中山書店 ④京極真 [2014] 「医療関係者のためのトラブル対応術—信念対立解明アプローチ」 誠信書房 ⑤鈴木克明 [2015] 「研修設計マニュアル 人材育成のためのインストラクショナルデザイン」 北大路書房 ⑥中井俊樹 [2014] 「看護現場で使える教育学の理論と技法：個別指導や参加型研修に役立つ 100 のキーワード」 メディカ出版 ⑦赤尾勝巳 [2004] 「生涯学習理論を学ぶ人のために—欧米の成人教育理論、生涯学習理論と方法」 世界思想社 ⑧笹井宏益他 [2013] 「生涯学習のイノベーション」 玉川大学出版会 ⑨Avedis Donabedian [2007] 「医療の質の定義と評価方法」 特定非営利活動法人健康医療評価研究機構 ⑩井部俊子 [2006] 「看護アウトカムの測定—患者の満足とケアの質指標」 エルゼビア・ジャパン ⑪看護研究 42 (6) [2009] 「特集 translational research としての小児の疼痛緩和方法の開発」 医学書院		
履修上の留意点	小児健康看護学特論 1、2、小児健康看護学特論演習 2 のシラバス参考書を参照のこと。 3, 6 回目の事前レポートは 2000 字程度とする。10, 11 回目の事前レポートの文字数は規定しないが、A4 判用紙 1-2 枚程度の企画書とする。必要に応じて担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、小児と家族に関わるケア提供者へのコンサルテーション 1 健全な援助関係、プロセスコンサルテーションの基本概念	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	今野・ 田畑・ 浅利
2	小児と家族に関わるケア提供者へのコンサルテーション 2 コンサルテーション技術、小児と家族に関わる看護師等へのコンサルテーション	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
3	小児と家族に関わるケア提供者へのコンサルテーション 3 事例検討 臨床経験を通じて自身の行ったコンサルテーション場面を取り出し、問題の把握、用いられた方策、成果を検討する。	事前：レポート作成 事後：授業の振り返り	討論	〃

4	小児と家族へ関わる人々へ行うコーディネーション1 チーム作りの要素	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	〃
5	小児と家族へ関わる人々へ行うコーディネーション2 協働における困難と推進のポイント	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
6	小児と家族へ関わる人々へ行うコーディネーション3 事例検討 臨床経験を通じて自身の行った保健医療福祉に携 わる人々間のコーディネーション場面を取り出し、用いら れた方略と資源の活用、結果の評価の適切さ、そして今後の 展望について検討する。	事前：レポート作成 事後：授業の振り返り	討論	〃
7	小児と家族に関わる看護師への教育活動1 小児看護学の基礎教育および継続教育の変遷、課題	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	〃
8	小児と家族に関わる看護師への教育活動2 小児看護学の基礎教育および継続教育の今後の展望	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
9	小児と家族に関わる看護師への教育活動3 小児看護学の基礎教育および継続教育の現状を生涯学習の視 点から検討する。	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
10	小児と家族に関わる看護師への教育活動4 事例検討 臨床経験を通じて、看護職への教育が必要だと考 えられた1場面を取り出し、教育の企画運営の案を立て、検 討する。	事前：レポート作成 事後：授業の振り返り	討論	〃
11	小児と家族に関わる看護師への教育活動5 事例検討 小中学校での喫煙防止教室、もしくは慢性疾患を もつ小児のサマーキャンプにおける看護師による教育企画案 を立て、検討する。	事前：レポート作成 事後：授業の振り返り	〃	〃
12	小児と家族へ行う看護実践の質の評価1 トランスレイショナルリサーチ、EBP、医療の質を評価する 枠組などの概要を学ぶ。	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	〃
13	小児と家族へ行う看護実践の質の評価2 臨床現場にある課題と解決にむけた研究の活用方法について 検討する。	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
14	小児と家族へ行う看護実践の質の評価3 看護現象の中での患者アウトカムとケアの質の評価の概要を 学ぶ。	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃
15	小児と家族へ行う看護実践の質の評価4 専門看護師の立場での小児と家族のアウトカムマネジメン ト、アウトカムの評価について検討する。	事前：指定文献を読む 事後：授業の振り返り	〃	〃

授業科目	小児臨床看護論演習 Advanced Pediatric Nursing, Seminar	1 学年・通年～2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、(奥山 亜由子)、(三上 孝洋)、(篠嶋 滯)		
概要	小児看護専門看護師の実践活動を OJT スタイルで学び、小児と家族の状況に応じた高度ケア実践方法を学ぶ。さらに地域で行われている在宅ケアにおけるケア連携の実践を通して、地域特性にふさわしい小児看護専門看護師の活動を検討する。		
到達目標	1. 地域特性、施設特性にふさわしい小児看護専門看護師の役割を説明できる。 2. 複雑で解決が困難な事例(小児/親/家族)にどのような判断(倫理的、臨床的)を明瞭にし、解決策を検討できる。 3. 小児の医療的ケアの連携、必要な支援システム、法的整備について地域特性をふまえて検討できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	下記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 到達目標 1・2 は、札幌医科大学附属病院もしくは北海道子ども総合医療・療育センターで活動する。 到達目標 3 は、札幌医科大学附属病院、及び医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ で活動する。 必要に応じ、担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、演習計画の立案	事前：既習の学習の復習	演習 個別指導	今野・田畑 浅利
2	到達目標 1、2 の演習 病院での演習計画の打ち合わせ、現場でのオリエンテーション	事前：演習計画書の提出	〃	〃
3	病院での演習計画の修正案作成	事後：演習計画書の修正	〃	〃
4-13	到達目標 1、2 の演習 小児看護専門看護師らの指導のもと、高度実践機能、コンサルテーション機能、調整機能、倫理調整、教育機能、研究活動の実際をシャドウイングで学ぶ。	事後：活動内容をフィールドノートにまとめる	〃	今野・田畑 浅利 (三上) (篠嶋)
14	OJT を通じて学んだことを到達目標 1、2 に照らし、自身の考えを述べる	事前：レポート作成	報告会	今野・ 田畑・ 浅利
15	ディスカッションを通じて到達目標 1、2 の達成度を評価する。 次への学習課題を明瞭にする。	事後：修正したレポートの提出	〃	〃
16	到達目標 3 の演習 オリエンテーション、演習計画の立案	事前：既習の学習の復習	演習	〃
17	病院・クリニックでの演習計画の打ち合わせ、現場でのオリエンテーション	事前：演習計画書の提出	〃	(奥山)

18	〃	事後：演習計画書の修正	〃	〃
19-28	到達目標3の演習 看護師長らの指導のもと、医療的ケアの連携の実際、在宅ケアの支援システム、制度に関して、構築過程と現在の取組みについてディスカッションを行う。また、在宅ケア、日中一時支援、訪問看護、カンファレンスなどの現場では指導者からシャドーイングで学ぶ。	事後：活動内容をフィールドノートにまとめる	〃	今野・田畑 浅利 (奥山)
29	OJTを通じて学んだことを到達目標3に照らし、自身の考えを述べる	事前：レポート作成	報告会	今野・田畑 浅利
30	ディスカッションを通じて到達目標3の達成度を評価する。次への学習課題を明瞭にする。	事後：修正したレポートの提出	〃	〃

授業科目	小児保健福祉論 Child Welfare	1 学年・通年～2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、(奥山 亜由子)、(伊藤 新一郎)、(福井 一之)		
概要	病気や障害のある小児が健やかに育つ上で必要となる小児保健・医療・福祉・教育に関する制度・政策について学ぶ。そして、関係者間での連携・調整の方法について学び、小児看護専門看護師としての関わり方を考察する。		
到達目標	1. 小児の福祉、保健医療に関連する法律と諸制度、政策を概説できる。 2. 病気や障害のある小児の教育の特徴と関連する制度・政策について説明できる。 3. 発達障害のある子どもの特徴をふまえた援助方法と関係者との連携について説明できる。 4. 病気や障害のある小児が望む生活を送れるよう関係する制度、人的資源の調整と活用に関して小児看護専門看護師の立場で検討できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①シェルドン コーエン (著) [2005] 「ソーシャルサポートの測定と介入」 川島書店		
履修上の留意点	スケジュールは学習の進捗状況等によって変更する場合がある。必要に応じ、担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	社会保障総論 1 社会保障制度、障がい福祉施策、小児・子育て支援等に関する国内外の現状を理解する。	事前：新聞記事、北海道庁 HP などから最近の社会保障制の動向を把握する。講師提供資料を読む 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	(伊藤)
2	社会保障総論 2 社会保障制度、障がい福祉施策、小児・子育て支援等に関する国内外の現状をふまえたうえで、病気や障害のある小児が活用できる制度・政策を理解する	事前：1 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	”	”
3	病気や障害をもつ小児の学校教育 1 長期入院している小児の学校教育、特別支援教育、復学支援に関する我が国の現状や課題等を理解する	事前：北海道教育委員会 HP より特別支援教育の資料を読む、講師提供資料を読む 事後：授業の振り返り	”	(福井)
4	病気や障害をもつ小児の学校教育 2 長期入院している小児の学校教育、特別支援教育、復学支援に関する我が国の現状や課題等を踏まえた今後の展望	事前：3 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	”	”
5	病気や障害をもつ小児のソーシャルサポートの特徴 1 ソーシャルサポートの定義、病気や障害をもつ小児と家族のソーシャルサポートの特徴を理解する	事前：文献 1 及び健康障害のある小児のソーシャルサポートに関する文献を検索し、報告資料の作成 事後：授業の振り返り	”	今野・田畑 浅利
6	病気や障害をもつ小児のソーシャルサポートの特徴 2 北海道の小児医療、社会資源の特徴、病院と地域資源の連	事前：北海道庁 HP より、北海道医療計画、小児医療の重点化計画などの情	”	(奥山)

	携・調整の実際等を理解する	報を読む 事後：授業の振り返り		
7	小児看護専門看護師の立場で事例検討1 これまで学んだ知識と経験、文献等をもとに、病気や障害がある小児の事例を提示する。	事前：報告資料の作成	〃	今野・田畑 浅利
8	小児看護専門看護師の立場で事例検討2 7で提示した事例を通し、小児看護専門看護師の立場で小児と家族への援助方法を、他職種・他施設等との調整方法、関係する制度等の視点を含めて考察する	事後：授業の振り返り	〃	〃

授業科目	小児保健福祉論演習 Child Welfare Practicum	1 学年・通年～2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	児童福祉の実際の中で、特別な支援が必要な事例(小児/親/家族)に対する社会保障システムを学び、事例に関係する人/組織との連携、調整について小児看護専門看護師の立場から適切な関わり方を学ぶ。		
到達目標	1. 児童相談所の機能と役割を説明できる。 2. 児童相談所の相談事例を通して倫理的課題とその解決策について検討できる。 3. 事例に必要な制度・支援方法と関係者間の調整・連携方法について検討することができる。 4. 小児をとりまく社会福祉の現状と課題を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	北海道児童相談所に出向いて学習をする。職員からの指導のもと、実際の現場活動に参加させていただく。 スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 必要に応じて担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 児童相談所の機能と役割	事前：北海道の児童相談所の活動内容について HP から情報収集する	演習	今野・ 田畑・ 浅利
2	〃	事後：学習内容の振り返り	〃	〃
3	児童相談所で行われる社会診断、心理診断	事前：社会診断、心理診断の用語の定義を調べる 事後：学習内容の振り返り	〃	〃
4	〃	事後：学習内容の振り返り	〃	〃
5	児童相談所で行われる行動診断、児童相談所と他機関との連携	事前：行動診断の用語の定義を調べる 事後：学習内容の振り返り	〃	〃
6	〃	事後：学習内容の振り返り	〃	〃
7	児童相談所内の相談業務、処遇と支援	事前：近年の相談業務内容を HP 通じて調べる	〃	〃
8	〃	事後：学習内容の振り返り	〃	〃
9-13	一時保護所における活動の参加学習	事前：保護中の児童の状況について調べ、相応しい行動の仕方を考える	〃	〃

14	〃	事後：学習内容の振り返り	〃	〃
15	現状と課題の抽出、展望 到達目標に照らし、学習経験をレポートにまとめ、報告する。	事前：今まで学習した内容に関する文献検索、到達目標に照らし、レポートを作成する 事後：レポートを修正し、提出	報告会	〃

授業科目	小児病態治療論 Advanced Pediatric Pathology and Treatment	1 学年・通年・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史、(福村 忍)、(木村 幸子)、(名和 由布子)、(長多 好恵)		
概要	小児期に特有な疾病の病態生理の理解を目指すことに加え、診断・検査を学ぶ。そして治療法については医学的、薬学的なアプローチ方法を学び、専門看護師としてよりよいケアを行う上での基盤知識となる病態生理、検査法、治療法、身体管理方法について学ぶ。		
到達目標	1. 新生児～小児期の発達検査方法とその解釈及び症状管理について説明できる。 2. 病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療、身体管理の特徴を説明できる。 3. 小児の特徴をふまえて薬物療法・薬剤管理の要点を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容 最終レポート：到達目標 1～3 について、学習した内容をまとめなさい。 各到達目標につき、A4 用紙 2～3 枚程度にまとめなさい。
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①Robert M. Kliegman et al. (著)衛藤 義勝(監修) [2015] 「ネルソン小児科学 原著第 19 版」 エルゼビア・ジャパン ②堀本洋(著), 他 [2013] 「こどもの検査と処置の鎮静・鎮痛」 中外医学社		
履修上の留意点	下記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 必要に応じ、担当教員と連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 病態・診断・治療法を学ぶ、看護学における位置づけ	事後：授業の振り返り	講義	今野・ 田畑・ 浅利
2	胎児～新生児～小児の病態、検査と治療 発生における臨界期、生活習慣(アルコール、タバコ他)・ 感染症と先天異常、ヒト胚子期・胎児期の異常と検査・治療 の特徴	事前：発生学、病理学、胎児の発育の 基礎知識の確認 事後：授業の振り返り	講義・ 討論	(木村)
3	小児の薬物・薬剤に対する反応の特徴と適切な薬剤管理 1 小児によく使われる薬物	事前：薬物の代謝、薬剤管理の基礎知 識の確認 事後：授業の振り返り	〃	(長多)
4	小児の薬物・薬剤に対する反応の特徴と適切な薬剤管理 2 小児に使用する際、注意を要する薬物	事前：3 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃
5	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴 1 小児神経内科：筋ジストロフィーをもつ小児事例を中心に 神経系疾患をもつ小児の病態	事前：神経系、感覚運動器の解剖、生 理について復習 事後：授業の振り返り	〃	(福村)
6	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴 2 小児神経内科：神経系疾患をもつ小児の診断・検査、治療 の特徴	事前：5 回目の授業の振り返り 事後：授業の振り返り	〃	〃

7	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴3 感染症の小児をもつ小児などの事例を中心に、病態、診断・ 検査、治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
8	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴4 代謝疾患、難病をもつ小児の病態	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
9	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴5 代謝疾患、難病をもつ小児の診断・検査、治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
10	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴6 がんをもつ小児の病態	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
11	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴7 がんをもつ小児の診断・検査、治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
12	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴8 循環器系疾患をもつ小児の病態、診断・検査、治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
13	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴9 呼吸器系疾患、アレルギーをもつ小児事例を中心に、病態、 診断・検査、治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
14	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴10 消化器系疾患をもつ小児事例を中心に、病態、診断・検査、 治療の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	〃
15	病気や症状をもつ小児の病態生理、診断、治療の特徴11 外科疾患をもつ小児事例を中心に、術前から術後の検査、 メディカルチームアプローチを含む医学的身体管理の特徴	事前：小児の解剖、生理について復習 事後：授業の振り返り	〃	(名和)・ 田畑

授業科目	成人看護学特論1 Advanced Adult Health Nursing 1	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口 裕紀子、木村 恵美子		
概要	クリティカル期にある患者・家族のストレス反応をもたらす内的・外的背景について学び、看護介入の実践と研究への運用について探究する。		
到達目標	1. 患者・家族のストレス反応が生じる背景とストレス反応について説明できる。 2. 危機理論、ストレス・コーピング理論について説明できる。 3. 患者・家族のストレス反応に対する看護介入方法と研究への運用について検討できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
教科書	①指定なし。授業の中で適宜紹介する。		
参考書	①小島操子 [2018] 「看護における危機理論・危機介入」 KINPODO ②野川道子(編) [2023] 「看護実践に活かす中範囲理論」 メヂカルフレンド社		
履修上の留意点	担当教員と十分に連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 看護における理論と活用方法	事後：配布資料の確認	講義	澄川
2	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・危機理論の概念と特徴および関連概念(不安、悲嘆など)	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	講義・演習	〃
3	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・危機理論の概念と特徴および関連概念(不安、悲嘆など)	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
4	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・家族危機に関連する理論と特徴	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
5	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・家族危機に関連する理論と特徴	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
6	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・ストレス理論の特徴とストレス反応	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
7	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・ストレス理論の特徴とストレス反応	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
8	健康危機状況にある患者・家族のストレス反応 ・ストレスが生じる内的・外的要因	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
9	ストレス反応に対する看護介入方法 危機モデルと介入方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川・木村
10	ストレス反応に対する看護介入方法 危機モデルと介入方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
11	ストレス反応に対する看護介入方法 ストレスからの回復過程	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川

12	ストレス反応に対する看護介入方法 ストレスマネジメント、ストレス・コーピング	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川・田口
13	ストレス反応に対する看護介入方法 ストレスマネジメント、ストレス・コーピング	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
14	臨床におけるストレス研究の活用方法 ストレス研究論文クリティーク	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川・田口 木村
15	臨床におけるストレス研究の活用方法 ストレス研究論文クリティーク	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃

授業科目	成人看護学特論2 Advanced Adult Health Nursing 2	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、丹野 雅也、齊藤 正樹、田口 裕紀子、木村 恵美子		
概要	クリティカル状況にある患者の呼吸機能、循環機能等別に各機能の生理学的変化を学習する。また生活活動、機能回復の状況を把握する観察枠組みに基づいたフィジカルアセスメントの技法を学習する。		
到達目標	1. クリティカル状況にある患者の生理学的変化、生活活動、機能回復の状況を把握する観察枠組みについて説明できる。 2. クリティカル状況にある患者についてフィジカルアセスメントの方法を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
教科書	①指定なし。講義の中で適宜、資料を配布する。		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	指導教員と十分に連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	クリティカル状況にある患者の呼吸機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事後：配布資料の確認	講義・演習	澄川・丹野
2	クリティカル状況にある患者の呼吸機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	丹野
3	クリティカル状況にある患者の呼吸機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川
4	クリティカル状況にある患者の循環機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	丹野
5	クリティカル状況にある患者の循環機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
6	クリティカル状況にある患者の循環機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川

7	クリティカル状況にある患者の脳・神経機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	齊藤
8	クリティカル状況にある患者の脳・神経機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	田口
9	クリティカル状況にある患者の腎機能・体液バランスのアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	丹野
10	クリティカル状況にある患者の腎機能・体液バランスのアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川
11	クリティカル状況にある患者の代謝・内分泌機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	丹野
12	クリティカル状況にある患者の代謝・内分泌機能のアセスメント ・生理学的変化とフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川
13	クリティカル状況にある患者の栄養状態のアセスメント ・生理学的変化と患者のフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：動画視聴し、プレゼンテーション資料を作成 事後：プレゼン資料の提出	e-learning 演習	水口
14	クリティカル状況にある患者の栄養状態のアセスメント ・生理学的変化と患者のフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	講義・演習	木村
15	クリティカル状況にある患者の栄養状態のアセスメント ・生理学的変化と患者のフィジカルアセスメントの視点 ・生活活動、機能回復状況を理解した患者のフィジカルアセスメント方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川

授業科目	成人看護学特論3 Advanced Adult Health Nursing 3	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、丹野 雅也、齊藤 正樹、(成松 英智)、(数馬 聡)、(岸本 万寿実)		
概要	クリティカル状況にある患者の呼吸・循環・水分・電解質を中心とする代謝病態生理とアセスメント方法・管理方法について学習する。また手術・麻酔侵襲、薬物治療などの治療的介入が生体に及ぼす病態生理学的影響と管理方法について学ぶ。		
到達目標	1. クリティカル状況にある患者の呼吸・水分・電解質を中心とする代謝病態生理とアセスメント方法について説明できる。 2. 小児、高齢者に特有な病態とアセスメント方法、災害時に生じる病態とアセスメント方法について説明できる。 3. 手術・麻酔侵襲、薬物治療などの特徴・管理方法と患者の生体に及ぼす影響について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
教科書	①指定なし。講義の中で適宜、資料を配布する。		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	指導教員と十分に連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス クリティカル状況にある患者に対するアセスメントの視点	事後：配布資料の確認	講義・演習	澄川
2	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性呼吸不全障害の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	丹野
3	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性循環不全障害の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
4	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性肝不全、イレウスの病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	水口
5	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性中枢障害の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	齊藤
6	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性末梢神経障害の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
7	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性代謝障害の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	(成松)
8	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 急性腎不全の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	(数馬)
9	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 肺血症、DICの病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
10	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 小児・高齢者に生じやすい病態・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃

11	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 災害時に生じやすい病態・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	講義・演習	(成松)
12	1. クリティカル状況にある患者の病態生理とアセスメント 外傷、熱傷の病態生理・アセスメント・治療	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
13	2. 治療介入が及ぼす病態生理学的影響と管理方法 手術・麻酔侵襲に対するアセスメント管理方法	事前：動画視聴し、プレゼンテーション資料を作成 事後：プレゼン資料の提出	〃	水口
14	2. 治療介入が及ぼす病態生理学的影響と管理方法 人工呼吸器による影響と管理方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	(岸本)
15	3. 治療介入が及ぼす病態生理学的影響と管理方法 大動脈バルーンポンピング装着、体外循環による影響と管理方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	(岸本) 澄川

授業科目	成人看護学特論演習 1 Advanced Adult Health Nursing 1, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口 裕紀子、木村 恵美子		
概要	クリティカル状況にある患者の回復を支援するために、援助的人間関係の構築方法、家族ケアについて理解する。これらの理解を基盤に、ケアとキュアが融合した援助方法について急性呼吸不全、循環不全などの事例を用いて検討し実践力を修得する。またクリティカル状況にある患者・家族の支援に対する国内外の研究動向およびチーム医療について検討する。		
到達目標	1. クリティカル状況にある患者の回復を支援する援助的人間関係の構築方法について説明できる。 2. ケアとキュアを融合させた援助の方法について説明できる。 3. クリティカル状況にある患者の事例を用いてアセスメント・計画を立案することができる。 4. 立案した計画を模擬患者に実施することができる。 5. クリティカル状況にある患者・家族の支援に対する国内外の研究動向について説明できる。 6. クリティカル状況にある患者・家族の支援に必要なチーム医療について検討できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
教科書	指定なし		
参考書	①服部祥子 [2003] 「人を育む人間関係論 援助専門職者として、個人として」 医学書院		
履修上の留意点	適宜、担当教員と連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	クリティカル期にある患者の回復過程を理解するための理論・リハビリテーション、セルフケア、ノーマライゼーション 他	事後：配布資料の確認	演習	澄川
3-6	クリティカル期・ポストクリティカル期にある患者・家族との援助関係 1)エンパワーメント、家族システム理論、家族発達理論他 2)クリティカル期にある患者のケアとキュアの視点 3)クリティカル期・ポストクリティカル期にある家族の特徴とケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
7-25	クリティカル期・ポストクリティカル期にある事例患者へのケアとキュアを融合した援助 1)急性呼吸不全患者に対するアセスメント・計画・実施 2)急性循環不全患者に対するアセスメント・計画・実施 3)脳死状態となった患者に対するアセスメント・計画・実施 4)開頭術後患者に対するアセスメント・計画・実施 5)急性中毒患者に対するアセスメント・計画・実施 6)敗血症患者に対するアセスメント・計画・実施	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 田口・木村
26-28	クリティカル状況にある患者・家族の支援に対する国内外の研究動向	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川

29-30	クリティカル状況にある患者・家族の支援に必要なチーム医療 ・栄養サポートチーム他	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
-------	---	-----------------------	---	---

授業科目	成人看護学特論演習 2 Advanced Adult Health Nursing 2, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(神田 直樹)、(村中 沙織)		
概要	クリティカルケアを受けている患者と家族の治療・看護援助に対する選択や決定において生じる、生命、死、人権に関わる倫理的問題について検討し、専門看護師としての役割と機能を考察する。		
到達目標	1. クリティカルケアを受けている患者と家族に生じる倫理的問題とその援助について検討するための概念・理論について説明できる。 2. クリティカルケアを受けている患者と家族の事例から生じる倫理的問題を明らかにし、倫理的問題解決に焦点を当て分析・評価することができる。 3. クリティカルケアを受けている患者と家族の倫理的意志決定を支える専門看護師の役割を探究することができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
教科書	指定なし		
参考書	①江川幸二、山勢博彰 [2013] 「看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド」 三輪書店		
履修上の留意点	指導教員と十分に連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-10	クリティカルケアを受けている患者と家族の倫理的課題 1) 倫理的課題を検討するための概念・理論 倫理原則、ケアリング、悲嘆、意志決定、エンド・オブ・ライフケア他 2) クリティカルケアで生じる倫理的調整方法の基本	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	演習	澄川
11-16	クリティカルケアを受けている患者と家族の倫理的問題解決方法 事例検討 終末期患者と家族、脳死と臓器移植、児童虐待などの倫理的課題の分析・具体策・評価	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	”	(神田)
17-20	専門看護師と倫理調整 1) 専門看護師に期待される倫理調整 2) 患者・家族を対象とした倫理調整 3) チーム医療と倫理調整	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	”	澄川
21-24	専門看護師の倫理調整、コンサルテーション	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	”	(村中)
25-30	倫理的問題への対応：事例検討	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	”	澄川

授業科目	成人看護学特論演習3 Advanced Adult Health Nursing 3, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、田口 裕紀子、木村 恵美子、(佐藤 明美)		
概要	クリティカルケアを受ける患者と家族の全人的(身体的・精神的・社会的・スピリチュアル)な苦痛および治療管理に伴う苦痛を緩和する技法の検討とその効果を判定する能力を習得する。また苦痛緩和の方法に関する研究について概観する。		
到達目標	1. クリティカル状況にある患者とその家族の全人的(身体的・精神的・社会的・スピリチュアル)な苦痛および治療管理に伴う苦痛を緩和する方法について検討できる。 2. 模擬患者に対して苦痛緩和方法を実践できる。 3. クリティカル状況にある患者とその家族の苦痛緩和の介入に関する効果判定について検討できる。 4. クリティカル状況にある患者と家族の苦痛緩和の効果判定に関する研究動向について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：提示内容および質疑応答
	ディスカッション	20%	ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
教科書	①指定なし。演習の中で適宜、資料を配布する。		
参考書	①ジェニー・ストロング他 [2010] 「痛み学 臨床のためのテキスト」 名古屋大学出版会		
履修上の留意点	担当教員と十分に連絡を取り合うこと。 第 10～30 回の事前課題については、3 週間前までに担当教員に確認すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	クリティカル状況にある患者とその家族の全人的苦痛と援助 1) 全人的苦痛とは 2) 全人的苦痛に対する援助方法	事後：配布資料の確認	演習	澄川
3-9	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実 際 1) 身体的苦痛 痛みの理解 疼痛の種類(筋骨格痛、がん性疼痛、急性痛、慢性痛など) 疼痛の評価方法 模擬患者に対する援助の実践	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	水口
10-13	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実 際 2) 精神的苦痛と援助方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川
14-15	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実 際 3) 社会的苦痛と援助方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
16-18	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実 際 4) スピリチュアルペインと援助方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	木村・澄川
19-21	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実 際 5) 治療管理に伴う苦痛と援助方法	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	田口・澄川

22-24	クリティカル状況にある患者と家族の全人的苦痛と援助の実際 6) 痛みを持つ患者のコンサルテーションの実際	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	(佐藤)・澄川
26-30	クリティカル状況にある患者と家族の苦痛緩和の効果判定に関する 文献検討・まとめ	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川・田口・木村

授業科目	成人看護学特論演習4 Advanced Adult Health Nursing 4, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口 裕紀子、(春名 純平)、(村中 沙織)		
概要	クリティカルケアを実践する救命・救急看護の専門性と活動内容について学び、高度な実践とサブスペシャリティに関する能力を修得する。		
到達目標	1. 救命・救急治療が必要な患者・家族のアセスメント方法について説明できる。 2. 救命・救急治療が必要な患者・家族のケアの特徴について説明できる。 3. 救命・救急治療が必要な患者・家族のケアに関する研究論文についてクリティークできる。 4. サブスペシャリティを深めるための自己の課題を明らかにできる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート：提出状況および記載内容 プレゼンテーションは模擬患者に対するアセスメント・計画・実施の内容で評価する ディスカッション：能動的な発言および論理的な発言内容
	プレゼンテーション	30%	
	ディスカッション	20%	
教科書	①演習時に適宜文献を紹介する。		
参考書	①石松伸一(監修) [2014] 「実践につよくなる 看護の臨床推論」 学研メディカル秀潤社		
履修上の留意点	適宜、担当教員と連絡を取り合うこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	救命・救急治療を受ける患者・家族の特徴と初期対応	事後：配布資料の確認	演習	澄川 田口
2-4	救命・救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
5-7	救命・救急治療を受ける熱傷患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
8-9	救命・救急治療を受ける中毒患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
10-11	救命・救急治療を受ける自殺企図患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 (村中)
12-13	救命・救急治療を受ける臓器移植患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
14-15	救命・救急治療を受けるCPA患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 田口
16-18	救命・救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 (春名)

19-21	救命・救急治療を受ける感染症患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
22-23	救命・救急治療を受けるがん患者・家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃
24-26	救命・救急治療を受ける小児と家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 (村中)
27-28	救命・救急治療を受ける高齢者と家族のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	澄川 田口
29-30	救命・救急治療と災害被災者のアセスメントとケア、トリアージ	事前：課題準備 事後：配布資料の確認	〃	〃

授業科目	老年健康看護学特論 Advanced Geriatric Health Nursing	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	長谷川 真澄 (保健医療学研究棟 E305) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島 輝美、(栗生田 友子)、(山下 いずみ)		
概要	高齢者ケアに関する社会的背景を理解し、老年看護学の基盤となる諸理論、実践活動とそのエビデンスについて学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> わが国の高齢者ケアに関する施策の歴史的変遷、および、海外の保健医療福祉政策の動向を説明できる。 老年看護学の基盤となる諸理論について説明できる。 高齢者特有の症状や健康障害に対する看護援助についてエビデンスを含めて説明できる。 高齢者ケアにおける倫理的課題について事例検討できる。 高齢者とその家族をサポートするケアシステムについて説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：作成資料・発表内容、質疑内容 ディスカッション：討論参加状況 提出物：エビデンスの文献レビュー、倫理事例の課題レポート
	ディスカッション	30%	
	提出物	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①Charlotte Eliopoulos [2018] 「Gerontological Nursing 9th Ed.」 Lippincott ②Boltz, M/ Capezuti, E/Fulmer, T/ Zwicker, D Ed. [2021] 「Evidence-based Geriatric Nursing Protocols for Best Practice. 6th Ed.」 Springer Publishing Company ③牧本清子、山川みやえ編著 [2020] 「よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版」 日本看護協会出版会		
履修上の留意点	ゼミナール形式で学習を進めるため、予め使用する教科書・参考書を熟読・理解し、他の文献等も参考にしながら学習内容を深める準備が必要である。下記スケジュールはゼミの進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。参考書は上記のほか、随時、紹介する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 老年看護学の基盤となる理論・概念1：老化に関する生物学的理論	事前：配付資料を読む	講義・討論	長谷川
2	老年看護学の基盤となる理論・概念2：老化に関する社会的・心理学的理論	事後：授業内容の復習	〃	〃
3	老年看護学の基盤となる理論・概念3：老年看護に関連する理論	事前：配付資料を読む	〃	〃
4	老年看護学の基盤となる理論・概念4：認知症ケアに関連する理論	事後：授業内容の復習	〃	木島 長谷川
5	わが国の高齢者保健医療福祉政策の変遷	事前：課題準備	〃	長谷川
6	諸外国の高齢者保健医療福祉政策の動向	事後：授業内容の復習	〃	〃
7	高齢者ケアにおけるベストプラクティス1	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
8	高齢者ケアにおけるベストプラクティス2	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃

9	高齢者ケアにおけるベストプラクティス3	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	木島 長谷川
10	高齢者ケアにおけるベストプラクティス4	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
11	高齢者ケアにおけるベストプラクティス5	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	(粟生田)、 長谷川
12	高齢者ケアにおけるベストプラクティス6	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	〃
13	高齢者ケアにおけるベストプラクティス7	事前：課題準備 事後：授業内容の復習	〃	長谷川
14	高齢者ケアに関するエビデンスの文献クリティーク1:観察研究	事前：課題準備 事後：授業内容の復習	演習	〃
15	高齢者ケアに関するエビデンスの文献クリティーク2:介入研究	事前：課題準備 事後：授業内容の復習	〃	〃
16	高齢者ケアに関するエビデンスの文献クリティーク3:質的研究	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	木島 長谷川
17	高齢者ケアに関するエビデンスの文献クリティーク4:システムティック・レビュー	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	長谷川
18	高齢者ケアにおける倫理的課題1:老年看護実践に関連する法規定、権利擁護、倫理ガイドライン	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	講義・討論	〃
19	高齢者ケアにおける倫理的課題2:意思決定支援	事前：課題準備 事後：授業内容の復習	〃	(山下)
20	高齢者ケアにおける倫理的課題3:事例検討	事前：配付資料を読む 事後：事例検討の課題レポート提出	演習	長谷川 木島
21	高齢者と家族のケアシステム1:家族機能のアセスメントとケア	事前：課題準備 事後：授業内容の復習	講義・討論	長谷川
22	高齢者と家族のケアシステム2:急性期医療ケア	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	(山下)
23	高齢者と家族のケアシステム3:地域包括ケアシステム、施設ケア、在宅ケア	事前：配付資料を読む 事後：授業内容の復習	〃	長谷川

授業科目	老年健康看護学特論演習 Advanced Geriatric Health Nursing, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	長谷川 真澄 (保健医療学研究棟 E305) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	木島 輝美		
概要	加齢ともなう変化や疾病を持つ高齢者とその家族に対する看護実践について、国内外の文献検討を行い、研究のテーマと概念枠組みを明確にし、研究計画書を作成する。		
到達目標	1. 受講生の関心のある研究テーマについて国内外の文献クリティークができる。 2. 文献検討から自身の研究の課題と概念枠組みを明確にできる。 3. 自身の研究課題に対する目的、方法を具体化できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	50%	プレゼンテーション：作成資料と発表の内容 ディスカッション：討論での発言・質疑応答の状況
	ディスカッション	50%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	参考文献等は適宜、紹介する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 学習スケジュールは文献検討、フィールドワークの進捗状況等により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 受講生の関心テーマについてディスカッション	事後：文献検討	講義・討論	長谷川 木島
2-11	受講生の関心テーマについて国内外の文献検討を行い、研究の動向と課題を明らかにする	事前：発表・資料準備 事後：授業での論点整理	演習	〃
12-16	受講生の関心テーマに関する実践場面のフィールドワーク	事前：フィールドワークの計画立案 事後：フィールドワークのレポート提出	現地実習	長谷川
17-22	受講生の研究課題を明確化し、概念枠組みを検討する	事前：資料準備 事後：授業での論点整理	討論・個別 指導	〃
23-30	受講生の研究課題に対する目的、方法を具体化する	事前：資料準備 事後：授業での論点整理	〃	〃

授業科目	精神看護学特論1 Advanced Psychiatric Nursing 1	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木 亜沙子、(関連施設担当者調整中)		
概要	精神保健医療福祉の法的・制度的体制に関する歴史と現状、現代社会における精神障害のある人の置かれている状況や人権擁護の必要性等について学習し、精神保健医療福祉制度の現状と課題について展望する。		
到達目標	1. 障害の概念と障害者福祉の基本理念、障害者福祉の基本施策を学習する。 2. 精神障害のある人の歴史的処遇と、法の整備について学習する。 3. 現代社会における精神障害のある人が置かれている状況と人権擁護の必要性について学習する。 4. 精神保健医療福祉に携わる専門職の役割や精神保健医療福祉の課題について展望する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容
	レポート等提出物	40%	レポート等提出物：提出状況および記載内容
	授業への参画度	20%	授業への参画度：討論参加状況
教科書	①著者代表：武井麻子 [2017] 「系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, ②」 医学書院		
参考書	①小俣和一郎 [2005] 「精神医学の歴史」 第3 文明社 ②金川 英雄 [2012] 「【現代語訳】 呉秀三・榎田五郎 精神病患者私宅監置の実況」 医学書院 ③岡田 靖雄 [2002] 「日本精神科医療史」 医学書院 ④金川 英雄 [2019] 「日本の精神科入院の歴史構造：社会防衛・治療・社会福祉」 青弓社		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：自己のスケジュールの確認 事後：配布資料の再読	講義	澤田
2	精神保健医療福祉の歴史 (中世の精神障害者の処遇と治療)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読事前：	〃	〃
3	精神保健医療福祉の歴史 (精神病患者監護法から精神衛生法の時代の処遇と治療)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
4	精神保健医療福祉の歴史 (精神保健法から精神保健福祉法に至る理念の変化)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
5	障害の概念と障害者福祉の理念 (障害者基本法の理念と計画(障害者差別解消法を含む))	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
6	障害の概念と障害者福祉の理念 (新旧障害者プランと医療観察法)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
7	障害の概念と障害者福祉の理念 (障害者総合支援法成立の経緯に見る制度の課題)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
8	精神保健医療福祉と人権・権利擁護 (国連障害者権利条約と日本の批准)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
9	精神保健医療福祉と人権・権利擁護 (障害者施策の海外事情と国際比較)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃

10	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (自治体における精神保健医療福祉の現状と課題：都道府県)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	青木
11	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (自治体における精神保健医療福祉の現状と課題：市町村)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	〃
12	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (精神科病院における精神保健医療福祉の現状と課題)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	(調整中)
13	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (総合支援事業所における精神保健医療福祉の現状と課題)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	(調整中)
14	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (就労支援機関における精神保健医療福祉の現状と課題)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	(調整中)
15	保健医療福祉の実際と専門職の役割 (精神保健医療福祉活動における看護職の役割)	事前：指定資料指示部一読 事後：使用資料の再読	〃	澤田

授業科目	精神看護学特論2 Advanced Psychiatric Nursing 2	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学部棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	池田 望、石井 貴男		
概要	精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を養うことを目的とする。Bio-Psycho-Social モデルを基盤として、精神医学に基づく人の精神機能に関するアセスメント、ならびに精神看護に関連する心理社会的理論を踏まえた看護診断、リハビリテーションとストレングスモデルに基づくアセスメントについて学び、人の精神の健康生活を評価するための能力を培う。		
到達目標	1. Bio-Psycho-Social モデルの概要を論述できる。 2. 精神障害・疾病の診断と精神機能・認知機能に関するアセスメントの基本を論述できる。 3. 精神看護領域における看護診断について論述できる。 4. 精神障害のある人のリハビリテーションとストレングスモデルの理念について論述できる。 5. 家族に関わる看護アセスメントについて論述できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容、
	レポート等提出物	40%	レポート等提出物：提出状況および記載内容
	授業への参画度	20%	授業への参画度：討論参加状況
教科書	①著者代表 武井麻子 [2017] 「系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎精神看護学① 精神看護の展開精神看護学②」 医学書院 ②T.ヘザー・ハードマン [2021] 「NANDA- I 看護診断定義と分類 2021-2023 原着第12版」 医学書院 ③尾崎 紀夫 [2018] 「標準精神医学 第7版 (STANDARD TEXTBOOK)」 医学書院 ④萱間真美 [2016] 「リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術」 医学書院		
参考書	①渡辺俊之 [2014] 「バイオサイコソーシャルアプローチ 生物・心理・社会的医療とは何か？」 金剛出版 ②宮岡等 [2014] 「こころを診る技術 精神科面接と初診時対応の基本」 医学書院 ③武藤 教志 [2017] 「他科に誇れる精神科看護の専門技術 メンタルステータスイグザミネーション Vol.1、2」 精神看護出版 ④カタナ・ブラウン (編集) [2012] 「リカバリー—希望をもたらすエンパワーメントモデル」 金剛出版 ⑤南 裕子 [2005] 「実践オレム—アンダーウッド理論 こころを癒す (アクティブ・ナーシング)」 講談社 ⑥野川 道子 [2016] 「看護実践に活かす中範囲理論」 メジカルフレンド社 ⑦山崎 あけみ、原 礼子 [2015] 「家族看護学(改訂第2版)：19の臨床場面と8つの実践例から考える (看護学テキスト NiCE)」 南江堂		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：自己のスケジュールの確認 事後：使用資料の再読	講義	澤田
2	人間と健康と Bio-Psycho-Social モデル	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃

3	精神の疾患分類と機能評価に関するアセスメント (精神症状の観察とアセスメント)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	石井
4	精神の疾患分類と機能評価に関するアセスメント (脳機能と精神症状)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
5	精神の疾患分類と機能評価に関するアセスメント (精神医学的検査と診断)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
6	精神の疾患分類と機能評価に関するアセスメント (ICFにおける精神機能と生活機能評価, ICDH と ICF)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	池田
7	人の認知機能に関するアセスメント (精神科リハビリテーションにおける認知機能アセスメント)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
8	精神疾患の診断と医学的治療 統合失調症の診断と治療	事前：治療ガイドラインを熟読する 事後：使用資料の再読	〃	石井
9	精神疾患の診断と医学的治療 大うつ病と双極性障害の診断と治療	事前：治療ガイドラインを熟読する 事後：使用資料の再読	〃	〃
10	精神疾患の診断と医学的治療 認知症の診断と治療	事前：治療ガイドラインを熟読する 事後：使用資料の再読	〃	〃
11	精神疾患の診断と医学的治療 依存症性障害・嗜癖問題の診断と治療	事前：治療ガイドラインを熟読する 事後：使用資料の再読	〃	〃
12	精神看護領域における看護診断1 (看護診断と歴史と構造)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	澤田
13	精神看護領域における看護診断2 (心理社会的診断ラベルに関わる基礎理論と看護支援)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
14	精神障害をもつ人のリカバリとストレングスモデル (リカバリー概念とストレングスモデルのつながり)	事前：指定資料指示部レジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
15	精神看護におけるアセスメントまとめ	事前：これまで学習に基づいてまとめ のレジュメを作成 事後：使用資料の再読	〃	〃

授業科目	精神看護学特論3 Advanced Psychiatric Nursing 3	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	池田 望、(伊藤 恵里子)		
概要	精神看護の実践の基礎となる治療や援助技法のもととなる理論について学び、それぞれの特性と看護への応用の在り方についての考察を深める。また、援助に伴う倫理的課題について理解し解決する方法を学ぶ。		
到達目標	1. 精神看護における対象理解のための理論的枠組みを論述できる。 2. 治療技法としての精神療法の特性と看護への応用について論述できる。 3. 関連学会ならびに論文から看護における治療的介入に関わる最新の知見について動向を論述できる。 4. 精神看護領域における倫理的課題について例示し、自らの立場で論考できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容、 レポート等提出物：提出状況および記載内容 授業への参画度：討論参加状況
	レポート等提出物	40%	
	授業への参画度	20%	
教科書	①野末聖香, 宇佐美しおり [2009] 「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」 日本看護協会出版会		
参考書	①日本家族研究・家族療法学会 [2013] 「家族療法テキストブック」 金剛出版 ②近藤 喬一, 鈴木 純一 [2000] 「集団精神療法ハンドブック」 金剛出版 ③亀岡智子 [2022] 「実践トラウマインフォームドケア ささまざまな領域での展開」 日本評論社 ④上原徹 [2007] 「スキルアップ心理教育」 星和書店 ⑤堀越 勝, 野村 俊明 [2012] 「精神療法の基本: 支持から認知行動療法まで」 医学書院		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 文献と課題の確認	事前：自己のスケジュールの確認 事後：使用資料の再読	講義	澤田
2	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 1 (発達理論による人間理解と看護への応用)	事前：発達理論についての予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
3	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 2-1 (精神分析理論による人間理解と看護への応用)	事前：精神分析理論についての予習 事後：授業で用いた資料の再読	〃	〃
4	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 2-2 (精神分析による治療事例と研究の動向の検討)	事前：精神療法の効果に代わる研究論文をクリティーク 事後：使用資料の再読	〃	〃
5	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 3-1 (行動理論による人間理解と看護への応用)	事前：行動理論についての予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
6	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 3-2 (行動療法による治療事例と研究の動向の検討)	事前：行動療法の効果に代わる研究論文をクリティーク 事後：使用資料の再読	〃	〃
7	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 4-1 (認知行動理論による人間理解と看護への応用)	事前：認知行動理論についての予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
8	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 4-2 (認知行動理論による治療事例と研究の動向の検討)	事前：認知行動療法の効果に代わる研究論文をクリティーク	〃	〃

	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 4-3 (ストレス理論と脆弱性ストレス対処力量モデルによる人間理解と Social skills traing と看護への応用)	事後：使用資料の再読 事前：ストレスモデルについての予習 事後：使用資料の再読		
9	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 4-4 (Social skills traing による治療事例と研究の動向の検討)	事前：SST の効果に代わる研究論文をクリティーク 事後：使用資料の再読	〃	〃
10	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 5-1 (家族療法モデルによる人間理解と看護への応用)	事前：家族療法モデルについての予習 事後：使用資料の再読	〃	(伊藤)
11	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 5-2 (家族療法による治療事例と研究の動向の検討)	事前：家族療法の効果に代わる研究論文をクリティーク 事後：使用資料の再読	〃	〃
12	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 6-1 (集団理論における人間理解と看護への応用)	事前：事前文献についての予習 事後：使用資料の再読	〃	池田
13	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 6-2 (集団療法による治療事例と研究の動向の検討)	事前：集団療法の効果に関わる文献のクリティーク 事後：自己の研究課題の明確化	〃	〃
14	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 7 (心理教育)	事前：事前文献こついえ予習 事後：自己の研究課題の明確化	〃	澤田
15	理論的枠組みを用いた精神障害の理解と援助 8 (トラウマインフォームドケア)	事前：事前文献こついえ予習 事後：自己の研究課題の明確化	〃	〃

授業科目	精神看護学特論演習 1 Advanced Psychiatric Nursing 1, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(北田 雅子)、(津山 雄亮)		
概要	精神看護の実践の基礎となる個人を対象とした治療的コミュニケーション技術として、積極的傾聴、動機づけ面接、リラクゼーションの基本技術をエクササイズを活用して演習する。また、学術論文に報告されている最新の治療技法についてそのエビデンスをクリティークする能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的傾聴における基本技法が説明できる。 2. 積極的傾聴における基本技法の統合と臨床的適用が実践できる。 3. 動機づけ面接における基礎理論をと基礎的技術を論述できる。 4. ロールプレイにおいて動機づけ面接の基礎的技術を実施できる。 5. 治療的コミュニケーションを省察する方法としてプロセスレコードの活用できる。 6. 看護におけるリラクゼーションのメカニズムを論述できる。 7. ロールプレイにおいてリラクゼーション技法を他者に実施することができる。 8. 精神看護領域の論文についてクリティークを行い、介入効果の検証に必要な研究について論述できる。 9. 精神保健福祉分野の支援施設の対象の特性に応じた看護面談を実施し再構成することで治療的技術を研鑽できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ロールプレイング	60%	ロールプレイング：提示内容、質疑内容、 論述：提出状況、記載内容 演習への参画度：討論参加状況
	論述	20%	
	演習への参画度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①三島 徳雄, 久保田 進也 [2004] 「積極的傾聴を学ぶ—発見的体験学習法の実際」 中央労働災害防止協会 ②荒川 唱子, 小坂橋 喜久代 [2001] 「看護にいかすリラクゼーション技法—ホリスティックアプローチ」 医学書院 ③ウイリアム・R. ミラー, ステファン ロルニック 他 [2007] 「動機づけ面接法—基礎・実践編」 星和書店 ④北田 雅子, 磯村 毅 [2016] 「医療スタッフのための 動機づけ面接法 逆引き MI 学習帳」 医歯薬出版株式会社 		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 演習のすすめ方	事前：自己のスケジュールの確認 事後：使用資料の再読	演習	澤田
2	看護における治療的コミュニケーションとプロセスレコード (プロセスレコードの成り立ちと看護場面の再構成)	事前：指定図書の講読とレジюме作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
3	積極的傾聴の理論と技術 1 (積極的傾聴の原理と基礎)	事前：積極的傾聴の基礎の予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
4	積極的傾聴の理論と技術 2 (積極的傾聴における基本的技法)	事前：積極的傾聴の基礎再読 事後：学習した技法の復習	〃	〃
5-6	積極的傾聴の理論と技術 3 (積極的傾聴技法演習 ロールプレイと技術の評価)	事前：既習技法のおさらい 事後：面接場面のプロセスレコードの作成	〃	〃
7-8	積極的傾聴の省察 (看護場面における積極的傾聴のプロセスレコードのよる再構成)	事前：プロセスレコードによる再構成 事後：討論後に再度再構成をまとめる	〃	〃

9-10	動機づけ面接の基礎理論 (動機づけ面接の成り立ちと理論的背景)	事前：指定図書の見直しとレジュメ作成 事後：使用資料の再読	〃	〃
11	動機づけ面接の基本的技術 1 (変化への動機を構築する技術)	事前：指定図書の見直し 事後：使用資料の再読	〃	(北田)
12	動機づけ面接の基本的技術 2 (「変わる」決意を強化する技術)	事前：指定図書の見直し 事後：使用資料の再読	〃	〃
13	動機づけ面接の実施と技術の省察 (面接のロールプレイと技術の評価)	事前：指定図書の見直し 事後：使用資料の再読	〃	〃
14	リラクゼーションの基礎理論 (リラクゼーションのメカニズムと基礎技術)	事前：指定図書の見直し 事後：使用資料の再読	〃	(津山)
15	リラクゼーション演習 (呼吸法、筋弛緩法、自律訓練法の演習)	事前：既習技法のおさらい 事後：演習の学びのまとめ	〃	〃
16-19	就労支援施設における看護面接演習 対象者へのインタビューとプロセスレコードによる再構成	事前：対象事例のアセスメント 事後：再構成による面接の評価	〃	澤田
20-22	デイケア・メンタルクリニックにおける看護面接演習 対象者へのインタビューとプロセスレコードによる再構成	事前：対象事例のアセスメント 事後：再構成による面接の評価	〃	〃
23-25	精神科病棟における看護面接演習 対象者へのインタビューとプロセスレコードによる再構成	事前：対象事例のアセスメント 事後：再構成による面接の評価	〃	〃
26-28	看護における治療的介入に関わる最新の動向 (国内外の文献・関連学会へにおける論文のクリティーク)	事前：関連文献・学会の報告を調べる 事後：使用資料の再読	〃	〃
29-30	看護における治療的コミュニケーションと臨床への応用についてまとめ	事前：これまでの演習のまとめの作成 事後：使用資料の再読	〃	〃

授業科目	精神看護学特論演習 2 Advanced Psychiatric Nursing 2, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(村本 好孝)、(木村 直友)、(前田 英樹)		
概要	個人精神療法、集団精神療法の基盤としての体験グループ演習による集団力動のレビュー、認知行動療法の理論と演習、心理教育の理論と演習等、精神看護領域において専門看護師に必要とされる集団を用いた精神療法の理論と治療的枠組みについて体験的に学習し、その技法を習得する。		
到達目標	1. 精神看護の実践の基礎となる集団を用いた精神療法に関わる基礎理論を理解する。 2. 種々の集団を用いた精神療法に参加し、その運用の実際と治療的效果について論述できる。 3. 集団体験グループを通して、自己の感受性の賦活化と集団療法の基本構造を体験的に理解する。 4. 心理教育に関する理論枠組みを理解し、計画・実施・評価の技法を習得する。 5. 集団を用いた看護支援について最新の知見について理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	60%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容
	論述	20%	論述：提出状況および記載内容
	演習への参画度	20%	演習への参画度：討論参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①鈴木 純一 [2014] 「集団精神療法—理論と実際」 金剛出版 ②松本 俊彦, 今村 扶美, 小林 桜児 [2011] 「薬物・アルコール依存症からの回復支援ワークブック」 金剛出版 ③後藤雅博 [2012] 「家族心理教育から地域精神保健福祉まで」 金剛出版		
履修上の留意点	演習の際の服装は平服でかまわないが、動きやすさを考慮すること。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。札幌市内のクリニック(医療法人北仁会幹メンタルクリニック、医療法人社団楽優会 札幌なかまの杜クリニック、医療法人社団心劇会さっぽろ駅前クリニック)でフィールドワークを行う。日程はその都度、担当者で調整すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 参加プログラムと日程調整 精神科領域における集団精神療法 1 (集団精神療法の歴史と基礎理論)	事前：自己のスケジュールの確認 事後：使用資料の再読	演習	澤田
2	精神科領域における集団精神療法 2 (精神保健医療福祉分野における集団精神療法の現状)	事前：集団療法について予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
3	精神科領域における集団を用いた精神療法 (集団療法に関わる研究報告のクリティック)	事前：文献を準備する 事後：授業で用いた資料の再読	〃	〃
4	精神科領域における集団を用いた精神療法 アルコール依存症の自助グループにかかわる文献レビュー	事前：文献を準備する 事後：授業で用いた資料の再読	〃	〃
5-10	精神科領域における集団を用いた精神療法 (アルコール依存症の自助グループの実施の現状 -メンタルクリニックにおける集団プログラムへの参加)	事前：AA/断酒会についてレジュメの作成 事後：授業で用いた資料の再読	講義・演習	(木村)
11	精神科領域における集団を用いた精神療法 (SST に関わる文献レビュー)	事前：SST について予習 事後：授業で用いた資料の再読	演習	澤田
12-17	精神科領域における集団を用いた精神療法 (精神科医療機関で実施されている SST の実際 -メンタルクリニック・就労支援施設における STS への参加)	事前：SST についての予習 事後：使用資料の再読	講義・演習	(村本)

18	精神科領域における集団を用いた精神療法 (認知行動療法・サイコドラマにかかわる文献レビュー)	事前：認知行動療法・サイコドラマについての予習 事後：使用資料の再読	演習	澤田
19	精神科領域における集団を用いた精神療法 (リワークプログラムに関わる文献レビュー)	事前：リワークプログラムについての予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
20-21	精神科領域における集団を用いた精神療法 (認知行動療法・サイコドラマの歴史と基盤理論)	事前：認知行動療法・サイコドラマについて文献確認 事後：使用資料の再読	講義	〃
22	精神科領域における集団を用いた精神療法 (リワークプログラムの現状と課題)	事前：リワークプログラムについて文献確認 事後：使用資料の再読	〃	〃
23-25	精神科領域における集団を用いた精神療法 (認知行動療法の実際を体験する)	事前：認知行動療法についての予習 事後：使用資料の再読	講義・演習	(前田)
26-27	精神科領域における集団を用いた精神療法 (サイコドラマの実際を体験する)	事前：サイコドラマについての予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
28-29	集団精神療法におけるエンカウンターグループの実際 (エンカウンター体験グループへ参加とレビュー)	事前：エンカウンターグループの学習 事後：使用資料の再読	演習	澤田
30	精神看護領域における集団を活用した看護 (演習における体験と文献による)	事前：フィールドワークのまとめをし ておく 事後：使用資料の再読	〃	〃

授業科目	精神看護学特論演習3 Advanced Psychiatric Nursing3, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(伊藤 恵里子)		
概要	精神障害をもつ人精神に障害のある人の支援について当事者の語りから理解し、その人のニーズに即した専門的看護援助と、当事者の視点に立ったリカバリーモデルを取り込んだ回復支援を実践的なレベルで学ぶ。		
到達目標	1. 精神障害者当事者のリカバリーに関わる捉え方を理解できる。 2. 精神障害者による当事者活動に参加しその意味を理解できる。 3. 精神障害者の視点に立ったリカバリー活動の在り方について論術できる。 4. 精神障害者のリカバリーと看護の役割について論述できる。 5. 精神障害をもつ人の看護支援についてストレングスの視点から論述できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容
	レポート等提出物	40%	レポート等提出物：提出状況および記載内容
	演習への参画度	20%	演習への参画度：積極性、討論参加状況
教科書	①向谷地生良、小林 茂 [2013] 「コミュニティ支援、べてる式。」 金剛出版		
参考書	①チャールズ・A・ラップ, リチャード・J・ゴスチャ他 [2014] 「ストレングスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス」 金剛出版 ②浦河べてるの家 [2005] 「べてるの家の「当事者研究」 (シリーズ ケアをひらく)」 医学書院		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 浦河町で2から3日間フィールドワークを行う。 看護援助の検討にあたりは必要に応じて病院・就労支援施設等にてインタビューを行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション フィールドワークの予定確認	事前：自己のスケジュールの確認 事後：紹介資料の再読	演習	澤田
2	精神に障害のある人の支援に関わる理論 (ストレングスモデルにおけるエンパワメント)	事前：ストレングスモデルの復習 事後：使用資料の再読	〃	〃
3-6	精神に障害のある人の支援に関わる理論 (コミュニティ支援、べてる式。の講読)	事前：指定箇所を予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
7-10	精神に障害のある人の支援に関わる理論 (べてるの家の「当事者研究」 (シリーズ ケアをひらく)の講読)	事前：指定箇所を予習 事後：使用資料の再読	〃	〃
11-16	地域における精神看護援助 (ひがし町診療所の支援モデルを取り込んだ看護援助を実践レベルで考えるためのフィールドワーク)	事前：既存資料の再読 事後：フィールドノートの整理	〃	(伊藤)
17-24	地域における精神看護援助 (浦河べてるの家の支援モデルを取り込んだ看護援助を実践レベルで考えるためのフィールドワーク)	事前：既存資料の再読 事後：フィールドノートの整理	〃	澤田
25	精神に障害のある人のストレングスに着目した看護援助 (統合失調症のある人への看護援助に関わる事例検討)	事前：統合失調症を持つ人へインタビュー準備 事後：ストレングスを引き出す看護についてまとめる	〃	〃

26	精神に障害のある人のストレングスに着目した看護援助 (気分障害のある人への看護援助に関わる事例検討)	事前：気分障害をもつ人へインタビュー準備 事後：ストレングスを引き出す看護についてまとめる	〃	〃
27	精神に障害のある人のストレングスに着目した看護援助 (アディクション問題のある人への看護援助に関わる事例検討)	事前：嗜癖及び依存症のある人へインタビュー準備 事後：ストレングスを引き出す看護についてまとめる	〃	〃
28	精神に障害のある人のストレングスに着目した看護援助 (不安障害のある人への看護援助に関わる事例検討)	事前：不安障害のある人へインタビュー準備 事後：ストレングスを引き出す看護についてまとめる	〃	〃
29	精神に障害のある人のストレングスに着目した看護援助 (境界性パーソナリティ障害の人への看護援助に関わる事例検討)	事前：パーソナリティ障害のある人へインタビューの準備 事後：ストレングスを引き出す看護についてまとめる	〃	〃
30	精神障害をある人のリカバリを支える看護 リカバリと看護についてディスカッション	事前：これまでの学びをもとにまとめの作成 事後：意見交換のまとめ	〃	〃

授業科目	精神看護学特論演習4 Advanced Psychiatric Nursing 4, Seminar (Community Based Psychiatric Mental Health Nursing)	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(阿部 幸弘)、(藤田 麗子)		
概要	精神の障害をもつ人が地域で生活するために必要な地域生活を支えるための資源と連携およびその活用について学び、実際の看護活動を知るために地域でのフィールドワークと事例のシミュレーションを行う。		
到達目標	1. 精神の健康生活におけるリハビリテーションを促進する精神看護の役割を論述できる。 2. 地域に基盤を置いたエンパワメントと看護活動について論述できる。 3. 地域における精神保健看護活動のフィールドワークをとおして回復を支援する事例のシミュレーションができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	60%	プレゼンテーション：提示内容、質疑応答
	レポート	20%	レポート：提出状況および記載内容
	演習への参画度	20%	演習への参画度：討論参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①ロバート・ポール・リバーマン, 西園 昌久他 [2011] 「精神障害と回復 リバーマンのリハビリテーション・マニュアル」 星和書店 ②野中 猛 [2011] 「図説 リカバリー—医療保健福祉のキーワード」 中央法規 ③増川ねてる、藤田茂治 [2018] 「WRAP を始める!—精神科看護師との WRAP 入門【WRAP(元気回復行動プラン)編】」 精神看護出版 ④横山恵子、藤田茂治、安保寛明 (編集) [2019] 「精神科訪問看護のいろは: 「よき隣人」から「仲間」へ」 精神看護出版		
履修上の留意点	精神看護学特論演習 4(地域精神看護)と精神看護学特論演習 5(児童思春期精神看護)のいずれかを後の臨地実習を踏まえて選択のこと。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 下記機関でフィールドワークを行う 医療法人社団 五稜会病院(訪問看護) こころのリカバリー総合支援センター(デイケア・就労支援・ピアサポーター) 北見赤十字病院(地域基幹病院における専門看護師の役割)		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 演習におけるフィールドワークの進め方 精神障害のある人の地域生活を支える精神看護 (関連機関の理解)	事前：自己のスケジュールの確認、フィールドワーク機関を調べる 事後：使用資料の再読	講義	澤田
2	精神障害のある人の地域生活を支える精神看護 (地方自治体における精神保健福祉制度と関連機関) (精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム)	事前：精神保健福祉機関を調べる 事後：フィールドワークのねらいをまとめる	〃	〃
3-4	精神障害のある人の地域生活を支える精神看護 1 (訪問看護ステーションの精神看護活動)	事前：訪問看護に関わる文献を読む 事後：フィールドワークのねらいをまとめる	〃	(藤田)
5-13	地域における精神保健看護のフィールドワーク (訪問看護ステーションの精神看護活動)	事前：精神科訪問看護についての予習 事後：使用資料の再読	演習	澤田

14-21	地域における精神保健看護のフィールドワーク (デイケアにおける精神看護) (アウトリーチによる家族支援) (ピアサポートおよび当事者活動)	事前：デイケアについての子習 事後：使用資料の再読	〃	(阿部)
22-29	地域における精神保健看護のフィールドワーク (精神障害のある人の地域生活を支える地域基幹病院における専門看護師の活動)	事前：就労支援についての子習 事後：使用資料の再読	〃	澤田
30	事例のシミュレーション (フィールドワークの知見を反映した模擬事例検討会)	事前：支援事例の想定と準備 事後：検討結果を踏まえた事例報告	〃	〃

授業科目	精神看護学特論演習 5 Advanced Psychiatric Nursing 5, Seminar (Child & Adolescent Psychiatric Nursing)	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E309) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(國重 美紀)、(米島 広明)		
概要	児童・思春期精神科において専門看護師として実践活動をするうえで必要な、児童・思春期に診断される精神疾患・障害の特性、アセスメントに必要な基礎理論、子どもならびに家族支援に必要な技法を学び、臨床現場でのフィールドワークを通じて援助方法を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・思春期に診断される精神疾患・障害の特性を述べられる。 2. 児童・思春期における精神発達に関連する理論の看護への応用について述べられる。 3. 子どもと家族のための治療的技法とプログラムの看護への応用について述べられる。 4. 児童・思春期精神科における治療構造について述べられる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	60%	プレゼンテーション：提示内容、質疑内容
	レポート	20%	レポート：提出状況および記載内容
	演習への参画度	20%	演習への参画度：討論参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①関連ジャーナル等とし、演習中に適宜指示する。		
履修上の留意点	フィールドワークは臨地実習先である札幌市子ども発達支援総合センターとする。精神看護学特論演習 4(地域精神看護)と精神看護学特論演習 5(児童思春期精神看護)のいずれかを後の臨地実習を踏まえて選択のこと。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 児童・思春期精神科の特徴と課題、看護の役割	事前：自己の学習目標をまとめる 事後：指定図書を読む	講義	澤田
2-5	フィールドワーク① 札幌市子ども発達支援総合センターの機能	事前：各施設の機能を事前に調べる 事後：フィールドノート作成	演習	(米島)
6	小児・思春期における精神発達のアセスメント① (認知発達理論、精神力動的発達理論と看護)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護への応用をまとめる	講義	澤田
7	小児・思春期における精神発達のアセスメント② (精神医学的診断と薬物療法)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護への応用をまとめる	〃	(國重)
8	児童・思春期における精神発達のアセスメント③ (心理検査と心理療法)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護への応用をまとめる	〃	(米島)
9-12	フィールドワーク② 札幌市子ども発達支援総合センター内自閉症関連施設の実際	事前：関連障害について事前に調べる 事後：フィールドノート作成	演習	〃
13	児童・思春期に診断される精神疾患・障害の診断と治療① (自閉症スペクトラムをもつ児の看護)	事前：関連事例を資料にまとめる 事後：事例と学習内容を関連付ける	講義	(國重)
14	児童・思春期に診断される精神疾患・障害の診断と治療① (ADHD・学習障害をもつ児の看護)	事前：関連事例を資料にまとめる 事後：事例と学習内容を関連付ける	〃	〃
15-18	フィールドワーク③ 札幌市子ども発達支援総合センター内児童心理治療センターの実際	事前：関連障害について事前に調べる 事後：フィールドノート作成	演習	(米島)

19	児童・思春期に診断される精神疾患・障害の診断と治療③ (反応性アタッチメント障害をもつ児の看護)	事前：関連事例を資料にまとめる 事後：事例と学習内容を関連付ける	〃	(國重)
20	児童・思春期に診断される精神疾患・障害の診断と治療④ (PTSD 関連障害、解離性障害をもつ児の看護)	事前：関連事例を資料にまとめる 事後：事例と学習内容を関連付ける	〃	〃
21-24	フィールドワーク④ 札幌市子ども発達支援総合センター内児童精神科外来・デイ ケアの実際	事前：関連障害を資料にまとめる 事後：事例と学習内容を関連付ける	〃	(米島)
25	治療的面接技法と集団プログラム① (プレイセラピーの基礎理論と実際)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護への応用をまとめる	講義	澤田
26	治療的面接技法と集団プログラム③ (子どもに焦点をあてた家族システムの理解)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護への応用をまとめる	〃	〃
27	治療的面接技法と集団プログラム④ (発達障害をもつ親のペアレントトレーニング)	事前：指定図書を読み資料を作成する 事後：看護へ応用をまとめる	〃	〃
28-29	フィールドワーク⑤ 札幌市子ども発達支援総合センター内児童心理治療センター の事例検討	事前：事例についてのアセスメント 事後：フィールドノート作成	演習	(米島)
30	まとめ 児童・思春期精神科における看護と CNS の役割について	事前：報告資料を作成する 事後：自己の学習目標の達成度、今後 の学習課題を明確にする	〃	澤田

授業科目	地域看護学特論 Advanced Community Health Nursing	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山本 武志、青柳 道子、青木亜砂子、深川 周平、村川 奨		
概要	地域看護学特論では地域での日常生活における看護の役割を検証し、社会的貢献と EBM および EBM に基づく看護実践を探究する。人々の健康の考え方は、その背景となる社会の健康観によって異なり、人々の行動は個々人と集団、社会の価値観の総和である。地域看護の介入方法や、ヘルスケアシステムの構築方法を検証し、地域社会の健康水準を高めるための理論と実践を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護学の理論と日本における地域看護活動を関連させて考えることができる。 2. 健康づくり政策と実践のための根拠について検討することができる。 3. 地域看護および公衆衛生看護の実践の基盤となる地域の看護アセスメントについて検討できる。 4. ヘルスケアシステム構築のためのコーディネート機能を明確化できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：プレゼンテーション内容 提出物：課題レポート提出状況、レポート記載内容 学習態度：ディスカッションの状況
	提出物	20%	
	学習態度	50%	
教科書	①Pencheon, David et. al [2013] 「Oxford Handbook of Public Health Practice. Third edition. 」 Oxford University Press		
参考書	①別途提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 地域住民をとりまく社会背景のへ変化	事前：関連する内容について予習 事後：なし	講義	未定
2	地域住民の疾病構造の変化と健康課題	事前：関連する内容について予習 事後：主要な健康課題をまとめる	〃	〃
3	我が国の保健・医療・福祉政策・制度の動向①	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
4	我が国の保健・医療・福祉政策・制度の動向②	事前：関連する内容について予習 事後：なし	講義・討論	〃
5	地域看護学で用いられる理論①	事前：関連する内容について予習 事後：なし	講義	山本
6	地域看護学で用いられる理論②	事前：関連する内容について予習 事後：なし	講義・討論	〃
7	公衆衛生の課題への焦点化①	事前：教科書 p2-5 を和訳する 事後：なし	〃	青柳
8	公衆衛生の課題への焦点化②	事前：教科書 p6-11 を和訳する 事後：なし	〃	〃
9	解決すべき公衆衛生の課題①	事前：教科書 p12-15 を和訳する 事後：なし	〃	青木

10	解決すべき公衆衛生の課題②	事前：教科書 p15-18 を和訳する 事後：なし	〃	〃
11	ヘルスニーズの査定①	事前：教科書 p20-24 を和訳する 事後：なし	〃	深川
12	ヘルスニーズの査定②	事前：教科書 p24-29 を和訳する 事後：なし	〃	〃
13	公衆衛生の経済効果①	事前：教科書 p32-35 を和訳する 事後：なし	〃	村川
14	公衆衛生の経済効果②	事前：教科書 p36-39 を和訳する 事後：なし	〃	〃
15	住民への健康影響の査定①	事前：教科書 p42-48 を和訳する 事後：なし	〃	未定
16	住民への健康影響への査定②	事前：教科書 p48-53 を和訳する 事後：なし	〃	〃
17	公衆衛生における倫理的課題の理解	事前：教科書 p64-70 を和訳する 事後：なし	〃	〃
18	公衆衛生課題の革新的解決方法	事前：教科書 p72-75 を和訳する 事後：なし	〃	〃
19	健康づくり政策と地域の看護アセスメント	事前：コミュニティ・アス・パートナーモデルについて概説された文献を読む 事後：なし	講義	〃
20	地域看護のアセスメントおよび介入モデルの概説	事前：ミネソタモデルについて概説された文献を読む 事後：プレゼンテーション資料作成	〃	〃
21	地域の健康課題を解決する看護活動の検討	事前：プレゼンテーションの準備 事後：プレゼンテーションの自己評価	討論	〃
22	ヘルスケアシステム構築における保健師のコーディネート機能①	事前：関連する内容についての予習 事後：なし	講義	〃
23	ヘルスケアシステム構築における保健師のコーディネート機能②	事前：なし 事後：保健師のコーディネート機能についてのレポート作成	講義・討論	〃

授業科目	地域看護学特論演習 Advance Community Health Nursing Seminar	1 学年・通年・2 単位 (60 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山本 武志、青柳 道子、青木 亜砂子、深川 周平、村川 奨、(平野 憲子)、(弓野 壽子)		
概要	地域看護学特論で学習した諸理論、方法論を基に、地域で生活する様々な健康レベルの人々の健康課題に対する計画、実施、評価の実際にかかわりながらダイナミックで総合的な地域看護活動の介入方法やヘルスケアシステム構築について探求する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の諸理論と実践への応用に関連する国内外の文献を講読する。 2. 地域における個人、家族、集団・組織の健康に関連した活動の実践から地域看護の機能および技術について検討する。 3. 地域看護アセスメントから計画、実施、評価の実際を学び、ヘルスプロモーションの理念に基づき地域でのヘルスケアシステム構築について検討する。 4. 地域看護の実践や課題に関連付けた地域看護研究の方法について学習する。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	提出物：ショートレポート提出状況および記載内容 学習態度：ディスカッション参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	40%	
	プレゼンテーション内容	20%	
教科書	①指定なし		
参考書	①別途掲示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	オリエンテーション 地域看護活動の基盤となる理論	事前：教科書の該当部分の抄読 事後：復習	講義	未定
3-4	地域における個人、家族、集団・組織の健康課題のアセスメント	事前：教科書の該当部分の抄読とまとめの資料の作成 事後：復習	〃	〃
5-6	地域における個人、家族、集団・組織の健康課題のアセスメントから計画・実施・評価	事前：教科書の該当部分の抄読とまとめの資料の作成 事後：ショートレポート	〃	〃
7-8	地域看護の支援方法および支援技術	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	講義・討論	未定
9	地域で療養する人々をその家族への支援	事前：関連する学習内容の予習 事後：ショートレポート作成	講義	(平野)
10	地域で療養する人々とその家族への支援における地域看護の機能・技術の検討	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	講義・討論	未定
11	北海道の看護政策、保健行政	事前：関連する学習内容の予習 事後：ショートレポート	講義	(弓野)
12	公衆衛生看護活動における施策化と課題	事前：関連する学習内容の予習 事後：復習	講義・討論	未定

13-14	地域看護活動の介入方法とヘルスケアシステム構築のポイント	事前：資料の作成 事後：学習の振り返り	講義・討論	〃
15-30	課題の探究と文献検討 ・各自の研究課題に関する国内外の文献クリティーク、研究 枠組みのプレゼンテーション、研究計画作成の準備	事前：文献検索 事後：研究計画書の作成	討論 個別指導	未定・山本 青柳・岡田 青木・深 川・村川

授業科目	臨床内科学特論 Clinical pathology & Internal Medicine	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>疾病の科学的解明、医学的治療介入のみでは患者を“癒す”ことはできない。患者を“癒す”ためには看護が必要となる。本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態と治療原理を確認し、病人の療養のための理解を得ることを目指す。ゼミでは看護学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。同時に、テーマとなる疾患の治療や看護における未解決の問題を把握し、その解決のための研究計画について考察・議論する。</p>		
到達目標	内科疾患についての病態と治療学・看護学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。身につける。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	レポート内容・提出状況、ゼミにおける討論内容
	受講状況	50%	
教科書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-23	内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学のおよび看護学的観点から *心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など	事前：該当範囲の予習 事後：講義の復習	講義・討論	丹野

授業科目	臨床内科学特論演習 Clinical pathology & Internal Medicine Exercises	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>疾病の科学的解明、医学的治療介入のみでは患者を“癒す”ことはできない。患者を“癒す”ためには看護が必要となる。本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態と治療原理を確認し、病人の療養のための理解を得ることを目指す。ゼミでは看護学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。同時に、テーマとなる疾患の治療や看護における未解決の問題を把握し、その解決のための研究計画、データベースの作成、解析方法について考察・議論する。</p>		
到達目標	内科疾患についての病態と治療学・看護学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。身につける。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	
	受講状況	50%	
教科書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	<p>ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-15	<p>内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学のおよび看護学的観点から</p> <p>*心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など</p>	<p>事前：該当範囲の予習</p> <p>事後：講義の復習</p>	講義・討論	丹野

授業科目	臨床外科学特論 Advanced Research of Clinical Surgery	1 学年・前期・3 単位 (45 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護コース：選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	手術侵襲による生体反応の基礎的知識を習得し、様々な疾患や手術術式における周術期の病態、治療的介入の患者へ及ぼす影響について学ぶ。		
到達目標	1. 手術侵襲による生体反応について説明できる。 2. 各専門領域の治療法について説明できる 3. 救急疾患について治療と看護を説明できる		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①畠山勝義(監修) 北野正剛/田邊稔/池田徳彦(編) [最新版] 「標準外科学 第14版」医学書院		
参考書	①医療情報科学研究所(編) [2020] 「病気がみえる vol.1 消化器(第6版)」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 また、他学会連携 E-Learning システムを用いた自主的学習を主体とする。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	学習法オリエンテーション	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	水口
2	臨床研究 倫理と手続き がん免疫療法	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	e-learning	〃
3	食道良性疾患の外科治療 食道癌診療ガイドライン第4版について	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
4	胃癌補助化学療法の実際 胃癌腹膜播種に対する治療戦略	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
5	ボーダーライン膵癌について 膵・胆管合流異常および先天性胆道拡張症の診断と治療	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
6	肝癌診療ガイドライン 転移性肝癌に対する外科的治療	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
7	炎症性腸疾患の外科治療 腹腔鏡下大腸癌手術	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
8	急性腹症概論 急性腹症の画像診断	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
9	重症患者の栄養療法ガイドラインの概説 急性胆道感染の抗菌薬療法	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
10	外傷外科治療 急性腹症の IVR	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
11	消化器がん患者に対するチーム医療 外科侵襲に対する生体反応	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃

12	食道癌の再発 併存疾患を有する食道癌手術	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
13	食道胃接合部癌の現状 腹腔鏡の胃癌手術	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
14	高齢者に対する胆道癌手術 膵疾患の腹腔鏡下手術	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
15	腹腔鏡下脾臓摘出術 肝切除の基本	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
16	直腸癌の機能温存手術 直腸癌に対する低侵襲手術	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
17	がん患者の代謝と栄養管理 消化器外科領域における手術部位感染対策	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
18	食道切除後の再建法 Barrett 食道	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
19	胃癌術後合併症とその管理 胃癌における周術期栄養管理	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
20	胆道癌診療ガイドラインの必修ポイント 膵癌の集学的治療	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
21	肝細胞癌に対する肝移植 ALPPS 手術 -新たな肝切除術式-	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
22	大腸における発がん及びがん進展機構 急性虫垂炎、小腸腸閉塞、下部消化管穿孔に対する外科治療	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
23	まとめ	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	講義	〃

授業科目	臨床外科学特論演習 Advanced Research of Clinical Surgery, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		看護	修士論文コース：選択 専門看護師コース：選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	臨床研究の基本を理解し、必要最低限の知識を涵養する。手術に関連する急性期の課題(身体的問題・精神的問題・医療経済)あるいは長期的な課題(QOL・予後・ICER)に対して、科学的なアプローチが出来ることを目的とする		
到達目標	1. 周術期における臨床的問題点を抽出できる。 2. 臨床研究の基本・治験・研究倫理・被験者保護について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①畠山勝義(監修) 北野正剛/田邊 稔/池田徳彦(編) [最新版] 「標準外科学 第14版」 医学書院		
参考書	①医療情報科学研究所(編) [2020] 「病気がみえる vol.1 消化器(第6版)」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 また、ICR 臨床研究入門による自主的学習を主体とし、修了証が発行される。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	学習法オリエンテーション	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	水口
2	臨床研究概論	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	e-learning	〃
3	治験を前提とした臨床試験	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
4	治験を前提とした非臨床試験	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
5	治験とは	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
6	症例一対象研究	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
7	コフォート研究	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
8	仮説検定	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
9	交絡・ランダム化と因果関係	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
10	研究倫理と被験者保護	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
11	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
12	プロトコール作成	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃

13	研究コンセプトの作り方	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
14	論文の書き方	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
15	まとめ	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	〃

授業科目	臨地実習（小児看護）1 Advanced Clinical Practice (Child Health Nursing) 1	2 学年・通年・2 単位（90 時間）	
		看護	修士論文コース：－ 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀（保健医療学研究棟 E112） e-mail：miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	既習の学び(病態生理、フィジカルアセスメント、臨床薬理等、小児看護コースワーク等)を統合し、専門家からのスーパービジョンをうけながら、小児看護専門看護師が医師らと協働する中で必要となる小児の診断と治療のプロセスに関して実習を通じて学ぶ。		
到達目標	1. 小児の Physical Examination を理解し、実施の根拠を述べられる。 2. 小児の診断と治療のプロセスを説明することができる。 3. 小児の診断と治療のプロセスに必要な倫理的態度をとることができる。		
評価	1. 患者への Physical Examination の技術に関する評価 2. 患者への Physical Examination の知識に関するレポートの評価 3. 患者への Physical Examination と他の情報により決定する診断と治療のプロセスについての討議内容 4. カンファレンスやスーパーバイズを通しての学習到達度への評価		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に相応しい健康状態であること 1) 感染症抗体価を備える：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B 型肝炎の抗体検査を実施し、陰性の場合は予防接種を受ける。冬季はインフルエンザの予防接種を受ける(アレルギー等がある場合を除く)。 2) 胸部レントゲン撮影を含む大学の健康診断もしくは職場の健康診断を受けている。 ・実習期間中は、傷害・賠償・感染事故に対応する補償制度に加入する。 ・対象者、施設に関する個人情報の保護は「臨地実習概要」に則り遵守すること。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p>実習の詳細は実習要項として別に定める。</p> <p>院生は小児科医師であるスーパーバイザー（以下、SV とする）についてシャドローイング形式で事例に関わる。SV は以下の方法で院生・事例に関わる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院生が診療に同席することの事例(小児・家族)への同意をとる。 2) 事例の選定は SV に委ねられる。事例の年齢、性別、診断等は問わないが、できるだけ特定対象に偏ることがないように、広範な事例を経験することが望ましい。 <p>参考例</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 小児の Physical Examination (問診、聴診、視診、触診、打診) と診察のコツ b. 小児によくみられる症状(発熱、咳・呼吸困難、嘔吐、下痢、腹痛、けいれん等)からの診断、治療法の選択 c. 乳幼児健診、学校健診における成長・発達の査定、異常がある時の対応 d. 予防接種；スケジュールの確認、実施に際しての留意点、保健指導 e. 外来検査の適応(採血、採尿、鼻・咽頭粘膜採取、胸腹部レントゲン撮影等)と留意点 f. 気をつけたい初診時の対応(ウイルス性疾患、思春期の小児、他) g. 小児慢性疾患のフォローアップケースにおける診断、治療上の留意点 h. 小児と親・家族に対する保健指導のコツ(薬物管理を含む)と多職種連携 <p>3) 事例の状況によって院生が Physical Examination できるような場合は、SV の指導のもと院生に体験させる。</p> <p>診療終了後に、SV が事例に診断・治療したその思考過程を院生に説明する。</p>
実習期間	当該年度の2週間。実習期間は目安であり、到達目標が達成されるまでは期間が延長になる可能性がある。実習の詳細は別の実習要項に定める。
実習場所	元町こどもクリニック(札幌市)

実習時間	実習時間は施設側との協議の上で決める。
実習内容	<p>シャドーイング学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生は実習施設を訪れた様々な健康課題を抱えた小児とその家族 10 事例以上に SV と共にシャドーイング形式で関わる。 ・院生は事例を通して診断のプロセスを学ぶ。その中で SV が行う Physical Examination を見学する。その際、様式 1 (Physical Examination Chart) を活用し、要点を纏めながら見学する。 ・院生は SV が小児に行う Physical Examination の様子を見学し、コツについて適宜、指導をうける。指導された内容は、適宜、メモし、フィールドノートにまとめる。フィールドノートの様式は問わない。 ・院生は SV が小児に行う診療(診断・検査・治療を含む)のプロセスに同席し、診療終了後にそのプロセスについても SV より説明をうける。但し、小児の診療が優先になるため、即時の説明になるとは限らない。 ・院生は SV が小児に行う診療が円滑に進むよう取り組んでいる各種活動(例：検査方法の学習会、多職種ミーティング等)にも実習期間中は可能な限り参加し、学ぶ。 <p>Physical Examination の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児と家族より同意が得られたら、SV の指導のもとに Physical Examination を実施する。院生が事例の Physical Examination を行った後は、所見を SV に報告し、SV から指導を受ける。 <p>レポート作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了時に到達目標 1、2 に焦点をあてた事例レポートを作成する。10 事例以上作成し、これを実習の最終レポートとする。 <p>プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生は 1 週間に 1 回以上、事例のプレゼンテーションを教員へ行い、実習目標の達成状況を共に確認する。院生はその後の学習の進行予定を教員に伝え、指導をうける。

授業科目	臨地実習（小児看護）2 Advanced Clinical Practice (Child Health Nursing) 2	2 学年・通年・2 単位（90 時間）	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀（保健医療学研究棟 E112） e-mail：miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	小児看護学特論・演習ならびに専門看護師コースで学んだ学習等を統合し、小児看護の実践における専門家からのスーパービジョンをうけながら、小児看護専門看護師として様々な健康課題を抱えた事例（小児/親/家族）に対して卓越した看護（アセスメント、実施、評価）を実践できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な健康課題を抱えた事例（小児/親/家族）に対して適切なアセスメントが行える。 2. 様々な健康課題を抱えた事例（小児/親/家族）に対して卓越した看護実践が行える。 3. 様々な健康課題を抱えた事例（小児/親/家族）に対して適切な評価が行える。 		
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度看護実践に関する評価 2. 看護ケアを向上させる小児看護専門看護師の役割機能に関するレポートの評価 3. 実習に基づくケースレポートの評価 4. カンファレンスやスーパーバイズを通しての学習到達度への評価 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に相応しい健康状態であること 1) 感染症抗体価を備える：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B 型肝炎の抗体検査を実施し、陰性の場合は予防接種を受ける。冬季はインフルエンザの予防接種を受ける（アレルギー等がある場合を除く）。 2) 胸部レントゲン撮影を含む大学の健康診断もしくは職場の健康診断を受けている。 ・実習期間中は、傷害・賠償・感染事故に対応する補償制度に加入すること ・個人情報の保護は「臨地実習概要」に則り遵守すること ・臨地実習 2・3 は同一施設で実施すること 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p>実習の詳細は、実習要項として別に定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の小児病棟、外来等で、実際に事例（小児/親/家族）を受け持って実習を行う。 2. 受け持ち事例数は 5 事例以上とする。 3. 受け持ち事例の選定は、院生の希望をふまえ、施設側と協議の上で決定される。 4. 毎日の実習開始時に実習指導者と打ち合わせを行い、終了時に実習指導者へ報告をし、ケアのスーパービジョンを受ける。 5. 実習期間中、平日の日中に実習を行うが、状況により変動する。 <p>実習期間中に教員への事例プレゼンテーション、教員・実習指導者・院生からなるカンファレンスを企画、運営する。</p>
実習期間	2 年次の 2 週間。実習期間は目安であり、到達目標が達成されるまでは期間が延長になる可能性がある。
実習場所	札幌医科大学附属病院、北海道立子ども総合医療・療育センターのいずれか一箇所。実習場所は院生の希望を述べることができる。
実習時間	原則、8 時～16 時。但し、状況により、時間は変動する。

<p>実習内容</p>	<p>概要を以下に簡潔に述べる。院生は以下の事を行うこと。</p> <p>【事例に対する高度看護実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5事例以上を受け持ち、ケア実践に携わる ・勤務者の看護師が事例を担当する場合に行う生活援助、診療介助の全般について可能な限り携わる。但し、実施に際しては予め実習指導者らと協議の上、行うこと (薬剤の調合・投与、電子カルテへの記載等は当該施設の看護師しか行えない場合があるため) ・事例に行ったケアを実習指導者、看護チームへ報告し、フィードバックの機会を得る。報告の形式は問わない(申し送り、事例検討会、口頭連絡、他) ・適時、研究論文をクリティークし、事例に行うケアの創造、根拠に活用していくこと <p>【プレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に1回以上、事例のプレゼンテーションを教員へ行い、事例に対するアセスメントの適切さ、実践したケアの質について指導・助言を受けること ・実習目標の達成状況を共に確認すること <p>【カンファレンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中にカンファレンスを企画すること ・ディスカッションを通じ、ケアの洞察を深めること <p>【レポート作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了時に受け持った5事例以上について、到達目標1～3に焦点をあてた事例レポートを作成すること ・作成の際、日本看護協会ホームページ「専門看護師(CNS)認定の手引き」を参照すること。 ・レポート作成時には以下の「評価の視点」を参考にすること <ul style="list-style-type: none"> ①看護実践の場面において卓越性を示している(状況の全体像の把握、適切なアセスメントに基づく判断、援助方法・技術の適切さ、援助の結果を評価し、次へのステップに活かしている) ②小児看護の実践領域を十分にカバーするような経験を記している ③論旨の一貫性、誤字・脱字がない
-------------	--

授業科目	臨地実習（小児看護）3 Advanced Clinical Practice (Child Health Nursing) 3	2 学年・通年・6 単位 (270 時間)	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	小児看護学特論・演習ならびに専門看護師コースで学んだ学習等を統合し、小児看護の実践における専門家からのスーパービジョンをうけながら、小児看護専門看護師としてのコンサルテーション、調整、倫理的課題への対応、教育活動に携わることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行うことができる。 2. ケアが円滑に進むよう保健医療福祉等関係者と連携し、調整役を果たすことができる。 3. 事例が抱える倫理的な課題を明らかにし、解決に導くプロセスを示すことができる。 4. 看護職者に対してケアの改善・向上を目指した教育的役割を果たすことができる。 		
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度看護実践に関する評価 2. 看護ケアを向上させる小児看護専門看護師の役割機能に関するレポートの評価 3. 実習に基づくケースレポートの評価 4. カンファレンスやスーパーバイズを通しての学習到達度への評価 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に相応しい健康状態であること 1) 感染症抗体価を備える：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体検査を実施し、陰性の場合は予防接種を受ける。冬季はインフルエンザの予防接種を受ける(アレルギー等がある場合を除く)。 2) 胸部レントゲン撮影を含む大学の健康診断もしくは職場の健康診断を受けている。 ・実習期間中は、傷害・賠償・感染事故に対応する補償制度に加入すること ・個人情報の保護は「臨地実習概要」に則り遵守すること ・臨地実習(小児看護)1・2を履修していること ・臨地実習2・3は同一施設で実施すること 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p>実習の詳細は、実習要項として別に定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の小児病棟、外来等で、臨地実習2で受け持った5事例以上に高度看護実践を行いながら、①コンサルテーション、②教育、③調整、④倫理調整に関して、各2事例以上の取組みをする。 2. 事例の選定は、院生の希望をふまえ、施設側と協議の上で決定される。 3. 毎日の実習開始時に実習指導者と打ち合わせを行い、終了時に実習指導者へ報告をし、スーパービジョンを受ける。 4. 実習期間中、平日の日中に実習を行うが、状況により変動する。 <p>実習期間中に教員への事例プレゼンテーション、教員・臨床指導者・院生からなるカンファレンスを企画、運営する。</p>
実習期間	2年次の6週間。実習期間は目安であり、到達目標が達成されるまでは期間が延長になる可能性がある。
実習場所	札幌医科大学附属病院、北海道立子ども総合医療・療育センターのいずれか一箇所。実習場所は院生の希望を述べることができる。
実習時間	原則、8時～16時。但し、状況により変動する。

実習内容	<p>概要を以下に簡潔に述べる。</p> <p>院生は、臨地実習2で受け持った事例に高度看護実践を行いながら以下の活動を行う。</p> <p>【看護者に対するコンサルテーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2事例以上のコンサルテーション活動に携わる ・実習施設の看護者からの相談に対して、適切に内容を把握し、内容に応じた方策を用いて対応する ・対応した結果を自身で、または相談者と共に振り返り、次の方向性を示す <p>【保健医療福祉等関係者との間の調整活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2事例以上の調整活動に携わる ・看護職以外の保健医療福祉等関係者との調整場面において、調整の方向性を明らかにする ・調整の方向性(目的)に応じた相応しい方法で関係者に関わる ・活動した結果について自身で、または関係者と共に振り返り、次の方向性を示す <p>【倫理的な問題・葛藤の解決をはかる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例(小児・親・家族)や集団の権利を守るために、2事例以上の倫理的な問題・葛藤の解決をはかる取組みを行う ・問題が生じている状況を適切に把握する ・介入する際には、事例や集団の権利を擁護する立場なのかを適宜、振り返り、実習指導者らと意見交換する。 ・院生は活動の結果について自身で、または関係者と共に振り返り、次の方向性を示す。 ・院生が直接的に携わることが難しい場合があるかもしれない。その際は、実習指導者の取組みから間接的に学習する <p>【看護者への教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよいケアのために看護者を対象に2事例以上の教育活動に携わる ・看護者の教育ニーズを把握し、教育計画(目的、方法、評価の視点)を立案する ・教育活動の結果について自身で、または関係者と共に振り返り、次の方向性を示す <p>【プレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に1回以上、活動のプレゼンテーションを教員へ行い、活動内容に関してアセスメントの適切さ、実践した活動の質について指導・助言を受けること ・実習目標の達成状況を共に確認すること <p>【カンファレンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間中に活動内容に関するカンファレンスを企画すること ・ディスカッションを通じ、ケアの洞察を深めること <p>【レポート作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生は、①コンサルテーション、②教育、③調整、④倫理調整に関して、各2事例以上のレポートを作成すること ・レポートの文字数、形式は問わないが、到達目標に照らし、日本看護協会ホームページ内にある「専門看護師(CNS)認定の手引き」を参考に作成すること
------	--

授業科目	臨地実習（クリティカルケア看護）1 Critical Care Nursing Practicum 1	2 学年・通年・8 単位（360 時間）	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子（保健医療学研究棟 E210） e-mail：masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口 裕紀子、木村 美恵子		
概要	クリティカルケアを必要とする患者およびその家族に対して高度で専門的な看護を実践するための基礎的な能力を育成する。またクリティカルケアを担う専門看護師として必要な倫理的態度を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者を含むケア提供者に対する相談、調整、倫理調整、教育、研究などに対する専門看護師としての役割について検討できる。 2. クリティカル期の生体機能の安定が必要となる患者の身体的状態について、高度な知識に基づいた看護判断と実践ができる。 3. クリティカル期にある患者とその家族の全人的な苦痛を緩和するために、高度な看護判断に基づく看護実践ができる。 4. 倫理的感性を高め、クリティカル期の患者とその家族の倫理的な問題を調整し対応することができる。 5. クリティカルケアを実践する場が患者にとって安全・安楽な環境であるようにマネジメントすることができる。 6. クリティカル期からポストクリティカル期、急性期リハビリテーションにおけるケアの継続性の必要性と方法について検討できる。 7. 患者の受け持ちを通して相談、調整、倫理調整、教育、研究などの専門看護師としての役割を実践することができる。 		
評価	看護実践に関する場面、実習記録、カンファレンスなどでの討議内容、参加態度をもとに総合的に評価を行う		
履修上の留意点	事前に個人情報保護、感染症などに係る事項について臨地実習施設に確認しておくこと		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	急性・重症患者看護専門看護師としての実践力を修得するために、実習要項・実習概要に沿って実習を行う。
実習期間	2年生の前・後期を通じて可能な時期に8単位の該当する8週間の実習を行う。
実習場所	札幌医科大学附属病院(ICU、高度救命救急センター、手術室、病棟、リハビリテーション室)他
実習時間	原則8時30分～17時30分とするが、実習内容に応じて柔軟に対応する。

<p>実 習 内 容</p>	<p>1. 適宜、実習指導者からスーパービジョンを受けて実習を行う。また以下の内容が実施できるように実習計画・実習予定を立案して実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門看護師の実践に参加して専門看護師としての役割と機能について実習する。 2) クリティカル期(集中治療部門・救急部門)からポストクリティカル期までの患者を受け持って看護実践を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①受け持ち患者の身体状況、全人的苦痛、倫理的問題、治療環境についてアセスメントを行い、それに基づいた看護実践を展開する。 ②受け持ち患者・家族の危機状況をアセスメントして、適宜看護介入を行う。 ③必要に応じて相談、調整、倫理調整に関する計画を立案して実践する。 3) 看護実践の中でスタッフナースに必要と考えた教育支援の計画を立案して実施する。またスタッフのニーズにあわせた研究支援を実施する。 4) 看護実践内容についてケースレポートとして2事例以上をまとめ、実習指導者・チームメンバー・担当教員と検討する。 5) 最終日は、レポートをまとめ実習指導者・教員の参加のもとでカンファレンスを行い、実習目標の達成状況および課題について確認する。 <p>2. 記録 実習計画書、実習予定表、行動記録用紙、教育計画用紙、実施記録用紙(実践、相談、調整、倫理調整、教育)、ケースカンファレンス用紙 他</p> <p>3. 指導体制 クリティカルケア看護学を専門とする教員及び急性・重症患者看護専門看護師の教員・実習指導者を中心に指導を行う。担当教員(田口 裕紀子他)</p>
----------------	--

授業科目	臨地実習（クリティカルケア看護）2 Critical Care Nursing Practicum 2	2 学年・通年・2 単位（90 時間）	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澄川 真珠子（保健医療学研究棟 E210） e-mail：masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田口 裕紀子、木村 恵美子		
概要	札幌市以外の地域の拠点病院での実習を通して地域のクリティカルケアの現状と課題について考察する。 また、実習を通して北海道における急性・重症患者看護専門看護師の役割について理解を深め、地域の特性に応じた急性・重症患者に対する具体的な援助を実践する能力を修得する。		
到達目標	1. 北海道のクリティカルケアの現状と課題について検討できる。 2. 北海道における疾病、外傷などの特徴について説明できる。 3. 1 と 2 を踏まえた上で北海道における急性・重症患者看護専門看護師の役割について検討できる。 4. 施設間連携、多職種間連携のあり方を通してチーム医療における急性・重症患者看護専門看護師の役割と実践方法について説明できる。		
評価	看護実践に関する場面、実習記録、カンファレンス等での討議内容、参加態度をもとに総合的に評価を行う。		
履修上の留意点	事前に個人情報保護、感染症などに係る事項について臨地実習概要で確認しておくこと		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	急性・重症患者看護専門看護師の役割を理解するために、実習要項・実習概要に沿って実習を行う。
実習期間	2 年生の前・後期を通じて可能な時期に 2 単位の該当する 2 週間の実習を行う。
実習場所	砂川市立病院(救急科、集中治療室) 市立千歳市民病院(救急外来)他
実習時間	原則 8 時 30 分～17 時 30 分とするが、実習施設および実習内容に応じて柔軟に対応する。
実習内容	1. 実習内容：適宜、実習指導者からスーパービジョンを受けて実習を行う。 1) 実習指導者の指導のもとで救急科、救急外来に搬送される患者・家族への援助を行う。 2) 搬送される患者から当該地域、北海道における急性・重症患者の特徴と急性・重症患者看護専門看護師の役割についてカンファレンスを行う。 3) 傷病者が救急医療施設到着まで、また退院・転院までの施設間・職種間の連携方法について見学を行い、チーム医療における急性・重症患者看護専門看護師の役割と実践方法についてレポートにまとめる。 2. 記録：実習計画書、実習予定表、行動記録用紙、レポート他 3. 指導体制：クリティカルケア看護学を専門とする教員及び急性・重症看護専門看護師の教員で実習指導を行う。 担当教員(田口 裕紀子 他)

授業科目	臨地実習（精神看護）1 Advanced Clinical Practice of Psychiatric Nursing 1	1 学年・通年・4 単位（180 時間）	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ（保健医療学研究棟 E207） e-mail：izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	精神看護学特論および精神看護学特論演習等の学習内容と並行して、単科精神科病院である五稜会病院の病棟と外来において直接の看護実践を中心とした実習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害のある対象者の健康状態に即した看護を実践し評価できる 2. 病棟の看護師・看護師長と協調しながら対象者への看護を実践できる 3. 精神科外来に通院する患者の療養と社会生活を支援する実践ができる 4. 望ましい治療環境を構築するための調整役割を実施することができる 		
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者への直接ケア（看護実践）に関する評価 2. 看護ケアを向上させる精神看護専門看護師の役割機能に関するレポートの評価 3. 実習に基づくケースレポートの評価 4. カンファレンスやスーパーバイズを通しての学習到達度への評価 		
履修上の留意点	インフルエンザ・ノロ等の伝染性疾患が疑われるときは、実習先に連絡のうえ医療機関を受診し、診断が出るまで待機すること。実習で知り得た個人情報の扱いについては、実習施設および札幌医科大学保健医療学部の個人情報の取り扱いに関する指針に従い厳重に取り扱うこと。担当教員と密に連絡をとること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科単科の専門病院において統合失調症や気分障害、人格障害などの診断を受けた患者を受け持ち、精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら直接ケアを実践する。 2. 卓越した看護実践を行うために不可欠な、病室や病棟内の患者関係や患者—看護師間のダイナミクスを考慮した看護ケア向上のための連携調整について指導を受ける。 3. 実施した看護をもとにケース検討を行う。 4. 受け持った患者について、実習の終了後ケースレポートを作成し、提出する。 5. 実習中の治療的な活動については、実施計画を作成し、精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら実施する。 6. 治療的な活動については、実施した内容をもとにレポートを作成し、ケース検討を行う。
実習期間	1 年次の前・後期を通じて可能な時期に 4 単位に相当する 4 週間の実習を行う。
実習場所	医療法人社団 五稜会病院
実習時間	原則 8 時 30 分～17 時 30 分とするが、施設や受け持った対象者の状況によって柔軟に対応する。

実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1名の受け持ち患者(対象者)を、対象者との同意に基づき担当し4週間実習を行なう。実習期間が長期にわたるため、患者が退院・転科した場合は改めて別の患者を受け持つ。あるいは、同時に複数の患者を受け持つ場合もある。 2. 対象者は、統合失調症や気分障害、人格障害などの精神障害のある患者として、専門看護師の指導のもと、スタッフナースおよびチームと連携して患者のアセスメントから看護プランの立案、看護プランの実施と評価を行う。 3. 実習期間中は専門看護師の指導のもと、受け持ち患者をめぐる他部署との連絡調整、スタッフナースやチームリーダーとの連携、スタッフミーティング、外来の患者対応、集団精神療法、個人精神療法などに積極的に参加する。 4. 週に一度、受け持ち患者の所属するチームリーダーとケア方針等についての情報交換を行い、患者ケアについての指導を受け、ケアの質の向上に努める。 5. 実習の主な実践場所となる病棟の患者間、患者—看護師間、看護師間、医師—看護師間などにみられるダイナミズムをより良好な治療環境を構築するためにアセスメントし、専門看護師および看護管理者から専門看護師の調整役割について指導を受ける。 6. 専門看護師の指導のもと、地域における精神科病院とそこに勤める専門看護師に求められる機能と役割を学ぶ。
------	---

授業科目	臨地実習（精神看護）2 Advanced Clinical Practice of Psychiatric Nursing 2	2 学年・通年・4 単位（180 時間）	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ（保健医療学研究棟 E207） e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	精神看護学特論および精神看護学特論演習等の学習内容を統合し、特定機能病院・地域基幹病院の外来、病棟、並びに精神科リエゾンチームにおいて指導教員や実習指導者のスーパービジョンを受けながら、精神看護専門看護師に求められる役割である看護実践、相談、調整、教育、倫理調整に関する実習を行う。看護実践においては、医学的診断と治療選択に参与しながら、看護診断を行い、個人・集団を対象とした精神療法に基づく治療的介入の実践と評価を行うものとする。		
到達目標	外来実習・精神科リエゾンチーム実習 1. 初回診療における精神科診断と診療のプロセスについて説明できる。 2. 精神科リエゾンチームにおける直接ケアについて、指導を受けながら計画立案、実施・評価できる。 3. 精神科リエゾンチームにおけるコンサルテーション、コーディネーションの実際と CNS の役割について説明できる。 特定機能病院・地域基幹病院病棟実習 1. 入院している人(以下対象者)の健康問題をアセスメントし、看護ケアのプランを立て実施し評価することができる。 2. 対象者のアセスメントの基づき、適切な精神療法を指導のもと行うことができる。 3. 対象者の退院調整のため必要な職種と調整活動を実施できる。 4. 自殺企図の再発防止に対する複合的ケース・マネージメント(Action-J)の実際と CNS の役割について説明できる。 5. 特定機能病院・地域基幹病院の精神領域の CNS の役割を説明できる。		
評価	実習内容、レポート等から総合的に評価する。		
履修上の留意点	インフルエンザ・ノロ等の伝染性疾患、新型コロナウイルスの罹患が疑われるときは、実習先に連絡のうえ実習機関の指示に従う。実習で知り得た個人情報の扱いについては、実習施設および札幌医科大学保健医療学部の個人情報の取り扱いに関する指針に従い厳重に取.原則として4週間の実習を行なう。 実習期間が長期にわたるため、神経精神科病棟のプログラム運用の実態も考慮し、必要な場合はインターバルをとることもある。担当教員と密に連絡をとること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	1. 外来実習(1 週間) 主に札幌医科大学附属病院神経・精神科外来にて精神看護専門看護師のシャドーイングを行い、初回診療、精神科リエゾンチームに関わる活動に参加する。 2. 特定機能病院精神科病棟実習(2 週間) ・精神看護専門看護師の指導のもと、札幌医科大学附属病院神経・精神科病棟において、患者を1名以上受け持ち、直接ケア、精神療法的関り、コーディネーションを実施する。 ・Action-J 対象の患者への関連スタッフの面談に参加する。 ・倫理的課題について、レポートにまとめその対応を検討する。 3. 地域基幹病院実習(1 週間) ・地域基幹病院の CNS に同行し、地域基幹を含めた CNS の役割について学ぶ 4. 上記の活動についてレポートにまとめる。
実習期間	1. 概ね4 単位に相当する4 週間以上を実習期間とする。 2. 精神療法の実習は、4 週間の実習中に毎週1~2 回程度、継続して実施する。
実習場所	札幌医科大学附属病院神経精神科、並びに地域基幹病院の病棟・外来、精神科リエゾンチームを中心に実習を行う。 必要に応じて個人・集団精神療法を実践しているクリニックで実習を行う。 地域基幹病院は調整中
実習時間	原則8 時30 分~17 時30 分とするが、施設や受け持った対象者の状況によって柔軟に対応する。

実習内容	<p>外来実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主としてシャドローイング学習とする。 ・精神科外来における初回診療を見学し、精神科診断における面接技法並びに治療方針の決定のプロセスについて担当医と意見交換する。 ・精神科リエゾンチームの活動に同行し、CNS の指導の下、コンサルテーションにおける直接ケアを実施する。状況によってはコンサルティ中心のコンサルテーションを実施する。 <p>特定機能病院病棟実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者を一人受け持ち、看護診断に基づく看護ケア(精神療法的関りを含む)を実践し評価する。 ・受け持ち患者の退院を視野に入れたコーディネーションの一環として、ケース検討を実施する。 ・Action-J 対象の患者に対する活動に参加し、看護診断に基づく看護ケア(精神療法的関りを含む)を実践し評価する。 <p>地域基幹病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主としてシャドローイング学習とする。 ・地域基幹病院における CNS の病棟内、院内、院外における活動に同行し、地域精神保健活動における CNS の役割を学ぶ。
------	---

授業科目	臨地実習（精神看護）3-1 Advanced Clinical Practice of Psychiatric Nursing 3-1	2 学年・通年・2 単位（90 時間）	
		看護	修士論文コース：－ 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ（保健医療学研究棟 E207） e-mail：izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	訪問看護ステーション縁（北海道釧路市）を地域精神看護実習の拠点にし、臨地指導者、精神看護学の専任教員、精神看護専門看護師からスーパービジョンを受けながら地域をフィールドとした専門的精神看護援助の実習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域において精神的問題を持つ人の生活を支えるための訪問看護における専門的看護技術を獲得する。 2. 対象者に関わる施設・職種の役割を理解し、対象に最大限のメリットが届くよう調整機能を果たすことができる。 3. 対象者に関わる支援者からのコンサルテーションを実践できる。 4. 地域で精神的問題を抱えて暮らす人々を援助する際の倫理的問題を関係者と探索する場を運用できる。 5. 支援に関わる人々と当該地域の精神保健医療福祉の課題を検討する場（教育）を運営できる。 6. 地域において精神的問題を持つ人の生活を支えるための精神看護専門看護師としての役割について述べるができる。 		
評価	実習内容、レポート等から総合的に評価する。		
履修上の留意点	<p>伝染性疾患が疑われるときは、実習先に連絡のうえ医療機関を受診し、診断が出るまで待機すること。実習で知り得た個人情報の扱いについては、実習施設および札幌医科大学保健医療学部の個人情報の取り扱いに関する指針に従い厳重に取り扱うこと。臨地実習 3 は、3-1（地域精神看護）または 3-2（児童思春期精神看護）からいずれかを選択して履修すること。担当教員と密に連絡をとること。</p> <p>実習期間中は、当該実習施設の受け入れ責任者と学生、また、受け入れ責任者と精神看護学教員は連絡を密にし、実習の目的が安全に達成できるよう適宜学生を指導する。</p>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、実習計画書を作成し実習時期、実習の具体的な進め方について、精神看護学教員と相談しながら訪問看護ステーションと調整をすすめる。 2. 臨地実習指導者、精神看護学専任教員および精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら個別の看護計画を立案し、直接ケア並びにコーディネーションを実践してフィードバックをもらう。 3. 実習施設の関係者よりコンサルテーションを受け、実施・評価を行う。 4. 実習を通じて明確にした倫理的課題と地域課題について地域関係者へ報告しフィードバックを得る場（教育）を調整・運営する。 5. 実習終了後には直接ケア、コーディネーション、コンサルテーション、教育についてレポートを作成し、訪問看護ステーションの臨地指導者らに提出する。 6. 実習中には適宜、精神看護学教員は当該実習施設の責任者と連絡を取り、直接ケアや調整、コンサルテーション、倫理問題・地域課題の検討についての進捗状況について確認する。
実習期間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2 単位に相当する 2 週間以上を実習期間とする。 2. この精神看護実習 3-1 は、精神看護実習 1 および 2 が終了後に取り組みれることが望ましい。
実習場所	訪問看護ステーション縁と利用者が関わる関連機関。学生との協議により決定する。
実習時間	設定した実習の目的に応じて施設とも相談し決定する。

実習内容	<p>訪問看護実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションを利用する対象者に対し、ステーションスタッフと同行訪問を行い関係性構築と情報収集集集を行い、アセスメントと看護計画を立案する。 ・2週間の訪問看護活動を計画し、対象者の許可が得られれば単独訪問を実践し評価を行う。 <p>調整とコンサルテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が関わる機関を訪問し、活動の実際を体験する。 ・対象者が関わる機関の関係者と情報共有を行い必要な調整を実践し評価する。 ・対象者が関わる機関の関係者からコンサルテーションを受け、実施し評価する。 <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で関係した人々を対象に報告会を企画運営する。 ・学生が精神看護実習3で学んだ内容は、レポートにして当該実習施設の受け入れ責任者に提出する。
------	--

授業科目	臨地実習（精神看護）3-2 Advanced Clinical Practice of Psychiatric Nursing 3-2	2 学年・通年・2 単位（90 時間）	
		看護	修士論文コース：－ 専門看護師コース：専攻分野必修

科目担当責任者	澤田 いずみ（保健医療学研究棟 E207） e-mail：izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員
担当教員		
概要	児童・思春期精神看護問題を学ぶために、札幌市子ども発達総合支援センターを実習地とし、臨地指導者、精神看護学の専任教員からスーパービジョンを受けながら、医療、教育、福祉のチーム支援における専門的看護援助の実習を行う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・思春期精神看護における精神看護専門看護師としての役割について述べるができる。 2. 精神・情緒的課題を抱えた児童・思春期の子ども・家族についてアセスメントを実施できる。 3. 精神・情緒的課題を抱えた児童・思春期の子どもと家族に必要な個人・集団的支援を計画・実施・評価できる。 4. 精神・情緒的課題を抱えた児童・思春期の子どもに関わる他職種と連携した支援をコーディネートできる。 5. 精神・情緒的課題を抱えた児童・思春期の子どもに関わる他職種との連携支援の向上を図るコンサルテーション活動を実施・評価できる。 	
評価	実習内容、レポート等から総合的に評価する。	
履修上の留意点	伝染性疾患が疑われるときは、実習先に連絡のうえ医療機関を受診し、診断が出るまで待機すること。実習で知り得た個人情報の扱いについては、実習施設および札幌医科大学保健医療学部の個人情報の取り扱いに関する指針に従い厳重に取り扱うこと。臨地実習 3 は、3-1(地域精神看護)または 3-2(児童思春期精神看護)からいずれかを選択して履修すること。担当教員と密に連絡をとること。	

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上記目標達成のための実習計画書を作成し具体的な実習の方法について実習希望先の責任者および精神看護学教員と検討する。 3. 精神看護実習 3-2 では、受け持ち対象者については、学生が立てた実習の目的に応じて、また施設の状況によって当該施設の責任者等と相談のうえ決定する。 4. 当該施設での実習では、精神看護学教員および精神看護専門看護師ないし実習の受け入れ責任者のスーパービジョンを受けながら、直接ケアを行い、実習終了後にはレポートを作成して当該実習施設に提出する。 5. 実習終了後のレポートが提出された後、精神看護学教員は当該実習施設に赴き、実習生の直接ケアの評価について意見を交換する。 6. 実習中には適宜、精神看護学教員は当該実習施設の責任者と連絡を取り、直接ケアの進捗状況について確認する。
実習期間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2 単位に相当する 2 週間以上を実習期間とする。 2. この精神看護実習 3 は、精神看護実習 1 および 2 が終了後に取り組まれることが望ましい。
実習場所	札幌市子ども発達支援総合センター(主として児童心理治療センター)
実習時間	設定した実習の目的に応じて施設とも相談し決定する
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2 週間実習の実習期間中に学生自らが設定した目的・目標を達成できるよう以下の実習内容を精神看護学教員や専門看護師および当該実習施設の責任者と検討しながら実習をすすめる。 2. 初回相談から精神科外来受診にいたる相談活動を体験し、アセスメントならびに支援計画を立てる 3. 児童心理治療センター(以下、施設)と精神科外来の双方を利用している同意を得られた子どもを 1 名受け持ち、施設スタッフとともに家族も含めたアセスメント・支援計画を立て直接ケアを実施し、評価を行う。 4. 受け持ちの子どもに関わる事例検討を通してコーディネーション活動を行う。 5. コンサルテーション活動として、施設におけるニーズに応じた学習会の企画・運営・評価を行う。 6. 児童精神科外来における思春期デイケアにおける集団プログラムを企画し、実施・評価を行う。 7. その他、学生が必要と思う支援活動を、実習先との調整の上、企画・実施・評価を行う。 8. 実習期間中は、当該実習施設の受け入れ責任者と学生、また、受け入れ責任者と精神看護学教員は連絡を密にし、実習の目的が安全に達成できるよう適宜学生を指導する。 9. 学生が精神看護実習 3 で学んだ内容は、レポートにして当該実習施設の受け入れ責任者に提出する。

授業科目	看護学特別研究 Advanced Seminar in Nursing	1 学年・後期～通年・10 単位 (300 時間)	
		看護	修士論文コース：必修 専門看護師コース：一

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	選択した専攻領域において指導教員の研究指導のもと、研究計画を立て、修士論文を作成するための研究を推進する。		
到達目標	看護学における研究を進めるために必要な指導を受けることで研究を推進し修士論文を作成する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プロセス全般の総合的な 観点	100%	研究計画に基づき研究を実施し、修士論文を作成するまでの過程を総合的に勘案し、指導教員への論文提出時に評価する。
教科書	①必要に応じて提示する。		
参考書	①必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	研究の進め方については適宜担当教員に確認、相談すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
	<教育研究領域> 基礎看護科学 感染看護学 女性健康看護学 小児健康看護学 成人健康看護学 老年健康看護学 精神看護学 地域看護学 臨床内科学 臨床外科学 上記のいずれかの領域から、専攻領域を選択し、指導教員の研究指導のもとに、修士論文を作成する。			指導教員

授業科目	看護学課題研究 Research Seminar in Clinical Nursing Practice	1 学年・後期～通年・4 単位 (120 時間)	
		看護	修士論文コース：— 専門看護師コース：必修

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	選択した専攻領域における指導教員の研究指導のもと、臨床における看護研究を推進するために必要な基本的な論文作成プロセスを推進する。		
到達目標	臨床における看護研究を進めるために必要なプロセスを推進し、課題研究論文を作成する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プロセス全般の総合的な観点	100%	課題研究推進のための指導のプロセス全般をとおして、指導教員への課題研究論文提出時に総合的な観点から評価する。
教科書	①必要に応じて提示する。		
参考書	①必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	研究の進め方については適宜担当教員に確認、相談すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
	○小児看護 ○クリティカルケア看護 ○精神看護 専門看護師コースの上記のいずれかの領域を選択し、臨床に密着した実践的な研究課題を設定し、指導教員の研究指導のもと修士論文を作成する。			指導教員

(博士課程前期)

理学療法学・作業療法学専攻

授業科目	理学療法学研究法特論 Advanced Research Methodology for Physical Therapy	1 学年・通年・3 単位 (45 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	山田 崇史 (保健医療学研究棟 E407) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	片寄 正樹、仙石 泰仁、松村 博文、渡邊 耕太、中村 真理子、太田 久晶、坂上 真理、谷口 圭吾、菅原 和広、佐々木 健史、岩本 えりか、井平 光、戸田 創、田代 英之		
概要	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画の立案と科学的研究の原理と方法について講義と討論を行い、理学療法に関する研究活動に応用する能力を養う。 研究計画立案に必要な一連の方法を習得し、院生が独力で研究計画書を作成することを目指す。 多様な研究様式に触れ、科学的方法論についての理解を深める。 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 研究のターミノロジーとプロセスを説明できる。 研究計画書の概要を説明できる。 研究の方法論について信頼性と妥当性の観点からそれを検討できる。 研究の臨床関連性を時間的有効性(Time Frame)と共に考察できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	100%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法における研究の意味・意義	事前：学部レベルの研究法についての復習	講義・演習	山田
2	雑誌、学会のシステム・役割、エビデンスレベル	事前：前回までの講義内容	〃	仙石
3	研究仮説の理解と作成 1	〃	〃	山田
4	研究仮説の理解と作成 2	〃	〃	〃
5	研究リテラシーの理解	〃	〃	谷口
6	量的研究デザイン 1	〃	〃	〃
7	量的研究デザイン 2	〃	〃	〃
8	質的研究デザイン 1	〃	〃	坂上
9	質的研究デザイン 2	〃	〃	〃
10	プレゼンテーション方法の違いとその活用	〃	〃	太田

11	研究ファンドの活用法	〃	〃	中村
12	筋機能制御学研究法	〃	〃	山田
13	神経・発達障害理学療法学研究法	〃	〃	未定
14	スポーツ理学療法学研究法	〃	〃	片寄
15	形態人類学研究法	〃	〃	松村
16	生体工学・スポーツ整形外科科学研究法	〃	〃	渡邊
17	生体機能評価学研究法	〃	〃	谷口
18	神経科学研究法	〃	〃	菅原
19	神経障害学研究法	〃	〃	佐々木
20	内部障害理学療法学研究法	〃	〃	岩本
21	高齢者・地域健康科学研究法	〃	〃	井平
22	運動器障害理学療法学研究法	〃	〃	戸田
23	臨床理学療法研究法	〃	〃	田代

授業科目	作業療法学研究法特論 Advanced Research Methodology for Occupational Therapy	1 学年・通年・3 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石 泰仁、中村 眞理子、太田 久晶、齊藤 正樹、石井 貴男、谷口 圭吾、坂上 真理、中島そのみ、中村 裕二、中村 充雄、山田 崇史、森元 隆文、横山 和樹、齊藤 秀和、他		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的研究の理論と方法について講義と討論を行い、作業療法学に関する研究能力を養う。 ・ 研究計画立案に必要な一連の方法を習得し、研究計画書を作成する能力を身につける。 ・ 研究に関する多様な理論的背景を学び、作業療法学に求められる学際的な視点を養う。 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究法に関する理論と研究プロセスを説明できる。 2. 研究計画書の概要を説明できる。 3. 研究手法について信頼性と妥当性の観点からそれを検討できる。 4. 作業療法の各専門領域における理論的枠組みとその変遷を説明できる。 5. 作業療法研究を学際的視点から説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	提出物：提出状況および記載内容
	学習態度	20%	学習態度：討論参加状況
	プレゼンテーション内容	70%	プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ① 「臨床疫学 EBM 実践のための必須知識」 メディカルサイエンスインターナショナル ② 「医学的研究のデザイン」 メディカルサイエンスインターナショナル ③ 「その他、担当教員より指示する。」 		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事後： 配布資料	講義	池田
2	学術雑誌・学会のシステムと役割、エビデンスレベル	〃	〃	仙石
3	研究仮説の理解と作成 1	〃	〃	山田
4	研究科説の理解と作成 2	〃	〃	〃
5	研究リテラシーの理解 1(変数、信頼性、妥当性など)	〃	〃	谷口
6	量的研究デザイン 1	〃	〃	〃
7	量的研究デザイン 2	〃	〃	〃
8	質的研究デザイン 1	〃	講義	坂上
9	質的研究デザイン 2	〃	〃	〃

10	プレゼンテーション法	〃	講義	太田
11	研究ファンドの種類と活用	〃	〃	中村
12	感覚統合障害学領域研究の実際	〃	〃	仙石・中島・中村(裕)
13	〃	〃	〃	〃
14	臨床精神・脳機能学領域研究の実際	〃	〃	石井
15	運動器障害作業療法学領域研究の実際	〃	〃	中村(眞) 中村(充)
16	〃	〃	〃	〃
17	作業科学領域研究の実際	〃	〃	坂上
18	中枢神経障害作業療法学領域研究の実際	〃	〃	太田・齊藤(秀)
19	〃	〃	〃	〃
20	脳神経内科学系領域研究の実際	〃	〃	齊藤(正)
21	地域生活科学領域研究の実際	〃	〃	池田・横山
22	精神障害リハビリテーション領域研究の実際	〃	〃	池田・森元
23	研究計画作成の実際(計画書立案)	事前：資料準備 事後：配布資料	演習	池田

授業科目	リハビリテーション教育学特論 Advanced Pedagogy in Rehabilitation	(博士課程前期・博士課程後期) 全学年・ 後期・2単位 (30時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	菅原 和広、堀口 雅美、(非常勤講師)		
概要	リハビリテーション医療領域での教育・指導者となる上で必要な教育原理および教師論の基礎を学ぶ。併せて、本邦および世界における理学療法士・作業療法士、看護師の教育の現況を理解し、カリキュラムのプランニング能力を培う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生存権、教育権を含む教育の概念および論争点を理解する。 2. 教育の目標・課程・教材・技術・評価の概念と相互関係を理解する。 3. 教育という行為の知慮深さを求められる特質を検討し、課題を理解する。 4. 日本および世界の理学療法士・作業療法士、看護師教育の実際を理解する。 5. 本学の理学療法士・作業療法士カリキュラムの特性を理解し、自らカリキュラムを編成する能力を培う。 6. 種々の教授法の特性を理解し、場面に応じた有効な教授法を選択できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物(プレゼン含む)	80%	提出物(プレゼンテーション含む) : 提出状況、記載内容 学習態度 : 討論参加状況
	学習態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①講義の際に適宜指示または配布する。		
履修上の留意点	授業で紹介する最新の高等教育および専門職養成教育関連資料以外にも、主体的に情報収集すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の整理	講義	池田・菅原
2	教育の概念	”	”	(非常勤講師)
3	専門教育の歴史的変遷と教育制度(作業療法)	”	”	池田
4	専門教育の歴史的変遷と教育制度(理学療法)	”	”	菅原
5	専門教育の歴史的変遷と教育制度(看護)	”	”	堀口
6	専門職教育の現状と課題(教育制度、教育課程の比較、他)1	レポート提出	演習	池田
7	専門職教育の現状と課題(教育制度、教育課程の比較、他)2	”	”	”
8	専門職教育の現状と課題(教育制度、教育課程の比較、他)3	”	”	”
9	教育法の理解(カリキュラムプランニング・シラバス設計・教育評価)	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の整理	講義	池田
10	教育法の実際(カリキュラムプランニング・シラバス設計・教育評価の実際)1	レポート提出	演習	”

11	教育法の実際(カリキュラムプランニング・シラバス設計・教育評価の実際)2	〃	〃	〃
12	臨床実習のあり方と方法(学生指導、施設要件、他)	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の整理	講義	菅原
13	臨床実習における学生評価	事前：配布資料の確認 事後：授業内容の整理	〃	〃
14	臨床実習プログラムの立案と学生評価の実際1	レポート提出	演習	〃
15	臨床実習プログラムの立案と学生評価の実際2	〃	〃	〃

授業科目	リハビリテーション管理学特論 Advanced Administration & Supervision in Rehabilitation	2 学年・前期又は後期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	片寄 正樹 (保健医療学研究棟 E409) e-mail : katayose@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 眞理子、谷口 圭吾		
概要	リハビリテーション医療領域における指導管理者育成の観点から、リハビリテーション管理の理論的背景とシステムに関する基礎知識ならびに理学療法および作業療法の具体的管理機構と方法について学習する。		
到達目標	1. 障害の社会的コストおよびリハビリテーションの費用効果などについて説明できる。 2. 適切なリハビリテーションを効果的に進めるサービス管理、人事管理、資源管理のあり方について説明できる。 3. 組織のグループダイナミクスを踏まえながら、目標達成に向けて組織を調整、統合するためのリーダーシップのあり方について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	50%	提出物の詳細 提出物：各開講日のショートレポート 学習態度：討論への参加状況
	学習態度	50%	
教科書	①日本医療マネジメント学会監修 「医療安全のリーダーシップ論」 MC メディカ出版(2,700 円) ②福原麻希 「チーム医療を成功させる 10 か条」 中山書店(3,240 円)		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	開講日のショートレポート(A4 3 枚)は必ず提出のこと		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション リハビリテーション経済学とリハビリテーション管理学(1)	事前：なし 事後：なし	講義・討論	片寄・中村 谷口
2	リハビリテーション経済学とリハビリテーション管理学(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
3	リハビリテーション経済学とリハビリテーション管理学(3)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
4	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するためのサービス管理について国内・外の違いを含めて学習する(1)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
5	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するためのサービス管理について国内・外の違いを含めて学習する(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：レポート作成・提出	〃	〃
6	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するための人事管理について国内・外の違いを含めて学習する(1)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
7	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するための人事管理について国内・外の違いを含めて学習する(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
8	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するための資源管理理論について国内・外の違いを含めて学習する(1)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
9	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するための資源管理理論について国内・外の違いを含めて学習する(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
10	リハビリテーション・サービスを効果的に提供するための資源管理理論について国内・外の違いを含めて学習する(3)	事前：文献指定部分の予習 事後：レポート作成・提出	〃	〃

11	医療組織におけるリーダーシップ論(1)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
12	医療組織におけるリーダーシップ論(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
13	医療組織におけるリーダーシップ論(3)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
14	目的達成に向けて組織を調整・統合するリーダーシップ理論について学習する(1)	事前：文献指定部分の予習 事後：ショートレポート作成	〃	〃
15	目的達成に向けて組織を調整・統合するリーダーシップ理論について学習する(2)	事前：文献指定部分の予習 事後：レポート作成・提出	〃	〃

授業科目	リハビリテーション特別課題研究 Rehabilitation Independent Studies	1 学年・後期～2 学年前期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	教育研究領域を選択し、指導教員の指導に基づき特定の課題を設定し、自主的な課題探索能力および理学療法学・作業療法学特別研究に向けた教育・研究を行う。		
到達目標	設定した研究課題に対し、自主的に学習を推進しながら、選択した教育研究領域における研究課題の探索能力を確保するとともに、課題解決に向けた方策を立案できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	指導教員による	100%	指導教員との討議への参加状況、課題提出状況により総合的に評価する。特に、研究の課題探索能力、および自立的な課題解決能力が確保されているかを評価する。
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	履修にあたっては、研究課題の設定など専攻する教育研究領域の指導教員の了承が必要です。事前に指導教員にご確認ください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-30	<p>以下の教育研究領域における特定の研究課題における自主的な課題探索能力の向上と、課題解決能力の向上を目的とした演習をすすめる。</p> <p><教育研究領域> 神経・発達障害理学療法学 感覚統合障害学 生体工学・スポーツ整形外科学 中枢神経機能障害学 スポーツ理学療法学 活動能力障害学 臨床精神・脳機能学 精神障害リハビリテーション学 神経・認知機能治療学 筋機能制御学 生体機能評価学 形態人類学 作業科学</p>			

授業科目	神経・発達障害理学療法学特論 Advanced Physical Therapy of Neurological & Developmental Disorder	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	菅原 和広 (保健医療学研究棟 E404) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員		
担当教員	佐々木 健史、井平 光、田代 英之			
概要	中枢神経障害による様々な病態を脳・脊髄の機能解剖学的知識を基礎にしながら理解する。また、知覚運動発達、中枢神経系の回復の可能性と限界などについて学び、より効果的・効率的な理学療法のあり方を考える			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経障害の病態を脳・脊髄の機能解剖学的立場から説明することができる。 2. 発達障害児の臨床診断と機能診断について理解する。 3. 運動発達障害の理学療法を理解し、理論的根拠を持ち、適切に説明することができる。 4. 中枢神経障害の理学療法を理解し、理論的根拠を持ち、適切に説明することができる。 			
評価	評価対象	評価割合(%)	備考	
	提出物	50%		提出物の詳細
	学習態度	50%		提出物：課題レポート 学習態度：討論への参加状況
教科書	①なし(必要な書籍については適宜指示する)			
参考書	指定なし			
履修上の留意点	なし			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義	菅原
2	姿勢制御の加齢と疾病特性	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	田代
3	神経・発達障害に関連する疫学研究の方法論	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	井平
4	神経・発達障害に関連する疫学研究の実際	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
5	中枢神経障害に関連する最新の疫学研究	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
6	動物実験を用いた理学療法の研究活動	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	佐々木
7	脳損傷による姿勢調節障害の評価	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
8	中枢神経障害に関する最近の知見	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
9	神経生理学研究の基礎	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	菅原
10	神経生理研究の応用	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
11	症例検討と症例研究	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

12	脳卒中患者に対する神経生理学的手法を用いた研究方法論と最近の知見 ①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
13	脳卒中患者に対する神経生理学的手法を用いた研究方法論と最近の知見 ②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
14	小児に対する神経生理学的手法を用いた研究方法論と最近の知見 ①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
15	小児に対する神経生理学的手法を用いた研究方法論と最近の知見 ②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

授業科目	神経・発達障害理学療法学特論演習 Advanced Physical Therapy of Neurological and Developmental Disorder, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	菅原 和広 (保健医療学研究棟 E404) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	佐々木 健史、井平 光、田代 英之		
概要	神経・発達障害理学療法学特論で学習した事項に基づき、いくつかの疾患に焦点をあて、それら疾患の病態を多角的に解析し、理学療法、リハビリテーションとの接点を追求する。		
到達目標	1. 中枢神経疾患患者・運動発達障害児の運動学的解析について理解する。 2. 中枢神経疾患患者・運動発達障害児の神経学的解析について理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	60%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	20%	
教科書	①なし(必要な書籍については適宜指示する)		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	医大病院、関連病院での診療を実施するため、必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義	菅原
2-3	中枢神経・発達障害の運動学的解析① 高齢者の運動学的解析①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	演習	菅原・他
4-5	中枢神経・発達障害の運動学的解析② 高齢者の運動学的解析②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
6-7	中枢神経・発達障害の運動学的解析③ 高齢者の運動学的解析③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
8-10	中枢神経・発達障害の運動学的解析④ 高齢者の運動学的解析④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
11-12	中枢神経・発達障害の治療戦略① 高齢者の治療戦略①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
13-15	中枢神経・発達障害の治療戦略② 高齢者の治療戦略②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
16-17	中枢神経・発達障害の治療戦略③ 高齢者の治療戦略③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
18-20	中枢神経・発達障害の治療戦略④ 高齢者の治療戦略④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
21-22	中枢神経・発達障害の包括的理学療法とリハビリテーション ① 高齢者の包括的理学療法とリハビリテーション①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
23-25	中枢神経・発達障害の包括的理学療法とリハビリテーション ② 高齢者の包括的理学療法とリハビリテーション②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

26-27	中枢神経・発達障害の包括的理学療法とリハビリテーション ③ 高齢者の包括的理学療法とリハビリテーション③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
28-30	中枢神経・発達障害の包括的理学療法とリハビリテーション ④ 高齢者の包括的理学療法とリハビリテーション④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

授業科目	感覚統合障害学特論 Advanced Sensory Integrative Dysfunction	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	仙石 泰仁 (保健医療学研究棟 E508) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(大柳 俊夫)、中島 そのみ、中村 裕二		
概要	人間のライフサイクルに応じた作業遂行(日常生活活動、学習、余暇、遊び、仕事)能力を高めることは作業療法の重要な目標であり、そのための治療プログラム決定には、科学的根拠が要求される。感覚統合理論は、人間の脳内情報処理過程と作業遂行・適応行動との関係から様々な治療仮説を提示するものであり、その関係性の理解を高めることが重要となる。		
到達目標	1. 感覚統合理論とリハビリテーション及び作業療法との関係が説明できる。 2. 感覚統合と学習、行動及び知覚・認知発達との関係が説明できる。 3. 感覚統合と脳の機能及び発達との関係が説明できる。 4. 学習障害や自閉症スペクトラム障害等、感覚統合療法の対象について説明できる。 5. 前庭感覚系、体性感覚系の統合と両側統合、身体図式、運動プログラミング及び高次脳機能との関係が説明出来る。 6. 人の情動や注意と感覚統合との関係が説明できる。 7. 感覚統合療法における治療原則および適応反応・行動の意義が説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況との記載内容 学習態度：討論参加状況・グループ学習への参加状況 プレゼンテーションの内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①日本感覚統合障害研究会編 「感覚統合研究 第1集～第10集」 協同医書出版		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 感覚統合理論と障害治療の知識基盤(1)	事前：なし 事後：なし	講義	仙石・中島 (大柳) 中村
2	感覚統合理論と障害治療の知識基盤(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
3	感覚統合発達モデル	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
4	脳機能ヒエラルキーモデル	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
5	感覚調節モデル	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
6	前庭一両側性・シークエンスモデル	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
7	行為(praxis)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
8	感覚調整・登録障害評価	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃

9	前庭・体性感覚系機能障害評価	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
10	行為機能障害評価	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
11	感覚統合障害と実践との関係	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
12	感覚統合－適応行動	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
13	感覚防衛と行為調整	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
14	学習能力と感覚統合	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
15	疾患と感覚統合	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃

授業科目	感覚統合障害学特論演習 Advanced Sensory Integrative Dysfunction, Seminar	2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	仙石 泰仁 (保健医療学研究棟 E508) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(大柳 俊夫)、中島 そのみ、中村 裕二		
概要	感覚統合障害学特論の講義を深めるために、実際の症例を通じた評価と治療の実践を経験するとともに、関連文献の探索及び抄読を行う。さらに、感覚統合機能と関連する研究及びその方法論についても討議する。		
到達目標	感覚統合障害学特論の到達目標に加えて、感覚統合機能研究の歴史的経過と現状、並びに科学性向上のための研究領域とその方法について述べることができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況との記載内容 学習態度：討論参加状況・グループ学習への参加状況 プレゼンテーションの内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①日本感覚統合障害研究会編 「感覚統合研究 第1集～第10集」 協同医書出版 ②Jean Ayres 著 宮前、他訳 「感覚統合と学習障害」 協同医書出版		
履修上の留意点	積極的な討論や事前の十分な準備が必要である。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 感覚統合理論と実践概説(1)	事前：なし 事後：なし	講義	仙石・中島 (大柳) 中村
2	感覚統合理論と実践概説(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
3	感覚統合訓練の治療目標と治療原則(1)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
4	感覚統合訓練の治療目標と治療原則(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
5	感覚統合訓練の治療目標と治療原則(3)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
6	感覚統合訓練の治療目標と治療原則(4)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
7	適応反応誘発の原理(1)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
8	適応反応誘発の原理(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
9	適応反応誘発の原理(3)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
10-14	感覚統合訓練の治療効果	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	講義・討論	〃
15-18	LD 以外の障害への応用	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃

19-22	評価と治療の実践	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
23-26	研究成果の考察とまとめ	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
27-30	実験的研究, 質的研究, 単一症例研究, 記述的研究などの方法 と感覚統合研究	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃

授業科目	生体工学・スポーツ整形外科学特論 Special Topics of Biomechanics/Orthopaedic Sports Medicine	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	渡邊 耕太 (保健医療学研究棟 E410) e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生体工学ではヒトの運動や機能を力学的観点から解析する。スポーツ整形外科は整形外科学やスポーツ医学の一分野をなしている。いずれもリハビリテーションにおいて重要な領域である。これらの基礎的知識や研究手法、臨床への応用を学習し討論する。 参考書を精読し、生体工学の基礎知識を習得する。		
到達目標	1. 生体工学、スポーツ整形外科の概要を知る。 2. 生体工学、スポーツ整形外科領域における種々の研究手法を理解する。 3. 生体工学、スポーツ整形外科の臨床応用例を知り、その応用可能性を提案できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	30%	提出物：内容をまとめる能力
	学習態度	30%	学習態度：積極的な参加、ディスカッション
	プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション：聞いている人にそのポイントが伝わるような方法の工夫
			カンファレンス、抄読会への参加
教科書	指定なし		
参考書	① 「整形外科基礎バイオメカニクス」 南江堂 ②その他、適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	上記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する可能性がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 生体工学概論	事後：資料配布	講義	渡邊
2	生体工学の基礎知識 1 力とモーメント(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	講義・討論	〃
3	生体工学の基礎知識 2 筋骨格系(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4	生体工学の基礎知識 3 関節安定性(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
5	生体工学の基礎知識 4 材料の力学(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
6	生体工学の整形外科、リハビリテーション領域への応用 骨格系の力学(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	生体工学の整形外科、リハビリテーション領域への応用 2 骨の力学(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	スポーツ整形外科：疾患と治療 1 文献的検討、抄読会	事前：課題準備 事後：レポート提出	〃	〃
9	スポーツ整形外科：疾患と治療 2 文献的検討、抄読会	事前：課題準備 事後：レポート提出	〃	〃
10	スポーツ整形外科：疾患と治療 4 文献的検討、抄読会	事前：課題準備 事後：レポート提出	〃	〃

11	スポーツ整形外科：疾患と治療 5 文献的検討、抄読会	事前：課題準備 事後：レポート提出	〃	〃
12	スポーツ整形外科：症例検討1 カンファレンス	事前：課題準備 事後：提示症例の復習	症例提示 ・ 討論	〃
13	スポーツ整形外科：症例検討2 カンファレンス	事前：課題準備 事後：提示症例の復習	〃	〃
14	スポーツ整形外科：症例検討3 カンファレンス	事前：課題準備 事後：提示症例の復習	〃	〃
15	スポーツ整形外科：症例検討4 カンファレンス	事前：課題準備 事後：提示症例の復習	〃	〃

授業科目	生体工学・スポーツ整形外科学特論演習 Special Topics of Biomechanics/Orthopaedic Sports Medicine	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	渡邊 耕太 (保健医療学研究棟 E410) e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生体工学的観点から運動器疾患を分析することは、疾患や治療法の理解に重要である。スポーツ整形外科における運動器疾患の問題点を抽出、解明する。		
到達目標	1. 運動器疾患、スポーツ整形外科特有の疾患の特徴、問題点を抽出する。 2. 上記問題点に対する生体工学的研究手法を調査し、研究計画を立案する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	提出物：内容をまとめる能力 学習態度：能動的に学ぶ姿勢、ディスカッション プレゼンテーション：臨床的問題点を明確にしたプレゼンテーション
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション	30%	
教科書	指定なし		
参考書	① 「整形外科基礎バイオメカニクス」 南江堂 ②その他、適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	上記スケジュールは演習の進捗状況等によって変更する場合がある。 担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	オリエンテーション 課題となる問題点・疑問点の抽出・検討	各自が興味を持つ疾患領域や疑問点 の整理、情報収集	講義・討論	渡邊
3	生体工学の整形外科、リハビリテーション領域への応用 骨の力学(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4	生体工学の整形外科、リハビリテーション領域への応用 インプラント系(参考書使用)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
5-10	スポーツ整形外科：疾患と治療 抄読会	事前：課題準備 事後：レポート提出	〃	〃
11-15	スポーツ整形外科：症例検討 カンファレンス	事前：課題準備 事後：提示症例の復習	〃	〃
16-20	抽出した課題についての文献検索・検討 課題についての過去の研究、文献の網羅	文献の準備、整理	〃	〃
21-25	課題を解決するための研究手法の検討 臨床的疑問を解決するのに適した方法、必要な情報	資料準備、提出	〃	〃
26-30	研究課題に対する研究計画書準備 臨床的疑問とその研究による clinical relevance の明確化	資料準備、提出	個別指導	〃

授業科目	中枢神経機能障害学特論 Advanced Central Nervous System Dysfunction	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	太田 久晶 (保健医療学研究棟 E512) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤 秀和		
概要	大脳半球損傷後には、高次脳機能障害や運動機能障害が起こりうる。これらの障害は、対象者の日常生活や社会参加に大きな影響をもたらすものである。そのため、本講義では、高次機能障害や運動麻痺をもたらす原因、各症状の特徴及びそれぞれに対する評価方法を学習し、症状理解や治療介入のポイントにつなげるための基礎知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の各症状について説明することができる。 2. 高次脳機能障害の各症状に対する評価方法・検査バッテリーを列挙・説明できる。 3. 脳損傷部位による運動障害の特徴について、説明ができる。 4. 頭部画像の評価方法や脳機能計測について説明ができる。 5. 大脳の機能局在について、説明ができる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	学習態度	50%	評価対象の詳細 学習態度：討論の参加状況及びその内容 プレゼンテーション：発表資料と説明内容 提出物：提出状況と記載内容
	プレゼンテーション	30%	
	提出物	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①石合純夫 [2022] 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版 ②Heilman KM, Valenstein eds [2011] 「Clinical neuropsychology 5th ed」 Oxford University Press ③Mesulam M-M [2000] 「Principles of Behavioral and Cognitive Neurology 2nd ed」 Oxford University Press 		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と連絡を取ること。 講義スケジュールは、学習の進捗状況により変更する場合がある。 本講義では、受講生からの積極的な発言が求められる。 講義の際に、適宜資料を提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 高次脳機能障害を学ぶための基礎知識(病因の理解、画像の見方を含む)	事後：講義内容の復習	講義・討論	太田
2	高次脳機能障害の諸症状1(半側空間無視、構成障害、頭頂葉損傷後の視空間認知障害)	〃	〃	〃
3	高次脳機能障害の諸症状2(病巣対側身体に対する認識の障害・異常、失認とその関連症状)	〃	〃	〃
4	高次脳機能障害の諸症状3(失語、読み書き障害)	〃	〃	〃
5	高次脳機能障害の諸症状4(記憶障害、認知症)	〃	〃	〃
6	高次脳機能障害の諸症状5(失行、行為障害)	〃	〃	〃
7	高次脳機能障害の諸症状6(遂行機能障害)	〃	〃	〃
8	知的機能検査	〃	〃	〃

9	中枢性運動機能障害を学ぶための神経科学 1	〃	〃	齊藤
10	中枢性運動機能障害を学ぶための神経科学 2	〃	〃	〃
11	高次脳機能(障害)に関する論文の紹介 1	事前：プレゼンテーションの準備、提出物の作成 事後：講義内容の復習	〃	太田
12	高次脳機能(障害)に関する論文の紹介 2	〃	〃	〃
13	高次脳機能(障害)に関する論文の紹介 3	〃	〃	〃
14	高次脳機能(障害)に関する論文の紹介 4	〃	〃	〃
15	高次脳機能(障害)に関する論文の紹介 5	〃	〃	〃

授業科目	中枢神経機能障害学特論演習 Advanced Central Nervous System Dysfunction, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	太田 久晶 (保健医療学研究棟 E512) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	本演習では、各自の興味関心に基づいて先行研究論文を選択し、その内容から高次脳機能(障害)および身体機能(障害)に対する評価・治療介入方法を学習する。加えて、考察部分を分析しながら読み解くことで、その書き方・構成を学習する。また、各自の研究疑問を明確化し、高次脳機能や身体機能に関する研究計画の立案過程を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能(障害)および身体機能(障害)に対する評価研究、介入研究のデザインや介入効果の判定の方法について説明ができる。 2. 高次脳機能(障害)および身体機能(障害)に対する評価結果の解釈・説明ができる。 3. 先行研究論文の考察部分における内容構成を分析・説明できる。 4. 身体機能や認知機能に対する評価方法や治療介入方法についての研究計画を立案できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	40%	評価対象の詳細 プレゼンテーション：発表内容および質疑応答内容 学習態度：討論の参加状況及びその内容 提出物：提出状況ならびに記載内容
	学習態度	30%	
	提出物	30%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①石合純夫 [2022] 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版 ②Heilman KM, Valenstein eds [2011] 「Clinical neuropsychology 5th ed」 Oxford University Press ③Mesulam M-M [2000] 「Principles of Behavioral and Cognitive Neurology 2nd ed」 Oxford University Press 		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。 下記スケジュールは、学習の進捗により変更する場合がある。 資料として、演習の際に、適宜文献を提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-10	高次脳機能(障害)の評価に関する研究論文から、特定の機能(障害)に対する評価方法およびその結果の解釈方法について学習する。これに併せて、考察部分の展開やその構成について学ぶ。	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	講義・プレゼン・討論	太田
11-20	健常者や脳損傷者を対象とした高次脳機能(障害)や身体機能(障害)に対する介入研究から、介入研究のデザインや効果判定の方法について学習する。また、考察部分の展開やその構成についても学ぶ。	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
21-30	先行研究をもとに研究疑問を明確化し、認知機能や身体機能に対する評価方法・介入方法についての研究計画を立案する。	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	個別指導	〃

授業科目	スポーツ理学療法学特論 Advanced Sports Physical Therapy	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	片寄 正樹 (保健医療学研究棟 E409) e-mail : katayose@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	谷口 圭吾、岩本 えりか、戸田 創、根木 亨、青木 信裕、(片野 俊敏)		
概要	スポーツは、パフォーマンスイメージにしたがいこれに伴う筋活動と関節運動により発現される。これら筋活動と関節運動の発現には、呼吸、循環、代謝システムが円滑に協調して活動することが必要となる。本講義では、運動に関わる身体システムの様々な機能相互関連を重視した視点で、競技スポーツ、健康スポーツ、そして疾病治療のための運動療法のための評価診断とその治療、予防のための理学療法を考察する。		
到達目標	1. スポーツ活動に支障をきたす外傷障害・整形外科疾患および呼吸循環代謝性疾患の一般的な発生メカニズムおよび病態について説明できる。 2. スポーツ活動に支障をきたす外傷障害・整形外科疾患および呼吸循環代謝性疾患の評価診断と、その治療、予防のための理学療法を概説できる。 3. スポーツ理学療法に応用可能な医学およびスポーツ科学の情報を適切に収集する手法を習得する。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	演習課題提出	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション内容：事前学習内容、提示内容 討議への参加状況：討議参加への積極性と討議内容
	プレゼンテーション	30%	
	討議への参加状況	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①「Orthopedic Physical Assessment」 Sanders ②関連学術誌等とし、適時指示する。		
履修上の留意点	特定の演習課題にしたがい討議を中心に進めるため、事前の演習課題の積極的準備が不可欠となる。開講スケジュールは演習の進捗状況等によって調整する。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス スポーツ外傷障害と理学療法	事後：	講義	片寄・戸田
2	スポーツに支障をきたす外傷障害 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	片寄・青木 戸田
3	スポーツに支障をきたす外傷障害 2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 戸田
4	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患	事前：演習課題 事後：ワークシート	講義	片寄・根木 岩本
5	スポーツに支障をきたす外傷障害の発生メカニズム 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	片寄・戸田
6	スポーツに支障をきたす外傷障害の発生メカニズム 2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 戸田・青木
7	スポーツに支障をきたす外傷障害の発生メカニズム 3	事前：演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
8	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズム 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・根木 岩本

9	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズム2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	〃
10	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズム3	事前：演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
11	スポーツに支障をきたす外傷障害の治療と予防	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・戸田
12	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の治療と予防	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	片寄・岩本 (片野)
13	スポーツに支障をきたす外傷障害と整形外科疾患および呼吸循環代謝性疾患の治療と予防	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	片寄・谷口 岩本・戸田 根木・青木
14	健康増進および競技力向上と理学療法1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄
15	健康増進および競技力向上と理学療法2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	片寄・谷口 岩本・戸田

授業科目	スポーツ理学療法学特論演習 Advanced Sports Physical Therapy, seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	片寄 正樹 (保健医療学研究棟 E409) e-mail : katayose@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	谷口 圭吾、岩本 えりか、戸田 創、根木 亨、青木 信裕、(片野 俊敏)		
概要	代表的なスポーツ活動に支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患を選定し、その疫学、発生メカニズム、および治療と予防のための理学療法、スポーツ医科学的アプローチについて演習を進める。演習においては、復帰を目的とするスポーツに必要な様々な生体システムの相互関連を重視した知見を整理していく。		
到達目標	1. スポーツ活動に支障をきたす代表的な外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患に対する理学療法、スポーツ医科学的アプローチの効果を、医学および臨床運動生理学の視点から考察できる。 2. スポーツ理学療法に応用可能な医学およびスポーツ科学の情報を適切に収集することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	演習課題提出	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション内容：事前学習内容、提示内容 討議への参加状況：討議参加への積極性と討議内容
	プレゼンテーション	30%	
	討議への参加状況	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①「Orthopedic Physical Assessment」 Sanders ②関連学術誌等とし、適時指示する。		
履修上の留意点	特定の演習課題にしたがい討議を中心に進めるため、事前の演習課題の積極的準備が不可欠となる。 開講スケジュールは演習の進捗状況等によって調整する。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	スポーツ外傷障害と理学療法	-	講義	片寄
2	スポーツ実施に関連する呼吸循環代謝性疾患と理学療法	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	〃	片寄・岩本 根木
3-11	スポーツに支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患の疫学	事前：配布資料の pre-reading および 演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 岩本・戸田 根木・青木 (片野)
12-18	スポーツに支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズムと病態	事前：配布資料の pre-reading および 演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
19-26	スポーツに支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患の治療と予防	事前：配布資料の pre-reading および 演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
27-29	健康増進および競技力向上と理学療法	事前：配布資料の pre-reading および 演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
30	まとめ	事前：演習課題 事後：ワークシート	〃	〃

授業科目	活動能力障害学特論 Advanced Human Activities & Therapeutic Process	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	中村 眞理子 (保健医療学研究棟 E511) e-mail : mnaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 充雄		
概要	身体障害領域の作業療法は、機能・形態障害および活動制限に対して様々な作業・活動(日常生活活動)を用い、より円滑に生活出来るよう、望まれる能力、または代償機能等を引き出すことを目的に行う。そのために必要な、具体的な生活活動の課題・目標を達成するために制限となる要因の捉え方、介入プロセスと手法を理解するための学習をする。		
到達目標	1. ヒトの活動上必要な機能および要因について、情報を集積し整理する。 2. 活動能力の解析に必要な調査および測定法を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	学習態度：討議への参加状況 提出物：提出状況および記載内容 課題に対する取り組み等から総合的に判断する。
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション	30%	
教科書	①講義中に資料配布。		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	履修者の興味・関心により課題設定を検討しすすめるため、討議では積極的な発言を求める。 詳細は開講時オリエンテーションで示す。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 活動能力障害	事後：配付資料	講義	中村 中村(充)
2	生活をどう捉えるか	事前・事後：配付資料	講義・ 討議	〃
3	活動能力とは	事前・事後：配付資料	〃	〃
4	活動能力障害の捉え方① 活動能力障害とは	事前・事後：配付資料	講義	〃
5	活動能力障害の捉え方② 活動能力障害をもたらす要因	事前：課題準備 事後：配布資料	講義・ 討議	〃
6	活動能力障害の捉え方④ 対象	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	活動能力障害の捉え方⑤ 関連学会における研究の動向	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	活動に関する研究手法の検討① 関連学会における研究の動向	事前：課題準備 事後：配布資料	講義	〃
9	活動に関する研究手法の検討②	事前：課題準備 事後：配布資料	講義・ 討議	〃
10	活動に関する研究手法の検討③	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
11	活動に関する研究手法の検討④	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

12	活動に関する研究手法の検討⑤	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
13	活動に関する研究手法の検討⑥	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	活動に関する研究手法の検討⑦	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	まとめ	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	活動能力障害学特論演習 Advanced Human Activities & Therapeutic Process, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	中村 眞理子 (保健医療学研究棟 E511) e-mail : mnaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 充雄		
概要	身体障害領域の作業療法は、機能・形態障害および活動制限に対して様々な作業・活動を用い、より円滑に生活出来る能力、または代償機能等を引き出すことを目的に行う。そのために必要な、具体的な生活活動の課題・制限となる要因の捉え方、介入プロセスと手法を検討する。活動能力に対する疑問点を明らかにするための研究計画の立案、障害の理解を深める。		
到達目標	1. 機能障害・形態障害および活動制限が日常生活に及ぼす影響、および作業・活動の治療効果など臨床で考えられる疑問点を抽出出来る。 2. 上記疑問点に対応する研究手法を選択し、研究計画の立案が出来る。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 学習態度：討議への参加状況 提出物：提出状況および記載内容 課題に対する取り組み等から総合的に判断する。
	提出物	50%	
	ディスカッション	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①適宜紹介する。		
履修上の留意点	適宜確認する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 活動制限が日常生活に及ぼす影響	事後：配付資料	講義	中村・ 中村(充)
2-13	活動制限が日常生活に及ぼす影響、作業および活動の治療効果	事前：資料作成と提出 事後：配付資料	講義・ 討論	〃
14-27	課題研究と文献検討 ・研究指導計画に基づき、履修者と協議の上、学習計画を立案する。	事前：資料作成と提出 事後：配付資料	個別指導	〃
28-30	まとめ	事前：配布資料 事後：配付資料	講義・ 討論	〃

授業科目	臨床精神・脳機能学特論 Advanced Clinical psychiatry and Brain functions	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文		
概要	精神疾患を脳機能(認知、情動、記憶、学習、神経可塑性、精神薬理学)の観点から理解を深め、最新の知見を学術論文の検討を通して得ることで、精神科リハビリテーションの研究・実践活動に必要な考え方の基盤形成を目指す。		
到達目標	1. 精神疾患の病態に関わる神経基盤について学習し理解する。 2. 精神疾患の薬物療法、非薬物療法の中核メカニズムについて学習し理解する。 3. 精神機能の測定方法とその限界について理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	出席状況	20%	出席状況：学習態度・討論参加状況 理解状況：課題の理解内容・質疑内容 発表状況：課題のプレゼンテーション内容
	理解状況	40%	
	発表状況	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①監修:井上令一, 監訳:四宮滋子, 田宮 聡 [2016 年] 「カプラン臨床精神医学テキスト(日本語版第3 版)」 メディカルサイエンスインターナショナル ②泰羅雅登, 中村克樹 監訳 [2013 年] 「カールソン神経科学テキスト:脳と行動(第4 版)」 丸善出版		
履修上の留意点	以上の項目について文献抄読を通じて学習する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：スケジュール確認 事後：配布資料の復習	講義	石井・森元
2	精神と脳機能	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
3	情動のメカニズム	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
4	記憶のメカニズム	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
5	認知のメカニズム	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
6	神経系の可塑性と神経新生	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
7	精神疾患の分類と操作的診断	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
8	精神疾患の診断と病態 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
9	精神疾患の診断と病態 双極性障害および関連障害群	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
10	精神疾患の診断と病態 抑うつ障害群	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

11	精神疾患の診断と病態 不安症群	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
12	精神疾患の診断と病態 物質関連障害および嗜癖性障害群	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
13	精神疾患の診断と病態 身体症状症と慢性疼痛	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
14	精神機能の測定法	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
15	精神疾患の治療と神経基盤	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

授業科目	臨床精神・脳機能学特論演習 Advanced Clinical psychiatry and Brain functions, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文		
概要	「臨床精神・脳機能学特論」で扱った講義内容を基盤として、自身のリサーチ・クエスチョンを明確にすることを目的に、精神疾患の病態解明、治療法(薬物療法・非薬物療法)などに関する最新の学術論文を詳細に検討して討議を行う。		
到達目標	1. 精神医学に関する論文を批判的に検討することができる。 2. 精神疾患の研究手法と限界について説明することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	出席状況	20%	出席状況：学習態度・討論参加状況 理解状況：論文抄読での内容理解の程度 発表状況：結果のプレゼンテーション内容
	理解状況	40%	
	発表状況	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①監修:井上令一, 監訳:四宮滋子, 田宮 聡 [2016 年] 「カプラン臨床精神医学テキスト(日本語版第3版)」 メディカルサイエンスインターナショナル ②泰羅雅登, 中村克樹 監訳 [2013 年] 「カールソン神経科学テキスト:脳と行動(第4版)」 丸善出版		
履修上の留意点	抄読する論文については、演習中に適宜指示する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事後：配布資料の復習	講義	石井・森元
2-5	精神医学研究の動向	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	講義・討論	〃
6-20	研究論文の検討	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
21-30	リサーチクエスチョンの明確化と研究計画立案	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

授業科目	精神障害リハビリテーション学特論 Advanced Occupational Therapy for Psychiatric and Mental Health	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文、横山 和樹		
概要	精神障害リハビリテーションの基礎的背景となる精神医学、臨床心理学、健康心理学などの関連領域の理論と評価・治療技法、臨床における治療・リハビリテーション実践について主に最新の知見を中心に学習し、併せて研究的な思考を養う。		
到達目標	1. 精神障害リハビリテーションに関連する背景理論・最新知見について概略を説明できる。 2. 学習した知見について批判的に検討することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	① 「精神障害リハビリテーション学」 金剛出版 ② 「精神障害とリハビリテーション」 日本精神障害リハビリテーション学会雑誌 ③ 「関連国際ジャーナル等」 ④ 「その他、講義の際に適宜指示する。」		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 精神障害リハビリテーションと作業療法	事後：配布資料	講義	池田・森元 横山
2	精神障害リハビリテーションの関連理論 心理社会的介入理論の動向	事前・事後：配布資料	講義・演習	〃
3	精神障害リハビリテーション研究方法論 1 質的研究・量的研究・混合研究	事前・事後：配布資料	〃	〃
4	精神障害リハビリテーション研究方法論 2 関連学会における研究の動向(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
5	精神障害リハビリテーション研究方法論 3 関連学会における研究の動向(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
6	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究 1(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究 2(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究 3(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
9	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究 4(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究 5(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

11	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究6(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
12	精神障害リハビリテーションにおける最新の知見、および関連研究7(文献抄読および討議)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
13	精神障害リハビリテーション研究計画法1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	精神障害リハビリテーション研究計画法2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	精神障害リハビリテーション研究計画法3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	精神障害リハビリテーション学特論演習 Advanced Occupational Therapy for Psychiatric and Mental Health, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文、横山 和樹		
概要	特論の授業内容を基盤に、自らの研究疑問を焦点化しながら、関連する文献の詳細な検討、および精神障害リハビリテーション領域で用いられる研究方法について演習形式で学習する。		
到達目標	1. 関連文献について批判的に検討することができる。 2. 精神障害リハビリテーション領域で用いられる研究方法について説明することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	関連国際ジャーナル等とし、演習中に適宜指示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神障害リハビリテーション学特論演習オリエンテーション	事後：配布資料	講義	池田・森元 横山
2-20	研究テーマに関連する理論・研究論文に関する批判的検討、研究方法論に関する検討。	事前：課題準備 事後：配布資料	講義 演習 個別指導	〃
21-30	研究計画の立案と妥当性の検討 関連する理論・研究論文の継続的検討	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	高齢者・地域健康科学特論 Advanced Community and Elderly Health Science	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	高齢者の障害構造や生活・健康モデルを理解した上で、地域リハビリテーションや高齢者の健康に関する問題の考える上での枠組みを学習する。		
到達目標	1. 高齢者の諸機能に関するモデルについて説明できる。 2. 高齢者や地域の健康を測定する方法について簡単に説明できる 3. 高齢者の健康に関連する測定尺度を構成できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	80%	
	講義受講態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	下記スケジュールは進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合があります		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	地域の健康問題抽出の方法 1	事前：学部までの地域・高齢者に関する内容	講義	未定
2	地域の健康問題抽出の方法 2	事前：前回までの内容	〃	〃
3	地域の健康問題抽出の方法 3	事前：前回までの内容	〃	〃
4	地域の健康問題抽出の方法 4	事前：前回までの内容	〃	〃
5	地域の健康問題抽出の方法 5	事前：前回までの内容	〃	〃
6	高齢者における健康度測定について 1	事前：前回までの内容	〃	〃
7	高齢者における健康度測定について 2	事前：前回までの内容	〃	〃
8	高齢者における健康度測定について 3	事前：前回までの内容	〃	〃
9	高齢者における健康度測定について 4	事前：前回までの内容	〃	〃
10	高齢者における健康度測定について 5	事前：前回までの内容	〃	〃
11	高齢者・地域の健康諸問題レビュー1	事前：前回までの内容	〃	〃
12	高齢者・地域の健康諸問題レビュー2	事前：前回までの内容	講義・演習	〃

13	高齢者・地域の健康諸問題レビュー3	事前：前回までの内容	〃	〃
14	高齢者・地域の健康諸問題レビュー4	事前：前回までの内容	〃	〃
15	高齢者・地域の健康諸問題レビュー5	事後：修士論文研究計画書ドラフト	〃	〃

授業科目	高齢者・地域健康科学特論演習 Advanced Community and Elderly Health Science, seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	地域の健康づくり活動や地域リハビリテーションに関して、問題の抽出方法、分析方法、解決方法について演習を行う。		
到達目標	1. 地域リハビリテーションや健康に関するニーズの把握ができる。 2. ニーズに対応した解決方法を立案できる。 3. 地域健康づくり活動に対して適切な支援ができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	80%	
	講義受講態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	下記スケジュールは進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1～10	地域の健康問題抽出の方法演習	事前：本邦の高齢化に伴う諸問題について、関連するこれまでの講義	講義・演習	未定
11～20	地域の健康づくりのための健診・介入などのフィールドワーク	事前：前回までの内容	〃	〃
21～30	各人の研究テーマに基づくレビューと研究計画の醸成	事前：前回までの内容	〃	〃

授業科目	神経・認知機能治療学特論 Advanced therapeutic research in neurocognitive disorder and stroke	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	齊藤 正樹 (保健医療学研究棟 E513) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員
---------	--	-----------------

担当教員	
------	--

概要	<p>本特論の目標は、認知機能障害およびその背景にある脳卒中などの診療において、理学療法士、作業療法士の専門性をいかし、診療・研究におけるリーダーシップを発揮する能力を培うことである。</p> <p>認知機能障害の臨床および研究を進めるうえでは、疾患と個々の病態の理解に加えて、患者の社会的背景や多職種の関わり、地域での課題など、様々な要素を統合した理解が必要である。また患者と多職種の関わりの中から医療の方向性を決めていくことが求められる。そこで、本特論では、多職種の中で、理学療法士、作業療法士が臨床及び研究の場で、その専門性を活かしてリーダーシップを発揮し、多くの考えや意見の中から、患者を中心としたチームを最善・妥当な方向へとまとめ上げられる能力を培う。</p>
----	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知機能障害を呈する疾患の多様性を説明できる。 2. 神経診察、評価について述べるができる。 3. 神経学的所見と電気生理学的所見、脳血管超音波検査所見、脳機能画像・脳循環画像所見の対応を説明できる。 4. 多職種連携において理学療法士、作業療法士の専門性の重要性を発揮し、教育に関与する。
------	---

評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	履修態度	20%	評価対象の詳細 履修態度：討論参加状況 レポート：提出状況および記載内容 討議・討論：提示内容、質疑内容
	レポート	40%	
	討議・討論	40%	

教科書	指定なし
-----	------

参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①中島健二／編集 下濱俊／編集 富本秀和／編集 三村将／編集 新井哲明／編集 [2020 年] 「認知症ハンドブック 第2 版」 医学書院 ②「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」 作成委員会／著 [2022 年] 「認知症と軽度認知障害の人および家族介護者への支援・非薬物的介入ガイドライン 2022」 新興医学出版社 ③日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会／編集 [2021 年] 「脳卒中治療ガイドライン 2021」 協和企画 ④Kimura J. [2013 年] 「Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle: principles and practice」 Oxford University Press
-----	---

履修上の留意点	<p>認知症を呈する疾患群、その背景となる脳血管障害を理解し、研究していくために、本学附属病院「脳神経内科外来」のほか、LSI 札幌クリニックでの「もの忘れ専門外来」、函館新都市病院、札幌美しが丘脳神経外科病院の協力を得て、これらの疾患群を幅広く経験、検討する。</p> <p>認知症研究の視野を広げるためには多職種との共同作業も重要であるため、本学附属病院外来では、医学部生、医学部大学院生、臨床研修医との共同での診療参加を実施する。さらに、課題をまとめて発表する能力の育成と並行し、教育技法を学ぶ。感染状況等を勘案しながら、中空知圏域の学校教育、本学部生の教育に関与する機会を用意する。</p> <p>地域リハビリテーションの視点から、札幌圏域等の地域の認知症診療及び研究を考える機会を用意する。</p> <p>特に、大学院生が道南圏域出身者である場合、あるいは、十勝圏域出身者である場合、本人からの希望があれば、道南地域中核病院での診療の一つとして、函館新都市病院での「もの忘れ外来」、あるいは十勝圏域の地域医療機関である士幌国保病院の神経内科・難病外来の協力を得て、地域が抱える認知症診療の課題と臨床研究について考える機会を用意する。</p>
---------	---

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義	齊藤

2	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	討論 レポート	〃
3	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
4	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
5	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
6	担当教員(の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
7	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
8	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
9	理学療法士、作業療法士の立場から地域の教育活動、本学部生の教育に準備・参加する	事前：教育資料の準備 事後：教育資料の修正	〃	〃
10	理学療法士、作業療法士の立場から地域の教育活動、本学部生の教育に準備・参加する	事前：教育活動の準備 事後：振り返り作業	〃	〃
11	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
12	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
13	担当教員の附属病院外来での診療に参加し、教員による患者紹介・疾患解説の後、症例レポートの作成を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
14	前期で作成した症例レポートをまとめ、各疾患に関して口頭発表と討論を行う。	事前：受診対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
15	前期で作成した症例レポートをまとめ、各疾患に関して口頭発表と討論を行う。	事前：症例レポートのまとめ 事後：疾患レポート作成	〃	〃

授業科目	神経・認知機能治療学特論演習 Advanced therapeutic research in neurocognitive disorder and stroke, practicum	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	齊藤 正樹 (保健医療学研究棟 E513) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	研究論文、文献を通して、認知機能障害を呈する疾患に関する最新の診断法や治療法を整理し、認知機能障害およびその背景にある脳血管障害に対する理学療法・作業療法的なアプローチの理論的根拠を学ぶ。同時に認知機能障害および脳血管障害に代表される領域の論文を中心に、論文作成の基礎となる解析方法や文献の活用方法を会得する。内容に応じて医師を含めた多職種と学ぶ機会を提供する。		
到達目標	1. 文献の検索および批判的読解力を身につけ、活用する。 2. 検査所見を正しく判読することができる。 3. 検査所見と病態の対応を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	履修態度	20%	評価対象の詳細 履修態度：討論参加状況 レポート：提出状況および記載内容 討議・討論：提示内容、質疑内容
	レポート	60%	
	討議・討論	20%	
教科書	指定なし		
参考書	Kimura J. [2013 年] 「Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle: principles and practice」 Oxford University Press		
履修上の留意点	1 学年前期の「神経・認知機能治療学特論」を履修していること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：前期の「神経・認知機能治療学特論」の復習 事後：資料のまとめ	講義	齊藤
2-15	参考書の抄読を行い、検査所見と治療介入(理学療法・作業療法)に関して解説する。	事前：文献の翻訳と理解 事後：レポート作成	討論 レポート	〃
16-20	認知機能検査や病理検査上の異常所見について討論を行う。 履修者にはあらかじめ関連文献や当該検査情報を配布しておく。	事前：配布資料の予習 事後：レポート作成	〃	〃
21-26	文献検討・症例検討を行う。	事前：レポートの作成 事後：レポートの修正	〃	〃
27-30	後期に学んだ内容についてまとめの講義を行う。	事前：レポートの復習 事後：なし	講義	〃

授業科目	筋機能制御学特論 Advanced Muscle Physiology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	山田 崇史 (保健医療学研究棟 E407) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	サルコペニアやカヘキシアなど、老化や種々の疾患に伴う筋機能低下のメカニズムについて、生理学、生化学、分子生物学的研究により得られた知見を中心に学習する。また、理学療法の観点から、運動及び物理療法による筋の機能制御について理解を深め、筋機能改善を目的とした効果的なリハビリテーションプログラムを立案する。		
到達目標	1. 老化や種々の疾患に伴う筋機能低下のメカニズムについて説明できる。 2. 運動及び物理療法による筋の機能制御について説明できる。 3. 老化や種々の疾患に伴う筋機能低下を改善するための効果的な運動及び物理療法負荷条件を立案することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習態度	15%	学習態度：討論の参加状況及び内容
	提出物	85%	提出物：提出状況及び記載内容
教科書	指定なし		
参考書	①Kenney WL. [2016] 「Physiology of Sport and Exercise (6th ed)」 Human Kinetics ②その他、講義の際に適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス リハビリテーションにおける筋機能制御学の意義	事後：配布資料	講義・演習	山田
2	筋機能制御学における研究法 生理学、生化学、分子生物学的手法	事前・事後：配布資料	〃	〃
3	筋機能不全の病態1 サルコペニア	事前・事後：配布資料	〃	〃
4	筋機能不全の病態2 カヘキシア	事前・事後：配布資料	〃	〃
5	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)1 敗血症	事前・事後：配布資料	〃	〃
6	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)2 慢性心不全	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)3 糖尿病	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)4 悪性腫瘍	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
9	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)5 関節炎	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)6 筋損傷	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
11	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)7 ICUAW	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

12	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)8 末梢神経障害	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
13	研究計画 1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	研究計画 2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	研究計画 3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	筋機能制御学特論演習 Advanced Muscle Physiology、 Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	山田 崇史 (保健医療学研究棟 E407) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	サルコペニアやカヘキシアなど、老化や種々の疾患に伴う筋機能低下のメカニズムや、それらに対する運動及び物理療法の作用について、生理学、生化学及び分子生物学的手法を用い検討し、科学的根拠に基づいた効果的なりハビリテーションプログラムの具現化を目指す。		
到達目標	1. 筋機能を検討するための生理学、生化学及び分子生物学の実験手法を理解し実施できる。 2. 老化や種々の疾患に伴う筋機能低下のメカニズムや、それを改善するための効果的な運動及び物理療法負荷条件について仮説を立て、研究計画書を作成することができる。 3. 老化や種々の疾患に伴う筋機能低下のメカニズムや、それに対する運動及び物理療法の効果を実験的に検討し考察することができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	学習態度	15%	学習態度：討論の参加状況及び内容 提出物：提出状況及び記載内容
	提出物	85%	
教科書	指定なし		
参考書	①Kenney WL. [2016] 「Physiology of Sport and Exercise (6th ed)」 Human Kinetics ②その他、講義の際に適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	筋機能制御学特論演習オリエンテーション	事後：配布資料	講義	山田
2-20	研究テーマに係る理論や研究論文に関する批判的検討 研究方法論に関する検討	事前：課題準備 事後：配布資料の復習	講義 演習 個別指導	〃
21-30	研究計画の立案と妥当性の検討 研究テーマに係る理論や研究論文に関する検討の継続	事前：課題準備 事後：配布資料の復習	〃	〃

授業科目	生体機能評価学特論 Advanced Biofunctional & Imaging Evaluation in Physical Therapy	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	谷口 圭吾 (保健医療学研究棟 E413) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岩本 えりか		
概要	生体機能評価は、理学療法評価の中核をなす。本講義では、身体運動を直接的に司る運動器の生体機能について整理し、特に骨格筋の形態・機能・性状における可塑的な変化の理解を深めるとともに、運動器障害やスポーツ障害をはじめ種々の理学療法領域に応用しうる可塑性評価法の理論と最新の知見を学ぶ。		
到達目標	1. 理学療法における生体機能評価の意義について説明できる。 2. 運動器の形態・機能・性状と、それらの可塑的な変化や身体運動機能との関連を概説できる。 3. 形態評価、機能評価および性状評価の情報を適切に収集し、理学療法への応用可能性を考察できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション：提示内容および質疑内容 学習態度：受講の積極性と討論への参加状況
	プレゼンテーション	30%	
	学習態度	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	開講スケジュールは演習の進捗状況等によって変更することがある。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 生体機能評価と理学療法	事後：配付資料	講義	谷口
2	生体機能評価の基礎	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
3	運動器の形態特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
4	運動器の形態特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	演習・討論	〃
5	形態特性の定量評価法	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
6	運動器の機能特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	講義	〃
7	運動器の機能特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	演習・討論	〃
8	機能特性の定量評価法	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
9	運動器の性状特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	講義	〃
10	運動器の性状特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	演習・討論	〃
11	性状特性の定量評価法	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃

12	活動量増加・減少、加齢、損傷、トレーニングに対する骨格筋の適応と評価 1	事前：課題準備 事後：配付資料	講義	〃
13	活動量増加・減少、加齢、損傷、トレーニングに対する骨格筋の適応と評価 2	事前：課題準備 事後：配付資料	演習・討論	〃
14	生体機能評価の最新知見と理学療法への応用 1：文献的検討	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	谷口・岩本
15	生体機能評価の最新知見と理学療法への応用 2：文献的検討	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃

授業科目	生体機能評価学特論演習 Advanced Biofunctional & Imaging Evaluation in Physical Therapy, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	谷口 圭吾 (保健医療学研究棟 E413) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岩本 えりか		
概要	ヒト生体軟組織の形態・機能・性状の包括的な評価について、非侵襲的医用イメージング技術と運動学的手法の活用による研究方法を演習する。自らの研究課題に沿った実験を進め、得られたデータを分析し、運動機能障害の病態解明や理学療法への臨床応用の方策を検討する。		
到達目標	1. ヒト生体の運動器を形態・機能・性状の側面から探索する評価手法を理解し、実践できる。 2. 形態・機能・性状の可視化および定量化によって得られたデータに基づき、骨格筋のもつ可塑性を考察できる。 3. 運動機能障害の機序解明や治療・予防に繋がる形態・機能・性状の可塑性評価を調べ、研究計画を立案できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション：提示内容、質疑内容および課題の達成度 学習態度：討論への参加状況
	プレゼンテーション	50%	
	学習態度	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	開講スケジュールは演習の進捗状況等によって変更することがある。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 非侵襲的な医用画像診断評価の動向	事後：配付資料の復習	講義	谷口
2-10	運動器の形態・機能・性状評価の理解、文献検討	事前：配布資料の予習と課題準備 事後：ワークシート	演習・討論	〃
11-18	運動器の形態・機能の画像評価手法の検討と計測演習	事前：配布資料の予習と課題準備 事後：ワークシート	〃	〃
19-26	運動器の性状の画像評価手法の検討と計測演習	事前：配布資料の予習と課題準備 事後：ワークシート	〃	〃
27-29	形態・機能・性状の可塑性評価に基づく研究計画の立案	事前：配布資料の予習と課題準備 事後：ワークシート	演習・討論 個別指導	谷口・岩本
30	まとめ	事前：配布資料の予習と課題準備 事後：ワークシート	〃	谷口

授業科目	形態人類学特論 Advanced Physical Anthropology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	松村 博文 (保健医療学研究棟 E411) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	学部で学んだ解剖学の基礎を深め、さらに各自の研究課題の研究計画の立案や活用の一助となることを目的として、人体における形態の機能適応や多様性あるいは個体変異について、解剖体を教材として理解を深める。		
到達目標	1. 人体構造の変異多様性について理解を深める。 2. 研究計画の立案に向けて、形態変異と機能的あるいは環境要因を考察する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：参加習得状況 ディスカッション：検討内容
	学習態度	40%	
	ディスカッション	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①Clemente Anatomy: the regional atlas of the human body, またはネッター解剖アトラスなどの解剖図譜。その他各自の課題に則する。		
履修上の留意点	メインは解剖実習室でおこなう。納棺、清掃、火葬もあるので留意のこと。実施時間は融通がききます。研究用データを採集する場合は、事前に倫理委員会の承認を得ておいてください。各実施回に示した解剖の部位はあくまでも例示です。各自の研究テーマや関心領域に応じて、知見を深めたい部位に焦点をあてて、スケジュールを組み替えてください。あえて医学部保健医療学部実習の期間に科目を設けているのは、多数のご遺体を同時に観察できるからです。どのような部位もバリエーション(個体変異)を把握することはとても重要なことなので、学部生使用遺体も十分に観察等に活用してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 各自の課題に関する検討	事前：課題準備 事後：配布資料	講義	松村
2	研究方法論	事前：課題準備 事後：配布資料	検討会	〃
3	人体構造学 運動器の構造と変異 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	実習	〃
4	人体構造学 運動器の構造と変異 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
5	人体構造学 運動器の構造と変異 3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
6	人体構造学 神経脈管系の変異 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
7	人体構造学 神経脈管系の変異 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
8	人体構造学 神経脈管系の変異 3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
9	人体構造 局所解剖学 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
10	人体構造 局所解剖学 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃

11	人体構造 局所解剖学 3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
12	研究計画検討1	事前：課題準備 事後：配布資料	演習	〃
13	研究計画検討2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	研究計画検討3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	レポート作成	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	形態人類学特論演習 Advanced Physical Anthropology, Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	松村 博文 (保健医療学研究棟 E411) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	進化解剖学や比較解剖学の観点から、現代に生きるホモサピエンスの進化、移動、拡散、環境適応などのプロセスへの理解を深め、文献をもとに形態人類学における課題を探るとともに、形態人類学の研究手法を習得しつつ、研究を立案し実践する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態の進化的背景を知る。 2. 骨(または生体)形態のデータ採取と解析法を学習する。 3. 文献検討をとおして研究課題を探る。 4. 各自の研究計画を立案し実践する。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討議への参加状況。 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容、課題に対する取り組みから総合的に判断する。
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	①下記の関連国際ジャーナル等とし、演習中に適宜指示する。 Nature, Science, American Journal of Physical Anthropology, Journal of Human Evolution, Anthropological Science		
履修上の留意点	開講時期調整など必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 形態人類学とは	事前：課題準備 事後：配布資料	講義	松村
2-3	人類進化論 1 霊長類	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4-5	人類進化論 2 ホミノイド	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
6-7	人類進化論 3 現生人類	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8-9	骨形態の変異(集団差、性差、年齢差等)	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10-11	形態人類学のデータ採取手法 1 生体	事前：課題準備 事後：配布資料	演習	〃
12-13	形態人類学のデータ採取手法 2 骨格	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14-15	形態人類学のデータ解析法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
16-17	3次元形態データ採取法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
18-20	形態人類学の論文抄読と評価 1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

21-22	形態人類学の論文抄読と評価 2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
23-24	形態人類学の論文抄読と評価 3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
25-26	研究計画の立案 1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
27-28	研究計画の立案 2	事前：課題準備 事後：配布資料	個別指導	〃
29-30	研究計画の立案 3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	作業科学特論 Advanced Occupational Science	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	坂上 真理 (保健医療学研究棟 E510) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石 泰仁		
概要	学際的な学問である「作業科学」とそこで研究される諸概念を概説する。これらを基に、わが国の作業療法の発展に寄与する作業の研究テーマをディスカッションする。		
到達目標	1. 作業科学の特徴と意義を説明できる 2. 作業をはじめとする作業を理解するための諸概念を説明できる 3. 作業療法の発展に寄与する作業の研究テーマについて、自己の考えを述べるができる		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション内容	50%	
教科書	配布資料(オリエンテーション時に配布)		
参考書	①Christiansen, C. & Townsend, E. [2010] 「Introduction to Occupation second edition」 PEARSON ②Pierce, E. D. [2004] 「Occupation by Design」 F. A. Davis Company ③Zenke, R. & Clark F. (佐藤剛監訳) [1995] 「作業科学」 三輪書店 ④ 「Journal of occupational science」		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 近年の作業科学の動向	事後：配布資料	講義	坂上
2	作業科学とは — 作業科学の定義、作業科学の歴史	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	講義・ 討論	坂上
3	作業科学とは — 作業科学の定義、作業科学の歴史	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
4	作業とは — 作業の定義、歴史的変遷、諸外国の比較	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
5	作業とは — 作業の定義、歴史的変遷、諸外国の比較	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
6	作業科学における研究手法 — 作業科学における質的研究	事前・事後：文献指定部分	講義	〃
7	作業科学における研究手法 — 作業科学における質的研究	事前・事後：文献指定部分	〃	〃
8	作業と文脈① — 時間的側面：作業パターン、作業バランス	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	講義・ 討論	〃
9	作業と文脈① — 時間的側面：作業パターン、作業バランス	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
10	作業と文脈② — 空間・文化的側面	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃

11	作業と文脈② — 空間・文化的側面	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
12	作業と健康, well-being	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
13	作業と健康, well-being	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
14	作業科学における研究方法の検討 — 作業を理解するための量的研究と質的研究	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	作業科学における研究方法の検討 — 作業を理解するための量的研究と質的研究	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	作業科学特論演習 Advanced Occupational Science	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業療法	選択

科目担当責任者	坂上 真理 (保健医療学研究棟 E510) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石 泰仁		
概要	「作業科学特論」に引き続き、作業を理解し、研究するための諸概念を概説する。さらに、作業科学の作業療法への応用例を学習し、わが国の作業療法の発展に必要な作業の研究テーマを抽出する。		
到達目標	1. 作業を説明するための諸概念が説明できる。 2. 作業科学と作業療法の関係が説明できる。 3. 作業療法の発展に寄与する作業の研究テーマを報告する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション内容	30%	
教科書	配布資料(オリエンテーション時に配布)		
参考書	①Christiansen, C. & Townsend, E. [2010] 「Introduction to Occupation second edition」 PEARSON ②Pierce, E. D. [2004] 「Occupation by Design」 F. A. Davis Company ③Zenke, R. & Clark F. (佐藤剛監訳) [1995] 「作業科学」 三輪書店 ④ 「Journal of occupational science」		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：事前配布資料の予習	講義	坂上
2-3	作業的存在	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	講義・ 討論	〃
4-5	作業バランス	事前：文献指定部分の予習 事後：配布資料	〃	〃
6-7	作業科学における記述的研究 descriptive research	事前・事後：配布資料の予習とまとめ	講義	〃
8-9	作業科学における関連的研究 relational research	事前・事後：配布資料の予習とまとめ	講義・ 討論	〃
10-11	作業科学における予測的研究 predictive research	事前・事後：配布資料の予習とまとめ	〃	〃
12-13	作業科学における処方的研究 prescriptive research	事前・事後：配布資料の予習とまとめ	〃	〃
14-27	課題研究と文献検討 — 研究指導計画に基づき、履修者と協議の上、学習計画を立案する	事前：資料作成と提出 事後：配布資料	個別指導	〃
28-30	まとめ	事前：資料のまとめ	講義・ 討論	〃

授業科目	地域生活科学特論 Advanced Community and Human Life Science	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山 和樹		
概要	本科目では地域(コミュニティ)で生活する高齢者や障害者、さらには地域住民が健全な生活を継続していくための保健・介護予防・健康増進の観点から、疾病・障害予防に対するリハビリテーションアプローチ、セルフマネジメントおよびコミュニティ・エンパワメントに関連する研究のレビュー及び科学的な探求を行う。		
到達目標	1. 地域における医療・福祉・保健に関する社会情勢を理解する。 2. 障害者・高齢者をめぐる地域支援施策の変遷と現状、および課題を理解する。 3. 疾病や障害予防に対するリハビリテーションアプローチ、セルフマネジメント、コミュニティ・エンパワメントを理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 評価対象の詳細 ・プレゼンテーションの内容：レビューの範囲・論理性 ・学習態度：テーマについて積極的な討論・質疑内容
	プレゼンテーションの内容	70%	
	学習態度	30%	
教科書	① 「講義中に資料配付。」		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	下記スケジュールは進捗状況等によって変更(学習内容等)する可能性がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事後：配布資料の復習	講義・討議	池田・横山
2	医療・福祉・保健に関する情報の検索方法	事前・事後：配付資料	〃	〃
3	高齢者を取り巻く社会状況 介護保険制度・包括ケアシステムの動向と関連研究 1	事後：配付資料の復習	〃	〃
4	高齢者を取り巻く社会状況 介護保険制度・包括ケアシステムの動向と関連研究 2	〃	〃	〃
5	高齢者を取り巻く社会状況 介護保険制度・包括ケアシステムの動向と関連研究 3	〃	〃	〃
6	本邦における介護予防の最新情報と研究	事前：最新情報の検索	〃	〃
7	本邦における介護予防の最新情報と研究	〃	〃	〃
8	障害者を取り巻く社会状況 障害者総合支援法関連サービスの動向と関連研究 1	事後：配付資料の復習	〃	〃
9	障害者を取り巻く社会状況 障害者総合支援法関連サービスの動向と関連研究 2	〃	〃	〃
10	生活習慣病に関連する疾病と予防の関連研究	事前：生活習慣病に関する予習	〃	〃

11	認知症予防と関連研究	事後：配付資料の復習	〃	〃
12	うつ病予防と関連研究	〃	〃	〃
13	地域生活科学研究計画法1	〃	〃	〃
14	地域生活科学研究計画法2	〃	〃	〃
15	まとめ	事前：講義全体を通し総合的な理解度の確認	〃	〃

授業科目	地域生活科学特論演習 Community and Human Life Science Seminar	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山 和樹		
概要	地域生活科学特論で学習した知識を基に、関連文献の詳細な検討を行い保健、および疾病・障害予防に関する諸外国の先端的取組みとその効果研究について理解を深める。		
到達目標	1. 関連文献について批判的に検討することができる。 2. 保健・予防領域の研究方法について説明することができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	指定なし		
参考書	関連国際ジャーナル等とし、演習中に適宜指示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：地域生活科学研究の概要について復習	講義	池田・横山
2-20	保健、疾病・障害予防に関連する理論・研究論文の批判的検討、研究方法論に関する検討。	事後：配付資料の復習	講義・ 討論	〃
21-30	研究計画の立案と妥当性の検討 関連する理論・研究論文の継続的検討	事前：最新情報の検索	〃	〃

授業科目	理学療法学・作業療法学特別研究 Advanced Seminar in Physical and Occupational Therapy	1 学年・後期～通年・10 単位 (300 時間)	
		理学・作業	必修

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	修士論文作成を念頭に置き、研究に必要な基本的な知識・技術、学術的価値の高い情報収集とその整理、仮説検証の手段、適切な結果の提示と考察、一連のプレゼンテーションと討議技術、などの習得を支援する。		
到達目標	1. 専攻する領域のレビューを行い、研究目的(仮説)を作成する。 2. 目的を実現できる研究計画を作成する。 3. 研究計画に基づき、研究を遂行する。 4. 修士論文を作成する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	指導教員による	100%	
教科書	必要に応じて提示する。		
参考書	必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
—	<教育研究領域> 神経・発達障害理学療法学 感覚統合障害学 生体工学・スポーツ整形外科学 中枢神経機能障害学 スポーツ理学療法学 活動能力障害学 臨床精神・脳機能学 精神障害リハビリテーション学 神経・認知機能治療学 筋機能制御学 生体機能評価学 形態人類学 作業科学	—	—	指導教員

(博士課程前期)
共通科目

授業科目	保健医療情報システム特論 1 Advanced Human Health and Medical Care Information System 1	全学年・前期・2単位 (30時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	大柳 俊夫 (教育研究棟 C715) e-mail : ohyanagi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>グローバル化と日本の保健・医療・福祉を取り巻く状況が大きく変革している現在、日本の保健・医療・福祉の動向を把握するとともに諸外国の状況を知ることは、今後の医療従事者にとって必須のことである。また、保健・医療・福祉分野における情報化が急速に進んでおり、情報化の長所と短所を正しく理解することがとても重要と考えられる。</p> <p>本特論では、日本と諸外国の医療制度、最新の情報通信技術、保健・医療・福祉における情報化について学習し、さらに、実現が望まれる新しい保健医療情報システムについて考える。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療情報システムの現状と問題点が説明できる。 2. 保健・医療・福祉の情報化の現状と問題点を説明できる。 3. 新しい情報通信技術を理解し、問題点や新しい応用の可能性を説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	ディスカッション	30%	<p>ディスカッション：討論の参加状況で評価します。</p> <p>プレゼンテーション：履修者が必要と考える情報システムについて考えてレポートを提出してもらい、その内容で評価します。</p>
	レポート	70%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<p>スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合があります。また、講義開講の曜日と時間は、履修者と調整します。講義の資料ならびに講義ビデオは、学習支援サイトで公開します。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ってください。</p> <p>教科書は指定しませんが、講義の際に資料を配布するとともに、適宜、参考書を紹介します。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス：本科目の概要と日程調整 情報セキュリティについて(概論)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	講義	大柳
2	日本とカナダアルバータ州の医療制度(1)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	講義・討論	〃
3	日本とカナダアルバータ州の医療制度(2) 米国の医療制度	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
4	英国、ニュージーランド、オーストラリアの医療制度	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
5	香港、中国、台湾、シンガポールの医療制度 ヨーロッパの医療事情の総括	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
6	日本の IT 戦略と保健医療福祉	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
7	医療とマルチメディア 電子カルテ	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
8	情報科学概論(1)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
9	情報科学概論(2)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃

10	通信とインターネット	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
11	データベース(1)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
12	データベース(2)	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
13	情報セキュリティ	事後：講義の内容を、資料と講義ビデオで復習すること	〃	〃
14-15	プレゼンテーション・ディスカッション	事前：プレゼンテーションの準備	発表・討論	〃

授業科目	保健医療情報システム特論2 Advanced Human Health and Medical Care Information System 2	全学年・後期・2単位 (30時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	大柳 俊夫 (教育研究棟 C715) e-mail : ohyanagi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>保健医療分野における情報化が急速に進みつつある現在、医療従事者にとって情報処理技術の習得は必要不可欠と考えられる。</p> <p>本特論2では、高度情報技術の保健医療応用の実践を目標として、(1)データベースシステムの開発、(2)Webプログラミングとサイト構築、(3)スマートフォン、タブレットアプリケーションの開発、などの情報処理技術を学ぶとともに、履修者が開発したい具体的なアプリケーションの設計とプロトタイプの実装を行う。</p>		
到達目標	履修者が習得したい情報処理技術について学習し、その技術を活用、応用してアプリケーション開発が行える。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	アプリケーションの開発	80%	<p>アプリケーションの開発：開発したアプリケーションの内容と完成度で評価します。</p> <p>プレゼンテーション：履修者が開発したアプリケーションについて発表してもらい、発表内容と質疑応答の状況で評価します。</p>
	プレゼンテーション	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<p>特論2では、実際にアプリケーションの開発を行います。具体的な内容については、履修者と相談して決定します。また、指導はマンツーマンか小グループに分けて行うため、開講の曜日ならびに時間についても履修者と相談して決定します。開発するアプリケーションの内容に応じて、開発のための参考書を指定します。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ってください。なお、原則として特論2の履修は特論1の履修を前提としますが、受講希望者の情報通信技術に関する知識が特論2の履修に十分であると判断できる場合は、特論1が未履修でも履修できます。</p>		

実施回	内容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス：本科目の概要と日程調整	事前：学習したい情報処理技術、開発したいアプリケーションについて考える	講義	大柳
2-7	(1)データベースシステムの開発、(2)Webプログラミングとサイト構築、(3)スマートフォン、タブレットアプリケーションの開発、などの情報処理技術の中から、履修者の希望テーマを設定し、テーマ毎に基本技術を学習する。	事前：指定された参考書に沿った事前学習を行う 事後：講義で取り上げたより進んだ内容について復習する	個別指導	〃
8-13	アプリケーションを開発する。	アプリケーションの開発は、履修者の自主性に基づいて進め、毎週の進捗状況を確認するとともに、開発中の疑問や修正等に関する講義を行う	〃	〃
14-15	プレゼンテーション・ディスカッション	事前：プレゼンテーションの準備	発表・討論	〃

授業科目	ヒューマンサイエンス研究法特論 1 Advanced Human Science Research 1	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	船木 祝 (教育研究棟 C703) e-mail : s.funaki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(佐々木 香織) 未定、(保岡 啓子)		
概要	1. 研究に対する姿勢および倫理的配慮について学ぶ。 2. 論文の収集と問題発見、および研究の方法について学ぶ。 3. 社会科学における主要なパラダイム、理論、方法論を学ぶ。 4. 質的研究の問い・仮説を立て、研究方法を選び、研究計画書を作成する。 5. 質的研究の特徴を学ぶ。		
到達目標	1. 研究のための倫理的姿勢を身につけると同時に、文献を的確に取り扱うことができる。 2. 社会科学における主要なパラダイム、理論、方法論を説明することができる。 3. 研究の問いと仮説を立て、研究方法を選び、研究計画書を作成することができる。 4. 質的研究の特徴を説明することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業課題	40%	
	期末レポート	30%	
	議論への参加	30%	
教科書	①西條剛央 [2009・2,200 円] 「看護研究で迷わないための超入門講座」 医学書院 ②Uwe F (鈴木訳) [2016・2,310 円] 「質的研究のデザイン (SAGE 質的研究キット)」 新曜社		
参考書	①道信良子 [2020] 「ヘルス・エスノグラフィ」 医学書院 ②ファビエンヌ・ブルジュール [2014] 「ケアの倫理」 白水社 ③船木祝 [2020] 「響き合う哲学と医療」 中西出版 ④鈴木正子 [1996・2,500 円] 「看護することの哲学」 医学書院 ⑤林周二 [2013・1,800 円] 「研究者という職業」 東京図書 ⑥西條剛央 [2009・2,400 円] 「ライブ講義・質的研究とは何か」 新曜社 ⑦古橋洋子 [2013 年・2,000 円] 「看護研究ビギナーズNOTE」 学研 ⑧足立はるる [2012 年・2,600 円] 「看護研究サポートブック」 メディカ出版		
履修上の留意点	後期とあわせて通年で受講することが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	研究とは何か?	配布資料を読み、課題に取り組む	講義	船木
3-4	看護研究の背後にある認識論	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
5-6	研究に対する姿勢と研究の倫理	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
7-8	看護研究における倫理の位置づけ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
9-10	論文解説、文献収集と問題発見	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
11-12	社会科学的な研究における「社会」への身構え(パラダイム)と社会科学の理論と研究の結びつき	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	(佐々木)

13-14	社会科学の方法論と研究	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
15-16	質的研究の問いと仮説	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定
17-18	質的研究法の選別と研究計画書の作成	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定
19-20	社会調査概論①社会調査の基本的な考え方	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	(保岡)
21-22	社会調査概論②問題意識と調査対象	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
23-24	グラウンデッド・セオリー・アプローチ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
25-26	エスノメソドロジー	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
27-28	質的研究法の特徴—エスノグラフィー、インタビュー、参与観察	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
29-30	ナラティブ・アプローチ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃

授業科目	ヒューマンサイエンス研究法特論2 Advanced Human Science Research 2	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	船木 祝 (教育研究棟 C703) e-mail : s.funaki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	未定、(保岡 啓子)		
概要	1. 研究を進める上で必須な認識論と科学性、および論文の構成を学習する。 2. 質的研究法を用いて集められた資料の分析方法を学ぶ。 3. 初期的分析であるコード化・カテゴリー化、ナラティブ分析を実際の資料を用いて行う。 4. 初期的分析を終えた資料を用いて、テーマや理論を導き、結果をまとめる。		
到達目標	1. 筋道のある論理的な文章を書くことができる。 2. 質的研究法を用いて集められた資料の分析方法を説明できる。 3. 資料の初期的分析であるコード化・カテゴリー化、ナラティブ分析を行うことができる。 4. 初期的分析を終えた資料を用いて、テーマや理論を導き、結果をまとめることができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業課題	40%	
	期末レポート	30%	
	議論への参加	30%	
教科書	①西條剛央 [2009・2,200 円] 「看護研究で迷わないための超入門講座」 医学書院 ②佐藤郁哉 [2008・2,100 円] 「質的データ分析法—原理・方法・実践」 新曜社		
参考書	①船木祝 [2020・2000 円] 「響き合う哲学と医療」 中西出版 ②道信良子 [2020・3200 円] 「ヘルス・エスノグラフィ」 医学書院 ③ウィリッグ C(上淵他訳) [2003・3,675 円] 「心理学のための質的研究法入門—創造的な探求に向けて」 培風館 ④西條剛央 [2009・2,400 円] 「ライブ講義・質的研究とは何か」 新曜社 ⑤古橋洋子 [2013・2,000 円] 「看護研究ビギナーズNOTE」 学研 ⑥足立はるゑ [2012・2,600 円] 「看護研究サポートブック」 メディカ出版 ⑦Uwe F (小田他訳) [2011・3,900 円] 「質的研究入門<人間の科学>のための方法論 新版」 春秋社 ⑧Emerson RM, et al. (佐藤郁哉 他訳) [1998・3,800 円] 「方法としてのフィールドノート」 新曜社		
履修上の留意点	前期とあわせて通年で受講することが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	質的研究の科学性—提題と討論	配布資料を読み、課題に取り組む	演習・討論	船木
3-4	素材提供による質疑応答	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
5-6	論文執筆の要点—提題と討論	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
7-8	質的データの分析—メモ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定
9-10	質的データの分析—コード化・カテゴリー化	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定
11-12	質的データの分析—ストーリー化	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定

13-14	観察研究	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	未定
15-16	質的研究の方法論「応用編」—社会的相互作用の分析・記述	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	(保岡)
17-18	質的研究の方法論「実践編」—社会的相互作用の分析・記述	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
19-20	質的研究の方法論「応用編」—エスノグラフィ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
21-22	質的研究の方法論「実践編」—エスノグラフィ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
23-24	質的研究の方法論「応用編」—ナラティブ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
25-26	質的研究の方法論「実践編」—ナラティブ	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃
27-28	素材提供による質疑応答	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	船木
29-30	研究発表のあり方—提題と討論	配布資料を読み、課題に取り組む	〃	〃

授業科目	保健医療統計学特論 1 Statistics for Health Sciences I	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	高橋 義信 (教育研究棟 C809) e-mail : yoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(加茂 憲一)		
概要	論文作成に必要な統計技法とその理論を学ぶ。		
到達目標	1. データの要約、記述を適切に行える。 2. 各種の統計的検定を適切に行える。 3. 実験計画法を理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	小テスト	65%	小テスト：授業の冒頭に前回の授業の復習を兼ねたテストを行う。 授業で課される課題の達成状況
	課題達成度	35%	
教科書	指定なし		
参考書	①ノーマン&ストレイナー 「論文が読める！早分かり統計学」 メディカルサイエンスインターナショナル ②浜田知久馬 「学会・論文発表のための統計学」 親興交易医書出版部		
履修上の留意点	わからなかった点は、メールでもよいので、質問してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	統計的推測： α レベルと β レベル、信頼区間、片側検定と両側検定	事前：なし 事後：配布資料の精読	講義	高橋
2	標本の大きさの計算	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	(加茂)
3	2つの標本平均の比較：t 検定	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	高橋
4	多群の平均間の比較：一元分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
5	二元分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
6	間隔変数と比例変数の間の関係：回帰分析と関連手法	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
7	共分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
8	時系列分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
9	ノンパラメトリック検定	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
10	ノンパラメトリック統計における関連性の指標	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
11	ロジスティック回帰分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃

12	多変量統計とは	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
13	多変量分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
14	判別分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
15	因子分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃

授業科目	保健医療統計学特論 2 Statistics for Health Sciences II	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	高橋 義信 (教育研究棟 C809) e-mail : yoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	保健医療統計学特論での学習を元に、無料の統計ソフト「EZR」を使用して統計的検定の方法を学ぶ。		
到達目標	EZR を使って、適切にデータを入力し、論文作成に使用する統計的検定ができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	小テスト	65%	小テスト：授業の冒頭に前回の授業の復習を兼ねたテストを行う。 授業で課される課題の達成状況
	課題達成度	35%	
教科書	指定なし		
参考書	①S. B. Hulley ほか 「医学的研究のデザイン」 メディカル・サイエンス・インターナショナル ②H. モツルスキー 「数学いらずの医科統計学」 メディカル・サイエンス・インターナショナル ③神田善伸 「EZR でやさしく学ぶ統計学～EBM の実践から臨床研究まで～2 版」 中外医学社		
履修上の留意点	わからなかった点は、メールでもよいので、質問してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	データの記述 1 データの要約と記述	事前：なし 事後：配布資料の精読	演習	高橋
2	2 データに関する仮定の評価	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
3	仮説の検定 1 平均値の差に関する仮説の検定	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
4	2 一元配置分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
5	3 二元分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
6	関係を調べる 1 相関分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
7	2 偏相関分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
8	3 χ^2 検定	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
9	予測、説明をする 1 線形重回帰分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
10	2 ロジスティック重回帰分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
11	データの圧縮、整理 1 因子分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃

12		2 主成分分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	演習	高橋
13	実験計画法	1 実験計画法とは	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
14		2 多元配置分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃
15		3 多変量分散分析	事前：なし 事後：配布資料の精読	〃	〃

授業科目	疫学・社会調査法特論 1 Advanced epidemiology and social research method 1	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(加茂 憲一)		
概要	疫学とは人口集団の中で出現する健康関連のさまざまな事象の頻度と分布、およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策立案に役立てる学問である。また、社会調査法は社会現象や人間行動に関するデータを収集・解析し、それらの現象や行動を解明するための方法論である。疫学、社会調査の理論は、EBP (Evidence based practice) の根拠となる論文を読み解くために必要な知識であり、数量的なデータを取り扱う研究を計画・実施する上で必須となるスキルである。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究の方法論、社会調査法について学ぶ 2. 研究計画を立案するプロセスを学ぶ(研究デザイン、標本抽出、調査票の設計) 3. 疫学研究の方法論を用いた研究論文の構成を理解し述べることができる 4. 検定の原理を説明できる 5. 疫学研究で用いられる統計解析の手法を学び実践できる 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	提出物：記載内容 学習態度：出席・討論参加状況
	学習態度	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①市原 清志 [1990] 「バイオサイエンスの統計学」 南江堂		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義・演習	山本
2	研究デザイン	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
3	標本抽出法	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
4	調査票の設計	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
5	研究倫理	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
6	推測統計、検定の原理	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	(加茂)
7	疫学的研究法(1) 介入研究	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	山本
8	疫学的研究法(2) コホート研究	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
9	疫学的研究法(3) 症例対照研究	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃

10	疫学的研究法(4)横断研究	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
11	疫学的研究法(5)メタアナリシス	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
12	スクリーニング：ROC 曲線、カットオフポイントの設定	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
13	研究の実践(1)	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
14	研究の実践(2)	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	(加茂)
15	サンプルサイズ、効果量、有意水準、検出力	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：なし	〃	山本

授業科目	疫学・社会調査法特論2 Advanced epidemiology and social research method 2	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	疫学とは人口集団の中で出現する健康関連のさまざまな事象の頻度と分布、およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策立案に役立てる学問である。また、社会調査法は社会現象や人間行動に関するデータを収集・解析し、それらの現象や行動を解明するための方法論である。本科目では、疫学・社会調査法の理論・方法について学ぶとともに、質問紙の作成、エクセルを用いたデータ処理、統計パッケージ(R:フリーウェア、G*power)を用いた統計解析を通じて、研究やEBPに必要な知識とスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究の方法論、社会調査法について学ぶ 2. データ入力、データクリーニングの方法をみにつける 3. 単変量解析の理論を理解し、統計パッケージを操作することができる 4. 多変量解析の理論を理解し、統計パッケージを操作することができる 5. 検出力、サンプルサイズ、効果量、有意水準の関係を理解し、それぞれを算出することができる 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	提出物：記載内容 学習態度：出席・討論参加状況
	学習態度	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①市原清志 [1990] 「バイオサイエンスの統計学」 南江堂		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、ソフトウェアの導入	事前：なし 事後：なし	講義・演習	山本
2	疫学研究/社会調査の実践(1) 研究計画の立案・標本抽出	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
3	疫学研究/社会調査の実践(2) 調査票の作成	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
4	疫学研究/社会調査の実践(3) データ入力・クリーニング	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
5	検定・検出力・サンプルサイズ・効果量	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
6	母平均の推定と比較	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
7	多重比較法	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
8	相関と回帰	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
9	母比率の推定と比較、カイ二乗検定	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃

10	ロジスティック回帰、生存時間分析	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
11	尺度(Scale)開発の理論と実践(1) 妥当性・信頼性の評価	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
12	尺度(Scale)開発の理論と実践(2) 因子分析	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
13	時系列データの分析	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
14	ノンパラメトリック法	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：課題に取り組む	〃	〃
15	共分散構造分析	事前：前回の講義資料に目を通す 事後：なし	〃	〃

授業科目	保健医療教育学特論 Pedagogy for Health Sciences	(博士課程前期・博士課程後期) 全学年・ 前期・2単位 (30時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	高橋 義信 (教育研究棟 C809) e-mail : yoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(南 紅玉)		
概要	教育の原理や発達段階と教育の関係を学び、臨床実習指導者あるいは養成校の教員として、教育という仕事に携わるのに必要な教育に関連する知識を習得する。		
到達目標	1. 教育学に関する全般的理論や歴史を学び、今日の教育が直面する現代的諸課題を理解する。 2. 教育と学校教育の運営についての基礎的な知識を身につける。 3. 教員として必要な人権意識を持ち、法に則った指導の在り方を身につける。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	
	提出物	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①木村元、小玉重夫他 [2019年] 「教育学をつかむ」 有斐閣 ②勝野正章、庄井良信 [2022年] 「問いからはじめる教育学」 有斐閣 ③下司晶 [2016年] 「教育思想のポストモダン」 勁草書房 ④坂田仰 [2018年] 「裁判例で学ぶ学校のリスクマネジメントハンドブック」 時事通信社 ⑤日本医学教育学会 [2003年] 「医学医療教育用語辞典」 照林社		
履修上の留意点	博士課程前期にて「保健医療教育学特論」を履修し単位認定を受けた者は、博士課程後期において「保健医療教育学特論」を履修し、単位認定を受けることは出来ない。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	教育とは、教育の目的、良い教育は定義できるか	事後： 配布資料	講義・討論	高橋
2	子どもの発達と教育、心身の発達と学習の過程	事後： 配布資料	〃	〃
3	教育評価の在り方とその種類：形成的評価と総括的評価	事後： 配布資料	〃	〃
4	教育方法にはどのようなものがあるか：教育のDX化の進展を踏まえて	事後： 配布資料	〃	〃
5	カリキュラムとその思想：カリキュラムポリシーとは	事後： 配布資料	〃	(南)
6	高等教育での著作権、守秘義務、個人情報の扱い方	事後： 配布資料	〃	〃
7	教育における選抜の在り方とその影響：大学入試を中心に	事後： 配布資料	〃	〃
8	教育と学校の歴史：発明された「学校」	事後： 配布資料	〃	〃
9	日本における第2次大戦後の教育改革とその変容：高等教育を中心に	事後： 配布資料	〃	〃

10	社会組織としての大学と大学教員という職業	事後：配布資料	〃	〃
11	経済格差と教育	事後：配布資料	〃	〃
12	社会学から見た教育問題	事後：配布資料	〃	〃
13	専門職業養成教育の日本の特徴：医療職を中心に	事後：配布資料	〃	〃
14	現代教育法の基本原理：学習権、教育権を中心に	事後：配布資料	〃	高橋
15	教育裁判から見る教員の法的義務：いじめと学校事故をめぐる判例から	事後：配布資料	〃	〃

授業科目	研究倫理特論 Advanced Research Ethics	全学年・通年・1単位(15時間)	
		共通科目	必修

科目担当責任者	太田 久晶(保健医療学研究棟 B512) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山田 崇史、青柳 道子、(旗手 俊彦)、(時野 隆至)		
概要	科学技術の進歩に伴い、これまで研究者の良識に委ねられていた研究の倫理については、系統的に学ぶ必要がある。本科目は、研究倫理における基本的な概念を学び、研究者としての責務を考察する。		
到達目標	1. 研究倫理の諸概念について説明できる。 2. 研究者の責務について説明できる。 3. 研究の計画から遂行、発表の一連の過程における倫理について説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	100%	提出物：①独立行政法人日本学術振興会研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)修了受講書コピー(50%) ②レポート(50%)：事例(マスメディアなどで報道された研究活動で人権の尊重が損なわれた事件など)を示しながら、人権の尊重と研究活動についての自己の考えを記述する。
教科書	指定なし		
参考書	①HP 参照 [最新版] 「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー」 https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html ②HP 参照 [最新版] 「For the Sound Development of Science -The Attitude of a Conscientious Scientist-」 https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri_e.pdf ③近江幸治 [2022] 「学術論文の作法ー論文の構成・文章の書き方・研究倫理 第3版」 成文堂 ④山崎茂明 [2013] 「科学者の発表倫理ー不正のない論文発表を考える」 丸善出版 ⑤山崎茂明 [2002] 「科学者の不正行為ー捏造・偽造・盗用」 丸善出版株式会社 ⑥黒田裕子 [2023] 「黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版」 医学書院 ⑦浅井隆他 [2017] 「すべての医療従事者が知りたい! 医学系研究、論文投稿上のQ & A」 日本医事新報社		
履修上の留意点	1) e-L CoRE の受講はいつから開始してもよい。但し、年度をまたがない。テストを受け、100%正解になるまで当該箇所の学習を続ける。コース内容の全てを学習し終えたら、直ちに修了受講書のコピーを学務課大学院係まで提出する。提出期限は2月第1金曜日までとする。 2) 1回目、8回目の講義に欠席した場合、e-learning等で自己学習することが必須である。 3) レポート提出期限と提出先：期限は2月第1金曜日までとする。提出先はMoodleとする。 4) 修士論文研究計画書を提出する前までに学習が終了していることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 責任のある研究活動、研究の公正、不正への対応、研究規則に関わる法律、ガイドライン	事前：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文科省、厚労省)を読む 事後：授業内容の復習	講義	太田 (旗手)
2	研究における倫理1 研究計画の立案(人権の尊重、安全への配慮、利益相反、法令・ルールの遵守)	事前：参考書を読む 事後：学習内容の復習	e-learning	太田 山田 青柳
3	研究における倫理2 研究の進行(インフォームドコンセント、個人情報の保護、データ収集・管理・処理、研究不正行為など)	事前：参考書を読む 事後：学習内容の復習	〃	〃
4	研究における倫理3 研究成果の発表(成果の発信方法と倫理、オーサーシップ、著作権)、共同研究推進の上での課題、研究費の適正な使用	事前：参考書を読む 事後：学習内容の復習	〃	〃

5	研究における倫理4 ピアレビュー、査読における役割・責任、後進の指導、研究機関の役割、告発と告発者の保護、科学者の役割、プロフェッショナリズム	事前：参考書を読む 事後：学習内容の復習	e-learning	太田 山田 青柳
6	人権の尊重と研究活動1 事例検討、研究倫理に関する図書の精読	事前：事例の収集 事後：レポート作成	演習	〃
7	人権の尊重と研究活動2 事例検討、研究倫理に関する図書の精読	事前：図書の精読 事後：レポートの提出	〃	〃
8	研究における倫理5 研究倫理審査委員会の具体例を学ぶ～札幌医科大学倫理委員会における書類作成と審査のポイント(説明文書・同意書・同意撤回書及び申請書作成のポイント)	事前：札幌医科大学倫理委員会HPにある規定を読む 事後：学習内容の復習	講義	(時野)

授業科目	病態生理学特論 Advanced Pathophysiology	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学部研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態生理の詳細を理解することを目指す。これにより理論的な看護・リハビリの実践の基盤となる知識を身につける。ゼミでは看護学・理学療法学・作業療法学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。		
到達目標	内科疾患についての病態と治療学・看護学・理学療法学・作業療法学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	レポート内容・提出状況、ゼミにおける討論の内容
	受講状況	50%	
教科書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-15	内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学的、看護学的、理学療法的、作業療法的観点から *心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など	事前：該当範囲の予習 事後：講義の復習	講義・討論	丹野

授業科目	病態治療学特論 1 Advanced Clinical Medical Science 1	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>疾病の科学的解明、医学的治療介入のみでは患者を“癒す”ことはできない。患者を“癒す”ためには看護が必要となる。本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態と治療原理を確認し、病人の療養のための理解を得ることを目指す。ゼミでは看護学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。</p>		
到達目標	<p>内科疾患についての病態と治療学・看護学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。</p>		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	
	受講状況	50%	
教科書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	<p>ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-15	<p>内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学のおよび看護学的観点から</p> <p>*心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など</p>	<p>事前：該当箇所の予習</p> <p>事後：講義の復習</p>	講義・討論	丹野

授業科目	病態治療学特論 2 Advanced Clinical Medical Science 2	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	具体的な量的な看護研究を自立してできるようになることを目的とし、基礎から研究計画の立案までを系統的に学ぶ。また、臨床研究の遂行にあたり臨床研究コーディネーター(CRC)として活躍できるように、記録の管理・監査・関連法などについても理解と知識の涵養を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床試験のがん領域に関する基礎知識を習得する。 2. プロトコールを提案することが出来る。 3. 安全性・有効性の評価が出来る。 4. チーム医療の立ち位置を理解し、臨床研究遂行できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	各講義終了時の修了証をもって評価する。
教科書	① 畠山勝義(監修)、北野正剛、田邊稔、池田徳彦(編) [最新版] 「標準外科学 第14版」 医学書院		
参考書	① 医療情報科学研究所(編) [2020] 「病気がみえる vol.1 消化器(第6版)」 MEDIC MEDIA ②		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 また、ICR 臨床研究入門による自主的学習を主体とし、修了証が発行される。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	臨床試験における倫理	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	水口
2	臨床試験で使用する文書 記録の管理	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	e-learning	〃
3	安全性や有効性の評価(RECIT、CTCAE、その他) がん臨床試験のプロトコール	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
4	抗がん剤の基礎知識 がん患者さん・家族とのコミュニケーション	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
5	がん領域の治験に携わる CRC の実務 チーム医療を考える	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
6	乳がん各論 卵巣がん各論	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
7	臨床試験を円滑に進めるために医師・CRC・CRA との協力体制 がん臨床試験に関わる CRC に必要なこと	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
8	がんに対する免疫療法の基本 がん専門 CRC としての取り組み	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
9	質問票開発のための統計学	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
10	Patient Reported Outcome Biomarker-driven trial design	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃

11	がんの臨床研究論文を読むのに必要な統計学 がん臨床試験のエンドポイント	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
12	Health-Related Quality of Life(HRQOL)の評価 医療経済評価の方法と活用	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
13	バイオインフォマティクス 免疫療法の効果判定基準	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
14	臨床研究法と倫理審査委員会 研究倫理審査のポイント～科学的観点から	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	〃	〃
15	まとめ	事後：講義に関連した論文を検索し、 その内容について発表する。	講義	〃

授業科目	保健医療学セミナー Seminar for Health Science	全学年・通年・2単位 (30時間)	
		共通科目	選択

科目担当責任者	谷口 圭吾 (保健医療学研究棟 E413) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	澄川 真珠子、菅原 和広、中村 眞理子 他		
概要	本セミナーは、保健医療学研究を進めていくにあたって必要な知識を、各分野の専門家が解説していくとともに、学内および学外の最先端の保健医療学に関連した研究トピックスについて紹介していく。		
到達目標	最先端の保健医療学研究の実際を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	参画状況授業への参加	100%	・討論の参加 ・能動的に学ぶ姿勢
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	年間の開講回数は15～20回になる予定である		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 保健医療学研究総論	事前：なし 事後：なし	講義	谷口 澄川 菅原 中村
2	保健医療学研究における倫理的配慮	事前：なし 事後：なし	〃	調整中
3-8	保健医療学研究トピックス	事前：なし 事後：なし	〃	調整中
9-12	学内外セミナー・各種学術集会の中で、研究科教務委員会で認定された内容の講演等	事前：なし 事後：なし	〃	調整中
13-15	医学研究セミナーの中で、研究科教務委員会で認定された内容の講義	事前：なし 事後：なし	〃	調整中

VI シラバス

(博士課程後期)

看 護 学 専 攻

授業科目	基礎看護科学特講 Special Topics of Fundamental Nursing	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	堀口 雅美 (保健医療学研究棟 E309) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野 智子		
概要	基礎看護科学および近接領域における国内外の研究論文の要約と批判的読みを通して、基礎看護科学に関する研究動向を理解し自らの研究課題の焦点化を図る。		
到達目標	1. 基礎看護科学および近接領域における国内外の研究論文を要約し批判的に読むことができる。 2. 基礎看護科学に関する研究動向を概観できる。 3. 上記の研究動向を踏まえて、自らの研究課題の焦点化を図ることができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況(20%) および提出内容(20%) 発表：提示の内容、質疑応答の内容 討議への参加：参加状況と内容
	発表	30%	
	討議への参加	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①福原俊一 [2017] 「臨床研究の道標:7つのステップで学ぶ研究デザイン(上・下巻) 第2版」 健康医療評価研究機構 ②近江幸治 [2022] 「学术论文の作法—論文の構成・文章の書き方・研究倫理 第3版」 成文堂 ③American Psychological Association [2019] 「Publication Manual (OFFICIAL) 7th Edition of the American Psychological Association」 American Psychological Association ④アメリカ心理学会(訳:前田樹海他) [2023] 「APA論文作成マニュアル」 医学書院 ⑤小林啓 [2023] 「医療者のスライドデザイン:プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書」 医学書院 ⑥HP 参照 [最新版] 「Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals」 https://www.icmje.org/recommendations/ ⑦HP 参照 [最新版] 「医学雑誌掲載のための学術研究の実施、報告、編集、および出版に関する勧告」 https://honyakucenter.jp/assets/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf ⑧HP 参照 [最新版] 「日本医学会医学雑誌編集ガイドライン」 https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をする。 ・授業日程は協議の上、決定する。 ・必要に応じて、科目担当責任者と担当教員に連絡をとる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 研究疑問に関する討議	事前：研究疑問を言語化する 事後：授業中の論点を整理する	討議	堀口・ 宇野
2-3	基礎看護科学および近接領域の研究論文を検索する 検索過程に関連する討議を行う	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	発表 討議	〃
4	基礎看護科学および近接領域の研究論文を要約する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
5-7	基礎看護科学および近接領域の研究論文を批判的に読む	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
8-10	自らの研究疑問が基礎看護科学における研究の動向にどのように位置づけられるのかという点について検討する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
11-13	研究倫理の視点から自らの研究疑問について検討する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃
14-15	自らの研究疑問を明確にし、研究課題の焦点を検討する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	〃	〃

授業科目	基礎看護科学特講演習 Special Topics of Fundamental Nursing, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	堀口 雅美 (保健医療学研究棟 E309) e-mail : hori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	宇野 智子		
概要	各自の研究課題に関する研究計画の立案と実施に向けた準備を行い、基礎看護科学における研究を探究する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究課題について、研究目的および研究の意義を説明できる。 2. 看護実践を支える科学的根拠を探究するための研究デザインについて説明できる。 3. 各自の研究目的と研究デザインを、看護実践と研究の関連の観点から説明できる。 4. 各自の研究課題に関する研究計画書を作成し、倫理審査を受ける準備ができる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況(20%)および提出内容(20%) 発表：提示の内容、質疑応答の内容 討議への参加：参加状況と内容
	発表	30%	
	討議への参加	30%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①福原俊一 [2017] 「臨床研究の道標:7つのステップで学ぶ研究デザイン(上・下巻)第2版」 健康医療評価研究機構 ②近江幸治 [2022] 「学术论文の作法—論文の構成・文章の書き方・研究倫理 第3版」 成文堂 ③American Psychological Association [2019] 「Publication Manual (OFFICIAL) 7th Edition of the American Psychological Association」 American Psychological Association ④アメリカ心理学会(訳:前田樹海他) [2023] 「APA論文作成マニュアル」 医学書院 ⑤小林啓 [2023] 「医療者のスライドデザイン:プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書」 医学書院 ⑥HP 参照 [最新版] 「Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals」 https://www.icmje.org/recommendations/ ⑦HP 参照 [最新版] 「医学雑誌掲載のための学術研究の実施、報告、編集、および出版に関する勧告」 https://honyakucenter.jp/assets/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf ⑧HP 参照 [最新版] 「日本医学会医学雑誌編集ガイドライン」 https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf 		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をする。 ・授業日程は協議の上、決定する。 ・必要に応じて、科目担当責任者と担当教員に連絡をとる。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 各自の研究課題に関する討議	事前：研究課題の資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	発表 討議	堀口・ 宇野
2-8	各自の研究課題に関連する研究方法を検討する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	”	”
9-15	各自の研究課題に関連の深い研究論文を要約し、批判的に読む	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	”	”
16-57	各自の研究課題に関する研究計画を立案する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	”	”
58	倫理審査を受ける準備を整える	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	”	”
59	学会発表に必要な内容について学修する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	”	”

60	論文執筆に必要な内容について学修する	事前：発表資料を作成する 事後：授業中の論点を整理する	発表 討議	堀口・ 宇野
----	--------------------	--------------------------------	----------	-----------

授業科目	感染看護学特講 Special Topics of Infection Control Nursing	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	秋原 志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	現代の感染症の特徴と感染予防の方法についての理解を深めることを目的として、国内外における感染症の発症要因と流行現象および感染症の特徴に基づいた感染症患者への対応や感染症患者のための看護ケア、医療関連感染対策の動向などの文献検討を行い、研究課題を検討する。		
到達目標	1. 感染症および感染看護における国内外の研究論文の批判的吟味ができる。 2. 感染制御および感染看護に関する研究動向を説明できる。 3. 社会的ニーズや研究動向を踏まえて研究課題を設定できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	40%	提出物：プレゼンテーション資料、レポート
	発表	40%	発表：プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容
	討議への参加	20%	討議への参加：参加状況
教科書	指定なし		
参考書	①大曲貴夫 [2015] 「感染管理・感染症看護テキスト」 照林社		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をすること。 ・授業日程は協議の上、決定する。担当教員と密に連絡をとること。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 研究領域における課題	事前：自らの研究疑問をまとめる 事後：授業のまとめ	講義・討議	秋原
2-3	感染制御、感染症看護に関連する研究論文の検索	事前：発表資料の作成 事後：授業のまとめ	〃	〃
4-8	選定した研究論文のクリティーク	事前：発表資料の作成 事後：授業のまとめ	〃	〃
9-12	感染制御、感染症看護領域における課題の明確化	事前：発表資料の作成 事後：授業のまとめ	〃	〃
13-15	研究課題に適した研究方法の検討	事前：発表資料の作成 事後：授業のまとめ	〃	〃

授業科目	感染看護学特講演習 Special Topics of Infection Control Nursing, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	秋原 志穂 (保健医療学研究棟 E208) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	感染制御、感染症看護に関する研究の動向やニーズから設定した研究課題を吟味し、意義のある研究成果を創出するための検討を行う。		
到達目標	1. 設定した研究課題の意義を検討できる。 2. 課題を解決する研究方法を検討し、研究計画を立案できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	提出物：プレゼンテーション資料、レポート 発表：プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容 討議への参加：参加状況
	発表	30%	
	討議への参加	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①大曲貴夫 [2015] 「感染管理・感染症看護テキスト」 照林社		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者は、必ず事前に科目担当責任者に連絡をすること。 ・授業日程は協議の上、決定する。担当教員と密に連絡をとること。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-10	研究課題に関連する研究論文をクリティークし、研究方法に関する検討を行う。	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	演習	秋原
11-20	研究課題に関するフィールドワークの計画	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	〃	〃
21-30	フィールドワークの実践	事前：実践の準備 事後：実践のまとめ	フィールドワーク	〃
31-40	フィールドワークの分析	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	演習	〃
41-50	フィールドワークのまとめ	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	〃	〃
51-60	研究計画の立案	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	〃	〃

授業科目	女性健康看護学特講 Special topics of Clinical Application Nursing (Special topics of Women's Health Nursing)	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	女性の健康課題と支援にかかわる看護支援の位置づけについて、多角的に分析するために必要な基盤的知識を修得する。		
到達目標	1. 看護研究の基盤となる哲学的前提とパラダイムについて説明できる。 2. 人を対象とした研究計画のための倫理指針について説明できる。 3. 質的・量的アプローチをつなぐ研究デザインについて説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	20%	提出物：提出状況および記載内容の適切性・客観性 発表：発表の準備性、発表内容、質疑応答 討論：参加状況および発言内容
	発表	30%	
	討論	50%	
教科書	①J.W. クレスウェル/大谷順子訳 [2010] 「人間科学のための混合研究法」 北大路書房 ②J.W. Creswell, et al [2017] 「Qualitative inquiry & research design. Choosing among five approached」 SAGE Publication		
参考書	①国内外の関連ジャーナルなどとし、講義中に適宜提示する。		
履修上の留意点	授業日程は協議の上、決定する。教員と密に連絡をとること。 ゼミは受講生が担当するので、十分な事前準備と適切な資料作成および積極的な参加態度が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 受講生の関心ある研究領域	事前：プレゼンの準備 事後：文献検索・検討	発表 討論	正岡
2	研究に必要な専門的知識① 混合研究法の概念	事前：教科書①の第1章を読む 事後：ゼミの復習・文献検索	〃	〃
3	研究に必要な専門的知識② 混合研究法における哲学的パラダイム	事前：教科書①の第2章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
4	研究に必要な専門的知識③ Philosophical assumptions and Interpretive frameworks	事前：教科書②のchapter2を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
5	研究に必要な専門的知識④ Philosophical assumptions and Interpretive frameworks	事前：教科書②のchapter2を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
6	研究に必要な専門的知識⑤ 最新の研究倫理指針	事前：倫理指針の準備 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
7	研究に必要な専門的知識⑥ 混合研究法のレビュー	事前：教科書①の第3章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
8	研究に必要な専門的知識⑦ 混合研究法を用いた調査 研究デザイン	事前：教科書①の第4章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
9	研究に必要な専門的知識⑧ 混合研究法を紹介する	事前：教科書①の第5章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
10	国内外の文献クリティーク：文献を通して混合研究法を理解する①	事前：文献検索および資料準備 事後：ゼミの復習	〃	〃

11	国内外の文献クリティーク：文献を通して混合研究法を理解する②	事前：文献検索および資料準備 事後：ゼミの復習	〃	〃
12	研究に必要な専門的知識⑨ Designing a Qualitative Study	事前：教科書②の chapter3 を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
13	研究に必要な専門的知識⑩ Designing a Qualitative Study	事前：教科書②の chapter3 を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
14	研究に必要な専門的知識⑪ 混合研究法においてデータを収集する	事前：教科書①の第6章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃
15	研究に必要な専門的知識⑫ 混合研究法においてデータを分析する	事前：教科書①の第7章を読む 事後：ゼミの復習・文献検討	〃	〃

授業科目	女性健康看護学特講演習 Special topics of Clinical Application Nursing, Seminar (Special topics of Women's Health Research, Seminar)	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	正岡 経子 (保健医療学研究棟 E310) e-mail : k.masaoka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	女性の健康にかかわる国内外の研究論文を通し、女性の健康課題とその背景を科学的に探究する。選択した健康課題の対策と看護支援の位置づけを分析し、研究の焦点を国際的な観点から論ずる。これらを通して、独創的な支援方法の開発をめざす。		
到達目標	1. 特定の関心領域を選定し、系統的な情報検索と現状の批判的探究を行い研究的に取り組む課題について説明できる。 2. 明らかにした課題について新規性・実行可能性・倫理性の観点から研究の必要性を論理的に説明できる。 3. 研究の哲学的枠組みと研究パラダイムを理解し、自己の研究課題と照合し説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	20%	提出物：提出状況、記載内容の適切性・客観性 発表：発表の準備性、発表内容、質疑応答 討論：討論の参加状況および発言内容
	発表	30%	
	討論	50%	
教科書	①指定なし		
参考書	①国内外の関連ジャーナルなどとし、授業中に適宜提示する。		
履修上の留意点	授業日程は協議の上、決定する。教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	ガイダンス 修士課程での研究成果を踏まえ、社会に還元するための研究課題についての検討	事前：資料作成と発表準備 事後：文献検索・検討	発表 討論	正岡
6-30	研究課題に関する国内外の系統的な情報検索および批判的探究	事前：資料作成と発表準備 事後：文献検索・検討	〃	〃
31-40	研究課題に関するフィールドワーク	事前：資料作成と発表準備 事後：文献検索・検討	〃	〃
41-60	研究課題に関する文献クリティークおよび研究方法の検討	事前：資料作成と発表準備 事後：文献検索・検討	〃	〃

授業科目	小児健康看護学特講 Special topics of Clinical Application Nursing (Special topics of Child Health Nursing Research)	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	小児と家族の看護における受講生の関心テーマについて研究動向を把握し、援助方法を開発するために必要となる知識基盤を形成する。受講生の関心領域における現象を明瞭にし、焦点をあてた概念の理解が深まるよう文献を用い、小児と家族の看護における概念、理論の探究を行う。		
到達目標	1. 理論開発の要素を説明できる。 2. 概念分析の方法について説明できる。 3. 受講生の研究の焦点となる概念を概念分析して説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	①Beth L. Rodgers, Kathleen A. Knaf1. [2000] 「Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications. 2nd ed.」 Saunders ②Lorraine Olszewski Walker, Kay Coalson Avant. 中木高夫・川崎修一 [2008] 「Strategies for Theory Construction in Nursing 看護における理論構築の方法. 第1版」 医学書院		
参考書	①Beth L. Rodgers, Kathleen A. Knaf1. 近藤麻理, 片田範子 [2023] 「看護における概念開発 基礎・方法・応用」 医学書院		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更する場合がある。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理論開発の概要 1 理論開発のレベル、理論の構築	事前：教科書②p1～31, 事後：授業内容の振り返り	講義	今野・田畑 浅利
2	理論開発の概要 2 理論開発の要素、アプローチ、方法	事前：教科書②p32～49, 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
3	看護における概念開発 1 概念統合、概念導出	事前：教科書②p51～88 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
4	看護における概念開発 2 概念分析	事前：教科書②p89～122 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
5	概念開発における哲学 1 主な哲学者における現象の見方、概念と言語、概念の活用、 概念の進化	事前：教科書①p7～54 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
6	概念開発における哲学 2 看護における概念開発と知識の統合、概念分析・概念開発 の方法	事前：教科書①p7～54 事後：授業内容の振り返り	〃	〃
7	概念分析 ; Rodgers の方法 1 文献の精読	事前：教科書①p77～102 事後：授業内容の振り返り	〃	〃

8	概念分析 ; Rodgers の方法 2 Rodgers の方法の特徴、これを用いた文献のクリティーク	事前 : 教科書①p77~102 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
9	概念分析 ; Wilson の方法 1 文献の精読	事前 : 教科書①p55~76 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
10	概念分析 ; Wilson の方法 2 Wilson の方法の特徴、これを用いた文献のクリティーク	事前 : 教科書①p55~76 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
11	概念分析 ; Hybrid Model1 文献の精読	事前 : 教科書①p129~160 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
12	概念分析 ; Hybrid Model2 Hybrid Model の特徴、これを用いた文献のクリティーク	事前 : 教科書①p129~160 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
13	焦点とした概念の概念分析の実際 1	事前 : 文献検索、検討、資料作成 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
14	焦点とした概念の概念分析の実際 2	事前 : 文献検索、検討、資料作成 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃
15	焦点とした概念の概念分析の実際 3	事前 : 文献検索、検討、資料作成 事後 : 授業内容の振り返り	〃	〃

授業科目	小児健康看護学特講演習 Special topics of Clinical Application Nursing, Seminar (Special topics of Child Health Nursing Research, Seminar)	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	今野 美紀 (保健医療学研究棟 E112) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑 久江、浅利 剛史		
概要	小児看護学に関連した博士論文の研究計画を立案できるような研究課題を焦点化し、方法論を検討する。また、援助方法を開発するために理論・実践・研究の統合を探求する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら焦点化した研究課題の意義について説明できる。 2. 自ら焦点化した研究方法について説明できる。 3. 新たな援助方法と評価方法を開発し提案できる。 4. 学位論文申請にむけて必要な諸活動に携わることができる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論への参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	①American Psychological Association [2019] 「Publication Manual of the American Psychological Association 7th edition」 American Psychological Association		
参考書	①エステル・M・フィリップス [2010] 「博士号のとり方 学生と指導教官のための実践ハンドブック」 出版サポート大樹舎		
履修上の留意点	下記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更する場合がある。 必要に応じ、担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-6	研究テーマの動向の調査 国内外の文献を検索し、研究テーマに関して動向を明らかにする。	事前：文献検索、クリティーク 事後：文献管理	演習	今野・田畑 浅利
7-10	文献にみる研究動向から自身の研究テーマを洗練する。	〃	〃	〃
11-28	概念分析 研究テーマに係る主要概念について、概念分析を行う。	〃	〃	〃
29-30	概念分析の成果の報告	事前：資料作成 事後：資料の修正、提出	報告会	〃
31-40	研究方法の検討 文献検討を通じ、研究方法を洗練する。	事前：文献検索、クリティーク 事後：文献管理	演習	〃
41-50	フィールドワーク 研究フィールドにて、場と対象者へのアクセス方法、手順等が具体的になるように参加観察する。援助方法、評価方法を検討する。	事前：活動計画の立案 事後：活動の振り返り	〃	〃
51-52	フィールドワークの活動報告	事前：資料作成 事後：振り返り	報告会	〃

53-58	研究計画書の立案、プレゼンテーション準備 研究の意義、倫理的配慮、実現可能性も踏まえて研究計画書を作成する。	事前：計画書立案、プレゼン資料作り 事後：計画書の修正、プレゼン資料の修正	演習	〃
59-60	研究計画書、プレゼンテーション資料の完成	事前：計画書立案、プレゼン資料作り 事後：計画書提出、プレゼン資料の完成	報告会	〃

授業科目	成人健康看護学特講 Special topics of Clinical Nursing (Special topics of Adult Health Nursing)	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	成人看護学に関連した博士論文を作成するための基礎的な視点、研究動向、研究方法について探求する。また自らの研究課題の明確化と課題の解決方法をについて文献抄読および討議を通じて検討する。		
到達目標	1. 成人看護学領域に関連する今日的課題について検討できる。 2. 成人看護学領域に関連する研究動向・研究方法について説明できる。 3. 各自の研究課題について先行研究の概観および研究モデルについてプレゼンテーションができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	討議への参加	20%	
	課題提出	40%	
	プレゼンテーション	40%	
教科書	①指定なし		
参考書	①なし		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある 適宜、研究の進め方について担当教員に確認、相談すること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	成人看護学の今日的課題について作成した資料をもとに討議	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	講義 演習	澄川
2	成人看護学の今日的課題について作成した資料をもとに討議	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
3	成人看護学の今日的課題について作成した資料をもとに討議	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
4	成人看護学領域に関連する研究動向、研究方法に関する 文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
5	成人看護学領域に関連する研究動向、研究方法に関する 文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
6	成人看護学領域に関連する研究動向、研究方法に関する 文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
7	各自の研究テーマに関連する文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
8	各自の研究テーマに関連する文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
9	各自の研究テーマに関連する文献抄読およびクリティーク	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
10	各自の研究課題の明確化と研究方法について検討	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
11	各自の研究課題の明確化と研究方法について検討	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃

12	各自の研究課題の明確化と研究方法について検討	事前： 課題に関する資料作成 事後： 資料の検討	〃	〃
13	各自の研究課題と研究方法に関するプレゼンテーションと討議	事前：プレゼンテーション準備 事後：討議内容の整理	〃	〃
14	各自の研究課題と研究方法に関するプレゼンテーションと討議	事前：プレゼンテーション準備 事後：討議内容の整理	〃	〃
15	各自の研究課題と研究方法に関するプレゼンテーションと討議	事前：プレゼンテーション準備 事後：討議内容の整理	〃	〃

授業科目	成人健康看護学特講演習 Special topics of Clinical Nursing Seminar (Special topics of Adult Health Nursing Seminar)	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澄川 真珠子 (保健医療学研究棟 E210) e-mail : masuko0811@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	成人看護学領域での研究課題を明確にして研究計画書を作成するための理論的背景について探求する。またまた課題を明らかにするための研究方法について討議と実践を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学領域で活用する理論に関して説明できる。 2. 各自の研究課題について理論的背景を考慮しながら検討できる。 3. 各自の研究課題を解決するための研究方法について検討できる。 4. 各自の研究課題を解決するための研究方法を実践する。 5. 研究計画の立案ができる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 課題提出物の内容、討議への参加状況、プレゼンテーションから評価を行う
	討議への参加	20%	
	課題提出	40%	
	プレゼンテーション	40%	
教科書	指定なし		
参考書	なし		
履修上の留意点	スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある 適宜、研究の進め方について担当教員に確認、相談すること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-10	成人看護学領域で活用する理論について資料をもとに討議する	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	講義 演習	澄川
11-20	研究課題に関連する理論的背景について資料をもとに討議する	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	〃	〃
21-30	各自の研究課題に関連する方法について討議する	事前：課題に関する資料作成 事後：資料の検討	〃	〃
31-50	各自の研究課題に関する方法について実践して、その適正を検討する	事前：課題に関する資料作成 事後：研究方法について検討	演習	〃
51-60	各自の研究計画についてプレゼンテーションと討議する	事前：プレゼンテーション準備 事後：討議内容の整理	演習 発表	〃

授業科目	老年健康看護学特講 Special topics of Clinical Application Nursing (Special topics of Advanced Geriatric Health Nursing)	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	長谷川 真澄 (保健医療学研究棟 E305) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	老年看護学分野における今日的課題について、基盤となる理論、研究・実践活動を概観し、高齢者の健康課題に対する援助モデル開発に必要な知識基盤を形成する。		
到達目標	1. 看護における理論開発、概念開発の方法論の概要を説明できる。 2. 国内外の文献クリティークにより、老年看護学の研究・実践活動の動向を説明できる。 3. 既存文献のレビュー、概念分析により、受講生の研究テーマの主要概念を明確にできる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	30%	プレゼンテーション：作成資料・発表内容、質疑内容 ディスカッション：討論参加状況 レポート：文献レビュー、概念分析レポート
	ディスカッション	20%	
	レポート	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①Walker, L.O. & Avant, K.C. (中木高夫、川崎修一監訳) [2008] 「Strategies for Theory Construction in Nursing. 看護における理論構築の方法」 医学書院 ②Rogers, B.L. & Knaf1, K. [2000] 「Concept Development in Nursing. 2e」 Saunders		
履修上の留意点	ゼミナール形式で学習を進めるため、予め使用する教科書・参考書を熟読・理解し、他の文献等も参考にしながら学習内容を深める準備が必要である。下記スケジュールはゼミの進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 受講生のこれまでの研究内容と博士論文テーマの展望	事前：これまでの研究内容と博士論文テーマの展望について発表準備	講義・討論	長谷川
2	看護における理論開発の方法	事前：参考書①第1～2章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
3	概念開発の哲学的基盤	事前：参考書②第2章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
4	看護知識の統合と概念開発	事前：参考書②第3章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
5	ロジャースの概念分析	事前：参考書②第6章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
6	ウィルソンの概念分析	事前：参考書②第4章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
7	ハイブリッドモデル	事前：参考書②第9章の発表準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
8	文献クリティーク1：量的研究	事前：課題準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
9	文献クリティーク2：量的研究のシステムティックレビュー	事前：課題準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃
10	文献クリティーク3：質的研究	事前：課題準備 事後：ゼミ内容の復習	〃	〃

11	文献クリティーク4: 質的研究のシステムティックレビュー	事前: 課題準備 事後: ゼミ内容の復習	〃	〃
12	文献クリティーク5: 混合研究法	事前: 課題準備 事後: 受講生の研究テーマに関連する 文献レビュー提出	〃	〃
13	概念分析1	事前: 課題準備 事後: ゼミ内容の復習	〃	〃
14	概念分析2	事前: 課題準備 事後: ゼミ内容の復習	〃	〃
15	概念分析3	事前: 課題準備 事後: 受講生の研究テーマに関連する 概念分析レポートの提出	〃	〃

授業科目	老年健康看護学特講演習 Special topics of Clinical Application Nursing, Seminar (Special topics of Advanced Geriatric Health Research, Seminar)	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	長谷川 真澄 (保健医療学研究棟 E305) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	高齢者の健康課題とその影響要因を多角的に捉え、高齢者の生活の質を維持・向上するための援助モデルの開発を探索する。		
到達目標	1. 受講生の研究テーマに関するフィールドワークを計画し、実施・評価できる。 2. フィールドワークおよび文献検討から自身の研究テーマを焦点化し、看護における意義を説明できる。 3. 老年看護領域における新たな援助方法や評価方法の開発に向けた研究デザインを説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	フィールドワーク	50%	フィールドワーク：フィールドワークの実施状況、報告レポート プレゼンテーション：作成資料・発表内容、質疑内容
	プレゼンテーション	50%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。 下記スケジュールは、フィールドワークや文献検討の進捗状況等により変更する場合がある。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-19	研究テーマに関連するフィールドワークの計画・実施	事前：フィールドワーク計画書作成 事後：フィールドワーク実施状況を適宜報告	フィールドワーク	長谷川
20	フィールドワークの報告	事前：報告内容の発表準備 事後：報告レポートの提出	演習	〃
21-30	研究テーマに関連する文献検討	事前：文献検討 事後：文献検討のまとめ	〃	〃
31-60	研究計画の立案と精練 文献検討を継続しながら研究課題に応じた研究方法を検討する	事前：研究計画書の準備 事後：討議内容を活かし計画書精練	個別指導	〃

授業科目	精神看護学特講 Special topics of Clinical Application Nursing (Special topics of Psychiatric & Mental Health Nursing)	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	精神看護学分野における今日的課題について研究動向を把握し、看護支援モデル開発のために必要となる知識基盤を形成する。		
到達目標	1. 看護研究における哲学的前提とパラダイムについて説明できる。 2. 種々の看護研究について理論的パースペクティブの観点から説明できる。 3. 関心あるテーマを探求するための基盤となる理論的パースペクティブを明確にできる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	50%	プレゼンテーション：準備性、内容、形式 討論：参加と発言の状況 準備資料：提出状況、
	討論	30%	
	準備資料	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①Lorraine Olszewski Walker , Kay Coalson Avant (著), 中木 高夫, 川崎 修一 (翻訳) [2008] 「看護における理論構築の方法」 医学書院 ②北素子, 谷津裕子 [2012] 「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」 医学書院		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンスおよび関心のある探求課題に関する検討	事前：自己の課題の明確化 事後：検討内容の精査	講義	澤田
2-8	看護研究の基盤となる専門的知識 1 看護研究における哲学的前提	事前：文献の精読 事後：精読した内容の振り返り	グループ 学習	〃
9-15	看護研究の基盤となる専門的知識 2 研究における理論的パラダイム	事前：文献の精読 事後：精読した内容の振り返り	〃	〃
16-25	看護研究の基盤となる専門的知識 3 理論的パースペクティブと研究方法 種々の研究方法(量的研究、質記述研究、現象学、グラウンディッドセオリー、混合研究法)を用いた文献のクリティーク	事前：文献の精読 事後：精読した内容の振り返り	〃	〃
26-30	探求課題における理論的パースペクティブの検討 自己の探求課題に関わる自己の視座を明確にする	事前：文献の精読 事後：精読した内容の振り返り	〃	〃

授業科目	精神看護学特講演習 Special topics of Clinical Application Nursing, Seminar (Special topics of Psychiatric & Mental Health Nursing)	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澤田 いずみ (保健医療学研究棟 E207) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	精神看護学に関連した博士論文の研究計画書を立案するため、国内外の研究論文の系統的な探索とフィールドワークを通じて研究課題を焦点化し、方法論を検討する。その過程で探求課題を論じる科学的根拠を明確するため、系統的文献レビュー、主要概念の概念分析を実施する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的・量的・混合研究法の研究パラダイムを理解したクリティークができる。 2. 系統的な文献検討を実施し探求課題を述べることができる。 3. 理論的感受性向上のためにフィールドワークを企画し、実践・評価できる。 4. 探求課題における主要概念とその定義を明らかにできる。 5. 科学的根拠を創出できる研究方法を立案できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プレゼンテーション	50%	プレゼンテーション：提示内容、報告の方法
	質疑応答	30%	質疑応答の内容：質疑における参加と内容
	提出物	20%	提出物：提出状況および記載内容
教科書	指定なし		
参考書	演習の際に適宜提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：自己のスケジュールの確認 事後：スケジュールの調整	講義	澤田
2-30	探求課題に関わる系統的レビュー 国内外の文献のクリティーク (質的研究・量的研究・混合研究法)	事前：文献の探索とクリティーク 事後：探求課題との照合	講義 演習	〃
31-36	フィールドワークの計画 探求課題と関連するフィールドにおいて、目的、場の選定、 参加・関与方法を計画する	事後：フィールドワーク計画書作成 事後：計画書の修正	〃	〃
37-45	フィールドワークの実施 計画したフィールドワークを実施し、得られた情報を基に 探求課題の明確化と研究方法の検討を行う	事前：フィールドワークの記録方法の 準備 事後：得られた情報の分析	〃	〃
46-60	主要概念の分析 探求課題における主要概念について概念分析を行い、定義 を明らかにする。	事前：対象文献の選定と分析 事後：定義の検討	〃	〃

授業科目	地域看護学特講 Special topics of Community Health Nursing	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生活手段としての健康について地域社会で生活する人々を対象として、系統的に健康を支援する科学的方法について探究する。		
到達目標	1. 国際機関・国・地方自治体レベルで提唱される健康政策、行動計画、健康のための具体的な生活支援について説明できる。 2. 基本的な生活の場である地域社会における健康のための支援について説明できる。 3. 生活基盤となる産業活動が健康と生活に与える影響を説明できる。 4. 学校における健康づくりの意義、学齢期の健康課題の特徴を説明できる。 5. 系統的に健康を支援する科学的方法の探究ができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	60%	提出物：課題レポート提出状況、レポート記載内容 学習態度：ディスカッションの状況
	学習態度	40%	
教科書	別途提示する		
参考書	随時紹介する		
履修上の留意点	適宜、研究の進め方について担当教員に確認すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	国際機関・国レベルで提唱される健康政策、目標	事前：国内外の健康政策について予習 事後：なし	講義	未定
2	国際機関・国レベルで立案される健康支援計画	事前：国内外の健康支援計画について予習 事後：なし	〃	〃
3	地方自治体レベルで提唱される健康政策、目標	事前：地方自治体の健康政策について予習 事後：なし	〃	〃
4	地方自治体レベルで立案される健康支援計画、行動計画、健康のための具体的な生活支援	事前：地方自治体の健康支援計画について予習 事後：なし	〃	〃
5	地域社会における健康増進・疾病予防の支援 1	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
6	地域社会における健康増進・疾病予防の支援 2	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
7	労働者の健康課題と産業保健活動	事前：関連する内容について予習 事後：主要な健康課題をまとめる	〃	〃
8	学齢期の健康課題と健康づくり	事前：関連する内容について予習 事後：主要な健康課題をまとめる	〃	〃
9	地域保健と記述疫学	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃

10	地域保健と分析疫学	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
11	地域保健と介入研究	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
12	地域看護学における量的研究方法	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
13	地域看護学における質的研究方法	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
14	地域看護学研究におけるミックスメソッド	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
15	地域看護学研究における倫理	事前：関連する内容について予習 事後：研究倫理をまとめる	〃	〃

授業科目	地域看護学特講演習 Special topics of Community Health Nursing, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	未定	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青柳 道子		
概要	在宅、産業、学校など人々の生活の場で生じている健康課題と生活とを関連させて、ヘルスケアシステム、ケアマネージメントを介入手段にして、健康課題解決の健康施策の立案、実施、評価を検証する。 さらに、健康課題から健康阻害因子の抽出を行い、現状把握と健康改善に向け、科学的データに基づく疫学的分析を用いて系統的健康支援に関する探究を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅、産業、学校など人々の生活の場で生じている健康課題と生活とを関連させて説明できる。 2. 健康課題解決の介入手段としてのヘルスケアシステム、ケアマネージメントが説明できる。 3. 健康課題解決の健康施策の立案、地域看護実施、評価について説明できる。 4. 健康課題から健康阻害因子の抽出を行うために、科学的データに基づいた現状把握ができる。 5. 健康改善に向けた系統的健康支援および疫学的分析を用いた調査探究について説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	提出物：研究計画の概要の記載内容 学習態度：演習・討論への参加状況
	学習態度	50%	
教科書	別途提示する		
参考書	随時紹介する		
履修上の留意点	別途提示する		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-4	ガイダンス 在宅、産業、学校など人々の健康課題と生活との関連	事前：なし 事後：健康課題についてまとめる	講義	未定
5-6	ヘルスケアシステム構築とケアマネージメント機能	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
7-10	健康課題解決のための地域看護過程	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
11-15	健康施策の立案、実施、評価	事前：関連する内容について予習 事後：なし	演習	〃
16-22	科学的データに基づいた健康阻害因子の分析	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
23-30	系統的健康支援に関する方法論と疫学的分析を用いた研究デザインの検討	事前：関連する内容について予習 事後：なし	〃	〃
31-60	各自の研究課題に関する研究の枠組みの設定 研究計画書の作成準備	事前：関心のある研究課題について資料にまとめる 事後：研究計画の概要作成・提出	講義・討論	未定・青柳

授業科目	臨床内科学特講 Clinical pathology & Internal Medicine	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>疾病の科学的解明、医学的治療介入のみでは患者を“癒す”ことはできない。患者を“癒す”ためには看護が必要となる。本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態と治療原理を確認し、病人の療養のための理解を得ることを目指す。ゼミでは看護学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。同時に、テーマとなる疾患の治療や看護における未解決の問題を把握し、その解決のための研究計画について考察・議論する。</p>		
到達目標	内科疾患についての病態と治療学・看護学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。実力を身につける。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	
	受講状況	50%	
教科書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	① [指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-15	内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学的および看護学的観点から *心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など	事前：該当範囲の予習 事後：講義の復習	講義・討論	丹野

授業科目	臨床内科学特講演習 Clinical pathology & Internal Medicine : Exercises	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203) e-mail : tannon@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	<p>疾病の科学的解明、医学的治療介入のみでは患者を“癒す”ことはできない。患者を“癒す”ためには看護が必要となる。本講座では慢性経過をとる疾病を取り上げ、それらの病態と治療原理を確認し、病人の療養のための理解を得ることを目指す。ゼミでは看護学系および内科学系の医学雑誌に掲載される最新の論文を取り上げ、精読および担当教員による解説により、疾患周辺の知識・理解を深める。同時に、テーマとなる疾患の治療や看護における未解決の問題を把握し、その解決のための研究計画、データベースの作成、統計解析方法について考察・議論する。</p>		
到達目標	内科疾患についての病態と治療学・看護学の理解を深め、論文作成の際に必要な知識や洞察力、統計解析法などを説明できる。実力を身につける。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	50%	
	受講状況	50%	
教科書	[指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
参考書	[指定なし] 「ゼミ実施回ごとに参考論文、書籍を紹介する。」		
履修上の留意点	ゼミで取り上げる疾患は学生の研究テーマによって適宜変更する。 ゼミで生じた疑問点は自身で時間をかけて調べる、担当教員に質問するなどして解決するよう心がける。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-30	内科疾患* の病態・治療・ケア：内科学のおよび看護学的観点から *心不全、冠動脈疾患、不整脈、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群など	事前：該当範囲の予習 事後：講義の復習	講義・討論	丹野

授業科目	臨床外科学特講 Special topics of Clinical Surgery	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	疾患を治癒に導くには、外科療法のみならず集学的なアプローチが必要である。それぞれの治療法の効果とその限界、副作用を理解し、現在の問題点を科学的に探求する。Cancer e-learning による自発的学習により臨床研究・生命倫理・基礎腫瘍学・臨床腫瘍学・緩和医学・精神腫瘍学の基礎を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術前における術後合併症発生のリスク判定およびその対策を説明できる。 2. 手術術式および病態に応じた術後合併症を説明できる。 3. 腫瘍に対する化学療法、放射線療法の効果と副作用を説明できる。 4. 臨床試験について説明できる。 		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	50%	提出物：ワークシートの記載内容・提出状況 学習態度・内容：討論参加状況
	学習態度・内容	50%	
教科書	① 畠山勝義(監修)北野正剛/田邊稔/池田徳彦(編) [最新版] 「標準外科学 第14版」 医学書院		
参考書	① 医療情報科学研究所(編) [2020] 「病気がみえる vol.1 消化器(第6版)」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	外科療法と看護の関わり：術前リスク判定	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	水口
2	外科療法と看護の関わり：手術を要する疾患(良性)	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	e-learning	〃
3	外科療法と看護の関わり：手術を要する疾患(悪性)	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
4	外科療法と看護の関わり：手術を要する疾患(救急)	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
5	外科療法と看護の関わり：手術術式と合併症	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
6	外科療法と看護の関わり：術後後遺症と患者 QOL	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
7	化学療法と看護の関わり：適応疾患とその病態	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
8	化学療法と看護の関わり：副作用とその対策	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
9	放射線療法と看護の関わり：適応疾患とその病態	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
10	放射線療法と看護の関わり：副作用とその対策	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
11	臨床試験と看護の関わり：臨床試験とは	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃

12	臨床試験と看護の関わり：臨床試験と倫理	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
13	臨床試験と看護の関わり：臨床試験と診療ガイドライン	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
14	臨床試験と看護の関わり：看護研究と臨床試験	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
15	臨床試験と看護の関わり：臨床研究の申請	事後：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃

授業科目	臨床外科学特講演習 Special topics of Clinical Surgery, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314) e-mail : tmizusapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	外科療法を中心とした集学的治療の中で発生する病態的、精神的、社会的な様々な問題点に着目し、看護学的介入に関する臨床研究を立案、実施することを目標とする。		
到達目標	1. 病態に応じた外科治療方針に対し、看護計画を立案し説明できる。 2. 術後合併症・後遺症に対し、科学的かつ実践的に対策を立案し説明できる。 3. 腫瘍に対する化学療法・放射線療法の功罪を科学的かつ実践的に説明できる。 4. 緩和医療としての外科治療を科学的かつ実践的に説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	提出物：ワークシートの記載内容・提出状況 学習態度：討論参加状況
	学習態度・内容	20%	
教科書	①畠山勝義(監修)北野正剛/田邊稔/池田徳彦(編) [最新版] 「標準外科学 第14版」 医学書院		
参考書	①医療情報科学研究所(編) [2020] 「病気がみえる vol.1 消化器(第6版)」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	臨床研究・量的研究・構造化方程式の概要	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	講義	水口
2-5	1. 実地臨床における問題点の抽出と文献的考察	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	e-learning	〃
6-10	2. 看護学的介入の計画	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
11-20	3. 研究デザインの作成	事前：講義に関連した論文を検索し、その内容について発表する。	〃	〃
21-30	4. 研究計画書の作成	事前：研究計画書の作成	〃	〃

授業科目	看護学特別研究 Dissertation Seminar in Nursing	全学年・通年・4単位(120時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	高度な専門的知識を有する研究者、教育者および管理者に育成するために、研究計画から論文作成に至る過程を通して個々の課程を設定し、研究推進能力をより一層高めるための指導を行う。		
到達目標	-		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	プロセス全般の総合的な観点	100%	指導教員が指導のプロセスを俯瞰し、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて提示する。		
参考書	必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
-	<教育研究領域> 基礎看護科学 感染看護学 女性健康看護学 小児健康看護学 成人健康看護学 老年健康看護学 精神看護学 地域看護学 臨床内科学 臨床外科学 指導教員の研究指導のもとに、博士論文を作成する。	-	-	指導教員

(博士課程後期)

理学療法学・作業療法学専攻

授業科目	神経・発達障害理学療法学特講 Special Topics of Physical Therapy for Developmental and Neurological Disorder	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	菅原 和広 (保健医療学研究棟 E404) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	中枢神経障害による病態について、脳・脊髄の生理学および機能解剖学的知見、四肢体幹の機能解剖学的根拠をもとに自ら説明し、それに基づく理学療法を提示できるようにする。また、廃用症候群や低体力、その他の重複的問題、QOL等の社会科学的領域にも目を向け、適切な理学療法のあり方や研究方法を追求する。また、中枢神経障害や神経筋疾患を起因とする発達障害において、発達の初期段階での中枢神経障害がその後の発達経過に及ぼす影響を、小児神経学を基盤とした機能診断学、理学療法・作業療法という治療学の科学的可能性を追求する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経障害による各症例の病態・障害について根拠をもって説明できる。 2. 小児の正常発達と発達障害について理解できる。 3. 廃用症候群、低体力等の諸問題を説明することができる。 4. 上記の事項に対する適切な理学を考えることができる。 5. 中枢神経障害領域の諸問題の解決に向けて研究方法を考えることができる。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	①なし(必要な書籍については適宜指示する)		
参考書	①なし		
履修上の留意点	集中講義で行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義	菅原
2	症例を通した中枢神経障害による病態・障害と理学療法①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
3	症例を通した中枢神経障害による病態・障害と理学療法②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
4	症例を通した中枢神経障害による病態・障害と理学療法③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
5	症例を通した中枢神経障害による病態・障害と理学療法④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
6	神経障害リハビリテーションの諸問題と理学療法①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
7	神経障害リハビリテーションの諸問題と理学療法②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
8	神経障害リハビリテーションの諸問題と理学療法③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
9	神経障害リハビリテーションの諸問題と理学療法④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

10	神経障害リハビリテーションの諸問題と理学療法⑤	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
11	中枢神経障害領域における研究①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
12	中枢神経障害領域における研究②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
13	中枢神経障害領域における研究③	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
14	中枢神経障害領域における研究④	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
15	中枢神経障害領域における研究⑤	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

授業科目	神経・発達障害理学療法学特講演習 Special Topics of Physical Therapy for Developmental and Neurological Disorder, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	菅原 和広 (保健医療学研究棟 E404) e-mail : kaz.sugawara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	中枢神経障害による姿勢や運動障害などの病態・現象を症例を通して分析評価・説明し、適切な理学療法を実践できるようにする。また、中枢神経障害や神経筋疾患を起因とする発達障害において、発達の初期段階での中枢神経障害がその後の発達経過に及ぼす影響と、理学療法・作業療法という治療学の科学的可能性を具体的に追求する。根拠に基づき早期に予後を予測し、且つ理学療法効果の検証を進める。さらに臨床的課題を適宜解決するための研究方法を追求し、実践する。		
到達目標	1. 中枢神経障害患者の分析・評価を適切にできる。 2. 小児の発達障害について症例を通して説明することができる。 3. 中枢神経障害患者の予後について理論的根拠をもって説明することができる。 4. 中枢神経障害領域における諸問題について研究を進めることができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	60%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	20%	
教科書	①なし(必要な書籍については適宜指示する)		
参考書	①なし		
履修上の留意点	医大病院での診療を実施するため、必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	症例を通した中枢神経障害患者の分析・評価①	事前：なし 事後：なし	演習	菅原
6-10	症例を通した中枢神経障害患者の分析・評価②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
11-15	中枢神経障害における運動麻痺に対する具体的検討①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
16-25	中枢神経障害における感覚麻痺に対する具体的検討②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
26-30	中枢神経障害患者の予後	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
31-40	中枢神経障害領域における研究の実際①	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
41-50	中枢神経障害領域における研究の実際②	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃
51-60	症例研究報告作成	事前：指定文献の抄読 事後：サマリー作成	〃	〃

授業科目	感覚統合障害学特講 Special Topics of Sensory Integrative Dysfunction	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	仙石 泰仁 (保健医療学研究棟 E508) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(大柳 俊夫)、中島 そのみ、中村 裕二		
概要	感覚統合機能は脳内の情報処理ネットワークの結実として表れる重要な機能である。そのため、感覚統合機能と学習や認知などの高次脳機能、作業遂行・適応行動機能との関連を学習し討議することは、脳機能障害を呈する疾患における障害構造の把握とリハビリテーションアプローチを開発するために有益である。本講義では、文献抄読・論文作成の過程を通じてこれらの関連の理解を深める。		
到達目標	1. 各疾患・障害に対して、感覚統合理論に基づいた障害構造の分析と治療的介入の方法について考察できる。 2. 感覚統合機能と高次脳機能、作業遂行・適応行動機能との関連について、理論的背景を系統的に学習し論説できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況、質疑内容
	学習態度	20%	
教科書	①指定なし		
参考書	①感覚統合研究 第1集～第10集：日本感覚統合障害研究会編 協同医書出版		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 感覚統合障害学の概要	事前：なし 事後：配付資料	講義	仙石
2	感覚統合理論の発展(1)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	仙石・中島 中村 (大柳)
3	感覚統合障害学の発展(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
4	感覚統合と作業療法との関係(1)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
5	感覚統合と作業療法との関係(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
6	感覚統合と脳機能・発達(1)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	講義・討論	〃
7	感覚統合と脳機能・発達(2)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
8	学習・行動と感覚統合障害(1)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
9	学習・行動と感覚統合障害(2)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
10	前庭機能障害と知覚・認知発達(1)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃

11	前庭機能障害と知覚・認知発達(2)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
12	体性感覚機能障害と知覚・認知発達(1)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
13	体性感覚機能障害と知覚・認知発達(2)	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
14	感覚登録・調整の障害	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃
15	感覚統合障害のパターン／理論と実践	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃

授業科目	感覚統合障害学特講演習 Special Topics of Sensory Integrative Dysfunction, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	仙石 泰仁 (保健医療学研究棟 E508) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(大柳 俊夫)、中島 そのみ、中村 裕二		
概要	特講での学習を基礎として、演習を通して感覚統合機能と障害構造、治療仮説、作業療法との関係を学ぶ。また、自ら研究課題を提起し、研究デザインの作成から研究の遂行、論文作成までの一連の過程について具体的に学習する。		
到達目標	1. 関連文献を探索し、系統的な批評を加え発表することができる。 2. 感覚統合障害を持つ対象者に対して、その障害構造に関して適切な評価と分析を行える。 3. 研究テーマを提起し、その課題について研究を進め、論文作成ができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度・プレゼンテーション	50%	
教科書	①指定なし		
参考書	①Sensory Integration : Theory & Practice Second Edition Anita C. 他 FA Davis 発行 2002 ②Principles of Neural Science Fourth Edition Eric R. 他 McGraw-Hill 発行 2000		
履修上の留意点	プレゼンテーション・討議を中心に講義を行うため、積極的な参加姿勢が求められる。必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	オリエンテーション 感覚統合障害学の治療目標/治療原則(1)	事前：なし 事後：配付資料	講義	仙石・中島 中村 (大柳)
3-4	感覚統合障害学の治療目標/治療原則(2)	事前：なし 事後：配付資料	〃	〃
5-6	感覚統合障害学の治療目標/治療原則(3)	事前：なし 事後：配付資料	〃	〃
7-8	感覚統合障害学の治療目標/治療原則(4)	事前：なし 事後：配付資料	〃	〃
9-10	適応反応誘発の原理(1)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
11-12	適応反応誘発の原理(2)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
13-14	適応反応誘発の原理(3)	事前：指定文献の予習 事後：配付資料	〃	〃
15-23	感覚統合訓練に関する効果研究	事前：資料の作成と提出 事後：配付資料	講義・討論	〃
24-32	LD 以外の疾患への応用	事前：資料の作成と提出 事後：配付資料	〃	〃
33-39	感覚統合障害を持つ対象者に対する評価及びその分析を行う	事前：資料の作成と提出 事後：配付資料	〃	〃

40-46	感覚統合理論や関連領域の文献的考察を行い、分析の妥当性について討議する	事前：資料の作成と提出 事後：配付資料	〃	〃
47-53	研究テーマに関連する文献の抄読と発表	事前：資料の作成と提出 事後：配付資料	〃	〃
54-60	研究テーマの設定と理論的背景について検討	事前：指定文献の予習 事後：ショートレポートの作成	〃	〃

授業科目	生体工学・スポーツ整形外科学特講 Special Topics of Biomechanics/Orthopaedic Sports Medicine	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	渡邊 耕太 (保健医療学研究棟 E410) e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生体工学では生物のもつ機能や構造を解析し臨床応用を目指すため、その適応範囲は理学療法学から内科学、外科学まで幅広い。本特講では、関節や筋などの運動器の機能や働きを生体工学的視点から解析した研究や、スポーツ傷害の発生機序の解明や整形外科的治療における生体工学的研究について文献的に検討し討論する。		
到達目標	運動器の機能や障害について生体工学的視点から考え、その解析方法・研究を知り概説できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	30%	提出物：内容をまとめる能力、特に注目した点の抽出。 学習態度：積極的な参加、ディスカッション。 プレゼンテーション：運動器疾患や理学療法における臨床的疑問を持つことから生じる問題点の明確化。
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション	40%	
教科書	①指定なし		
参考書	①整形外科基礎バイオメカニクス(南江堂)。その他、適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	上記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 担当教員と密に連絡をとる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 生体工学概論	事後：資料配布	講義	渡邊
2	運動器疾患の生体工学的文献検討1 生体工学の運動器疾患への適用例	事前：課題準備 事後：配布資料	講義・討論	〃
3	運動器疾患の生体工学的文献検討2 生体工学による運動器疾患病態評価	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4	運動器疾患の生体工学的文献検討3 生体工学の運動器疾患治療への応用	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
5	運動器疾患の生体工学的文献検討4 生体工学の運動器疾患治療への応用	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
6	運動器リハビリテーションの生体工学的文献検討1 生体工学のリハビリテーションへの適用例	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	運動器リハビリテーションの生体工学的文献検討2 生体工学による病態評価	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	運動器リハビリテーションの生体工学的文献検討3 生体工学のリハビリテーション治療への応用	事後：配布資料	〃	〃
9	運動器リハビリテーションの生体工学的文献検討4 生体工学のリハビリテーション治療への応用	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10	スポーツ整形外科の生体工学的文献検討1 生体工学のスポーツ整形外科への適用例	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
11	スポーツ整形外科の生体工学的文献検討2 スポーツ外傷受傷機転の生体工学的検討	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

12	スポーツ整形外科の生体工学的文献検討3 スポーツ障害の発生機序の生体工学的検討	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
13	スポーツ整形外科の生体工学的文献検討4 スポーツ傷害治療への生体工学の応用	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	運動器疾患における生体工学的課題立案・研究手法の検討	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	まとめ	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	生体工学・スポーツ整形外科学特講演習 Special Topics of Biomechanics/Orthopaedic Sports Medicine	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	渡邊 耕太 (保健医療学研究棟 E410) e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生体工学では生物のもつ機能や構造を解析し臨床応用を目指すため、その適応範囲は理学療法学から内科学、外科学まで幅広い。本演習では、生体工学的手法による関節や筋などの運動器の機能や働きやスポーツ傷害の発生機序、運動器リハビリテーションについて研究計画を立案し、論文作成を行う。		
到達目標	1. 運動器疾患、スポーツ整形外科における問題点や臨床的疑問点を抽出する。 2. 上記問題点・疑問点に対する生体工学的研究手法による研究計画を立案する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	30%	提出物：内容を簡潔にまとめる能力、特に注目した点の抽出。 学習態度：積極的な参加、ディスカッション。 プレゼンテーション：臨床的疑問とそこから生じる問題点の明確化、自らの考えの提示。
	学習態度	30%	
	プレゼンテーション	40%	
教科書	①指定なし		
参考書	①整形外科基礎バイオメカニクス(南江堂)。その他、適宜文献を提示する。		
履修上の留意点	上記スケジュールは学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 担当教員と密に連絡をとる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-4	オリエンテーション 課題となる問題点・疑問点の抽出・検討	各自が興味を持つ疾患領域や疑問点 の整理、情報収集	講義・討論	渡邊
5-20	抽出した課題についての文献検索・検討 関連研究、文献を網羅、内容の把握、まとめ	文献の準備、整理	〃	〃
21-40	課題を解決するための研究手法の検討 種々の手法・デザインを立案し比較	資料準備、提出	〃	〃
41-60	研究手法の決定と研究課題に対する計画書準備 臨床的疑問とその研究による clinical relevance の明確化	資料準備、提出	個別指導	〃

授業科目	中枢神経機能障害学特講 Special Topics of Advanced Central Nervous System Dysfunction	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	太田 久晶 (保健医療学研究棟 E512) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	脳損傷後に認知機能障害や身体機能障害を呈した症例に対して、症状を的確に把握し、適切な介入方法を選択することは、効率的にリハビリテーションを進める上で重要である。本講義では、脳損傷者や健常者を対象とした認知機能および身体機能に対する評価方法と介入研究の内容を最近の文献から学習し、リハビリテーションの領域で用いられている評価方法や介入方法の内容について学習する。		
到達目標	1. 高次脳機能障害の評価のために、近年用いられている評価方法・介入方法を説明できる。 2. 中枢性身体機能障害の評価のために、近年用いられている評価方法・介入方法を説明できる。 3. 上記の評価方法や介入方法の中において、臨床応用可能なものを挙げ、説明できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	プレゼンテーション	40%	評価対象の詳細 プレゼンテーション：発表内容および質疑応答内容 学習態度：討論の参加状況及びその内容 提出物：提出状況ならびに記載内容
	学習態度	30%	
	提出物	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①石合純夫 [2022] 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版 ②Heilman KM, Valenstein eds [2011] 「Clinical neuropsychology 5th ed」 Oxford University Press ③Mesulam M-M [2000] 「Principles of Behavioral and Cognitive Neurology 2nd ed」 Oxford University Press		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と連絡を取ること。 下記スケジュールは、学習の進捗により変更する場合がある。 資料として、講義の際に、適宜文献を提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 健常者や脳損傷者を対象とした高次脳機能の評価に関する論文の抄読と討論 1	事後：講義内容の復習	講義・プレゼン・討論	太田
2	健常者や脳損傷者を対象とした高次脳機能の評価に関する論文の抄読と討論 2	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
3	健常者や脳損傷者を対象とした高次脳機能の評価に関する論文の抄読と討論 3	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
4	健常者や脳損傷者を対象とした高次脳機能の評価に関する論文の抄読と討論 4	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
5	健常者や脳損傷者を対象とした身体機能の評価に関する論文の抄読と討論 1	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	健常者や脳損傷者を対象とした身体機能の評価に関する論文の抄読と討論 2	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
7	健常者や脳損傷者を対象とした身体機能の評価に関する論文の抄読と討論 3	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
8	高次脳機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄読と討論 1	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
9	高次脳機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄読と討論 2	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃

10	高次脳機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄読と 討論 3	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
11	高次脳機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄読と 討論 4	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
12	中枢性身体機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄 読と討論 1	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
13	中枢性身体機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄 読と討論 2	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
14	中枢性身体機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄 読と討論 3	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃
15	中枢性身体機能障害に対する治療介入方法に関する論文の抄 読と討論 4	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	〃	〃

授業科目	中枢神経機能障害学特講演習 Special Topics of Advanced Central Nervous System Dysfunction, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	太田 久晶 (保健医療学研究棟 E512) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	脳損傷後に認知機能障害や身体機能障害を呈した症例に対して、症状を的確に把握し、適切な介入方法を選択することは、効率的にリハビリテーションを進める上で重要である。本演習では、特講の内容を踏まえて研究テーマを絞り、自らの研究テーマに基づいた研究デザインの構築過程を学習する。		
到達目標	1. 先行研究の研究内容を踏まえて、研究課題を設定できる。 2. 各自の目的に沿った研究デザインを構築できる。 3. 自らの研究デザインをもとに研究計画書を作成できる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 評価対象の詳細 プレゼンテーション：発表内容および質疑応答内容 学習態度：討論の参加状況およびその内容 提出物：提出状況ならびに記載内容
	プレゼンテーション	40%	
	学習態度	30%	
	提出物	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①石合純夫 [2022] 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版 ②Heilman KM, Valenstein eds, [2011] 「Clinical neuropsychology 5th ed,」 Oxford University Press ③Mesulam M-M [2000] 「Principles of Behavioral and Cognitive Neurology 2nd ed」 Oxford University Press		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と連絡を取ること。 資料として、演習の際に、適宜文献を提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-20	脳損傷者や健常者を対象とした先行研究論文を用いて、高次脳機能や身体機能に対する評価方法・治療介入方法についての検討・討論	事前：課題発表準備 事後：講義内容の復習	講義・プレゼン・討論	太田
21-40	自らの研究課題に即した研究デザインの詳細についての検討	事前：提出資料の作成準備 事後：講義内容の復習	個別指導	〃
41-60	自己の研究課題に基づいた研究計画書の作成	事前：提出資料の作成準備 事後：講義内容の復習	〃	〃

授業科目	スポーツ理学療法学特講 Special topics of Sports Physical Therapy	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	片寄 正樹 (保健医療学研究棟 E419) e-mail : katayose@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	谷口 圭吾、岩本 えりか、戸田 創、(片野 俊敏)		
概要	スポーツ活動に支障をきたす代表的な外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患に対する理学療法、スポーツ医学的アプローチの効果検証手法を考察する。特に、競技復帰、予防および競技力向上にむけた方法論について考察をすすめる。あわせて、これらスポーツ理学療法の先端的知見を活用した病態治療および健康増進にむけたスポーツ医学的アプローチについても考察をおこなう。		
到達目標	1. スポーツ活動に支障をきたす代表的な外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患に対する理学療法、スポーツ医学的アプローチの効果、バイオメカニクス、神経科学、運動科学、臨床運動生理学等の視点も応用して考察できる。 2. スポーツ理学療法の先端的知見を活用した病態治療および健康増進にむけたスポーツ医学的アプローチについて考察できる。 3. スポーツ活動に支障をきたす外傷・疾病の病態に対する理学療法およびスポーツ医学的アプローチの効果を検証する研究デザインを構築できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	演習課題提出	50%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション内容：事前学習内容、提示内容 討議への参加状況：討議参加への積極性と討議内容
	プレゼンテーション	30%	
	討議への参加状況	20%	
教科書	①指定なし		
参考書	①指定なし		
履修上の留意点	特定の演習課題にしたがい討議を中心に進めるため、事前の演習課題の積極的準備が不可欠となる。開講スケジュールは演習の進捗状況等によって調整する。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス スポーツ外傷障害と理学療法	事後：	講義	片寄
2	スポーツに支障をきたす外傷障害 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	”	”
3	スポーツに支障をきたす外傷障害 2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 戸田
4	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・岩本 (片野)
5	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患 2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	”
6	スポーツに支障をきたす外傷障害の発生メカニズム 1	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 戸田
7	スポーツに支障をきたす外傷障害の発生メカニズム 2	事前：演習課題 事後：ワークシート	”	”
8	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズム 1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・岩本 (片野)

9	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の発生メカニズム2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	〃
10	スポーツに支障をきたす外傷障害の治療と予防1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・戸田
11	スポーツに支障をきたす外傷障害の治療と予防2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	〃
12	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の治療と予防1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・岩本
13	スポーツに支障をきたす呼吸循環代謝性疾患の治療と予防1	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	〃
14	競技力向上、健康増進および病態治療へのスポーツ医科学的アプローチ1	事前：配布資料の pre-reading 事後：ワークシート	講義	片寄・谷口 岩本・戸田 (片野)
15	競技力向上、健康増進および病態治療へのスポーツ医科学的アプローチ2	事前：演習課題 事後：ワークシート	演習・討論	〃

授業科目	スポーツ理学療法学特講演習 Special topics in Sports Physical Therapy, seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	片寄 正樹 (保健医療学研究棟 E419) e-mail : katayose@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	谷口 圭吾、岩本 えりか、戸田 創、(片野 俊敏)		
概要	代表的なスポーツ活動に支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患を選定し、その疫学、発生メカニズム、および治療と予防のための理学療法、スポーツ医科学的アプローチについて理解を深める。あわせて、これらスポーツ理学療法の先端的知見を活用した病態治療および健康増進にむけたスポーツ医科学的アプローチについて、バイオメカニクス、神経科学、運動科学、臨床運動生理学等の視点も応用して考察する。		
到達目標	1. スポーツ活動に支障をきたす代表的な外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患に対する理学療法、スポーツ医科学的アプローチの効果を、バイオメカニクス、神経科学、運動科学、臨床運動生理学等の視点も応用して考察できる。 2. 外傷・疾病の病態に対する理学療法およびスポーツ医科学的アプローチの効果を検証する研究デザインを構築できるとともに、その妥当性を解説できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	履修態度	20%	評価対象の詳細 履修態度：討論参加状況 レポート：提出状況および記載内容 討議・討論：提示内容、質疑内容
	レポート	20%	
	討議・討論	60%	
教科書	①指定なし		
参考書	①Orthopedic Physical Assessment (Sanders)、関連学術誌等とし、適時指示する。		
履修上の留意点	特定の演習課題にしたがい討論を中心に進めるため、事前の演習課題の積極的準備が不可欠となる。 開講スケジュールは演習の進捗状況等によって調整する。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	スポーツ外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患と理学療法	-	講義	片寄
3-18	スポーツに支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患の疫学、発生メカニズムと病態	事前：配布資料の pre-reading および演習課題 事後：ワークシート	演習・討議	片寄・谷口 岩本・戸田 (片野)
19-38	スポーツに支障をきたす外傷障害・整形外科疾病および呼吸循環代謝性疾患の治療と予防	事前：配布資料の pre-reading および演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
39-58	研究テーマに即した研究デザインの検討	事前：演習課題 事後：ワークシート	〃	〃
59-60	まとめ	事前：演習課題 事後：ワークシート	〃	片寄・岩本 戸田

授業科目	活動能力障害学特講 Special topics of Human Activities & Therapeutic Process	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	中村 眞理子 (保健医療学研究棟 E511) e-mail : mnaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 充雄		
概要	身体障害領域での作業療法は、機能障害および活動制限に対してさまざまな作業・活動を用い、生活をより円滑に出来るよう、必要な能力または代償機能など引き出すことを目的に行う。そのため、障害構造の把握、治療に用いる作業特性、それらの効果等の関連の理解を深めることが重要である。本講義では、活動能力障害に関連する最近の文献から学習し討論する。		
到達目標	機能障害および活動制限が日常生活に及ぼす影響、および作業・活動の治療的効果など、理論的背景を系統的に学習し概説できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	学習態度：討議への参加状況 提出物：提出状況および記載内容 課題に対する取り組み等から総合的に判断する。
	学習態度	40%	
	プレゼンテーション	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 活動能力障害とは	事後：配付資料	講義	中村
2	活動能力障害のとりえ方	事前・事後：配付資料	講義・討議	〃
3	活動能力障害のとりえ方・評価の観点	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4	活動能力障害のとりえ方・評価の観点 文献検討1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
5	活動能力障害のとりえ方・評価の観点 文献検討2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
6	活動能力障害に対する理論的背景 文献検討1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
7	活動能力障害に対する理論的背景 文献検討2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
8	活動能力障害に対するアプローチの実際 文献検討1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
9	活動能力障害に対するアプローチの実際 文献検討2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10	活動能力障害に関わる研究の方法論	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
11	活動能力障害に関わる研究の方法論 文献検討1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

12	活動能力障害に関わる研究の方法論 文献検討2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
13	課題の明確化と解決手法 関連研究 1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14	課題の明確化と解決手法 関連研究 2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
15	課題の明確化と解決手法 関連研究 3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	活動能力障害学特講演習 Special topics of Human Activities & Therapeutic Process, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	中村 眞理子 (保健医療学研究棟 E511) e-mail : mnaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村 充雄		
概要	身体障害領域での作業療法で対応する活動能力障害の要因と介入効果を検討する。臨床で考えられる活動能力に対する疑問点を明らかにするための研究計画の立案、論文作成をとおして具体的に学習する。		
到達目標	1. 機能障害および活動制限が日常生活に及ぼす影響、および作業・活動治療効果など活動能力障害に対する作業療法における疑問点を抽出できる。 2. 上記疑問点に対応する研究手法を選択し、研究計画の立案が出来る。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	学習態度：討議への参加状況。 提出物：提出状況および記載内容。 課題に対する取り組み等から総合的に判断する。
	ディスカッション	50%	
教科書	①指定なし。		
参考書	①適宜紹介する。		
履修上の留意点	適宜確認する。 必要に応じて担当教員と密に連絡を取ること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-4	オリエンテーション 各自の課題に関する検討	研究指導計画書に基づき、履修者と協議の上、学習計画を立案する	講義	中村
5-20	活動能力の介入効果判定の研究について、文献を用いて検討・討論	事前：資料を準備し、事前に提出する 事後：配付資料	講義・討論	〃
21-40	自らの研究テーマに即した研究デザインの検討 課題の明確化と解決手法の検討	事前：資料を準備し、事前に提出する 事後：配付資料	個別指導	〃
41-60	各自の研究課題に沿って、課題に関連する研究枠組みの設定 研究計画書準備	事前：資料を準備し、事前に提出する 事後：配付資料	講義・討論	〃

授業科目	臨床精神・脳機能学特講 Special Topics of Clinical psychiatry and Brain functions	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文		
概要	精神疾患を脳機能(認知、情動、記憶、学習、神経可塑性、精神薬理学)の観点から理解を深める。さらに、最新の研究動向や知見を学術論文の検討を通して得ることで、精神科リハビリテーションの研究・臨床実践に必要な知識を得る。		
到達目標	1. 精神疾患の病態に関わる神経基盤について学習し理解する。 2. 精神疾患の薬物療法、非薬物療法の中核メカニズムについて学習し理解する。 3. 精神機能の測定方法とその限界について理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	出席状況	20%	出席状況：学習態度・討論参加状況 理解状況：課題の理解内容・質疑内容 発表状況：課題のプレゼンテーション内容
	理解状況	40%	
	発表状況	40%	
教科書	①指定なし		
参考書	①監修:井上令一, 監訳:四宮滋子, 田宮 聡 [2016 年] 「カプラン臨床精神医学テキスト(日本語版第 3 版)」 メディカルサイエンスインターナショナル ②泰羅雅登, 中村克樹 監訳 [2013 年] 「カールソン神経科学テキスト:脳と行動(第 4 版)」 丸善出版		
履修上の留意点	抄読する論文については、演習中に適宜指示する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	講義	石井・森元
2-5	精神医学と脳機能に関する最新の知見 文献抄読と討議	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
6-15	精神疾患の診断と病態に関する最新の知見 文献抄読と討議	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

授業科目	臨床精神・脳機能学特講演習 Special Topics of Clinical psychiatry and Brain functions, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文		
概要	精神疾患を脳機能(認知、情動、記憶、学習、神経可塑性、精神薬理学)の観点から理解を深める。さらに、最新の研究動向や知見を学術論文の検討を通して得ることで、精神科リハビリテーションの研究・臨床実践に必要な知識を得る。		
到達目標	1. 精神疾患の病態に関わる神経基盤について学習し理解する。 2. 精神疾患の薬物療法、非薬物療法の中核メカニズムについて学習し理解する。 3. 精神機能の測定方法とその限界について理解する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	出席状況	20%	出席状況：学習態度・討論参加状況 理解状況：各種計測法に関する学習や理解状況 発表状況：結果のプレゼンテーション内容
	理解状況	40%	
	発表状況	40%	
教科書	①指定なし		
参考書	①監修:井上令一, 監訳:四宮滋子, 田宮 聡 [2016 年] 「カプラン臨床精神医学テキスト(日本語版第 3 版)」 メディカルサイエンスインターナショナル ②泰羅雅登, 中村克樹 監訳 [2013 年] 「カールソン神経科学テキスト:脳と行動(第 4 版)」 丸善出版		
履修上の留意点	抄読する論文については、演習中に適宜指示する。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事後：配布資料の復習	講義	石井・森元
2-20	精神疾患と脳機能(1) 研究課題に関連する論文の吟味・批判的検討、討論	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	講義・討論	〃
21-40	精神疾患と脳機能(2) 研究課題に関連する論文の吟味・批判的検討、討論	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
41-60	精神疾患と脳機能(3) 研究課題に関連する論文の吟味・批判的検討、討論	事前：課題の予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

授業科目	精神障害リハビリテーション学特講 Special topics of Occupational Therapy for Psychiatrics and Mental Health	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学部棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文、横山 和樹		
概要	精神障害に対するリハビリテーションの科学的根拠について、関連する理論の比較検討から理解を深め、検証可能性を含めた幅広い議論を行う。		
到達目標	精神障害リハビリテーションの科学的根拠について批判的検討を行うことができる		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	①指定なし。		
参考書	①関連国際ジャーナル等。講義の際に適宜指示する。		
履修上の留意点	下記スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更(学習内容等)する場合がある。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神障害リハビリテーション学特講オリエンテーション	事後：配布資料	講義	池田 森元 横山
2	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見1(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	講義・演習	〃
3	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見2(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
4	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見3(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
5	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見4(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
6	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見5(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
7	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見6(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
8	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見7(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
9	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見8(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
10	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見9(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
11	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見10(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃

12	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見 11(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
13	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見 12(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
14	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見 13(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃
15	精神障害リハビリテーションの科学的根拠、研究法、および最新の知見 14(文献抄読および討議)	事前・事後：配布資料	〃	〃

授業科目	精神障害リハビリテーション学特講演習 Special topics of Occupational Therapy for Psychiatrics and Mental Health, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元 隆文、横山 和樹		
概要	精神障害リハビリテーション学特講の授業内容を基盤に、自らの研究疑問や研究仮説を焦点化し、その検証可能性を検討する。さらに実際に具体的な研究方法を設定し検証する。		
到達目標	1. 関連する研究論文に対する批判的な検討を行うことができる。 2. 自らの研究仮説、研究疑問を設定し、研究方法を設定することができる。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討論参加状況 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容
	学習態度	20%	
	プレゼンテーション内容	70%	
教科書	①指定なし。		
参考書	①関連国際ジャーナル等とし、演習の中で適宜指示する。		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神障害リハビリテーション学特講演習オリエンテーション	事後：配布資料	講義	池田 森元 横山
2-60	研究テーマに関連する理論・研究論文に関する批判的検討、および研究方法論の吟味と設定。	事前・事後：配布資料	講義・演習	〃

授業科目	神経・認知機能治療学特講 Special topics of therapeutic research in neurocognitive disorder and stroke	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	齊藤 正樹 (保健医療学研究棟 E513) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	本特講義の目標は認知機能障害の病態と検査を理解できる能力を培う事、そこから研究の糸口を発見することである。具体的には、認知機能障害を評価するために、実臨床の場で用いられている認知機能バッテリー、神経学的検査、生化学検査、神経・電気生理学検査、脳血流画像・超音波検査、病理を実習する。		
到達目標	1. 認知機能の低下を呈する疾患群の病態を説明できる。 2. 疾患と評価・検査所見の対応を説明できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	履修態度	20%	評価対象の詳細 履修態度：討論参加状況 レポート：提出状況および記載内容 討議・討論：提示内容、質疑内容
	レポート	20%	
	討議・討論	60%	
教科書	①指定なし		
参考書	①中島健二／編集 下濱俊／編集 富本秀和／編集 三村将／編集 [2020年] 「認知症ハンドブック 第2版」 医学書院 ②J.Kimura [2013年] 「Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle: principles and practice」 Oxford University Press		
履修上の留意点	対象になった疾患あるいは検査法に関して、必要に応じて文献を紹介する。 附属病院脳神経内科、LSI 札幌クリニック、函館新都市病院、札幌美しが丘脳神経外科などの協力を得て、学習内容を深める機会をもつ。 1 学年後期の「神経・認知機能治療学特講演習」を履修すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：なし 事後：なし	講義	齊藤
2	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	討論 レポート	〃
3	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
4	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
5	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
6	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
7	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
8	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
9	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃

10	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
11	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
12	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
13	担当教員とともに附属病院および関連施設での神経・電気生理学的検査、脳血管超音波検査、認知機能検査に参加する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：症例レポート作成	〃	〃
14	前期で作成した症例レポートをまとめ、各疾患に関して口頭発表と討論を行う。	事前：検査対象疾患のまとめ 事後：症例レポート整理	〃	〃
15	前期で作成した症例レポートをまとめ、各疾患に関して口頭発表と討論を行う。	事前：症例レポートのまとめ 事後：疾患レポート整理	〃	〃

授業科目	神経・認知機能治療学特講演習 Special topics of therapeutic research in neurocognitive disorder and stroke, practicum	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	齊藤 正樹 (保健医療学研究棟 E513) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	臨床・検査カンファレンスを通して、認知機能障害の病態とそれに対する理学療法・作業療法的なアプローチを学ぶ。プレゼンテーション能力を向上させたいと、理学療法士、作業療法士としての専門性を発揮し、主体的に自身の意見を発信する能力を培う。		
到達目標	1. 臨床・検査カンファレンスの内容が把握できる。 2. 個々の患者について理学療法士、作業療法士の見地から、自身の考えをプレゼンテーションすることができる。 3. プレゼンテーション技術を生かし、地域の医療・保健・介護スタッフに対し、理学療法士および作業療法士の立場から、主体的に意見を述べ、助言を行う。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	履修態度	20%	評価対象の詳細 履修態度：討論参加状況 レポート：提出状況および記載内容 討議・討論：提示内容、質疑内容
	レポート	60%	
	討議・討論	20%	
教科書	①指定なし		
参考書	①中島健二／編集 下濱俊／編集 富本秀和／編集 三村將／編集 新井哲明／編集 [2020 年] 「認知症ハンドブック 第 2 版」 医学書院 ②Kimura J. [2013 年] 「Electrodiagnosis in diseases of nerve and muscle: principles and practice」 Oxford University Press ③NPO 法人北海道医療連携ネットワーク協議会 [2017 年] 「脳卒中・急性心筋梗塞あんしん連携ノート」 昇夢虹 ④NPO 法人北海道医療連携ネットワーク協議会 [2021 年] 「あんしん生活ガイドブック ver. 3」 昇夢虹 ⑤福岡県循環器病総合支援センター [2023 年] 「福岡県脳卒中あんしん連携ノート」 福岡県循環器病総合支援センター		
履修上の留意点	症例検討の対象になった疾患に関して、必要に応じて文献を紹介する。 1 学年前期の「神経・認知機能治療学特講」を履修していること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：1 学年前期の「神経・認知機能治療学特講」の復習 事後：内容の整理	講義	齊藤
2-53	臨床医と合同の臨床カンファレンス(検査・症例検討会)に参加する。 地元の医療・保健・救急・介護スタッフとともに地域の研修活動で助言する。	事前：検査対象疾患の予習 事後：レポートのまとめ	討論 レポート	〃
54-60	後期に作成した症例レポートをまとめ、総合討論を行う。	事前：総括レポートの作成 事後：レポートの修正と完成	〃	〃

授業科目	筋機能制御学特講 Special Topics of Muscle Physiology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	山田 崇史 (保健医療学研究棟 E407) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	先天性および後天性ミオパチーに対する効果的なリハビリテーションプログラムの開発を目指し、生理学、生化学、分子生物学的研究により得られた知見を基に病態メカニズムについて理解を深めるとともに、筋機能改善を目的とした効果的な運動及び物理療法の至適条件について考察する。		
到達目標	1. 先天性および後天性ミオパチーのメカニズムについて説明できる。 2. 運動及び物理療法による筋の機能制御について説明できる。 3. 先天性および後天性ミオパチーを改善するための効果的な運動及び物理療法負荷条件を立案することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習態度	15%	学習態度：討論の参加状況及び内容
	提出物	40%	提出物：提出状況及び記載内容
	発表	45%	発表：プレゼンテーションの内容
教科書	指定なし		
参考書	①Kenney WL. [2016] 「Physiology of Sport and Exercise (6th ed)」 Human Kinetics ② 「その他、講義の際に適宜文献を提示する。」		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 筋機能制御学の意義	事後：配布資料の復習	講義・演習	山田
2	筋機能制御学における研究法 生理学、生化学、分子生物学的手法	事後：配布資料の復習	〃	〃
3	筋機能不全の病態1 先天性ミオパチー	事後：配布資料の復習	〃	〃
4	筋機能不全の病態2 後天性ミオパチー	事後：配布資料の復習	〃	〃
5	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)1	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
6	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)2	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
7	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)3	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
8	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)4	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
9	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)5	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
10	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)6	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
11	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)7	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃

12	筋機能制御学における最新の知見(文献抄読)8	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
13	研究計画発表1	事前：課題の準備 事後：課題の修正	〃	〃
14	研究計画発表2	事前：課題の準備 事後：課題の修正	〃	〃
15	研究計画発表3	事前：課題の準備 事後：課題の修正	〃	〃

授業科目	筋機能制御学特講演習 Special Topics of Muscle Physiology, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	山田 崇史 (保健医療学研究棟 E407) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	先天性および後天性ミオパチーのメカニズムや、それらに対する運動及び物理療法の作用について、生理学、生化学及び分子生物学的手法を用い検討し、科学的根拠に基づいた効果的なりハビリテーションプログラムの具現化を目指す。		
到達目標	1. 筋機能を検討するための生理学、生化学及び分子生物学の実験手法を理解し実施できる。 2. 先天性および後天性ミオパチーのメカニズムや、それを改善するための効果的な運動及び物理療法負荷条件について仮説を立て、研究計画書を作成することができる。 3. 先天性および後天性ミオパチーのメカニズムや、それに対する運動及び物理療法の効果を実験的に検討し考察することができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習態度	15%	学習態度：討論の参加状況及び内容 提出物：提出状況及び記載内容 発表：プレゼンテーションの内容
	提出物	40%	
	発表	45%	
教科書	指定なし		
参考書	①Kenney WL. [2016] 「Physiology of Sport and Exercise (6th ed)」 Human Kinetics		
履修上の留意点	必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	オリエンテーション	事後：配布資料の復習	講義	山田
3-10	研究テーマに係る先行研究の批判的検討 研究方法論に関する検討	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	講義 演習 個別指導	〃
11-30	研究テーマに係る先行研究の批判的検討の継続 研究計画の立案と妥当性の検討	事前：課題の準備 事後：配布資料の復習	〃	〃
31-40	研究計画の発表および修正	事前：課題の準備 事後：課題の修正	演習	〃
41-60	研究計画に基づいた実験的検討	事前：実験の準備 事後：データ解析	〃	〃

授業科目	生体機能評価学特講 Special topics of Biofunctional and Imaging Evaluation in Physical Therapy	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	谷口 圭吾 (保健医療学研究棟 E413) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	生体機能評価は、理学療法評価の中核をなす。本特講では、身体運動を直接的に司る運動器の形態・機能・性状における可塑的な変化を理解するとともに、運動器障害やスポーツ障害をはじめ種々の理学療法学領域に応用しうる可塑性評価法について文献的に検討し討論する。		
到達目標	1. 運動器の形態・機能・性状と身体運動機能の関連を概説できる。 2. 形態評価、機能評価および性状評価の先端的な手法を知り、理学療法への応用可能性を考察できる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション：提示内容および質疑内容 学習態度：受講の積極性と討論への参加状況
	プレゼンテーション	30%	
	学習態度	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	開講スケジュールは演習の進捗状況等によって変更することがある。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 生体機能評価と理学療法	事後：配付資料	講義	谷口
2	生体機能評価の基礎	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
3	運動器の形態特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	講義・討論	〃
4	運動器の形態特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
5	運動器の機能特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
6	運動器の機能特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
7	運動器の性状特性と可塑性 1	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
8	運動器の性状特性と可塑性 2	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃

9	活動量増加・減少に対する骨格筋の適応と評価	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
10	成長発達・加齢に対する骨格筋の適応と評価	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
11	損傷に対する骨格筋の適応と評価	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
12	トレーニングに対する骨格筋の適応と評価	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
13	生体機能評価の最新知見と理学療法への応用1：文献的検討	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
14	生体機能評価の最新知見と理学療法への応用2：文献的検討	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃
15	まとめ	事前：課題準備 事後：配付資料	〃	〃

授業科目	生体機能評価学特講演習 Special topics of Biofunctional and Imaging Evaluation in Physical Therapy Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	谷口 圭吾 (保健医療学研究棟 E413) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	ヒト生体軟組織の形態・機能・性状の包括的な評価について、非侵襲の医用イメージング技術と運動学的手法の併用による研究方法理解を深める。先端的な画像評価手法の活用による生体機能の解明や運動機能障害の病態解明、理学療法への臨床応用について自らの研究課題に沿って研究計画を立案し、論文作成を通じて学習する。		
到達目標	1. ヒト生体の運動器を形態・機能・性状の側面から探索する評価手法を理解し、実践できる。 2. 運動機能障害の機序解明や治療・予防に繋がる形態・機能・性状の可塑性評価を調べ、研究計画を立案できる。		
関連科目	生体機能評価学特講		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	30%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 プレゼンテーション：提示内容、質疑内容および課題の達成度 学習態度：討論への参加状況
	プレゼンテーション	40%	
	学習態度	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	開講スケジュールは演習の進捗状況等によって変更することがある。 必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-4	オリエンテーション 生体機能評価研究の動向, 問題点や疑問点の抽出	事後：配付資料の復習	演習・討論	谷口
5-20	自ら抽出した課題に関する文献の収集・検討 関連研究を網羅的に検索して検討・討論	事前：課題準備と提出 事後：演習内容の復習	〃	〃
21-40	研究テーマに即した研究デザイン・評価手法の検討	事前：課題準備と提出 事後：演習内容の復習	〃	〃
41-60	研究課題に沿った研究計画書の作成・討議	事前：課題準備と提出 事後：計画書の修正	個別指導	〃

授業科目	形態人類学特講 Special Topics of Physical Anthropology	1 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	松村 博文 (保健医療学研究棟 E411) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	解剖体を教材として各自の研究課題に関連する人体の各部位の局所解剖について、形態の環境的あるいは機能的適応と変異について、多角的な視点で所見データを採取し考察をおこなうことにより、人体構造の理解を深める。		
到達目標	1. 受講者の研究特性に応じて関連する人体部位について局所解剖学的理解を深める。 2. 上記疑問点に対応する研究手法を選択し、研究計画の立案ができる。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	40%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：参加習得状況 ディスカッション：剖出部位の考察内容
	学習態度	40%	
	ディスカッション	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①Clemente Anatomy: the regional atlas of the human body, ネット解剖アトラスなどの解剖図譜。その他各自の課題に則する。		
履修上の留意点	研究用データを収集する場合は、事前に倫理委員会の承認を得ておいてください。 納棺、清掃、火葬もあるので留意のこと。実施時間は融通がききます。 各実施回に示した解剖の部位はあくまでも例示です。各自の研究テーマや関心領域に応じて、知見を深めたい部位に焦点をあてて、スケジュールを組み替えてください。あえて学部の実習の期間に科目を設定しているのは、同時に多数のご遺体を観察できるからです。どのような部位もバリエーション(個体変異)を把握することはとても重要なことなので、学部生使用遺体も十分に観察等に活用してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 各自の課題に関する検討	事前：課題準備 事後：計画立案	講義	松村
2	局所解剖 運動器 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	実習	〃
3	局所解剖 運動器 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
4	局所解剖 運動器 3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
5	局所解剖 関節と靭帯 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
6	局所解剖 2 関節と靭帯 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
7	局所解剖 2 関節と靭帯 3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
8	局所解剖 3 脈管神経系 1	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
9	局所解剖 3 脈管神経系 2	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃

10	局所解剖3 脈管神経系3	事前：課題準備 事後：剖出確認	〃	〃
11	剖出所見の考察1	事前：課題準備 事後：剖出内容の整理	〃	〃
12	剖出所見の考察2	事前：課題準備 事後：剖出内容の整理	〃	〃
13	剖出所見の考察3	事前：課題準備 事後：剖出内容の整理	〃	〃
14	研究計画検討会(リサーチミーティング)1	事前：課題準備 事後：配布資料	演習	〃
15	研究計画検討会(リサーチミーティング)2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	形態人類学特講演習 Special Topics of Physical Anthropology, Seminar	1 学年・後期・4 単位 (120 時間)	
		理学・作業	選択

科目担当責任者	松村 博文 (保健医療学研究棟 E411) e-mail : iromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	形態人類学では、人体構造の理解に直立二足歩行への適応など人類進化の視点を取り入れた研究、あるいは様々な人類集団における形態の環境適応や機能的適応の変遷を解明を目的とした研究をおこなっている。具体的には、骨(または生体)形態の計測、関節の形状、筋附着部の発達度、ストレスマーカー、その他非計測的なデータ、あるいは3D スキャナー、CT 画像などで得られた形態データをもとに、多変量解析などの統計学的手法を用いて、形態の相互相関や変異の原因となる生活様式、運動、気候、栄養、加齢、シンメトリーなど様々な環境要因や現象を探る様々な課題に取り組むことが可能である。本講ではこうした種々の研究の動向の把握と手法を習得しながら、各自の研究課題を立案し遂行する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態の進化的背景を知る。 2. 形態のデータ採取と解析法を学習する。 3. 関連文献から研究の動向を把握し、課題を検討する。 4. 研究計画の立案し実施する。 		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	10%	評価対象の詳細 提出物：提出状況および記載内容 学習態度：討議への参加状況。 プレゼンテーション内容：提示内容、質疑内容、課題に対する取り組みから総合的に判断する。
	学習態度	40%	
	プレゼンテーション内容	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①下記の関連国際ジャーナル等とし、演習中に適宜指示する。 Nature, Science, American Journal of Physical Anthropology, Journal of Human Evolution, Anthropological Science など		
履修上の留意点	開講スケジュール要相談。必要に応じて担当教員と密に連絡をとること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション	事前：課題準備 事後：配布資料	講義	松村
2-3	人類進化のプロセス 霊長類からホモ・サピエンスへ	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
4-5	人類集団の環境適応と多様性	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
6-7	骨標本の取り扱い 保存処置と修復	事前：課題準備 事後：配布資料	演習	〃
8-9	骨標本の取り扱い 性別・年齢の推定法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
10-11	マルチン式生体計測法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
12-13	マルチン式骨計測法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
14-16	三次元計測システム	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

17-18	CT 画像撮影システム	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
19-20	形態データを用いた多変量解析の手法	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
21-22	形態人類学の論文抄読と評価 1	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
23-24	形態人類学の論文抄読と評価 2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
25-26	形態人類学の論文抄読と評価 3	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃
27-28	形態人類学における研究計画の立案 1	事前：課題準備 事後：配布資料	個別指導	〃
29-30	形態人類学における研究計画の立案 2	事前：課題準備 事後：配布資料	〃	〃

授業科目	理学療法学・作業療法学特別研究 Dissertation Seminar in Physical and Occupational Therapy	全学年・通年・4単位(120時間)	
		理学・作業	必修

科目担当責任者	専攻領域の指導教員	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	各教育研究領域において、研究テーマの設定、研究方法、結果の解析と考察、論文執筆に関する個別指導、および討議を各自の研究進度にあわせて行う。		
到達目標	研究計画を作成する。 研究計画に基づき、研究を遂行する。 博士論文を作成する。		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	指導教員による	100%	個別指導、討議への参加状況、および論文内容から総合的に判断する。
教科書	①必要に応じて提示する。		
参考書	①必要に応じて提示する。		
履修上の留意点	必要に応じて提示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
—	<教育研究領域> 神経・発達障害理学療法学 感覚統合障害学 生体工学・スポーツ整形外科学 中枢神経機能障害学 スポーツ理学療法学 活動能力障害学 臨床精神・脳機能学 精神障害リハビリテーション学 神経・認知機能治療学 筋機能制御学 生体機能評価学 形態人類学 上記のいずれかの領域から専攻領域を選択し、指導教員の研究指導のもとに、博士論文を作成するための研究を推進する。	—	—	各研究領域の指導教員

学 生 便 覧

2024年度学事予定表

2024年	4月 5日 (金)	入 学 式
	4月15日 (月)	授 業 開 始
	6月25日 (火)	大 学 記 念 日
	7月22日 (月) ~9月8日 (日)	夏 季 休 暇
	9月 9日 (月)	授 業 開 始
	12月23日 (月) ~1月 5日 (日)	冬 季 休 業
2025年	1月 6日 (月)	授 業 開 始
	3月21日 (金)	修 了 式
	3月24日 (月) ~4月 13日 (日)	春 季 休 業

2024 CALENDAR

<p>4月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4 5 6 7</p> <p>8 9 10 11 12 13 14</p> <p>15 16 17 18 19 20 21</p> <p>22 23 24 25 26 27 28</p> <p>29 30</p>	<p>5月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>6 7 8 9 10 11 12</p> <p>13 14 15 16 17 18 19</p> <p>20 21 22 23 24 25 26</p> <p>27 28 29 30 31</p>	<p>6月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>7月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4 5 6 7</p> <p>8 9 10 11 12 13 14</p> <p>15 16 17 18 19 20 21</p> <p>22 23 24 25 26 27 28</p> <p>29 30 31</p>
<p>8月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4</p> <p>5 6 7 8 9 10 11</p> <p>12 13 14 15 16 17 18</p> <p>19 20 21 22 23 24 25</p> <p>26 27 28 29 30 31</p>	<p>9月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1</p> <p>2 3 4 5 6 7 8</p> <p>9 10 11 12 13 14 15</p> <p>16 17 18 19 20 21 22</p> <p>23 24 25 26 27 28 29</p> <p>30</p>	<p>10月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4 5 6</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28 29 30 31</p>	<p>11月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3</p> <p>4 5 6 7 8 9 10</p> <p>11 12 13 14 15 16 17</p> <p>18 19 20 21 22 23 24</p> <p>25 26 27 28 29 30</p>
<p>12月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1</p> <p>2 3 4 5 6 7 8</p> <p>9 10 11 12 13 14 15</p> <p>16 17 18 19 20 21 22</p> <p>23 24 25 26 27 28 29</p> <p>30 31</p>	<p>1月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2 3 4 5</p> <p>6 7 8 9 10 11 12</p> <p>13 14 15 16 17 18 19</p> <p>20 21 22 23 24 25 26</p> <p>27 28 29 30 31</p>	<p>2月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24 25 26 27 28</p>	<p>3月</p> <p>月 火 水 木 金 土 日</p> <p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24 25 26 27 28 29 30</p> <p>31</p>

I 沿革

1 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に設置され、平成5年4月には、札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年4月開学）の発展的な改組に伴い、保健医療学部を増設、平成24年4月には助産学専攻科を開設し現在に至っています。

本学の沿革の概要は次のとおりです。

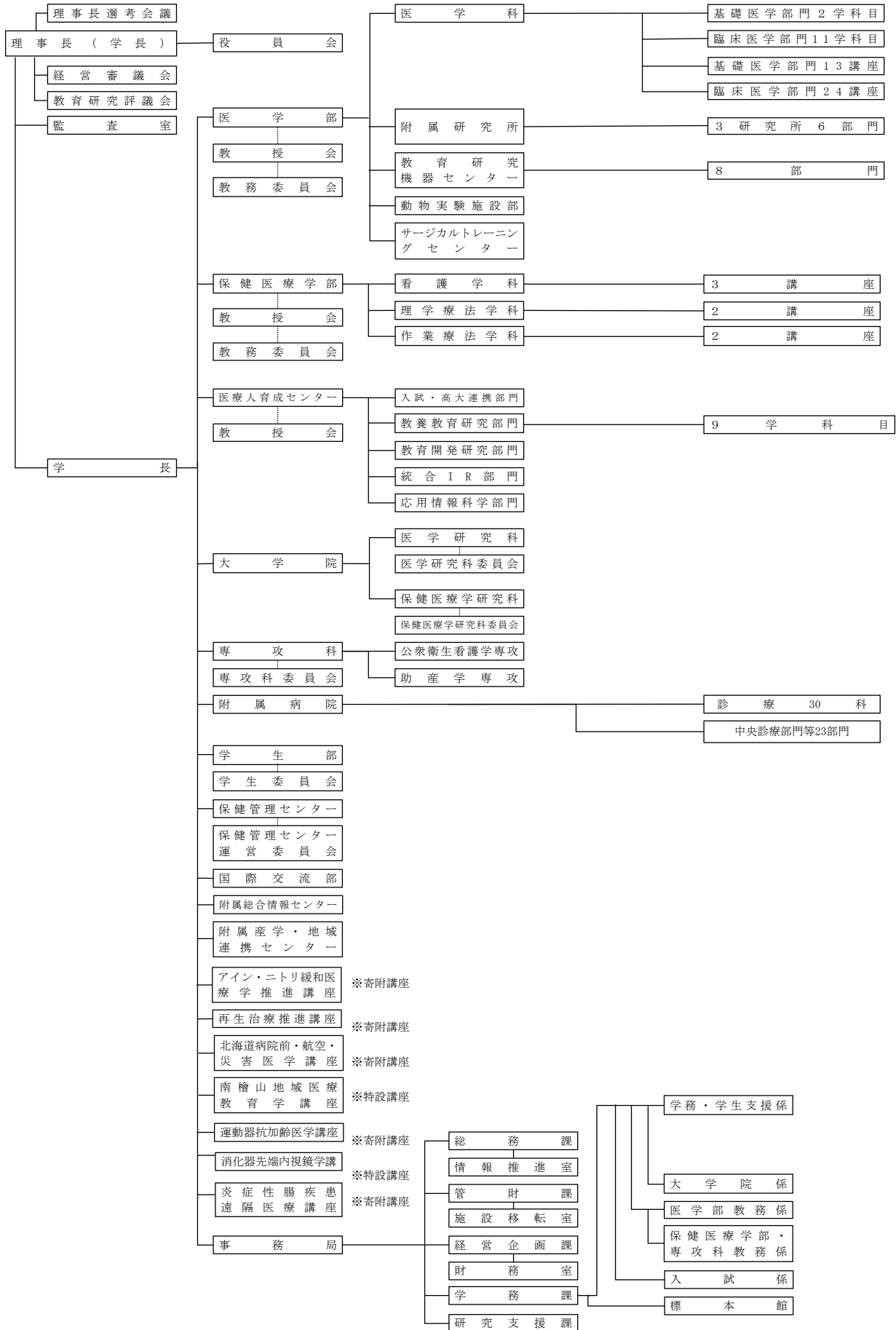
昭和25年 2月20日	札幌医科大学設置認可（学生入学定員40名）
3月25日	札幌医科大学条例公布
4月1日	開学、大野精七学長就任
4月20日	第1回入学式挙行
6月25日	開学式挙行（大学記念日とする）
昭和28年 3月31日	学生入学定員60名に増員
4月1日	事務局及び学務部を設置
昭和29年 3月20日	第1回卒業式挙行（卒業生36名）
昭和30年 9月1日	附属がん研究所設置
昭和31年 3月31日	大学院医学研究科設置認可（学生入学定員25名）
昭和33年 1月10日	医学進学課程設置
昭和35年 6月25日	開学10周年記念式挙行
昭和36年 4月1日	中川諭学長就任
昭和37年12月20日	学部学生入学定員80名に増員
昭和39年 7月1日	専門課程の学科目制を講座制に改正
昭和40年 4月1日	新保幸太郎学長就任
昭和43年 9月1日	附属臨海医学研究所設置
昭和44年 4月1日	共同研究施設部設置
昭和47年 2月9日	渡辺左武郎学長就任
昭和49年 1月23日	学部学生入学定員100名に増員
3月30日	放射性同位元素研究センター竣工
昭和50年 6月25日	開学25周年記念式挙行（創基30周年）
昭和52年 8月5日	附属がん研究所竣工
昭和53年 9月30日	体育館竣工
昭和54年 1月26日	大学校舎南棟増築
4月1日	進学課程及び専門課程の区分を廃止
昭和55年 2月9日	和田武雄学長就任
昭和56年 4月1日	附属がん研究所生化学部門設置
昭和57年 2月26日	動物実験施設竣工
5月16日	動物実験施設部設置
昭和58年 6月23日	附属病院整備第1期工事竣工
9月6日	附属病院円山分院廃止

昭和60年10月1日	衛生短期大学部内に4年制大学に移行に向けた「将来構想委員会」設置
昭和61年2月9日	菊地浩吉学長就任
3月13日	附属病院整備第2期工事竣工
11月18日	西17丁目道路整備工事（緑化工事）竣工
平成3年7月1日	国際医学交流センター竣工
平成4年2月9日	谷内昭学長就任
12月21日	札幌医科大学保健医療学部設置認可
平成5年4月1日	保健医療学部（入学定員90名）を開設（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）
平成7年3月31日	リハビリテーション教育実習棟改修
平成8年2月9日	谷内昭学長再任される
平成9年12月19日	札幌医科大学大学院保健医療学研究科設置認可
平成10年2月9日	秋野豊明学長就任
4月1日	大学院保健医療学研究科修士課程（入学定員24名）を開設（看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻）、医学部に地域医療総合医学講座を開設
平成11年3月28日	基礎医学研究棟竣工
4月1日	附属情報センター設置、共同研究施設部を教育研究機器センターに改組
12月22日	大学院保健医療学研究科博士課程設置認可
平成12年4月1日	大学院保健医療学研究科博士課程（入学定員6名）を開設（理学療法学・作業療法学専攻）
	学部に副学部長制（2名）施行
	医学部に臨床検査医学講座開設
6月25日	開学50周年（創基55周年）記念式挙行
10月1日	札幌医科大学交流会館（サークル棟）竣工
平成13年4月1日	大学院医学研究科を再編整備（地域医療人間総合医学専攻、分子・器官制御医学専攻、情報伝達制御医学専攻の3専攻へ）
4月16日	札幌医科大学地域医療支援センターを設置
平成14年4月1日	札幌医大病院ファミリーハウスを開設
	札幌医科大学医学部附属病院に救命救急センターを設置
10月1日	同附属病院に高度救命救急センターを設置
12月1日	札幌医科大学記念ホールを開設
平成16年2月9日	今井浩三学長就任
4月1日	医局廃止、新医師派遣システム始動、研修医制度開始
	医学部附属病院から大学附属病院に名称変更
平成18年4月1日	大学院保健医療学研究科博士課程（入学定員2名）を開設（看護学専攻）、附属総合情報センターを設置、附属産学・地域連携センターを設置
平成19年4月1日	北海道公立大学法人札幌医科大学となる
平成20年4月1日	大学院医学研究科修士課程（入学定員10名）を開設（医科学専攻）

平成20年10月1日	医療人育成センターを設置
平成21年4月1日	医学部医学科学生入学定員110名に増員
平成22年4月1日	島本和明学長就任
	保健医療学部副学部長制(2名)施行
6月25日	開学60周年(創基65周年)記念式挙行
平成23年4月1日	医学部附属がん研究所を医学部附属フロンティア医学研究所に改組
平成24年3月31日	医学部附属フロンティア医学研究所臨海医学研究施設廃止
4月1日	助産学専攻科(入学定員20名)を設置
平成26年4月1日	アドミッションセンターを設置
12月1日	新キャンパス構想により、リハビリテーション実習室、体育館、保育所完成。運用開始
平成28年4月1日	塚本泰司学長就任
平成29年3月24日	教育研究施設Ⅲ(保健医療学部増築棟)竣工 施設名称を「保健医療学部棟」から「保健医療学研究棟」に改める
平成30年2月22日	教育研究施設Ⅰ竣工
8月1日	大学附属病院に遺伝子診療科を設置
平成31年4月1日	アドミッションセンター廃止 医療人育成センターに入試・高大連携部門、統合IR部門を設置
令和2年4月1日	「助産学専攻科」を「専攻科」に改め、「専攻科」の下に「公衆衛生看護学専攻」と「助産学専攻」を設置
令和3年3月25日	教育研究棟Ⅱ、大学管理棟竣工
4月1日	地域医療研究教育センターを設置 医療人育成センターに応用情報科学部門を設置 大学附属病院に治験センターを設置
12月1日	医学部に札幌医科大学サージカルトレーニングセンターを設置
令和4年4月1日	山下敏彦学長就任
7月1日	大学附属病院に感染症内科を設置
11月19日	新キャンパス落成記念式典挙行
令和5年11月1日	医学部附属フロンティア医学研究所を医学部附属研究所に改組
12月1日	大学附属病院に画像診断センターを設置

2 大学機構図

2024.4.1 現在



3 学務課業務内容

学務課は、学業に関する事務と学生生活全般のサポートを主な業務としています。
皆さんに関係の深い業務とその担当は次のとおりです。

学務・学生支援係 (内線21820・21870・21930・21940・21790・22230・22020)

- 入学式・卒業式などの大学行事に関すること
- 授業料の納入、減免または分納に関すること
- 日本学生支援機構奨学金及びその他奨学金に関すること
- 学生証の発行に関すること
- 学生の健康管理・課外活動・厚生補導に関すること
- 住所変更、学生保険等の諸届に関すること
- 旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関すること
- 講堂・記念ホール及び体育施設等の使用に関すること
- 学生サポートシステムの管理・運用に関すること
- 標本館の管理に関すること
- 札幌医科大学後援会の庶務に関すること
- 学生の賞罰に関すること

大学院係 (内線23770)

- 大学院医学研究科及び保健医療学研究科の教育課程に関すること
- 大学院医学研究科及び保健医療学研究科学生の募集、入学、休学、転学、退学、修了に関すること
- 学位論文に関すること

Ⅱ 学 生 生 活

学生生活全般については、学務課が担当しております。

教育研究に関する教務的な仕事と授業料や奨学金、各種証明といった福利厚生や厚生補導について、担当係が分担して業務を行っております。

1 授業料納入、減免及び分納

(学務・学生支援係)

(1) 授業料の納入

■金額と納入日

授業料	金額	納入日
前期	267,900 円	4 月 30 日
後期	267,900 円	10 月 31 日

※在学中に授業料が改定された場合は、改定後の授業料が適用されます。

■納入方法

口座振替による自動引き落としとなります。(納入日が銀行休業日の場合、翌営業日に引き落としとなります。)

・納入日(引落日)の前日までに口座の残額を確認し、不足のないようにしてください。 預金口座から引き落とす際の手数料は無料です。
・残額不足等で振替ができなかった場合は、払込票での納入になります。 その際の手数料はご負担ください。
・預金口座を変更・廃止するときは、必ず事前に学務課学務・学生支援係に申し出て下さい。

■納入を怠った場合

授業料の納入を怠り、督促を受けてもなお納入がない場合には、学則に基づき除籍等を含めた措置をとりますので、ご注意いただくとともに、期日内の納入にご協力ください。

・納入日までに授業料の納入を怠った場合は、ただちに納入できない理由などを記載した申出書の提出を求めます。正当な理由がない場合には、翌学期開始日から納入するまでの間、謹慎処分とすることがあります。
・申出書の納入予定日までに納入がなく、2期分を滞納した場合(但し、最終学年については申出書の納入予定日までに納入がなかった場合)については、正当な理由がない場合、除籍処分とすることがあります。

(2) 授業料減免制度

真にやむを得ない理由のため、学費の支弁が極めて困難な学生に対し、願出により授業料を減免制度です。

減免の種類	申請期間
免除、2分の1減額、3分の1減額	前期：3月上旬頃、後期：7月中旬頃

※申請期間等詳細はその都度掲示します。

※授業料減免の申請は、決められた期間に行わなければなりません。被災(罹災)した場合または学資支給人の死亡等緊急な場合には、申請期間に関わりなく減免を受けられる場合があります。

詳しくは学務課学務・学生支援係にご相談ください。

(3) 授業料分納制度

減免制度と同様に、願出により授業料を分納できる制度があります。

申請期間は、授業料減免制度と同時です。

2 各種届出及び証明書交付申請の手続き

(大学院係内線 2 3 7 7 0)

区 分	担 当	期 限	摘 要
学 生 証	大学院係	入学時 その都度 (再交付)	・毎年4月中に在籍確認シールを添付すること。 ・再交付は「学生証再交付願」により申請すること。
住所届・住所変更届	〃	その都度	
連帯保証人変更届 連帯保証人住所変更届	〃	〃	
氏名変更届	〃	〃	戸籍抄本1通を添付する。

休 学 願	大学院係	その都度	(休学する日の3週間前までに提出)
退 学 願	〃	〃	(退学する日の3週間前までに提出)
転 学 願	〃	〃	
復 学 願	〃	〃	(休学期間満了前に復学するとき提出)
再 入 学 願	〃	〃	

成 績 証 明 書	大学院係	その都度	
在 学 証 明 書	〃	〃	
修 了 見 込 証 明 書	〃	〃	
修 了 証 明 書	〃	〃	

施 設 使 用 願	医学部教務係 保健医療学部教務係	その都度	講義室等の使用許可
体育施設等の使用願	学務・学生支援係	〃	体育館及びトレーニング室(休日等)・新琴似グラウンド等の使用許可
日本学生支援機構・ その他奨学金の申請	〃	掲示により 定める日	
学生旅客運賃割引証 通学証明書 (JR・バスなど)	〃	その都度	
授業料減免願 授業料分納願	〃	掲示により 定める日	・前期申請受付 3月 ・後期申請受付 7月

3 奨学金

(学務・学生支援係)

(1) 日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づき、教育の機会均等に寄与するため、経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資の貸与を行い、適切な修学の環境を整備し、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資することを目的とした制度です。

なお、奨学生となる者は、将来の奨学金返済に対する明確な自覚と責任感を持つことが必要となります。

① 大学院奨学生の奨学金の種類及び貸与月額

種類	在籍区分	利息	貸与月額
第一種奨学金	修士・博士前期	無利息	50,000 円又は 88,000 円
	博士後期・博士(医)	無利息	80,000 円又は 122,000 円
第二種奨学金	修士・博士前期 博士後期・博士(医)	年3%を 上限(在学 中は無利息)	50,000 円・80,000 円・100,000 円・ 130,000 円・150,000 円のいずれか

② 募集及び申込方法

ア 募 集 毎年4月以降にお知らせします。

イ 申込方法 所定の期日までに、学務・学生支援係へ必要書類を提出してください。

③ 決定及び通知

日本学生支援機構では、大学からの推薦に基づき選考のうえ採否を決定しますが、奨学生に採用された場合は、日本学生支援機構から本学を経て、本人あてに「奨学生証」及び「奨学生のしおり」が交付されます。

なお、資金の関係で採用人員に限度があり、たとえ資格があっても採用されないことがあります。また、第一種奨学生の基準を満たしていない場合でも、第二種奨学生として適格である可能性もありますので、希望者は学務・学生支援係に相談してください。

④ 奨学金の交付及び受領・適格認定

奨学金は毎月11日以降(4月・5月を除く)、あらかじめインターネット入力により届け出た銀行の普通預金口座に直接振り込まれます。

また、奨学金の継続を希望する奨学生は毎年「奨学金継続願」の提出(インターネット入力)が必要です。

⑤ 奨学金の返還

奨学金の貸与が終了(満期・退学・廃止等)すると、返還の義務が生じます。貸与の終了した翌月から数えて7か月目の月から20年以内に割賦の方法で返還しなければなりません。返還割賦額及び返還回数は、返還総額に応じて決められています。返還金は奨学金の財源となりますので、後輩のためにも確実に返還を履行してください。返還を怠ったときは、延滞金が課せられたり、法的措置が講じられることがあります。

⑥ 返還が困難になった場合の猶予

災害、傷病、経済困難、失業など返還できない事情が生じた場合、割賦金額の減額または返還期限の猶予を願い出ることができます。

⑦ 奨学金の返還免除

(ア) 本人が死亡又は心身障害のため返還できなくなったときは、願出によって免除されることがあります。

(イ) 特に優れた業績による返還免除

大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に奨学金の全部又は一部の返還が免除される制度です。

⑧ その他

詳細については、学務・学生支援係へお問い合わせください。

独立行政法人日本学生支援機構・JASSO のホームページ (<http://www.jasso.go.jp>) も併せてご覧ください。

(2) 北海道看護職員養成確保修学資金

この貸付制度は北海道における看護職員の充足を図るため、将来道内において看護業務に従事しようとする道立の看護師等養成施設又は札幌医科大学(看護師課程及び大学院修士課程・専攻科)の学生に対し、その修学に必要な資金を貸付し、優秀な看護職員を育成することを目的としています。

① 貸付対象及び貸付金学

ア 対象

博士課程前期において看護に関する専門知識を取得しようとする学生で、将来道内の指定市町村に所在する病院、訪問看護事業所等で看護業務に従事しようとする者

イ 貸付金額

一般修学資金 月額 32,000 円

② 貸付金の償還が免除される施設と就業期間

修了した日から1年以内に、指定市町村の病院その他の特定施設・訪問看護事業所又は介護予防訪問事業所に引き続き5年間就業した場合。

③ 募集及び出願

募集については、5月上旬以降に周知します。希望される方は学務・学生支援係までお問い合わせください。

(3) その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金のほかに、地方公共団体、民間団体などの奨学制度があります。

奨学生の募集時期はおおむね年度の初めに集中していますが、大学に募集通知のあるものは、学務・学生支援係で閲覧することができます。

各地方公共団体等では、出身学生のための奨学制度を設けているところもありますので、希望される方は、各都道府県・市町村の教育委員会などに問い合わせてください。

4 健康管理

(1) 保健管理センター

学生の健康管理に関する専門的業務及び心身全般にわたる健康の保持増進を図るため、保健管理センターを開設しています。

保健管理センターには「保健室」と「相談室」があり、医師、保健師、看護師、相談員（公認心理師）がそれぞれの専門性をいかしながら、心身両面から皆様の健康をサポートしています。

① 保健室について

体調不良やケガなどに対し、看護師や保健師を窓口とし、保健管理センター医師や学校医による応急対応を行っています。

健康面に関する心配事にも随時相談に応じ、必要な場合は学校医にお繋ぎします。

利用時間	月～金曜日 9:00～17:00
場 所	教育研究棟 3階 C311
電 話	011-611-2111 内線 22050・22051・22052
MA I L	hokekan@sapmed.ac.jp（お返事は平日の8:45～17:30に対応します。）

② 相談室について

学生生活を送るうえで悩むことが起きた場合、気持ちが辛い場合、誰かに話を聴いてほしい場合は、相談員（公認心理師）がしっかりとお話を聴きし必要に応じて助言を行います。個人の秘密が漏れるようなことは決してありませんので、一人で悩まずに気軽に相談に来てください。

なお、対面での相談を希望される場合は事前予約をお勧めします。急な相談の場合は教育研究棟3階C312に直接お越しください。相談員が不在の場合は保健管理センター事務室（C310）にお越し下さい。別日をご案内します。また、メールやLINEでの相談も随時お受けしています。

利用時間	月～金曜日 9:45～18:30
場 所	教育研究棟 3階 C312
電 話	011-611-2111（内線21890）
MA I L	soudan@sapmed.ac.jp
L I N E	@cagzy



(LINE)



(アクセス)

(2) 感染症対策について


感染症から自分自身を守るとともに院内感染の原因となることを防ぐために、感染症予防に積極的になる必要があります。

① 新型コロナウイルス対策

感染症法上の位置づけが5類に変更になり、濃厚接触者の特定や法律に基づく外出自粛がなくなりましたが、医療機関においては院内への持込・伝播を防ぐために一定の感染対策が継続されています。附属病院を有する札幌医科大学では、学生も医療従事者に準じた健康管理として基本的な対策を「新型コロナウイルス感染症対策ハンドブック」にまとめています。

随時更新しておりますので、下記QRコードより確認して下さい。

感染症対策の重要性を理解し、健康管理と感染防止対策の徹底を心がけてください。

<p>《罹患に関する報告先》 学務課 学務・学生支援係：内線 21870、E-mail：gakum@sapmed.ac.jp 《体調報告に関すること》 保健管理センター：内線 22050、E-mail：hokekan@sapmed.ac.jp</p>	 <p>新型コロナウイルス感染症 ハンドブック 札幌医科大学 保健管理センター</p>
--	---

② 感染症に罹患した場合の対応について

学校保健安全法施行規則第18条に定められる感染症に罹患した場合は、19条に示される期間出席停止となります。

感染症が疑われる場合や診断された場合は、速やかに学務課に申し出てください。

(3) 定期健康診断について

学校保健安全法に基づき、健康の保持増進を目的に毎年5月から6月にかけて実施しています。日程は掲示板等でお知らせします。

出席停止の期間基準

	感染症の分類 (学校保健安全法施行規則第18条)	出席停止期間の基準 (学校保健安全法施行規則第19条)
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)、特定鳥インフルエンザ(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう) ※上記の他、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで。
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
	風しん	発しんが消失するまで。
	水痘(みずぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで。
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで。
	新型コロナウイルス感染症	発症した日から5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで。
	結核	
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症(感染拡大を防ぐために必要と考えられるもの)	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

5 学生教育研究災害傷害保険制度

(学務・学生支援係)

この災害傷害保険は、学生が正課中、学校行事中、課外活動中、通学中等の災害事故により傷害を被った場合の補償制度で、大学院学生は任意加入となっています。

傷害事故が発生したときは、定められた期日までに保険会社へ事故通知を行う必要があります。期日までに通知がない場合、保険が適用にならない場合がありますので、早急に学務・学生支援係に申し出て手続きをしてください。

<支払保険金の種類と金額>

- 1 後遺障害保険金の支払例（事故の発生の日からその日を含めて180日以内に後遺障害が生じた場合）
 - (1) 正課中、学校行事中の場合
程度に応じて…………… 120万円～ 3,000万円
 - (2) (1)以外の場合（学校施設内・学校施設内外での課外活動中・通学中・学校施設等相互間の移動中）程度に応じて…………… 60万円～ 1,500万円
- 2 医療保険金（医師の治療を受けた場合）・入院加算金

医師の治療を受けた場合	平常の生活ができるようになるまでの治療日数		支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中・学校行事中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が1日から対象)	治療日数	1日～3日	3,000円	入院1日につき 4,000円 (注) 入院加算金は医療保険金の支払の有無に関係なく入院1日目から支払われます。
通学中・学校施設等相互間の移動中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が4日以上の場合が対象)。	〃	4日～6日	6,000円	
	〃	7日～13日	15,000円	
上記以外で学校施設内にいる間・学校施設外での課外活動(クラブ活動)中(平常の生活ができるようになるまでの治療日数が14日以上の場合が対象)	〃	14日～29日	30,000円	
	〃	30日～59日	50,000円	
	〃	60日～89日	80,000円	
	〃	90日～119日	110,000円	
	〃	120日～149日	140,000円	
	〃	150日～179日	170,000円	
〃	180日～269日	200,000円		
〃	270日～	300,000円		

※入院加算金については、1日から対象となります

- 3 接触感染予防保険金（接触感染した日からその日を含めて180日以内に感染症予防措置を受けた場合）
臨床実習中……………1事故につき15,000円（定額払）

（注1）上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。
（注2）「治療日数」とは、傷害を被り治療を開始した日から「平常の生活に従事することができる程度になおった日まで」の間の実治療日数（実際に入院または通院した日数）をいいます。治療期間の全日数が対象になるのではないことにご注意ください。

6 学校学生生徒旅客運賃割引証

学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）は、学生の修学に伴う経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として発行されるものです。

したがって、この制度は学生のみ適用される制度であるということを十分理解し、発行条件として定められた利用目的以外に使ったり乱用したりすることのないよう注意してください。

学割証を発行できる場合は、次のとおりです。

（旅客鉄道株式会社の片道の営業キロが100キロメートルを越える区間に限る）

- 1 休暇、所用による帰省
- 2 実験実習などの正課の教育活動
- 3 学校が認めた特別教育活動又は教育・文化に関する正課外の教育活動
- 4 就職又は進学のための受験等
- 5 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- 6 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- 7 保護者の旅行への随行

この学生旅客運賃割引証の使用上の注意は、学生旅客運賃割引証の裏面に記載してありますので、よく読んで使用してください。また、学生証の交付を受けていない学生に対しては学生旅客運賃割引証を発行しません。学割証の発行には、1～2日程度かかります。余裕をもって申請してください。

※JRの往復乗車券の購入について

旅行の日程が、乗車券の有効期間内であれば往復乗車券を購入してください。

片道乗車券の有効期間

200キロまで	400キロまで	600キロまで	800キロまで	1000キロまで
2日	3日	4日	5日	6日

片道601キロ以上の距離を利用する場合は、学割と往復券購入割引の併用が可能です。

往復乗車券の有効期間は片道乗車券の2倍です。

※JR以外における学割適用範囲について

- ①名古屋鉄道・東武鉄道・近鉄（100km以上を超えて乗車する場合に限る）
- ②大部分のフェリー（学生証の提示のみで学割適用となるフェリー会社もあります。例：ハートランドフェリー）
- ③高速バス（JRバス）…「学割証」の提出は必要ありません。学生証の提示により購入できます。
（注意事項）旅行会社・みどりの窓口で購入する場合は、学割証が必要となります。
- ④航空券…航空各社の割引制度を確認してください。

7 求人情報(参考)

(1) 附属病院リハビリテーション部非常勤雇用

札幌医科大学大学院保健医療学研究科理学療法学・作業療法学専攻学生に対し、附属病院リハビリテーション部業務に携わる非常勤雇用（日々雇用職員）制度があります。詳細は指導教員、もしくは専攻代表である教員に確認してください。

(2) 札幌医科大学HP

「教職員募集」のページを参照してください。

(3) 研究者人材データベース（研究職の求人情報HP：科学技術振興機構）

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

8 研究費助成制度

研究助成制度には様々なものがあります。内容も研究助成だけではなく研究集会、海外派遣事業など様々ですので、積極的に申請し獲得してください。

(1) 学内予算

各研究分野に配分される予算については指導教員を通しての申請になりますので、必要に応じ指導教員に相談し、指示に従ってください。また、本学の学術振興助成事業には大学院生も申請できます。詳細は大学ホームページ内にある、産学地域連携センター寄付金部門のページを参照してください。

(2) 各種研究費補助金

文部科学省科学研究費補助金、厚生労働省科学研究費補助金、民間団体等助成金等、各種の研究費補助金制度があります。詳細は大学ホームページ内にある、産学地域連携センター産学地域連携部門のページを参照してください。

9 ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタント

大学が大学院に在籍する学生をティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）として採用し、教員の指導のもとで授業や研究の補助業務に従事してもらう制度です。TAは大学院学生が将来教員となるためのトレーニング機会の提供と、学部教育のきめ細かい学生指導の実現を図ることを目的とし、RAは研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者としての研究遂行能力の育成を図ることを目的とします。なお、TA及びRAは、業績（職歴または指定がある場合にはその箇所）に記載することができます。

10 ハラスメントに関する苦情相談員

ハラスメント（Harassment）とはいろいろな場面での「嫌がらせ、いじめ」を言います。その種類は様々ですが他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えることを指し、重大な人権侵害になる可能性があります。

本学には、学生に対するハラスメント防止を目的とした苦情相談員制度があります。ハラスメントの被害を受けたときは泣き寝入りせず、相談員に連絡してください。

※教員の他、附属病院職員、事務局職員にも相談員がおります。相談員の所属氏名等は、学務課までお問い合わせいただくか、大学ホームページをご覧ください。

（大学ホームページ→学内専用ページ→総務課→1. ハラスメント相談）

11 教育研究領域変更願

教育研究領域の変更を希望する場合は、現研究指導教員及び希望する教育研究領域の研究指導教員並びに専攻代表との合意の上、「教育研究領域変更願」により学務課大学院係に届け出てください。

12 授業科目履修届

履修する授業科目について、「授業科目履修届」により、開講時期が前期（4月～9月）及び通年（4月～翌年3月）の科目は4月最終金曜、後期（10月～3月）の科目は10月第2金曜までに学務課大学院係に毎年届け出てください。

13 既修得単位等認定申請書

本学大学院及び他の大学院において修得した単位を本学の修得単位として認定を希望する場合は、「既修得単位等認定申請書」により、入学年4月最終金曜までに、学務課大学院係に届け出てください。申請後、研究科委員会の議を経て15単位を限度として認定されます。

14 研究指導計画書

大学院学生の研究計画を着実に推進するため、大学院学生と研究指導教員が相談の上、「研究指導計画書」を作成し、毎年4月最終金曜までに学務課大学院係に提出してください。また、研究指導計画書の写しを両方で保管してください。

15 副指導教員選考申請書

研究指導教員の指導を補強及び補佐する副指導教員を他専攻もしくは学部外・学外から必要に応じて選考することができます。選考は、大学院学生と研究指導教員が協議の上、「副指導教員選考申請書」を学務課大学院係に申請提出後、研究科委員会の審議を経て承認された者を副指導教員として認定します。申請は随時受け付けています。

16 指導教員変更願・指導教員変更事項届出書

研究指導教員を変更する場合は、専攻代表が学務課大学院係に「指導教員変更願・指導教員変更事項届出書」を提出する必要があります。申請後、研究科委員会の審議を経て承認され変更が認められます。

17 研究指導補助教員選任届

研究指導教員の指導方針に基づき、大学院学生の研究に関わる補助的な役割を担う研究指導補助教員を必要に応じて選任することができます。選任は、大学院学生と研究指導教員が協議の上、「研究指導補助教員選任届」を学務課大学院係に届け出てください。届出は随時受け付けています。

札幌医科大学大学院保健医療学研究科
ティーチング・アシスタント制度実施要領

平成20年7月23日決定
大学院保健医療学研究科委員会

(趣旨)

第1条 この要領は、札幌医科大学ティーチング・アシスタント制度の実施について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ティーチング・アシスタント制度は、大学院保健医療学研究科に在籍する優秀な学生に対し、教育的配慮のもとに教員の補助者として従事させることによって、保健医療学部教育の充実を図るとともに、大学院学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供することを目的とする。

(任務)

第3条 ティーチング・アシスタント（以下「T・A」という。）の任務は保健医療学部学生に対する教育的効果を高めるために主に実験・実習等（以下「授業」という。）に関する教育補助業務とする。

(対象者)

第4条 T・Aは、大学院生を対象とする。

(従事期間等)

第5条 T・Aの従事期間は、4月1日から翌年の3月31日までの1年以内とし、従事時間は、原則として年間150時間を限度とする。

(推薦書の提出)

第6条 大学院学生の指導教授は、T・Aを希望する授業の担当教員の推薦を受けてT・A候補者の推薦書（様式1）を保健医療学研究科長に提出しなければならない。なお、候補者が常時勤務している勤務先がある場合は、勤務先の許可を得ている者とする。

(選考)

第7条 保健医療学研究科長及び専攻代表は、前条の規定により推薦のあった候補者の中から適任者を選考し、保健医療学研究科委員会の議を経て決定する。

(委嘱)

第8条 前条の規定により選考した者をT・Aとして任用し委嘱する。

2 保健医療学研究科長は、前項の委嘱結果を大学院生の指導教授及び授業の担当教員に

通知するものとする。

(事前指導等)

第9条 授業の担当教員は、T・Aによる教育補助業務を把握し、当該授業の安全管理に十分配慮しなければならない。

また、T・Aに対して、あらかじめ補助業務に関する指導を行わなければならない。

(実施報告書)

第10条 授業の担当教員及びT・Aは、毎月の授業修了後、実施報告書(様式2)を作成し、翌月の5日までに保健医療学研究科長に報告しなければならない。

(報償金)

第11条 T・Aには、予算の範囲内において報償金を支給する。報償金は実施月の翌月末までに支給する。

なお、本学(附属病院も含む)に常時勤務している職員には報償金を支給しない。

(実施状況報告)

第12条 保健医療学研究科長は、年度の最初に開催する研究科委員会に前年度の実施状況を報告しなければならない。

(細則)

第13条 この要領に定めるもののほか、ティーチング・アシスタント制度の実施についての必要事項は、研究科委員会において定めるものとする。

(庶務)

第14条 ティーチング・アシスタント制度に関する庶務は、事務局学務課において行う。

附則

この要領は、平成20年7月23日から実施する。

附則

この要領は、令和4年4月1日から実施する。

附則

この要領は、令和5年4月1日から実施する。

ティーチング・アシスタント（T・A）推薦書

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

指 導 教 授 印

授業担当教員 1 印

授業担当教員 2 印

授業担当教員 3 印

_____専攻_____学分野_____学領域の

大学院学生（ 年次）_____を別紙のとおり T・Aとして

推薦しますのでよろしくお願いします。

（注）授業担当教員等が多くて記入しきれない場合は、別紙で作成可。

ティーチング・アシスタント (T・A) 実施計画書

年次 実施予定 月 日	専攻		学分野		学領域		T・A氏名	
	曜日	授業時間	実施予定 時間：分	授業(実験・実習)名	業 務 内 容	授業担当教員名		
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
月 日		時 分～時 分	：					
計			：					

ティーチング・アシスタント (T・A) 実施計画書

年次	専攻	学分野	学領域	T・A氏名
実施 期	予 定 間	授 業 時 間	1 回 当 た り 予 定 時 間 ： 分 (年 間 予 定 時 間)	授 業 内 容
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	授 業 当 担 教 員 名
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	
年 月 日 ～ 年 月 日	時 分 ～ 時 分	時 分 ～ 時 分	： (時 間)	
計				

ティーチング・アシスタント (T・A) 実施報告書

年 月 分		年次		専攻		学分野		学領域 T・A氏名	
実施月日	曜日	従事時間	実施時間	授業(実験・実習)名	業 務 内 容	授業担当確認印			
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
月 日		時 分～時 分							
計									

上記のとおり実施したことを確認し、報告します。

年 月 日
保健医療学研究科長 様

授業担当教員(所属) _____

(職・氏名) _____ (印)

札幌医科大学大学院保健医療学研究科 リサーチ・アシスタント制度実施要領

平成20年7月23日決定
大学院保健医療学研究科委員会

(趣旨)

第1条 この要領は、札幌医科大学リサーチ・アシスタント制度の実施について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 リサーチ・アシスタント制度は、大学院保健医療学研究科に在籍する優秀な学生に対し、大学が行う研究プロジェクト等（以下「研究」という。）の補助者として従事させることによって、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者としての研究遂行能力の育成を図ることを目的とする。

(任務)

第3条 リサーチ・アシスタント（以下「R・A」という。）の任務は大学が行う研究に関する研究補助業務とする。

(対象者)

第4条 R・Aは、博士課程後期の大学院学生を対象とする。

(従事期間等)

第5条 R・Aの従事期間は、4月1日から翌年の3月31日までの1年以内とし、従事時間は、原則として年間400時間を限度とする。

(推薦書の提出)

第6条 研究代表者は、大学院学生の指導教授の了承を得て、R・A候補者の推薦書（様式1）を保健医療学研究科長に提出しなければならない。なお、候補者が常時勤務している勤務先がある場合は、勤務先の許可を得ている者とする。

(選考基準)

第7条 R・Aの選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 出席日数が良好で、かつ、学業成績が優秀な者
- (2) 将来、研究者、指導者となる意欲と優れた能力を有する者
- (3) 研究プロジェクト等の内容を十分理解し、R・Aとしてふさわしい者

(選考)

第8条 保健医療学研究科長及び専攻代表は、第6条の規定により推薦のあった候補者の中から、前条の選考基準により適任者を選考し、保健医療学研究科委員会の議を経て決定する。

(委嘱)

第9条 前条の規定により選考した者をR・Aとして任用し委嘱する。

- 2 保健医療学研究科長は、前項の委嘱結果を研究代表者及び大学院学生の指導教授に通知するものとする。

(事前指導等)

第10条 研究代表者は、R・Aによる研究補助業務を把握し、当該研究の安全管理に十分配慮しなければならない。

また、R・Aに対して、あらかじめ補助業務に関する指導を行わなければならない。

(実施報告書)

第11条 研究代表者及びR・Aは、毎月の研究補助業務終了後、実施報告書(様式2)を作成し、翌月の5日までに保健医療学研究科長に報告しなければならない。

(報償金)

第12条 R・Aには、予算の範囲内において報償金を支給する。報償金は実施月の翌月末までに支給する。

なお、本学(附属病院も含む)に常時勤務している職員には報償金を支給しない。

(実施状況報告)

第13条 保健医療学研究科長は、年度の最初に開催する研究科委員会に前年度の実施状況を報告しなければならない。

(任用)

第14条 ティーチング・アシスタント(以下「T・A」という。)である学生をR・Aとして任用する場合には、T・Aの補助業務等に支障を及ぼすことがないように配慮しなければならない。

(細則)

第15条 この要領に定めるもののほか、リサーチ・アシスタント制度の実施についての必要事項は、研究科委員会において定めるものとする。

(庶務)

第16条 リサーチ・アシスタント制度に関する庶務は、事務局学務課において行う。

附則

この要領は、平成20年7月23日から実施する。

附則

この要領は、令和4年4月1日から実施する。

附則

この要領は、令和5年4月1日から実施する。

リサーチ・アシスタント（R・A）推薦書

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

研究代表者職氏名 _____ 印

指導教員職氏名 _____ 印

_____ 専攻 _____ 学分野 _____ 学領域

の大学院学生（第 学年） _____ を次のとおりR・Aとして

推薦します。

記

研究プロジェクト名	
研究の概要	
R・Aが必要な理由 (具体的かつ明確に記入すること)	
研究補助業務の内容	
業務従事期間(時間)	年 月 日～ 年 月 日 (時間)

※ 「研究プロジェクト」とは特定の研究課題やテーマについて、一定期間編成される研究チームが共同して取り組む課題性を持った研究課題を指します。

(裏面)

学 歴						
自	年	月	入学			
至	年	月	卒業	大学	学部	学科
自	年	月	入学			
至	年	月	卒業			
自	年	月	入学			
至	年	月	卒業			
職 歴						
自	年	月				
至	年	月				
自	年	月				
至	年	月				
自	年	月				
至	年	月				
自	年	月				
至	年	月				
自	年	月				
至	年	月				
指導教官の所見（将来の見通し、進む方向等を含めること。また、英文論文執筆能力も含めること。）						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						
.....						

(注) 業績（学会発表、研究会等のトップオーサーとしての発表リスト）をA4版用紙1枚にまとめて添付すること。

リサーチ・アシスタント（R・A）実施報告書

専攻 _____ 学分野 _____ 学領域 _____
 (博士課程後期 学年)

年 月分 R・A氏名 _____

実 施 月 日	曜 日	従 事 時 間	実 施 時 間	研 究 代 表 者 確 認 印
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
月 日		時 分～ 時 分		
合 計				

上記のとおり実施したことを確認し、報告します。

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

研究代表者所属 _____

研究代表者職氏名 _____ 印

教育研究領域変更願

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

専 攻 _____

学 年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

教育研究領域の変更を次のとおり許可願います。

旧 教育研究領域	学 領域
----------	------

旧 研究指導教員承認欄	㊞
-------------	---

新 教育研究領域	学 領域
----------	------

新 研究指導教員承認欄	㊞
-------------	---

専攻代表承認欄	㊞
---------	---

授業科目履修届

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

専 攻 _____

学 年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

次の科目を履修したいので届けます。

授 業 科 目	担当教員	単位数	開講時期	備考
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	
			前期・後期・通年	

既修得単位等認定申請書

年 月 日

札幌医科大学
大学院保健医療学研究科長 様

専 攻 _____

学 年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

_____大学大学院で修得した単位のうち、次の科目について、札幌医科大学大学院保健医療学研究科において修得したものとして認定されるよう、関係書類を添えて申請いたします。

記

1 認定希望科目

既修得科目	単位数	札幌医科大学大学院の科目	単位数

2 在学期間への算入認定に係る希望

既修得単位の認定に際し、

本学における在学期間への算入認定を 希望します。
 希望しません。

3 関係書類

- (1) 成績証明書・単位取得証明書または学修の成果を証明するもの
- (2) 認定希望科目の授業概要・シラバス等 ※他大学大学院等の修得科目の場合
(授業内容・開講期間・時間数・単位数が確認できるもの)

研究指導計画書

作成日 年 月

保健医療学研究科・博士課程（前期・後期）

専攻・分野・領域・学籍番号

氏名 印

研究指導教員 印

		研究計画・研究指導計画		
年次		履修予定科目	研究計画／論文作成に向けて	その他の研究活動 (学会発表など)
1年次	前期			
	後期			
年次	前期			
	後期			
年次	前期			
	後期			

副指導教員選考申請書

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

研究指導教員 _____ 印

研究指導のため、以下の者を副指導教員としたいので申請します。

氏 名	
所 属	
選考理由	

- 1 選考理由には、当該院生の氏名および研究概要を併せて記載すること。

指導教員変更願・指導教員変更事項届出書

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

専 攻

専攻代表 _____ 印

下記のとおり変更しますので、ご承認下さい。

変更する教員	<input type="checkbox"/> 研究指導教員 <input type="checkbox"/> 副指導教員
--------	---

院 生		学 籍 番 号	専 攻	分 野 領 域
【変更前】	指導教員	研究指導教員 代理研究指導教員	(所属・職) (氏 名)	
		研究指導補助教員	(所属・職) (氏 名)	
		副指導教員	(所属・職) (氏 名)	
【変更後】	指導教員 (変更分のみ記入)	研究指導教員 代理研究指導教員	(所属・職) (氏 名)	
		研究指導補助教員	(所属・職) (氏 名)	
		副指導教員	(所属・職) (氏 名)	
変更希望年月日			年	月
変更を必要とする理由			日	

研究指導補助教員選任届

年 月 日

大学院保健医療学研究科長 様

研究指導教員 _____ 印

研究指導のため、以下のとおり研究指導補助教員を選任しましたので届け出ます。

1 大学院学生の専攻・分野・領域等

課程・専攻：

分 野：

領 域：

氏 名：

2 研究指導補助教員

所 属：

職 名：

氏 名：

Ⅲ 施設利用

1 附属施設

(1) 札幌医科大学附属病院

本学の附属病院は、昭和7年に北海道社会事業協会附属札幌病院として設置され、その後、昭和20年に北海道立女子医学専門学校附属病院となり、昭和25年に札幌医科大学附属病院、平成5年4月には、保健医療学部開設に伴い医学部附属病院となり、その後リハビリテーション医療体制充実の必要性から保健医療学部の教員、学生が附属病院を活用できる体制とするため、平成16年4月に札幌医科大学附属病院と改称しました。

現在の病院等施設は、昭和58年中央診療棟及び病棟部分が完成、昭和60年に外来診療棟が完成し、また、平成30年7月からは西病棟の運用を開始、その後、既存棟の改修等を行い、現在の病床数は922床となっています。また、特定機能病院、高度救命救急センター、災害拠点病院(基幹災害拠点病院)、エイズ治療拠点施設(ブロック拠点病院)、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に指定されています。



(2) 標本館 (基礎医学研究棟8F 内線21960)

標本館は、医学、生物学的標本並びに資料を収集・製作・整理し、それらを系統的に展示し、本学学生及び教職員に実物教育を行うことを目的として、昭和47年4月に開館しました。

ア 所蔵点数 (2024年1月末現在)

資料分類	点数
肉眼標本 液浸標本 樹脂包埋標本 シリコン含浸標本 鋳型標本 乾燥標本 燻製標本	1,426
模 型 人体解剖模型 化石人骨模型 ムラージュ 動物模型	174
光顕用スライド 投影用スライド 大切片標本	47,214
医療機器・器量器具	538
視聴覚資料	165
図 書 類	1,077
他の医学関係資料	730
合 計	51,324

イ 利用対象

本学学生・教職員・同窓生及び館長の許可を得た医学関係の学外者など

ウ 開館時間

午前9時から午後5時まで

エ 休館日

- (ア) 日曜日・土曜日・国民の祝日及び年末年始(12月28日から翌年1月3日まで)
- (イ) 以上のほか、館長が必要と認めて休館する場合は、その都度、掲示します。

オ 館内の諸施設及び利用法

館内には人体の標本のほか、自学自習用として人体骨格標本と正常及び病理組織スライドを備え、常時利用できるようになっています。生物顕微鏡や情報機器などを備えているので、随時利用できます。

学内学生及び教職員の利用には特別の制限はありませんが、利用心得と係員の指示に従い、効果的な利用に心がけてください。

2 体育施設

本学の体育施設には、次のものがあります。

- (1) 体育館
 - ・所在地 中央区南2条西18丁目
 - ・1階には競技場・武道場・トレーニング室が、2階には弓道場を備えています。
- (2) 新琴似グラウンド（北区新琴似4条10丁目）
 - ・所在地 北区新琴似4条10丁目
 - ・野球場、サッカー場及びラグビー場を備えています。

3 福利厚生施設

学内にある福利厚生施設は次のとおりです。

コンビニ (ファミリーマート)	中央診療棟本店 病院サテライト店 大学サテライト店	2階 教育研究棟2階
コーヒーショップ (スターバックスコーヒー)	中央診療棟	1階
大学書房 (丸善)	教育研究棟	2階
理容室・美容室	病棟	地下2階
食堂	臨床教育研究棟	地下1階

4 大学院生自習室

課程毎に大学院学生の自習室が用意されています。利用に当たって学務課の案内を確認してください。なお、鍵の管理は指定された方法に基づいて、厳重に管理してください。個人所有の貴重品については各自が責任を持って管理してください。

自習室の配置については以下の通りです（施設配置図参照）。

保健医療学研究棟 6階

【博士課程前期】 E626、E627、E628、E629

【博士課程後期】 E603

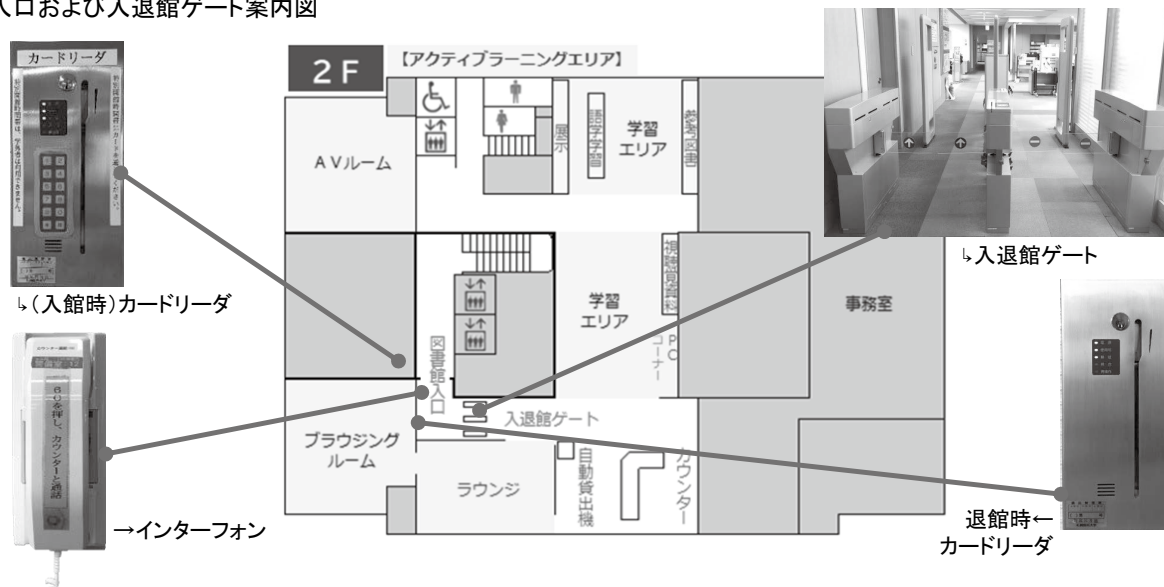
図書館利用の手引き

入退館について

■ 所在地

基礎医学研究棟の2～4階に位置し、図書館入口は2階になっています。

■ 入口および入退館ゲート案内図



■ 入退館にあたって

- ・図書館への入退館には、学生証またはIDカードが必要です。お越しの際は必ず携帯してください。
- ・学生証またはIDカードを忘れた方は、図書館入口の自動ドアを通り、右手の壁面に設置しているインターフォンを使いカウンターへご連絡ください。【呼び出し:60】

■ 通常開館時間

【平日9:00～20:00 / 長期休業9:00～17:00】 ※学内者及び利用規程に定められた学外者も利用可能です

(1) 入館方法

- ① 2階正面自動ドア通過後、左手の入館ゲートにお進みください。
- ② 入館ゲートのカードリーダーで次のとおり作業をお願いします。
(学生) 学生証をICカードタッチ部分にタッチ (学生以外) IDカードを差込口に差込み、手前にスライド
- ③ ライトが黄→緑に変わり、ゲートが開きます。そのままお進みください。

(学生)

(学生以外)



学生証を青色の部分にタッチ



IDカードを差込口に差込み、手前にスライド



カードの向きに
ご注意ください

(カード裏面の
矢印を確認
してください)

(2) 退館方法

- ① 左手の退館ゲートにお進みください。
- ② 退館ゲートのカードリーダーで次のとおり作業をお願いします。
(学生) 学生証をICカードタッチ部分にタッチ (学生以外) IDカードを差込口に差込み、手前にスライド
- ③ ライトが黄→緑に変わり、ゲートが開きます。そのままお進みください。

■ 特別開館時間

【平日20:15～翌日9:00 / 長期休業17:15～翌日9:00 / 土・日・国民の祝日9:00～翌日9:00】

※学生証またはIDカードをお持ちの方で、許可された利用者のみ利用可能です。

(1)入館方法

- ①2階正面自動ドア右横に設置しているカードリーダーに学生証またはIDカードを差込口に差込み、上から下へスライドしてください。
- ②緑色のランプが点灯した後、暗証番号を入力してください。自動ドアが開きます。
- ③自動ドア通過後は、通常開館時と同様の手順でお進みください。

(共通)



暗証番号は、ガイダンス時または随時カウンターでお知らせしています。

(2)退館方法

- ①左手の退館ゲート通過までは、通常開館時と同様の手順でお進みください。
- ②ゲート通過後、自動ドア手前左の壁面に設置しているカードリーダーの差込口に学生証またはIDカードを差込み、上から下へスライドしてください。自動ドアが開きますのでそのまま退館してください。

■ その他

- ・退館時に貸出手続を行っていない資料を持っていた場合、警告音を発し、注意を促します。お手持ちの資料を確認願います。また、この場合はゲートが開放されませんのでご注意ください。
- ・平日20時から20時15分の間は、特別開館準備時間です。20時15分以降も特別開館を利用される方であっても、一度退館していただきますのでご了承願います。
- ・特別開館時における機器等の障害発生等は、お近くの内線電話を使用し、警備室(内線21270)へご連絡ください。
- ・図書館IDカードの利用には、各々有効期限があります。設定期限を過ぎると利用が出来なくなりますので、必要な更新手続は忘れないようご注意ください。

貸出・返却について

■ 貸出条件

三つ折りパンフレットをご確認ください。

■ 貸出手続き

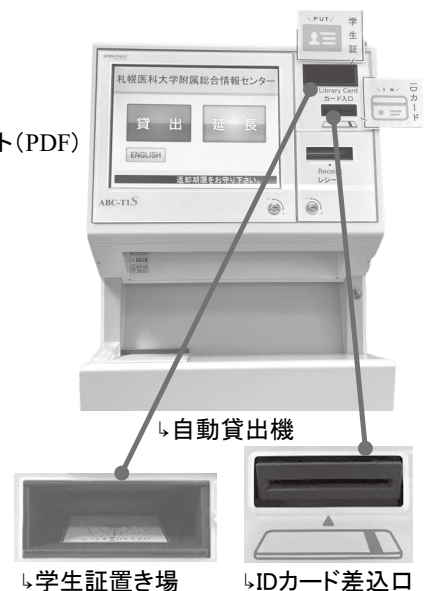
館内に設置している「自動貸出機」をご利用ください。



↳三つ折りパンフレット(PDF)

【操作手順】

- ①自動貸出機のディスプレイに表示されている「貸出」をタッチ。
- ②(学 生)カード置き場に学生証を置く (学生以外)差込口にIDカードを差し込む
- ③ディスプレイにご自身の氏名等が表示されますので、ご確認ください。
- ④貸出希望資料をディスプレイ下の本置台の左端奥に1冊ずつ、資料IDのバーコードが上になるように載せてください。
- ⑤ディスプレイに表示された資料名等を確認し「図書読み込み終了」(画面左上)をご確認ください。(複数冊の場合は次の本を置いてください。)
- ⑥貸出手続の終了はディスプレイの「終了」をタッチしてください。
- ⑦学生証またはIDカードとレシートを忘れずにお持ちください。
 - ▶ 午前3時から午前5時の間はデータのバックアップのため貸出はできません
 - ▶ 正常に読み込まれない場合は、カウンターへご相談ください。
 - ▶ 特別貸出(視聴覚資料等)は、カウンターで手続き願います。



■ 資料の返却

貸出手続きを行った資料は、次の方法でご返却ください。

【通常開館中】2階カウンターにご返却ください。 【特別開館中】2階入口前の返却ポストに投函ください。

- ▶ 特別貸出で借りた未製本雑誌や視聴覚資料、他大学から借りた図書(現物借用サービス)は、返却ポストに投函せずにカウンターへご返却ください。
- ▶ 返却ポストに返却された資料は、返却処理が反映されるまでにタイムラグが生じ、督促メールが自動送信される場合がありますので、その場合はご了承願います。

■ お問い合わせ

札幌医科大学附属総合情報センター(総務課情報推進室) 内線24250 / E-mail: libserv@sapmed.ac.jp

【2022/12/01作成】

蔵書検索（冊子体・電子）の手引き

検索にあたって

■ 共有端末

蔵書の検索、および医学文献の検索には、図書館各階に設置されている情報検索コーナーの端末をご利用いただけます。

■ お手持ちの端末

スマートフォンや私有パソコン等、お手持ちの端末から検索できます。

▶ 学内者は無線LANをご利用いただけます。

【無線LAN使用方法】

附属総合情報センターHP (<https://infonavi.sapmed.ac.jp/jpn/>)

> 情報ネットワーク>システムとサービス>提供サービス

> 無線LANネットワークシステム> (PDF)「WEB認証設定マニュアル」参照



検索方法

■ 統合検索 (PIRKA)



蔵書を調べるには、図書館ホームページのトップ画面中央「統合検索 (PIRKA)」をご利用ください(左図赤枠内)。

検索窓に直接キーワードを入力するか、検索ボタン横の「PIRKAトップ」をクリックするとページが移動します。


▶ 図書館HP

<https://hamanasu.sapmed.ac.jp/library/>



↳ 図書館HPトップ画面



検索窓にタイトルや著者等のキーワードを入力し、「」をクリックします。

検索時、「統合検索」がデフォルト設定となっており、蔵書検索、電子ジャーナル、電子ブック、研究成果(リポジットリコル[イコル])、国内外の論文情報の検索を一括で行えます。

↳ PIRKAトップ画面



検索時、次の項目で検索結果を絞ることができます。

- ・蔵書検索
電子ジャーナルや電子ブックを含めた図書館で所蔵している全資料を検索できます。
- ・電子コンテンツ
購読している電子ジャーナルや電子ブックを検索できます。
- ・論文検索
購読誌の他、オープンアクセスの論文、PPVで閲覧可能な論文が検索できます。

↳ PIRKA検索結果画面

■ 統合検索(PIRKA) → 蔵書検索



1 「蔵書検索」で検索結果を絞り込むと、図書館内のどこにあるのか表示されます。(図内赤枠部分)

2 赤枠で囲った部分をクリックすると、「蔵書検索(OPAC)」ページが新しいタブで表示されます。



3 【図書】

資料は請求記号順で棚に並んでいます。配架場所や請求記号、利用状況をご確認のうえ、ご利用ください。

【雑誌】

和洋別・雑誌タイトルのアルファベット順に並んでいます。(※和文の場合、ローマ字変換後アルファベット順)
・3階: ~2000年まで / 4階: 1999年以前 それぞれ配架。

▶ 午前3時から午前5時の間はデータバックアップのため蔵書検索はできません

リモートアクセス【学内者限定】

学外から各種図書館提供サービスにアクセスする際は、必ず「リモートアクセス」からご利用ください。有料のデータベースや電子ジャーナルが、学外からでも学内と同じ環境で利用できます。



図書館HPトップ>「リモートアクセス」

▶ 認証画面(下図参照)が表示された場合、SAINSのIDおよびパスワードでサインインしてください。



↓ 認証画面

↓ 図書館HPトップ画面

■ お問い合わせ

札幌医科大学附属総合情報センター(総務課情報推進室) 内線24250 / E-mail: libserv@sapmed.ac.jp

【2022/12/01作成】

IV 札幌医科大学学生の懲戒等に関する規程（平成28年6月14日規程第45号）

（目的）

第1条 この規程は、札幌医科大学学則（平成19年規程第50号）第40条及び札幌医科大学大学院学則（平成19年規程第51号）第39条に定めるもののほか、札幌医科大学（以下「本学」という。）における学生の懲戒及びその他の教育的措置（以下「懲戒等」という。）に関し、適正かつ公正な運用を図るために必要な事項を定める。

（定義）

第2条 本規程における「学生」とは、学部、大学院及び専攻科の学生とする。

2 本規程における「懲戒」とは、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 退学 本学における修学の権利を剥奪し、学籍関係を一方的に終了させること。この場合において再入学は認めない。
- (2) 停学 1年以内の期間を定めて、又は期間を定めずに、学生の教育課程の履修及び課外活動を禁止し、原則として登校を認めないこと。
- (3) 戒告 学生の行った非違行為を戒め、将来にわたって同様のことが無いよう反省を促すため、本学の意味表示を文書により行うこと。

3 本規程における「その他の教育的措置」とは次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 訓告 懲戒に至らない非違行為について、教育的措置の一環として、学生の本分についての反省を促すため、文書により指導を行うこと。
- (2) 嚴重注意 懲戒に至らない非違行為について、教育的措置の一環として、学生の本分についての反省を促すため、口頭により指導を行うこと。

（懲戒等の処分の量定）

第3条 懲戒等の処分の量定に関し、対象となる行為毎の懲戒の標準については、別表「札幌医科大学学生の懲戒処分ガイドライン」のとおり定める。

2 過去に懲戒等の処分を受けている場合は、量定の判断において、これを考慮するものとする。

（懲戒等の処分に係る手続き等）

第4条 札幌医科大学学生委員会（以下「学生委員会」という。）委員長は、学生の非違行為があると思料するときは、学生委員会の委員に事実確認に当たらせるとともに、当該非違行為が第2条第2項に規定する懲戒相当と判断した場合は、速やかに学長及び当該学生が所属する学部の学部長（以下「学部長」という。）に報告する。

2 学生委員会の委員は、非違行為に係る事実確認のため、非違行為を行った学生（以下「当該学生」という。）のほか、必要と認める場合、他の学生等に事情聴取を行う。

3 学生委員会は、事情聴取の結果を踏まえて、懲戒等の処分について審議する。

4 学生委員会は、審議において、懲戒処分が相当と判断した場合は処分案を定め、その他の教育的措置が相当と判断した場合はその内容を決定する。

5 学生委員会委員長は、前項の処分内容を学長及び学部長に報告する。

6 学部長及び学生委員会委員長は、第4項の処分案が退学または停学の場合、当該学生にあらかじめ処分案を告知した上で、聴聞を実施する。なお、当該学生が聴聞を拒否する場合は、この限りではない。

(自宅謹慎)

第5条 学部長は、非違行為が第2条第2項第1号に規定する退学又は同項第2号に規定する停学に相当することが明白であると認めるときは、処分の決定前に、当該学生に対して自宅謹慎を命ずることができる。

2 自宅謹慎の期間は、停学の期間に算入するものとする。

(懲戒処分の決定)

第6条 学長は、学生委員会委員長から報告された処分案を踏まえ、懲戒処分を行うことが必要と判断した場合は、当該学生が所属する学部の教授会（以下「教授会」という。）及び教育研究評議会の議を経て処分を決定する。

(その他の教育的措置の実施)

第7条 学部長は、学生委員会委員長からの報告に基づき、当該学生にその他の教育的措置を実施する。

2 学部長は、その他の教育的措置の実施について、必要と認める場合、教授会に報告する。

(試験における不正行為)

第8条 試験における不正行為に関する懲戒の手続きは、第4条によらず別に定めるところによる。

(懲戒処分の通知及び公示)

第9条 学長が懲戒処分を決定したときは、学部長は当該学生に対して、懲戒処分通知書を交付するとともに、当該学生の連帯保証人に対して処分の内容を通知する。

2 学長は、処分の内容を掲示により学内に2週間公示する。ただし、学生の氏名及び学籍番号は明記しない。

(不服申立て)

第10条 懲戒処分を受けた学生は、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由があるときは、その証拠となる資料を添えて、懲戒処分通知書を交付された日から起算して14日以内に学長に対して、文書により不服申立てを行うことができる。ただし、不服申立ての請求は、既に実施された懲戒処分の効力を妨げない。

2 学長は、前項の不服申立てを受理したときは、学生委員会に再審議を行わせるものとする。

3 学長は、再審議の結果を踏まえ、既に実施された処分の変更の要否、変更を要する場合はその内容を決定する。

(停学期間中の措置)

第11条 学部長は、停学期間中の学生に対して、学生担当教員等による定期的な面談及び指導を行わせ、その更正に努めるものとする。

2 学生担当教員等は、停学期間中の学生の反省の程度、生活態度及び学習意欲等について定期的に学部長及び学生委員会委員長に報告する。

3 学生は、停学期間中、本学の教育課程の履修、試験等の受験及び課外活動への参加ができない。ただし、学部長は教育指導上、必要と認めた場合には、一時的に当該学生を登校させることができる。

4 停学の期間は、学則第9条に定める在学期間に算入し、学則第8条に定める修業年限に算入しない。ただし、停学の期間が3ヶ月以内の場合は、修業年限に算入することができる。

(停学の解除及び延長)

- 第 12 条** 学部長は、期間の定めのない停学（以下「無期停学」という。）の開始日から 1 年を経過した学生について、当該学生の反省の程度、更生の状況、生活態度、学習意欲等を踏まえ、学生担当教員等と協議し、無期停学処分の解除の可能性があると判断した場合は、当該処分の解除について学生委員会に審議を依頼する。
- 2 学生委員会は、前項の依頼に基づき、無期停学処分の解除について審議し、当該学生の反省の程度、更生の状況、生活態度、学習意欲等を総合的に勘案した上で、処分の解除が妥当であると認めた場合は、その審議結果を学長及び学部長に報告する。
- 3 学長は、前項の報告を踏まえ、無期停学処分の解除が妥当と判断した場合は、当該教授会及び教育研究評議会の議を経て処分の解除を決定するとともに、当該学生に対して、学部長から停学解除通知書を交付させるものとする。
- 4 有期の停学は、停学期間満了をもって解除する。
- 5 前項の規定にかかわらず、学生委員会は、第 11 条第 2 項の報告等を踏まえて、停学期間満了による処分解除の適否を審議し、当該学生の反省の程度、生活態度、学習意欲等を総合的に勘案した上で、処分の解除が妥当ではないと判断した場合は、学長に停学期間の延長を進言する。
- 6 学長は、前項の進言を踏まえ、停学期間の延長が必要と判断した場合は、当該教授会及び教育研究評議会の議を経て、期間の延長を決定する。

(学籍の異動)

- 第 13 条** 学長は、第 4 条第 1 項の報告を受けた時は、その後、懲戒処分が決定されるまでの期間における当該学生からの自主退学の申出を受理しない。
- 2 停学期間中の学生の休学は許可しない。

(懲戒に関する記録)

- 第 14 条** 懲戒処分を行ったときは、その内容を学籍簿に記録する。ただし、本学が発行する各種証明書等にはその内容を記載しない。

(読替)

- 第 15 条** この規程の大学院生への適用に当たっては、「学部長」を「研究科長」に、「教授会」を「研究科委員会」に読み替えるものとし、専攻科生への適用に当たっては、「学部長」を「専攻科長」に、「教授会」を「運営委員会」に読み替えるものとする。

(事務)

- 第 16 条** 学生の懲戒等に関する事務は事務局学務課において処理する。

(雑則)

- 第 17 条** この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 28 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 30 日規程第 6 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 3 年 1 月 14 日規程第 2 号）

この規程は、令和 3 年 1 月 14 日から施行する。

附 則（令和 4 年 9 月 14 日規程第 32 号）

この規程は、令和 4 年 9 月 14 日から施行する。

札幌医科大学学生の懲戒処分ガイドライン

	対象となる行為	懲戒の標準
犯罪行為等	殺人、強盗、強姦等の凶悪な犯罪行為又は犯罪未遂行為	退学
	暴行、傷害、窃盗、詐欺、器物損壊等の犯罪行為	退学、停学又は戒告
	薬物(危険ドラッグを含む)犯罪行為	退学又は停学
	性犯罪行為(強制わいせつ、痴漢、盗撮、わいせつ物頒布等)、ストーカー行為	退学、停学又は戒告
	ブログ、SNS、ツイッターその他インターネット上、又は紙面上での違法又は不適切な書き込み、投稿等	退学、停学又は戒告
	コンピュータ又はネットワークの不正使用	退学、停学又は戒告
交通事故等	人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因が悪質な場合(無免許運転、飲酒運転、暴走運転等)	退学又は停学
	人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因が過失の場合	退学、停学又は戒告
	無免許運転、飲酒運転、暴走運転、飲酒運転の補助行為等の悪質な交通法規違反	退学、停学又は戒告
学内での非違行為	本学の教育研究、診療並びに管理運営を著しく妨げる暴力行為等	退学、停学又は戒告
	本学が管理する建造物への不法侵入又はその不正使用若しくは占拠若しくは汚損行為	退学、停学又は戒告
	授業妨害に当たる行為	停学又は戒告
	試験における不正行為	別に定める
飲酒・喫煙	飲酒を強要し、急性アルコール中毒等の被害を生じさせた行為	退学、停学又は戒告
	20歳未満の者と知りながら飲酒を強要した行為	停学又は戒告
	20歳未満の者が飲酒又は喫煙した場合	停学又は戒告
その他	ハラスメント、暴言、その他人権を侵害する行為	退学、停学又は戒告
	授業、実習、研修等で知り得た教職員、学生及び患者の個人情報等を故意又は過失により漏らした行為	退学、停学又は戒告
	研究成果作成・発表の際に論文やデータの捏造、改ざん又は盗用等を行った行為	退学、停学又は戒告
	知的財産を喪失させた行為(※)	退学、停学又は戒告
	学校保健安全法施行規則(平成10年法律第114号)第18条に定める感染症の感染拡大を助長する行為	停学又は戒告
	学校保健安全法施行規則(平成10年法律第114号)第18条に定める感染症の罹患が疑われる場合の本学への虚偽報告、隠ぺい及び黙認する行為	停学又は戒告

(※) 知的財産を喪失させた行為

本学の知的財産(知的財産基本法(平成14年法律第122号)第2条第1項に規定する知的財産)を喪失させた行為(知的財産を無断で提供し、公表し又は指定された場所から移動する行為、共同研究の遂行又は知的財産に確保の目的とする秘密保持契約に違反する行為、知的財産として保護対象に指定された情報を漏えいする行為等)

V 札幌医科大学学生通則

第 1 章 総 則

(目 的)

第 1 条 この規程は、札幌医科大学学則（平成19年規程第50号。以下「大学学則」という。）、札幌医科大学大学院学則（平成19年規程第51号。以下「大学院学則」という。）及び札幌医科大学専攻科規程（平成23年規程第21号。以下、「専攻科規程」という。）に定めるもののほか、札幌医科大学（以下「大学」という。）の学生（学部、大学院及び専攻科の学生をいう。）が遵守する事項を定めることを目的とする。

第 2 章 宣 誓

(宣 誓)

第 2 条 大学に入学を許可された者は、入学の際に学生としての本分を全うする旨を宣誓しなければならない。

第 3 章 連帯保証人

(連帯保証人)

- 第 3 条 学生は、連帯保証人を定め、入学の際にその者と連署した誓約書（別記第1号様式）を学長に提出しなければならない。
- 2 前項の連帯保証人は、その学生の父母又は学資を支給する者等とする。
 - 3 連帯保証人を変更し、又は連帯保証人が住所を変更した場合は、連帯保証人変更届（別記第2号様式の1）又は連帯保証人住所変更届（別記第2号様式の2）により速やかに届け出なければならない。
 - 4 連帯保証人は、保証する学生の修学目的の達成のために、誓約の履行に関し責任をもって協力しなければならない。

第 4 章 住 所 届

(住 所 届)

- 第 4 条 学生は、入学の際に、自らの居所について住所届（別記第3号様式の1）により学部長、研究科長又は専攻科長に届け出なければならない。
- 2 前項の住所を変更したときは、住所変更届（別記第3号様式の2）により速やかに届け出なければならない。

第 5 章 戸籍抄本の提出及び身上異動報告

(戸籍抄本の提出)

第 5 条 学生は、入学の際、戸籍抄本を学長に提出しなければならない。

(身上異動報告)

第 6 条 学生は、改姓その他一身上の事情に変更があったときは、速やかに学長に届け出なければならない。

第 6 章 学 生 証

(学生証の携帯等)

第 7 条 学生は、入学の際に学生証（別記第 4 号様式の 1）及び在籍確認シール（別記第 4 号様式の 2）の交付を受け、在籍確認シールを貼付した学生証を、常時携帯しなければならない。

2 学生証の有効期間は、学生証の交付日からそれぞれの者の修業年限又は標準修業年限の末日までとする。ただし、修業年限又は標準修業年限を超えて在籍する者の有効期間は、超えた日の属する年度の末日までとする。

3 第 1 項の在籍確認シールの有効期間は、4 月 1 日から 3 月 31 日までの 1 年間とし、学生は、毎年度 4 月 30 日までに交付を受け、学生証に貼付しなければならない。

4 学生証及び在籍確認シールは、他人に貸与又は譲渡してはならない。

5 学生証をき損又は紛失したときは、速やかに再交付を受けなければならない。

(学生証の返納)

第 8 条 学生証は、卒業、転学、退学、除籍又は有効期間を経過したときは、速やかに返納しなければならない。

第 7 章 健康診断

(定期健康診断)

第 9 条 学生は、大学が実施する健康診断（以下「健診」という。）を毎年受けなければならない。

(健康診断の延期)

第 10 条 疾病その他正当の理由により、前条の健診を受けることができないときは、その理由を付して学部長、研究科長及び専攻科長に届け出なければならない。

(臨時健康診断)

第 11 条 健診を延期していた者が、前条の届出の理由が消滅したとき、又は疾病を理由に休学していた者が復学しようとするときは、学部長、研究科長及び専攻科長に届け出て健診を受けなければならない。

第 8 章 欠 席

(欠 席)

第 12 条 学生は、引き続き 3 日以上欠席するときは、欠席届（別記第 5 号様式）により学部長及び専攻科長にあらかじめ届け出なければならない。

2 やむを得ない事情により前項の届出を提出できなかったときは、その理由を付して速やかに提出しなければならない。

3 疾病による欠席で、引き続き 7 日以上欠席する場合は、前 2 項の届出に医師の診断書を添付しなければならない。

第 9 章 退学、休学、転学、再入学及び復学

(退学、休学、転学、再入学及び復学)

第 13 条 次の各号に掲げる者は、当該各号の様式により学長に願い出、大学学則、大学院学則又は専攻科規程に基づく許可を受けなければならない。

- (1) 退学しようとする者 別記第6号様式の1
- (2) 休学しようとする者 別記第6号様式の2
- (3) 転学しようとする者 別記第6号様式の3
- (4) 再入学しようとする者 別記第6号様式の4
- (5) 復学しようとする者 別記第6号様式の5

第 10 章 団 体

(団体の設立)

第 14 条 学生が学内において団体を設立しようとするときは、団体の代表2人及び専任の教授、准教授又は講師のうちから当該団体の顧問を定め、団体設立願（別記第7号様式の1）により学長に願い出て、団体設立許可書（別記第7号様式の2）の交付を受けなければならない。

(団体の設立継続)

第 15 条 許可された期間を超えて団体が活動しようとするときは、毎年5月末日までに団体継続願（別記第7号様式の3）により学長に願い出なければならない。

2 前項の願い出のない団体は、解散したものとみなす。

(重要事項変更の承認)

第 16 条 団体が前条による許可を受けた事項を変更しようとするときは、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(団体の解散)

第 17 条 団体が解散するときは、速やかに学長に届け出なければならない。

(新聞等の配付の承認)

第 18 条 団体が新聞、雑誌その他の文書又は印刷物等を発刊するときは、その配布の前に当該新聞等2部を添えて学長に提出し承認を得なければならない。

(団体設立許可の取消し及び行為の禁止)

第 19 条 大学は、団体が学内の秩序を乱すと認められたとき、又は団体の行為が本学の諸規程等に違反したときは、その行為を禁止し、又は許可を取消することができる。

第 11 章 集 会

(集会の許可)

第 20 条 学生が学内又は大学名を使用して学外において集会をしようとするときは、その集会の日の3日前までの日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）、日曜日又は土曜日に当たるときは、その日前において、その日に最も近い日で休日、日曜日又は土曜日でない日）に集会願（別記第8号様式の1）により学長に願い出、集会許可書（別記第8号様式の2）の交付を受けなければならない。

2 学生又は第14条に規定する団体が、学外の団体指導者、講演者等を招へいし事業を行おうとするときは、前項の規定を適用するものとする。

(建物、施設等の利用承認)

第 21 条 学生が集会のために大学の建物、施設又は備え付けの物品を使用する場合には、所定の手続に

より、これを管理する責任者の承認をあらかじめ受けなければならない。

- 2 前項の集会のために大学の建物、施設又は備え付けの物品を使用する者は、各管理責任者の指示に従い使用するとともに、前項により承認を受けた者は、集会のために生じた一切について責任を負わなければならない。

第 12 章 掲示物等

(掲示等の承認)

第 22 条 学生が、学内又は学外（学外にあつては大学名を使用する場合に限る。）において、ビラ、ポスター、パンフレット、新聞等を掲示又は配布しようとするときは、その写しを添えて、学長にあらかじめ願い出なければならない。

(掲示場指定、期間及び規格)

第 23 条 学生が前条の承認を得て学内においてビラ等を掲示するときは、大学が指定する掲示場以外に掲示してはならない。

- 2 掲示期間は、特別の場合を除き 1 週間以内とする。
- 3 第 1 項のビラ等は、原則として新聞紙 1 頁大までの規格とする。

(各種行為の承認)

第 24 条 学生が学内において、本学の教職員又は学生並びに外来者を対象として、印刷物の配布、世論調査、示威運動、署名運動、投票、物品販売、寄附行為、拡声器使用、その他宣伝や勧誘等を目的とする行為をしようとするときは、学長にあらかじめ願い出て承認を受けなければならない。

(違反行為に対する措置)

第 25 条 前 3 条に違反したときは、掲示した物を撤去し、又はその行為を禁止する。

第 13 章 諸調査に対する協力

(諸調査の協力)

第 26 条 学生は、大学が行う累加記録に関する調査、学生生活実態調査その他の調査に協力するものとする。

附則

この規程は、平成19年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成24年 3 月 1 日規程第19号）

この規程は、平成24年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成24年11月20日規程第72号）

この規程は、平成25年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成25年 4 月 1 日規程第 6 号）

この規程は、平成25年 4 月 1 日から施行する。

附則（令和 2 年 3 月30日規程第 6 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則（令和 2 年 9 月18日規程第69号）

この規程は、令和 2 年 9 月18 日から施行する。

VI 保健医療学研究科教員一覧

1 博士課程前期

専攻・分野名	教育研究領域	教員(内線番号) E-mail
看護学専攻 看護学分野	【修士論文コース】 基礎看護科学 感染看護学 女性健康看護学 小児健康看護学 成人健康看護学 老年健康看護学 精神看護学 臨床内科学 臨床外科学 【専門看護師コース】 小児看護 クリティカルケア看護 精神看護	堀口 雅美 (28550) hori@sapmed.ac.jp 秋原 志穂 (28430) akihara@sapmed.ac.jp 正岡 経子 (28510) k.masaoka@sapmed.ac.jp 今野 美紀 (28650) miki@sapmed.ac.jp 澄川 真珠子 (28420) masuko0811@sapmed.ac.jp 長谷川 真澄 (28640) m-hasegawa@sapmed.ac.jp 澤田 いずみ (28610) izumi@sapmed.ac.jp 丹野 雅也 (28520) tannom@sapmed.ac.jp 水口 徹 (29460) tmizu@sapmed.ac.jp 今野 美紀 (28650) miki@sapmed.ac.jp 澄川 真珠子 (28420) masuko0811@sapmed.ac.jp 澤田 いずみ (28610) izumi@sapmed.ac.jp
理学療法学・作業療法学専攻 理学療法学分野	神経・発達障害理学療法学 生体工学・スポーツ整形外科 スポーツ理学療法学 筋機能制御学 生体機能評価学 形態人類学	菅原 和広 (28730) kaz.sugawara@sapmed.ac.jp 渡邊 耕太 (28770) wkota@sapmed.ac.jp 片寄 正樹 (28440) katayose@sapmed.ac.jp 山田 崇史 (28760) takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp 谷口 圭吾 (29730) ktani@sapmed.ac.jp 松村 博文 (28740) hiromura@sapmed.ac.jp
理学療法学・作業療法学専攻 作業療法学分野	感覚統合障害学 中枢神経機能障害学 活動能力障害学 臨床神経・脳機能学 精神障害リハビリテーション学	仙石 泰仁 (28880) sengoku@sapmed.ac.jp 太田 久晶 (28450) hisoh@sapmed.ac.jp 中村 真理子 (28840) mnaka@sapmed.ac.jp 石井 貴男 (28800) ishitaka@sapmed.ac.jp 池田 望 (28860) ikedan@sapmed.ac.jp

	神経・認知機能治療学 作業科学	齊藤 正樹 (28830) msaitoh@sapmed.ac.jp 坂上 真理 (28850) todo@sapmed.ac.jp
--	--------------------	---

2 博士課程後期

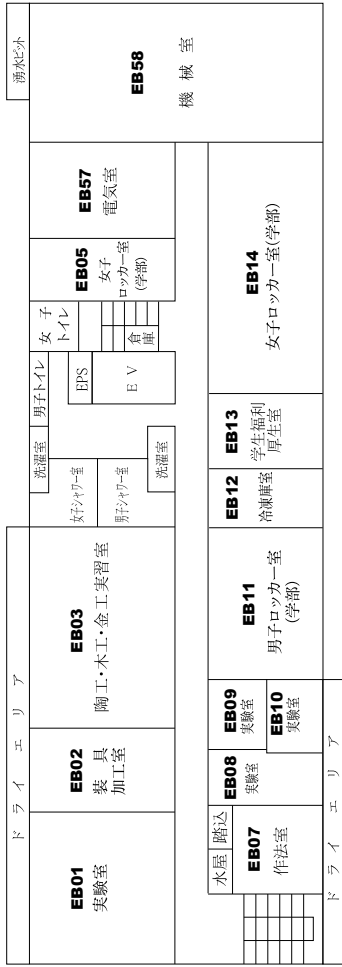
専攻・分野名	教育研究領域	教員(内線番号) E-mail
看護学専攻 看護学分野	基礎看護科学	堀口 雅美 (28550) hori@sapmed.ac.jp
	感染看護学	秋原 志穂 (28430) akihara@sapmed.ac.jp
	女性健康看護学	正岡 経子 (28510) k.masaoka@sapmed.ac.jp
	小児健康看護学	今野 美紀 (28650) miki@sapmed.ac.jp
	成人健康看護学	澄川 真珠子 (28420) masuko0811@sapmed.ac.jp
	老年健康看護学	長谷川 真澄 (28640) m-hasegawa@sapmed.ac.jp
	精神看護学	澤田 いずみ (28610) izumi@sapmed.ac.jp
	臨床内科学	丹野 雅也 (28520) tannom@sapmed.ac.jp
	臨床外科学	水口 徹 (29460) tmizu@sapmed.ac.jp
	理学療法学・作業療法学専攻 理学療法学分野	神経・発達障害理学療法学
生体工学・スポーツ整形外科		渡邊 耕太 (28770) wkota@sapmed.ac.jp
スポーツ理学療法学		片寄 正樹 (28440) katayose@sapmed.ac.jp
筋機能制御学		山田 崇史 (28760) takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp
生体機能評価学		谷口 圭吾 (29730) ktani@sapmed.ac.jp
形態人類学		松村 博文 (28740) hiromura@sapmed.ac.jp
感覚統合障害学		仙石 泰仁 (28880) sengoku@sapmed.ac.jp
理学療法学・作業療法学専攻 理学療法学分野	中枢神経機能障害学	太田 久晶 (28450) hisoh@sapmed.ac.jp
	活動能力障害学	中村 真理子 (28840) mnaka@sapmed.ac.jp
	臨床神経・脳機能学	石井 貴男 (28800) ishitaka@sapmed.ac.jp
	精神障害リハビリテーション学	池田 望 (28860) ikedan@sapmed.ac.jp
	神経・認知機能治療学	齊藤 正樹 (28830) msaitoh@sapmed.ac.jp

3 研究科長、副研究科長及び専攻代表

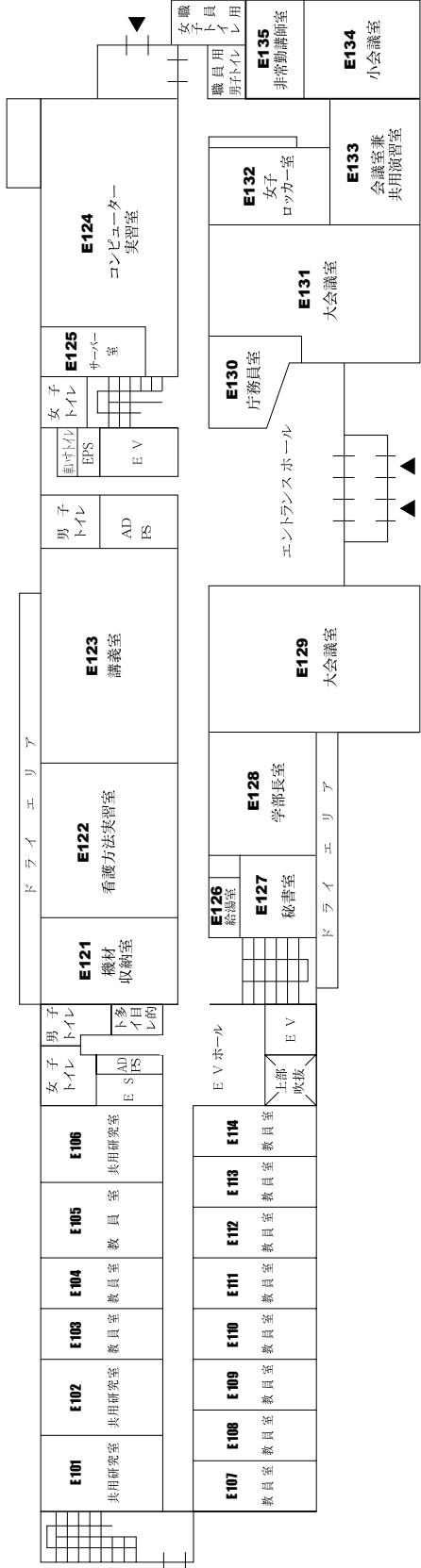
保健医療学研究科長		片寄 正樹
保健医療学研究科副研究科長		谷口 圭吾
専攻代表	看護学専攻	澄川 真珠子
	理学療法学・ 作業療法学専攻	菅原 和広
		中村 真理子

保健医療学部平面図

B1平面図



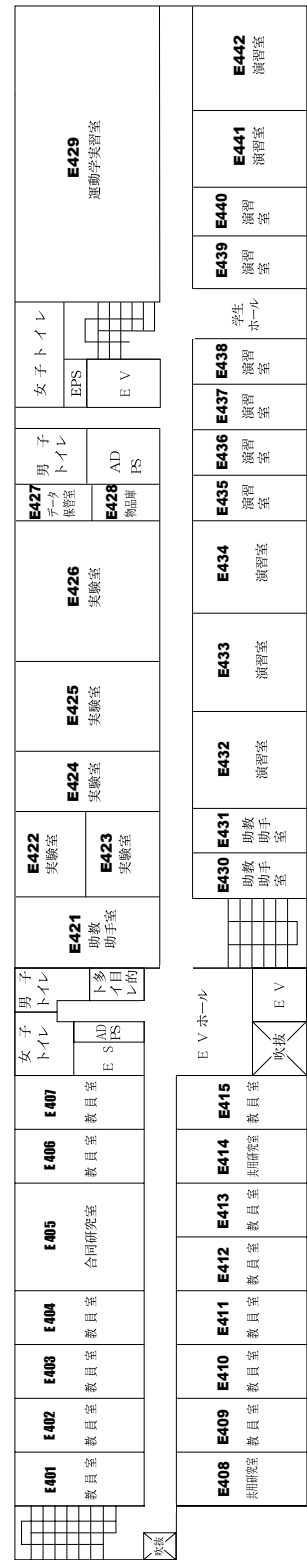
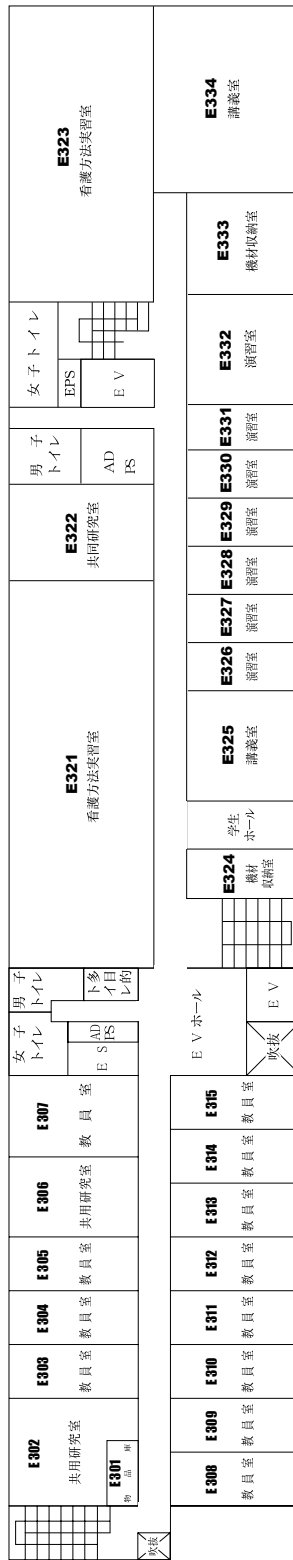
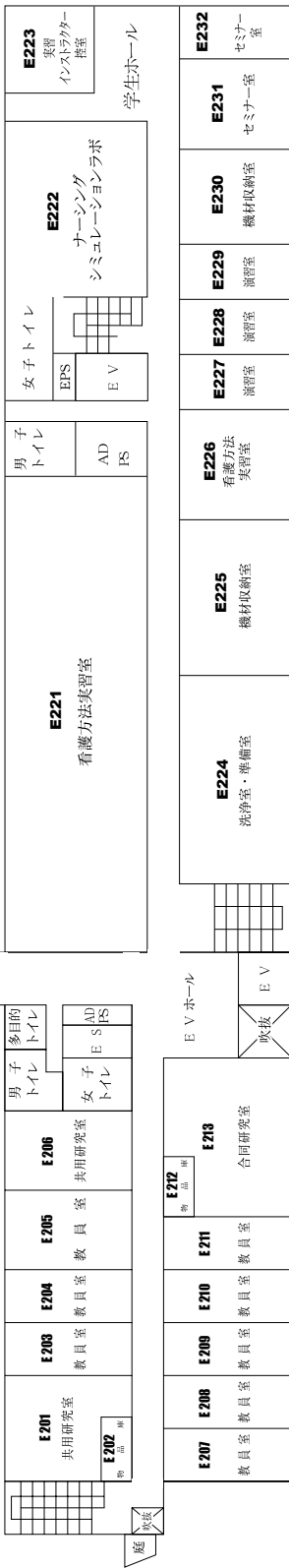
1F平面図



保健医療学部平面図

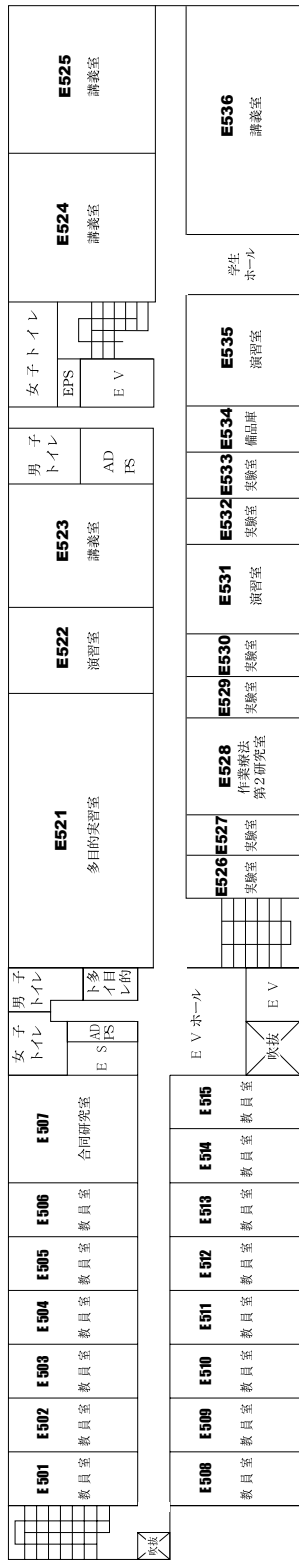
教育研究棟

渡り廊下

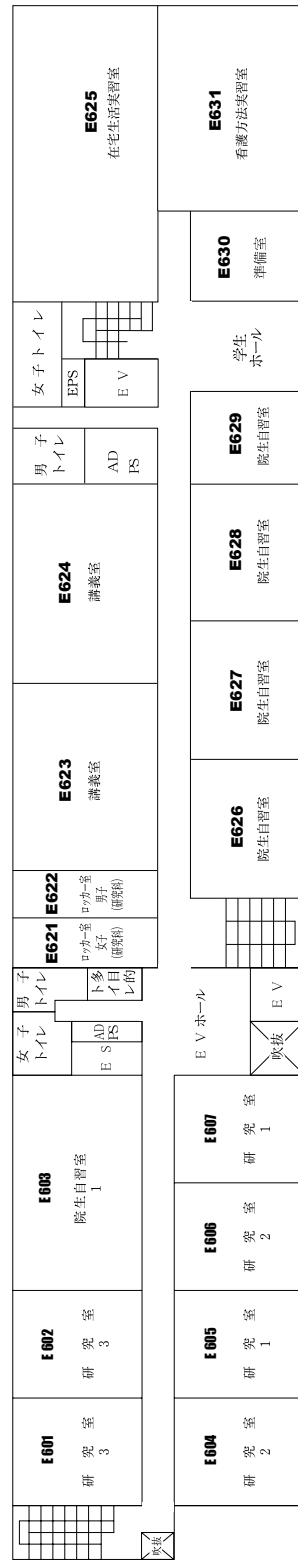


保健医療学部平面図

5F 平面図



6F 平面図



札幌医科大学

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

☎ 011-611-2111 (代)